

西九州大学短期大学部

令和6年度 学生による授業評価アンケート調査結果報告

令和7年9月3日

IR室

【質問事項】

1. 授業は何回欠席しましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2~3回、1: 4回以上】
2. シラバス（授業計画）を活用しましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2~3回、1: 4回以上】
3. 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2~3回、1: 4回以上】
4. あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
5. あなた自身の総合自己評価
【評価 4: 良い、3: やや良い、2: やや悪い、1: 悪い】
6. シラバス（授業計画）について説明がありましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
7. 教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
8. 授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
9. 授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
10. 視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
11. 教科書・配布資料等は役に立ちましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
12. 声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
13. 授業の進む速さは適切でしたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
14. 学生の質問等に誠実に対応しましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
15. 公平に学生に対応しましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
16. 教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
17. 教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
18. この授業を総合評価してください。
【評価 4: 良い、3: やや良い、2: やや悪い、1: 悪い】

【令和 6(2024)年度授業評価アンケート回答結果】

(前期科目)

	開講科目数		延べ履修者数		回答科目数		回答者数		回答者率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域	5	63	303	2237	5	62	235	1785	77.6%	79.8%
幼保	5	36	218	1820	5	36	199	1687	91.3%	92.7%
西九短	10	99	521	4057	10	98	437	3472	83.9%	85.6%

※通年科目を除く

(後期科目)

	開講科目数		延べ履修者数		回答科目数		回答者数		回答者率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域	10	74	550	2313	9	68	444	1838	80.7%	79.5%
幼保	11	37	444	1665	9	35	396	1456	89.2%	87.4%
西九短	21	111	994	3978	18	103	840	3294	84.5%	82.8%

※通年科目を含む

【学生回答による項目別評価平均値】

(前期科目)

質問番号	共通教育科目		地域生活支援学科 (専門教育科目)		幼児保育学科 (専門教育科目)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.46	0.89	3.51	0.78	3.3	0.92
2	3.09	0.88	3.25	0.91	3.28	0.8
3	3.35	0.75	3.37	0.77	3.45	0.72
4	3.26	0.74	3.38	0.81	3.44	0.7
5	3.28	0.67	3.43	0.64	3.47	0.62
6	3.35	0.81	3.61	0.61	3.69	0.57
7	3.39	0.74	3.65	0.56	3.67	0.57
8	3.35	0.77	3.61	0.58	3.62	0.64
9	3.35	0.77	3.61	0.6	3.63	0.63
10	3.44	0.7	3.63	0.58	3.67	0.6
11	3.43	0.74	3.66	0.57	3.69	0.59
12	3.49	0.69	3.64	0.59	3.66	0.6
13	3.42	0.71	3.64	0.57	3.65	0.61
14	3.44	0.75	3.7	0.55	3.7	0.57
15	3.5	0.69	3.71	0.55	3.7	0.58
16	3.43	0.75	3.67	0.57	3.66	0.62
17	3.57	0.67	3.71	0.55	3.72	0.56
18	3.42	0.71	3.64	0.57	3.63	0.6

質問5 総合自己評価

質問18 授業の総合評価

【学生回答による項目別評価平均値】

(後期科目)

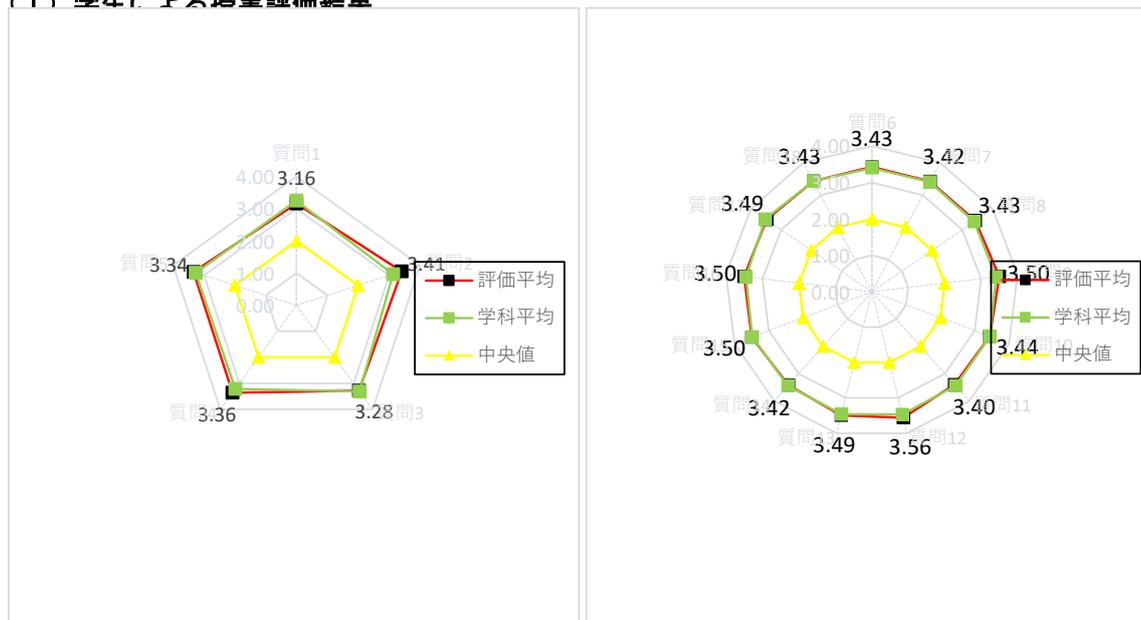
質問番号	共通教育科目		地域生活支援学科 (専門教育科目)		幼児保育学科 (専門教育科目)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.25	0.91	3.3	0.87	3.28	0.91
2	3.14	0.84	3.3	0.81	3.26	0.83
3	3.31	0.72	3.33	0.74	3.47	0.67
4	3.21	0.75	3.35	0.75	3.41	0.72
5	3.27	0.64	3.39	0.63	3.47	0.61
6	3.4	0.72	3.56	0.61	3.64	0.59
7	3.41	0.67	3.57	0.58	3.63	0.59
8	3.39	0.68	3.54	0.6	3.6	0.64
9	3.41	0.68	3.55	0.6	3.6	0.63
10	3.45	0.68	3.56	0.6	3.63	0.62
11	3.44	0.67	3.58	0.59	3.65	0.6
12	3.47	0.65	3.58	0.6	3.63	0.61
13	3.46	0.66	3.58	0.58	3.62	0.61
14	3.44	0.68	3.61	0.58	3.66	0.58
15	3.48	0.66	3.62	0.57	3.66	0.59
16	3.45	0.7	3.6	0.58	3.62	0.63
17	3.52	0.64	3.63	0.57	3.68	0.56
18	3.43	0.65	3.56	0.57	3.61	0.59

質問5 総合自己評価

質問18 授業の総合評価

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう(大学生活のデザイン)	113名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

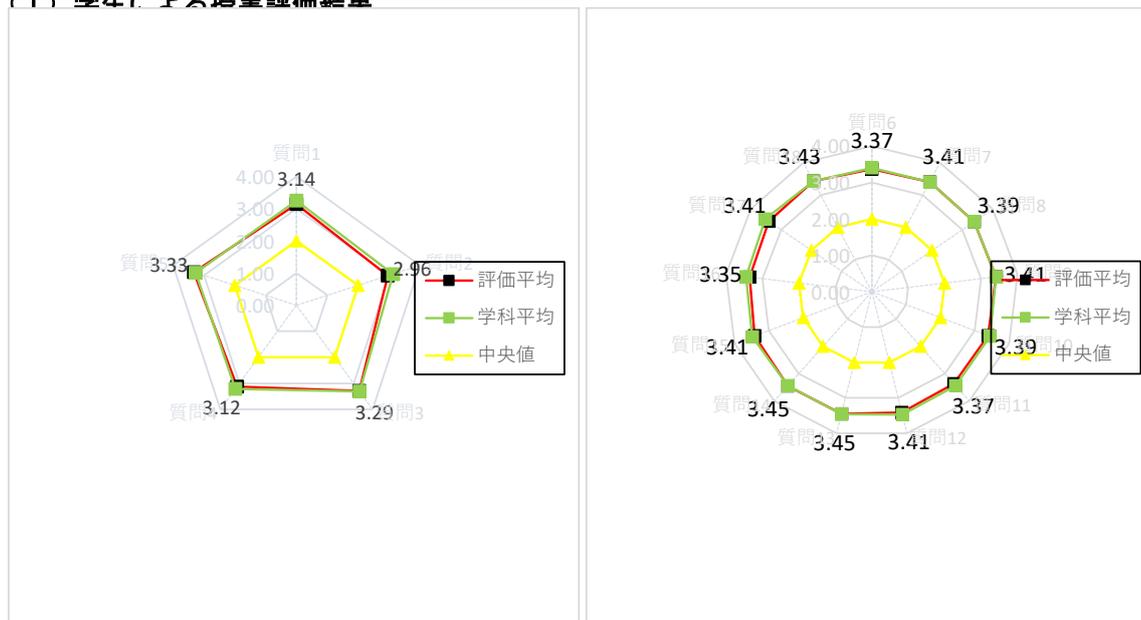
授業評価については、おおむね学科平均と同様の結果となった。自由記述では、「あすなろうの授業は色々知識を一般学びました。グループで勉強しましたので色々知識をもっと学びました。ありがとうございました」の記述がみられた。本科目では、学校での学びや自身の将来について、また先輩・後輩との交流や地域での活動等幅広く学ぶ科目である。特に、さまざまな交流を意識して取り組んだことが、今回の結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、学生が様々な価値観や文化に触れ、学生が主体的に学習できるようにさまざまな交流を取り入れていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう(大学生生活のデザイン)	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

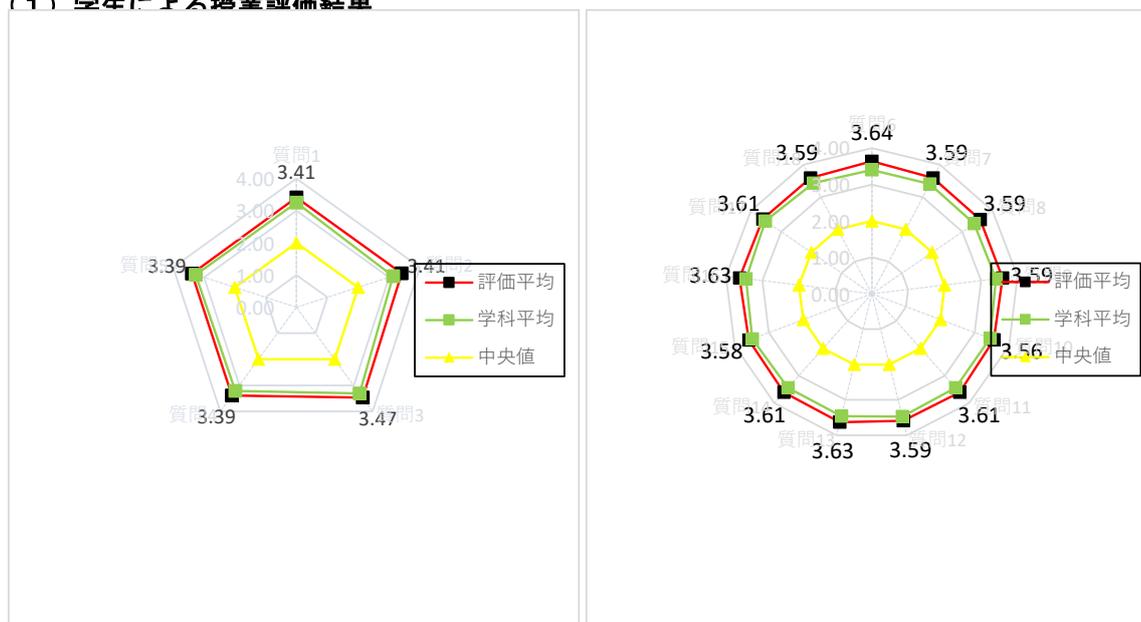
回答結果としては、履修者54名中49名（90%）であった。自己に関する設問の評価平均としては、どの設問においても平均的だが、特に質問1「授業の欠席回数」、質問2「シラバスを活用したか」、に関してはわずかに下回っている。授業に対する設問についてもほぼ平均値ではあるが、質問11「教科書・配布資料は役に立ったか」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしていたか」等については、若干下回る結果となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は複数教員が関わったり、ゲストを招いたり、時に学生主体としたグループワークを実施しているが、結果はほぼ平均値を示していることから、ある程度の共通理解を保って授業を行っていることがわかる。しかしながら週ごとに色々な形態の授業となることから、学生にとっては学習のペースがつかみづらい面もあったのではないかと考える。シラバスではなく、紙面で実施計画を周知しているが、できるだけ予定変更なく実施できるように配慮していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう(大学生活とキャリア)	75名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

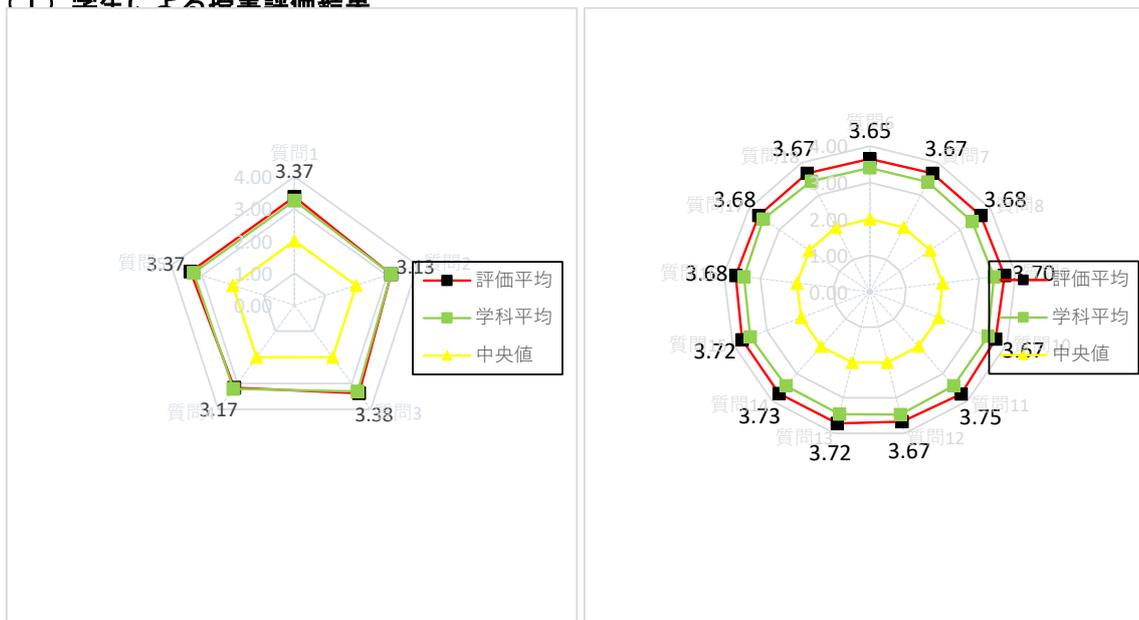
授業評価については昨年度に実施した大学生活デザインと同じ値であった。学科平均と比較すると同じ値であった。1年次のあすなろう(デザイン)の取り組みが2年次のキャリアに繋がり、授業の目的や活動内容の理解ができていたことで積極的に授業に参加できたと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みは、学生が積極的に授業に参加できるように授業の目的や学習内容・計画が理解できるように細やかな対応をしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう(大学生活とキャリア)	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

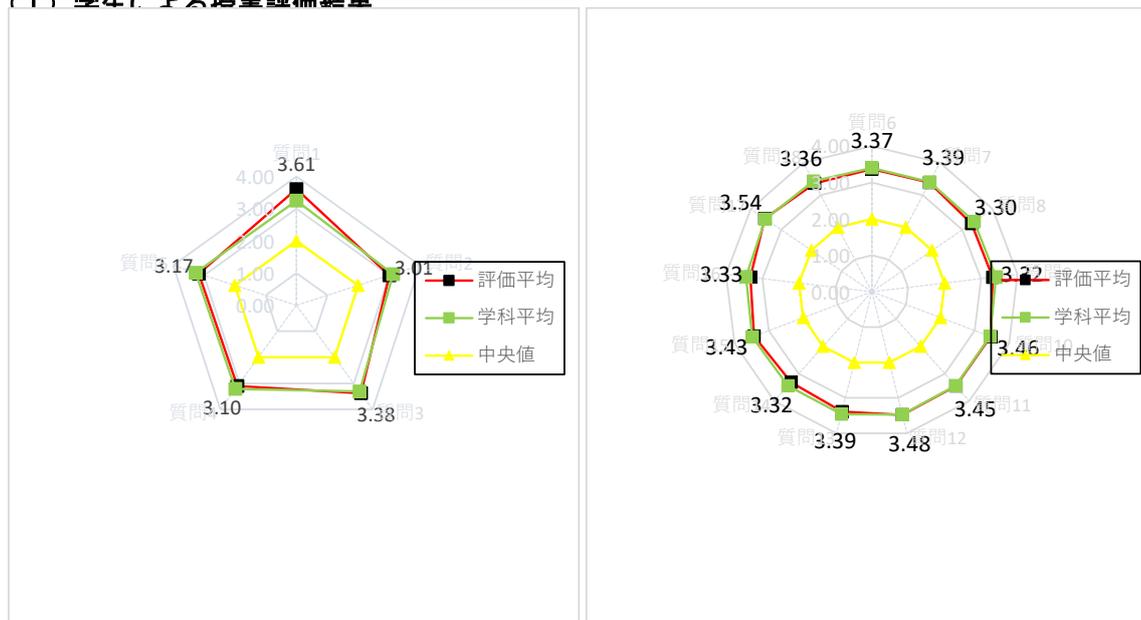
回答率は、履修者66名に対して60名(91%)であった。
 学生自身の評価は、ほぼ平均値であり、質問1「出席回数」質問3「真剣に取り組んだか」質問5「総合自己評価」はわずかに上回る結果となった。
 授業への評価としては、すべてが概ねバランスよく上回る結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は複数教員によるオムニバス形式で成り立っている。
 1年生開講の「あすなろう(大学生活のデザイン)」と比較すると、2年生では授業形態にも慣れ、学習のペースもつかみやすくなったと言える。
 自由記述には5名程度の記載が見られたが、それぞれ2年間を包括した意見であり、学科唯一の1、2年生合同で実施する科目でしか得られなかった学びやメリットにふれる回答も見られた。
 次年度からも、この特性を生かし、教え学び合う形態を継続していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		SDGs入門	167名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

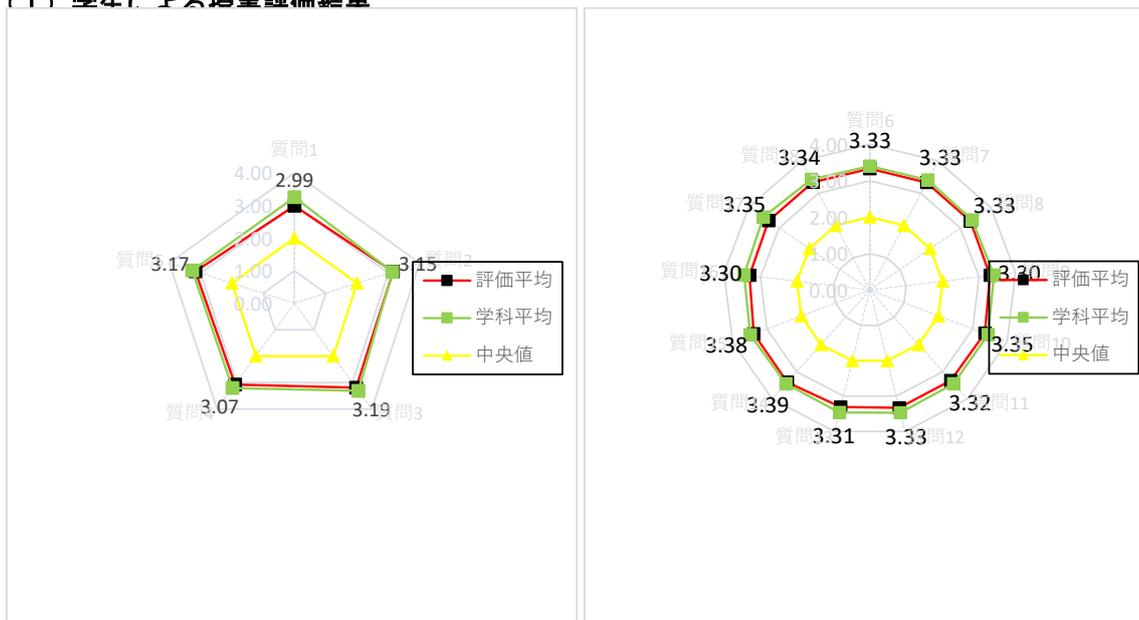
アンケート結果から、多くの学生が授業を通してSDGsに対する理解を深め、前向きな学びを感じていることがわかる。「世界とのつながりを意識できた」「知らなかったことが多くて興味深かった」といった声が複数あり、授業内容が学生の意識変容につながった様子がうかがえる。一方で、「内容が難しかった」「理解が難しすぎた」といった記述も少なくなく、特に留学生を中心に難易度の高さを感じた学生がいたことも事実である。評価項目でも全体としては平均3.3以上と良好な傾向が見られるが、「シラバスの活用」に関する項目ではやや低めの評価にとどまった。教員の説明や対応に関しては好意的な記述も多く、「応援がありがたかった」「熱意が伝わってきた」といったコメントが印象的であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

SDGsは抽象的なテーマも多いため、来年度はより身近で具体的な題材や事例を交えながら展開していきたい。例えば地域の実践例や身の回りの課題と結びつけることで、学生が自分事として捉えやすくなるよう工夫したい。また、留学生にとっては専門用語や表現が難解になりやすいため、用語の解説や図表を加えるなど、理解を助ける手立てを増やすことが課題である。シラバスの扱いについては、初回授業での丁寧な説明に加え、各回で随時立ち返るようなことで意識づけを図っていきたい。今後も、学生が「学んでよかった」と実感できるような授業を目指して取り組んでいく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		SDGs の実践	167名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

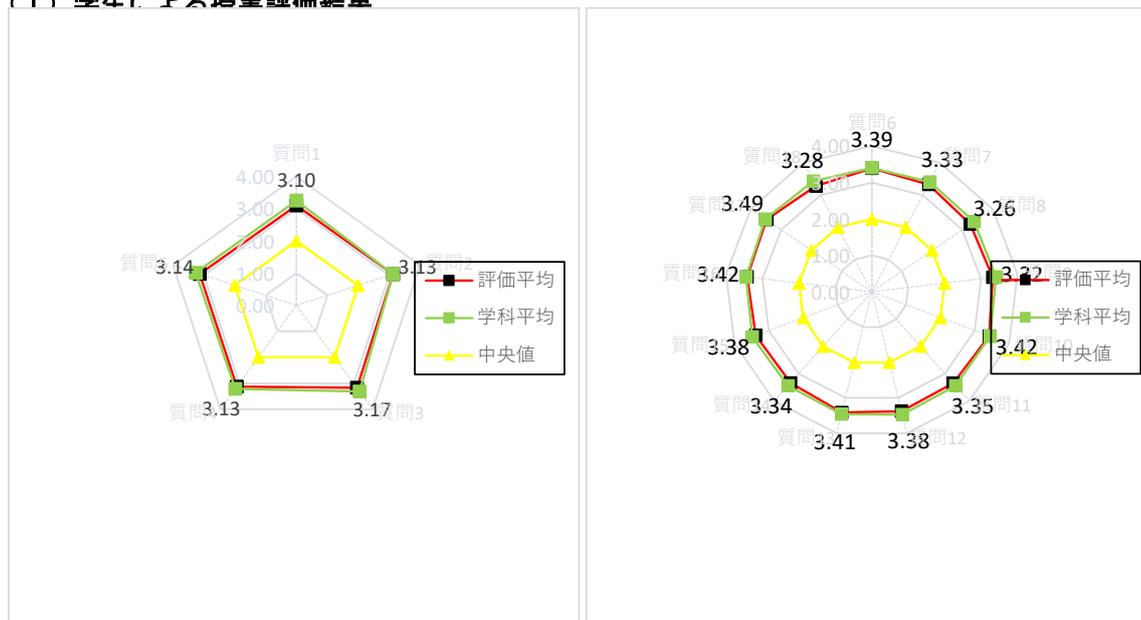
本科目は学科共通科目であるため留学生も多い。講義のシラバスは外部講師を招いての実践の紹介、それに対する質疑応答やレポートの提出のため、外部講師による授業内容への評価には差がみられる。本年度は地球温暖化防止ネットのスタッフを招き【デコ活アクションの実践シリーズ?~④】と題し、昨年度よりもより深い学びの場になるように工夫した。SDGs 入門で学んだ知識を実践に生かす実践力をより高めさせることが目的で、初回には講義や実践紹介の後に「デコ活に関するアンケート」をとった。そしてアンケート結果は集計後学生に戻しシェアした上で実践につなげるようにうながした。四回のシリーズを通して、昨年度と比較し「デコ活」については意識が高まり、少しずつではあるが日常生活における実践がひろがってきたことが伺われた。ただし、留学生が多いということから、外部講師による講義において「フリガナがなくて分かりづらかった」「もうすこし話すスピードをゆっくりお願いしたい」等の声も聞かれた。次年度は本年度の振り返りをもとに、留学生に対する合理的な配慮も課題であると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度からは、グループ内での協議がよりスムーズに行われるように、可能な限り学科コースを混在しないグループ構成、そして留学生が日本人学生の中に少数いるグループとならないようにグループ分けの工夫を行った。このグループ分けの方法は各学科コースで講評であり次年度も継続したい。また、シラバスにおいては基本的に複数の分野で活躍している外部講師を招いての講義と質疑応答、レポート提出というスタイルは継続したいが、各講師には留学生に対する合理的な配慮をお願いしなければならないと思っている。一方で軌道に乗ってきた「デコ活」をテーマにした授業については、次年度もシリーズ化して実施したいと考えている。ここでの課題として、本年度までリーダーシップをとってもらっていた講師が転職することが分かった。そこで、「デコ活」に関する講義を引き継ぐ地球温暖化防止ネットワークのスタッフとの新たな連携が必要になっている。前期中に対面で面談した上で役割分担や講義メニューの確認等を行い、スムーズにスタートできるように準備を進めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		データサイエンスの基礎	167名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価の結果は、多くの項目が学科平均より下回る結果となった。また、特に質問1、質問3、質問5及び、質問8、質問14、質問15、質問18についての評価が学科平均と比較して低いことが認められる。

質問1、質問3、質問5については、受講者（学生）に関する質問である。この講義がオンライン講義であることを考えると、対面の講義より緊張感が低くなり、講義を聞く上での真剣度が低下したことが影響していると考えられる。

質問8については、自分に関係ない分野の話題の場合、理解に苦勞する内容があったのではないかと推測する。

質問14については、この講義がオムニバス形式であり、オンライン授業であるため、質問したくても質問しづらい環境が災いしたのではないかと考える。

質問15については、留学生への配慮が足りない面があったのではないかと考える。

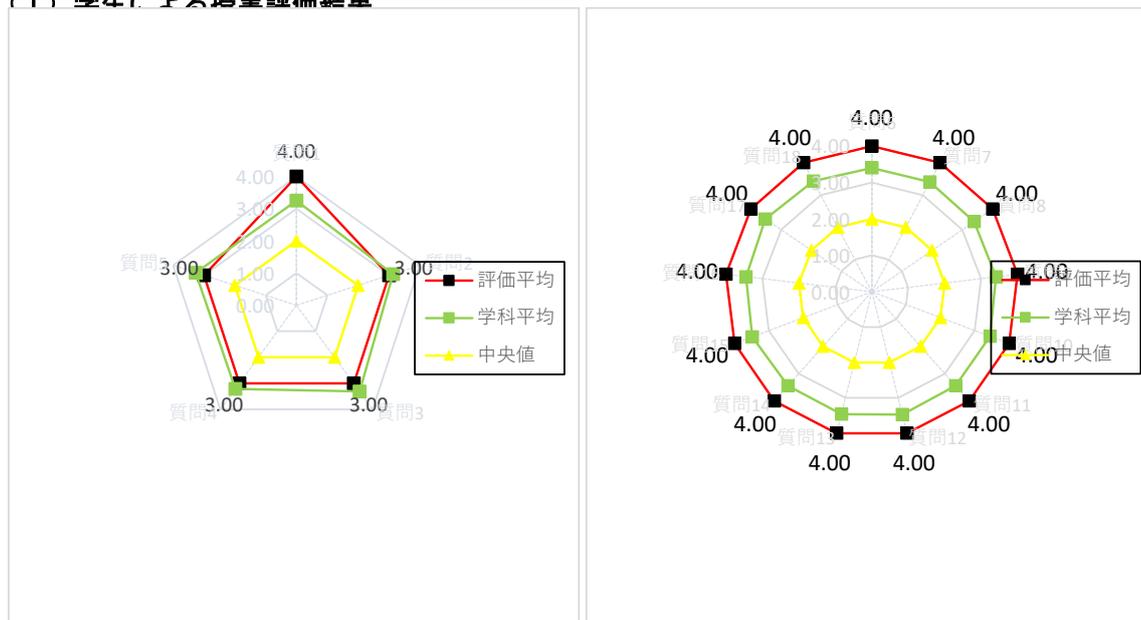
質問18については、上記の低評価項目が影響しての、低評価だと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、オムニバス及びオンラインでの実施であるため、学生の満足度は元々低いと考えている。今後は、満足度を低下する要因について考察し、今後の講義改善に改善していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう体験	1名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

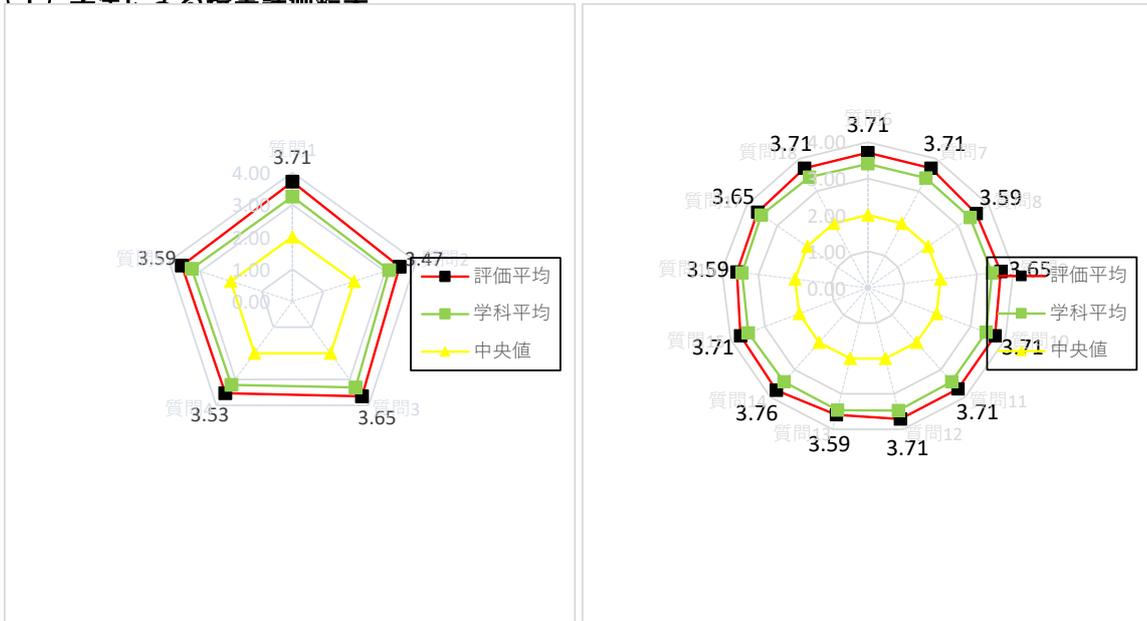
本授業に対する評価は、総合評価を含む全18項目中14項目で最高評価の「4.0」が付けられ、非常に高い満足度が示された。特に、シラバスの説明（質問6）、到達目標の明確化（質問7）、わかりやすさ（質問9）、学生対応（質問15）、双方向的な進行（質問16）などにおいて高く評価されている。一方で、学生自身の授業への取組（質問3）や理解のための工夫（質問4）、自己評価（質問5）においては「3.0」とやや評価が落ち着いており、学生側の主体的な取り組みには今後の課題が残ると考えられる。自由記述はなかったが、数値上からは、教員側の指導や関わりについて非常に高く評価されており、学習環境として安心感が得られていたことがうかがえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、引き続き高評価を得ている指導姿勢や説明の明確さを維持しつつ、学生の学習主体性をさらに引き出す工夫が求められる。例えば、振り返りシートやペアワークを取り入れた授業の構造化により、自らの学びを内省し共有する機会を設けることで、質問3?5の項目の向上が期待される。また、自由記述がなかった点も考慮し、次年度は意見収集の工夫として、自由記述欄への促しや、簡単な振り返りコメントの記入を促す形式の導入も検討するとよい。少人数制の特性を活かし、対話的なやりとりや個別対応を強化することで、学生一人ひとりの理解や満足度をより一層高める授業実践が可能になると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう体験	17名

(1) 学生による授業評価結果

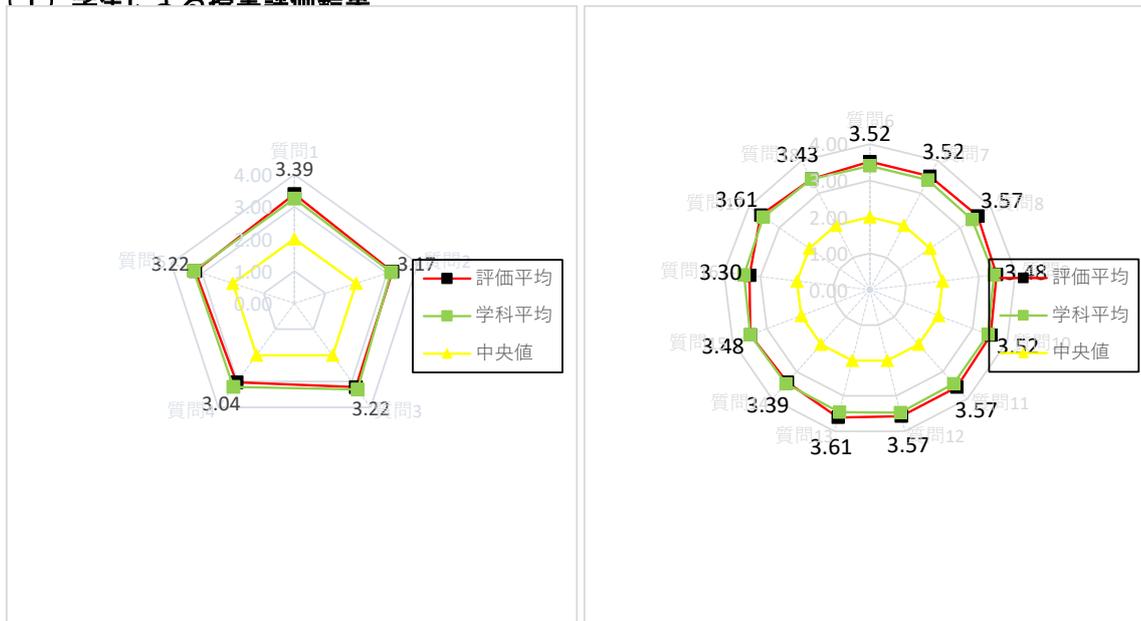


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		心理学入門	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

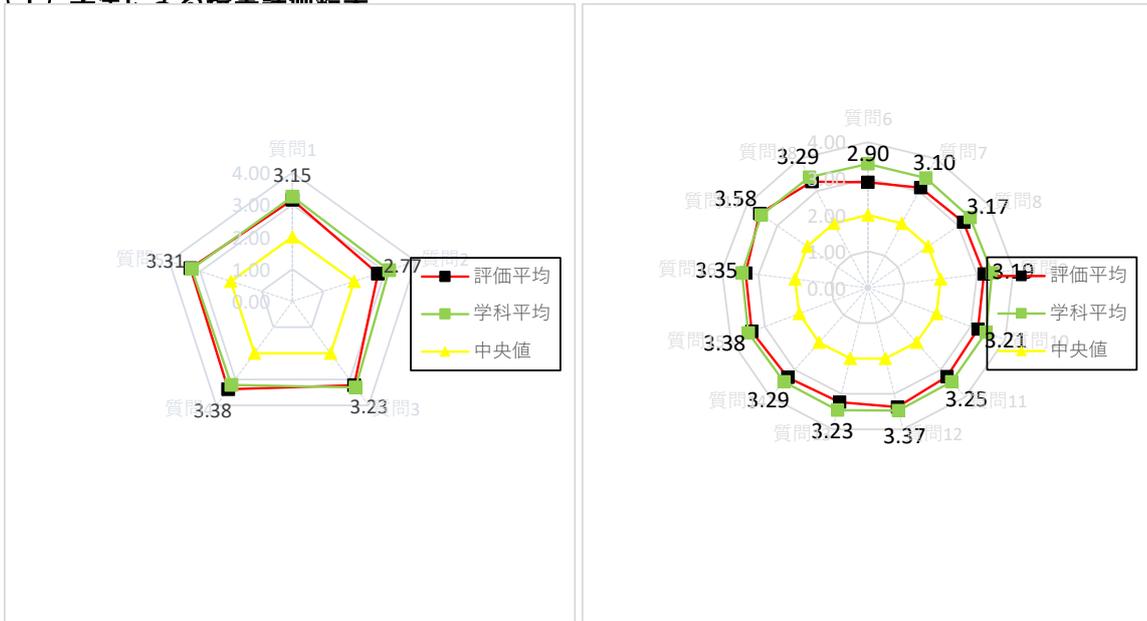
評価は学科平均とほぼ同等。オンデマンド教科ということも影響しているのか自由記述はなし。今回は産業技術学院生のスケジュールに合わせた集中講義となり、1日に指定する時間数が最多で3コマ分となった。この点について学生からのコメントはないが、今後は学生の疲労度等について考慮していく必要があると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

上述したが、授業スケジュールについては早期から教務課との協議を行い、適切な時期と配信回数に配慮していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		日本国憲法	57名

(1) 学生による授業評価結果

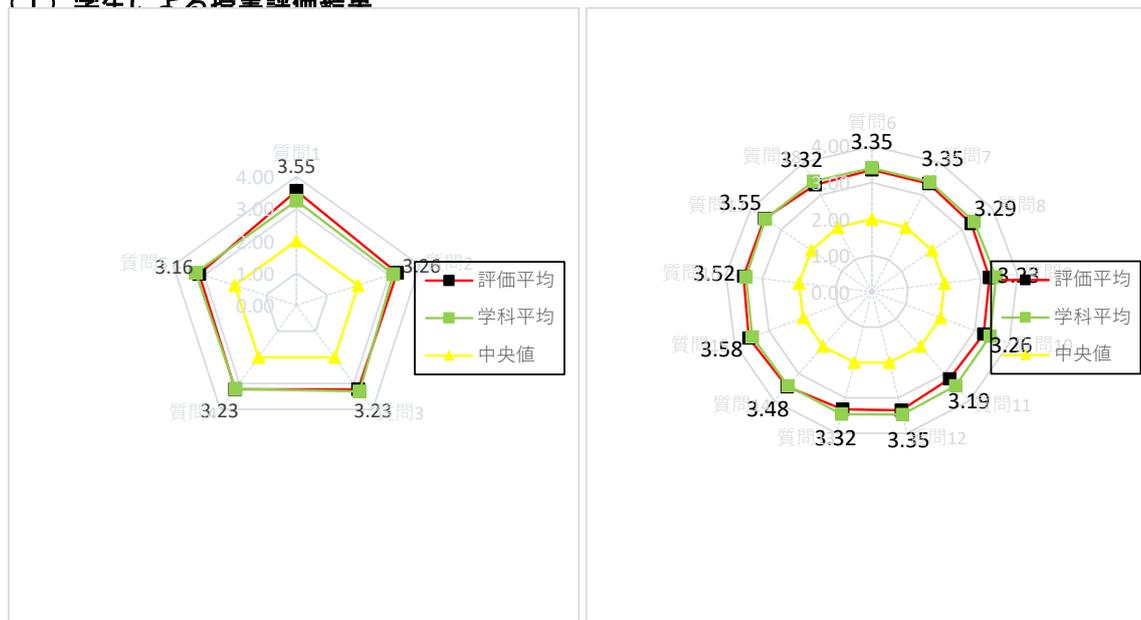


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		異文化理解	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

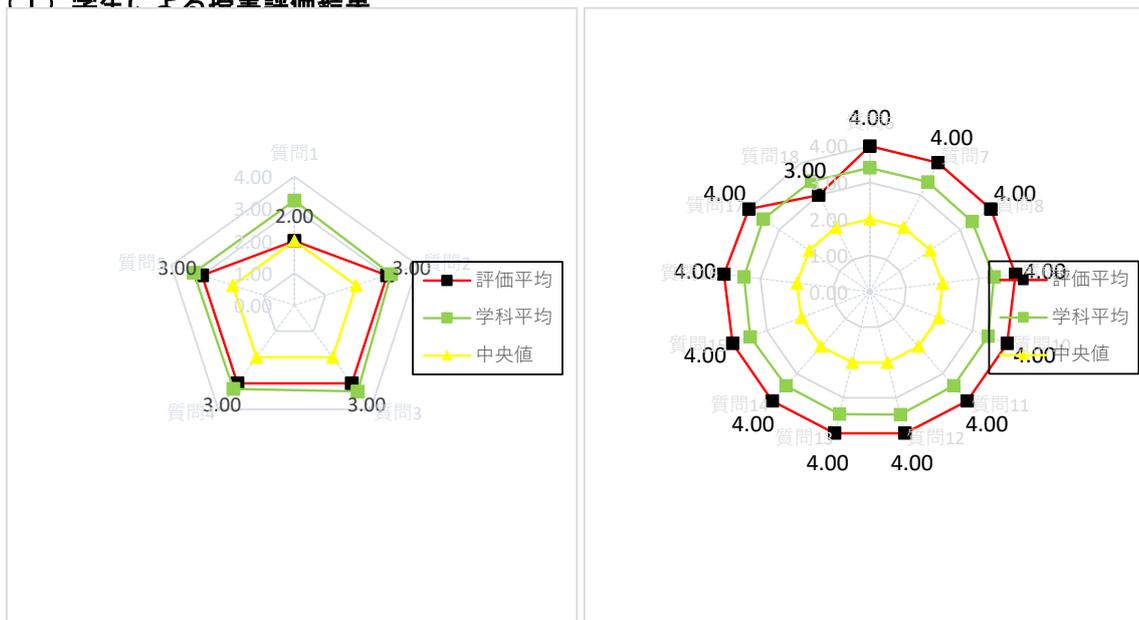
総じて平均的な自己評価と授業評価と判断している。強いていえば、質問11ほか質問9と13が0.2から0.1ポイント程度低い。15回授業は、リアルタイムのオンライン授業とし、教科書の購入はなく参考図書等を収集して独自の資料を毎回送付して実施している。授業内容はオムニバス形式で分かりやすい言葉を選び説明に務めている。初回からの3回分は、授業の導入として前回の授業から連続した形式で実施しているところである。授業は毎回振り返りの課題を与えて復習するようにしている。

(3) 次年度に向けての取り組み

課題の提出状況等から、授業初回からの3回分の授業形式と説明について、理解が進まない学生がいるものと考えられる。この3回分の授業について、学習方法をオムニバス形式にすることや学習の流れを再検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		総合英語（初級）	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

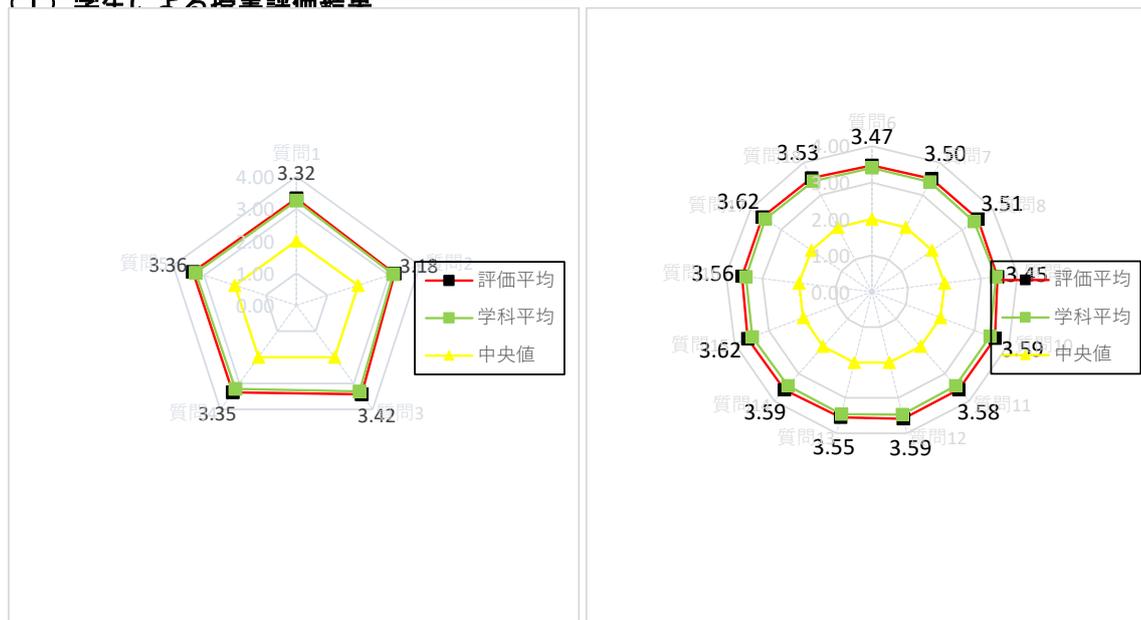
本授業は通常授業と異なり、集中講義として行う科目である。そのため、履修者は2名のみであった。「出席」と「総合評価」の点数が低かったため、参加を促す工夫が必要だと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度の開講は予定していない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		英会話 I	83名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

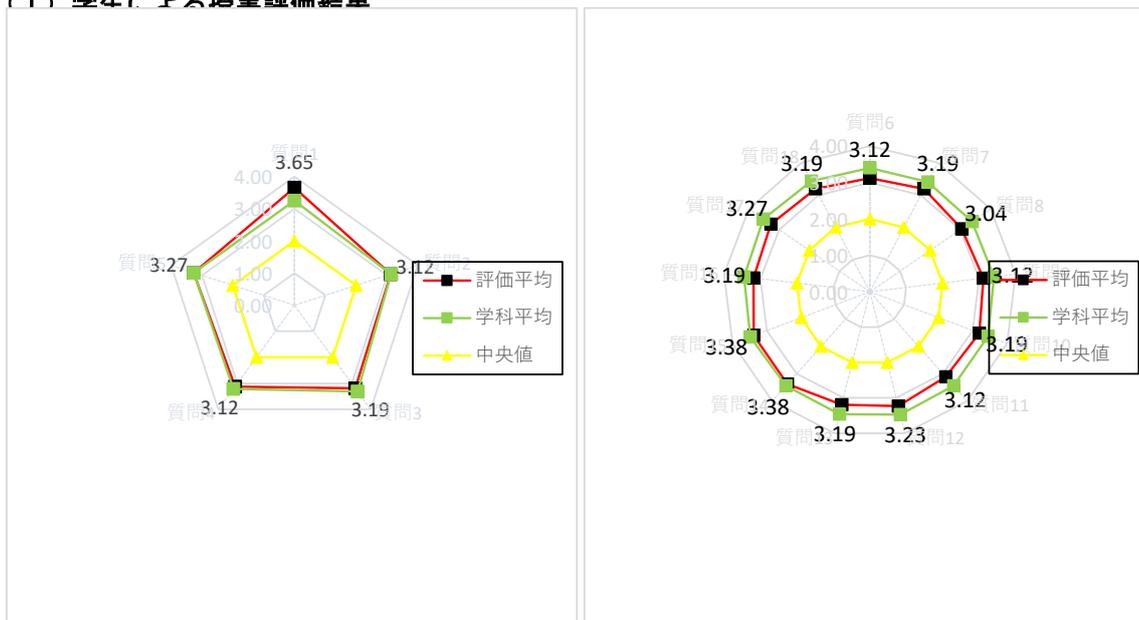
概ね平均値と同様の評価を得たが、質問1～5の自己評価を高められるような工夫が必要である。本授業ではリーディングや文法ではなく、ペアワークを中心とした英語を用いたコミュニケーションをとることを重視している。そして、毎回の授業で席替えをして、授業毎にペアやグループが変わるようにしている。それにより、いろんな人とのコミュニケーションをとることができてよかったという評価を得ている。より効果的且つ発展性のある授業とするためには受講生の自己評価を高めたり、資格試験の受験者数を増やすことが求められる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は本授業を担当しない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		英会話 I	42名

(1) 学生による授業評価結果

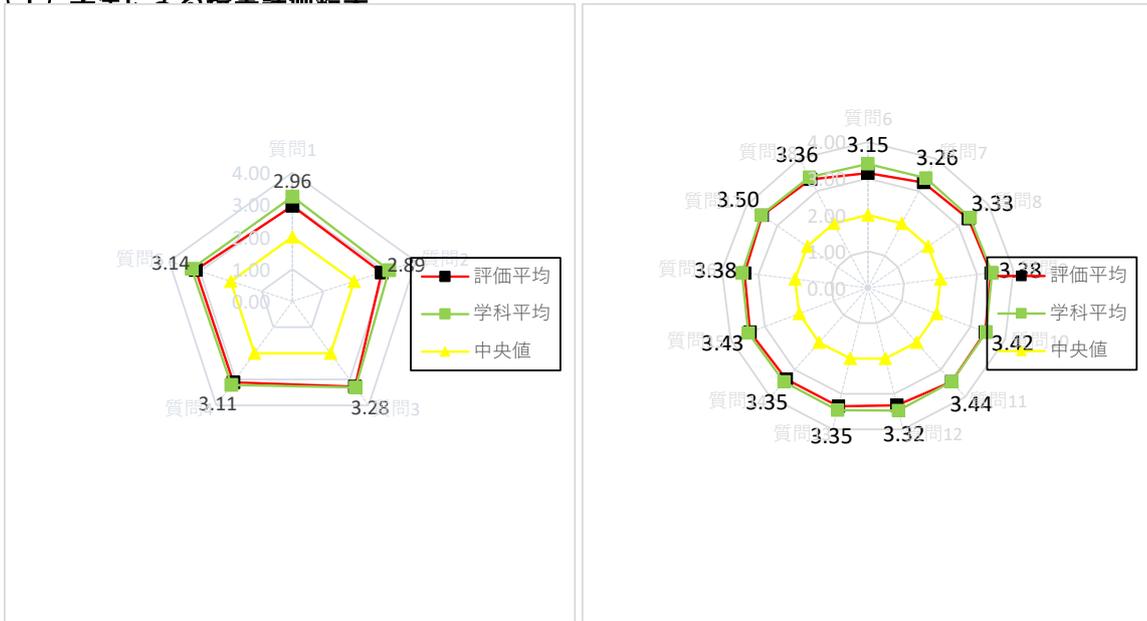


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		英会話Ⅱ	57名

(1) 学生による授業評価結果

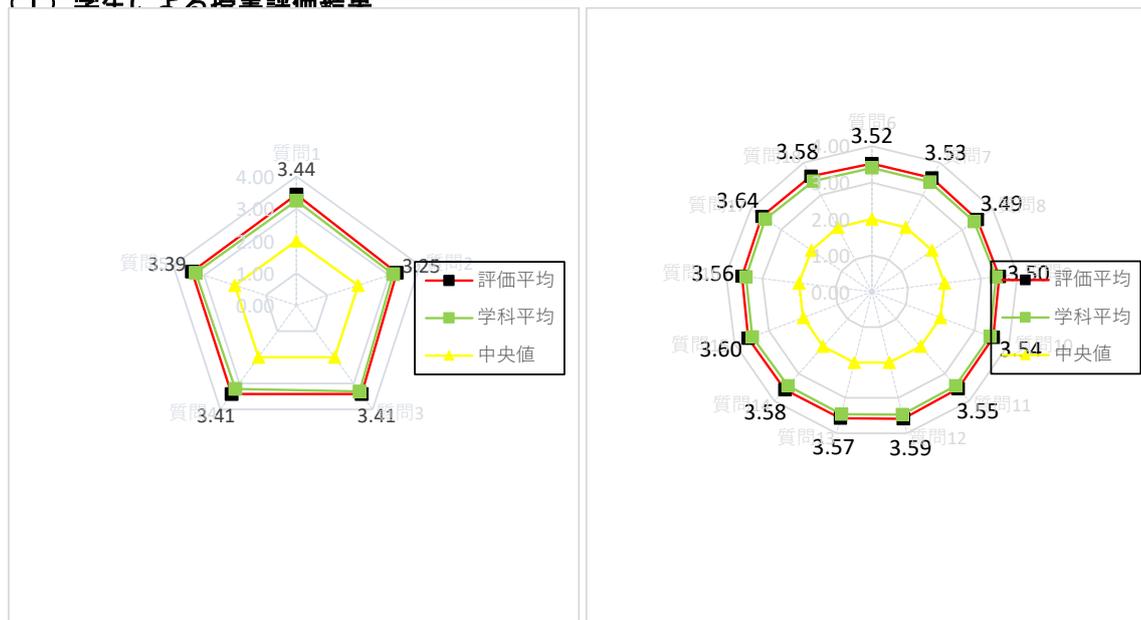


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ理論	125名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

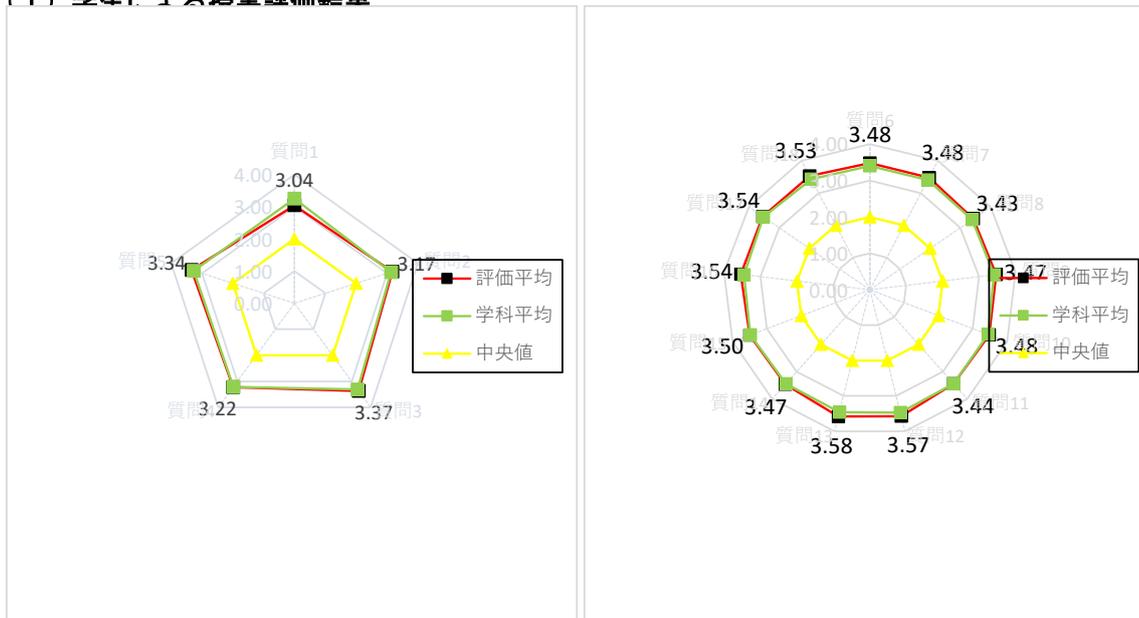
昨年度より遠隔授業で実施することとなり、ほとんどの授業をリアルタイムによるオンライン形式で実施した。一番の懸念は学生の顔が見えないため、どの程度理解できているのか、パワーポイントの見やすさや話す声の聞きやすさはどうだったのか不安な点は多かったが、評価としては平均以上の評価を得ることができた。学生の視聴方法として、PCで受講するよう促しているもののスマートフォン等で視聴する学生もいると考えられることから文字の大きさにも気をつけたことや学生に答えてもらいたくてもマイクの調子や通信状況により上手く回答できないこともあったためFormsを活用することにし、一方的な授業にならないように努めたことも評価につながったのではないかと考えられる。しかしながら、授業とは別にいろいろと気を遣うことが多く、難しさも感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も遠隔授業での実施のため、オンラインで実施する上でより良い方法を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ	132名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

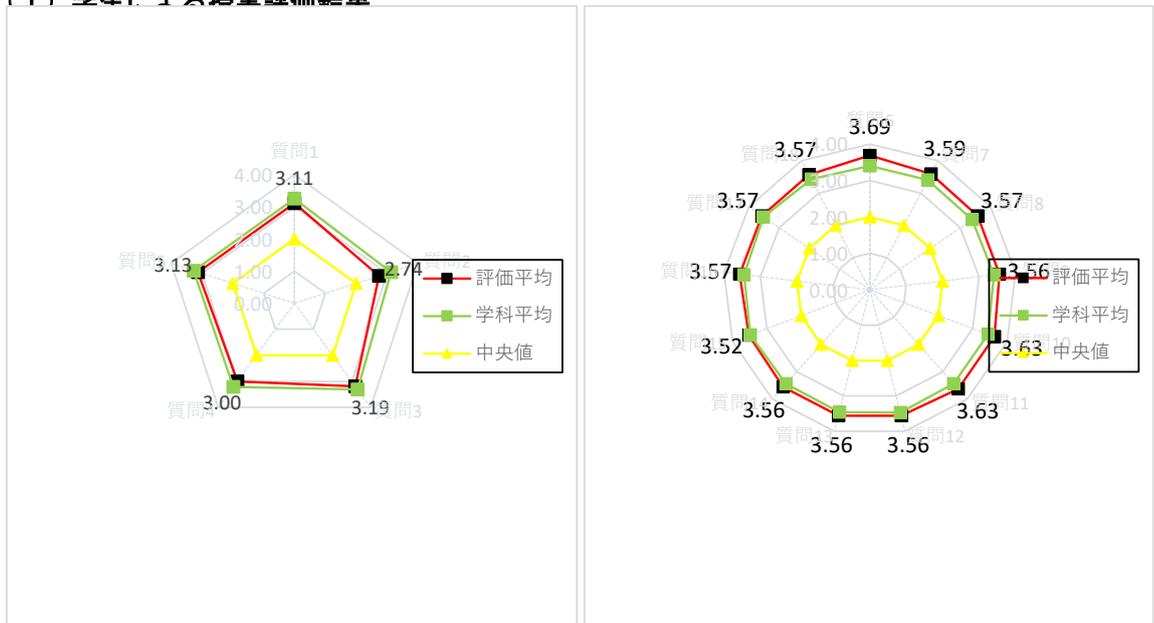
全体的に平均的な評価となった。この科目は実技科目であり、運動・スポーツを通して健康意識を高めることにつながるよう授業を展開している。運動・スポーツの好き嫌いが二極化する中、いかに前向きに取り組んでもらうかを意識しながら展開したことも評価につながったと考えられる。また、留学生はスポーツの経験が少ないことからルールについても丁寧に教えることを意識した。私自身も学生と一緒に運動することで学生が取り組みやすくなるように展開した。しかしながら、こちらの意図が伝わっていないことや積極的に取り組む学生と消極的な学生に分かれてしまうこともあったりともう少し工夫ができたのではないかと課題もみられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は運動・スポーツに苦手意識がある学生でも前向きに取り組めるような工夫をさらにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育原理	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

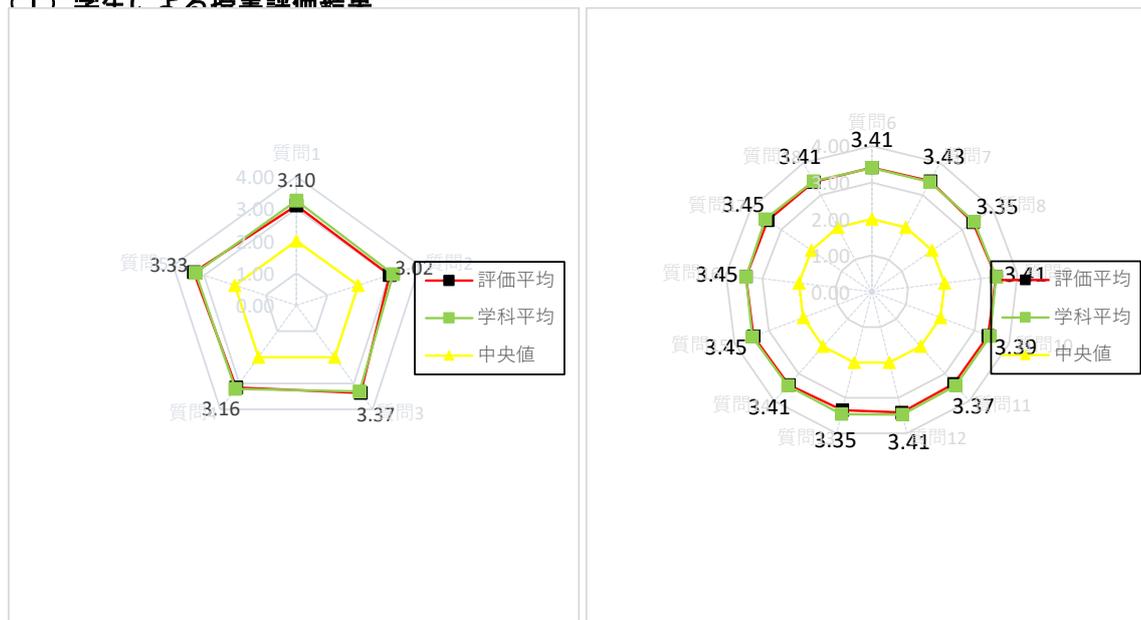
学生自身の授業への取組については、自己評価の項目全体で学科平均をやや下回る傾向が見られた。特に「シラバスの活用」の項目で低めの評価となり、学習への主体性に課題があると考えられる。一方、教員の授業方法に関する評価は、全体的に学科平均と同等であり、一定の授業水準は確保されていると評価できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の学習意欲を高めるため、具体例や保育現場の映像資料などを取り入れ、内容を身近に感じられる工夫を行う。
また、振り返りやペアワークを授業内に取り入れ、学びを言語化する機会を設けることで、受講姿勢の改善と理解の深化を図っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育総論	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身の授業への取組、および教員の授業方法のいずれも、全体的に学科平均をやや下回る結果であった。

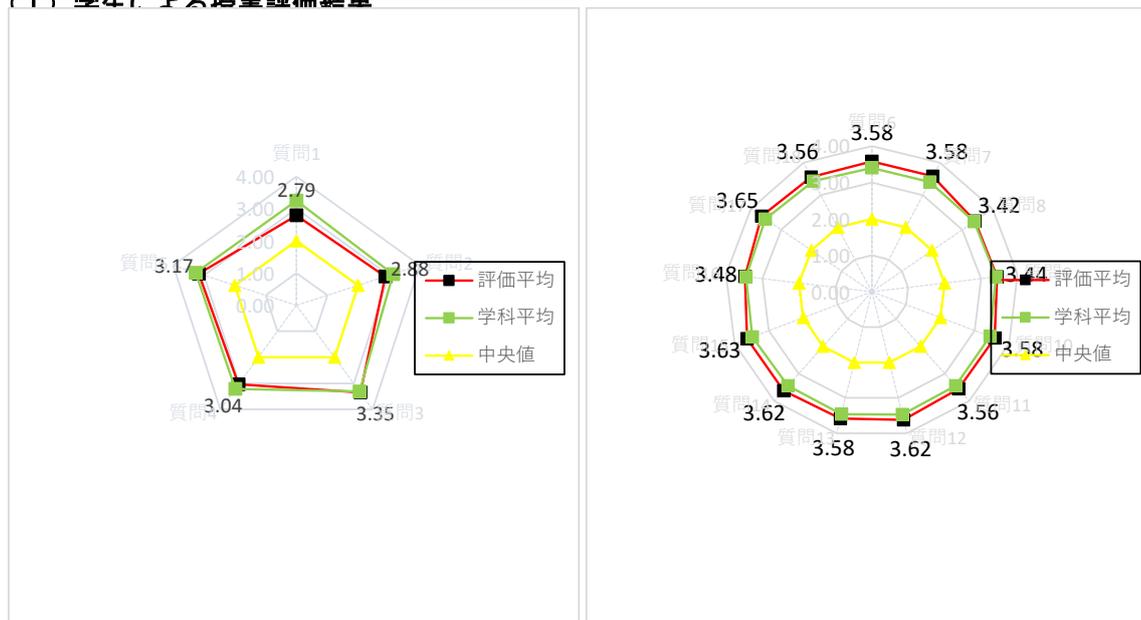
特に「授業への興味・関心」や「授業を理解するための工夫」などの項目で評価が低く、学習への意欲や授業内容への引き込みに課題があると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

導入に身近な話題や具体的なエピソードを取り入れ、学生の興味を引き出す工夫を行う。
また、小テストやワークを取り入れ、授業への集中度を高めながら理解を深める仕掛けを工夫し、学びの質と満足度の向上を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭福祉	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

52/54 (96%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、質問8と質問9がやや学科平均を下回っていた。

その理由として、本科目は学年全体を対象としており、どうしても大人数での講義となるためグループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えられる。

また、本科目は講義系となるが、「興味をもった」「視野が広がった」などの評価もあった。

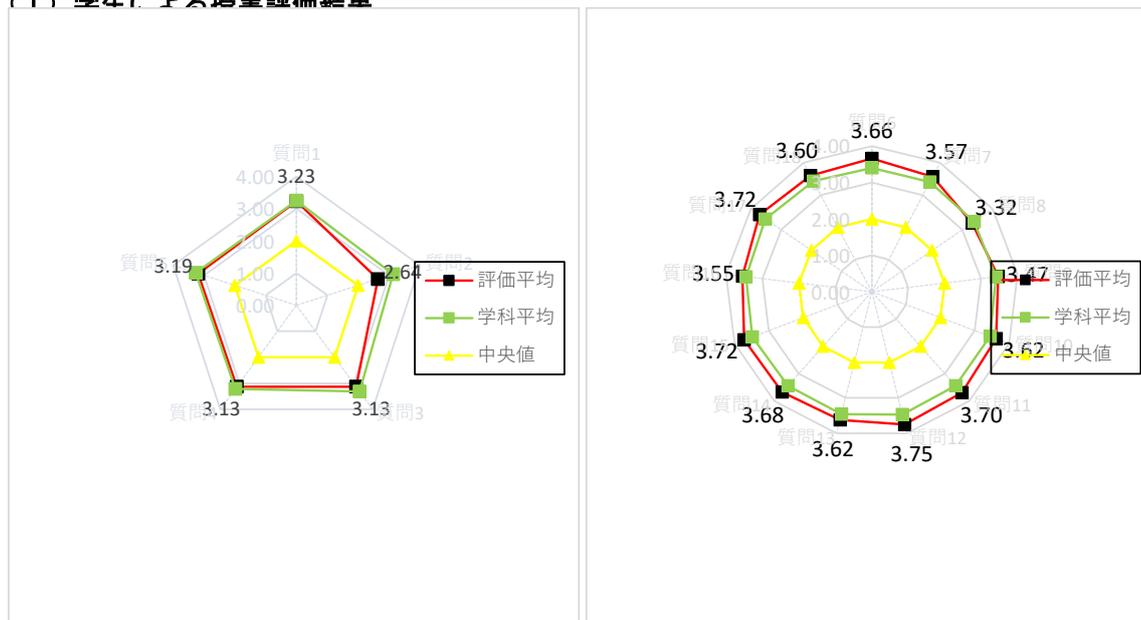
(3) 次年度に向けての取り組み

「子ども家庭福祉」においては、自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。

また、「難しいところもあるが、こどもの福祉について理解することができた」との記載もあった。上記の教材を上手く活用しながら、より保護者支援などの実践に役立つ授業になるように工夫を図っていきようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会福祉	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

53/55 (96%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、質問8と9については学科平均よりやや点数が低かった。その理由として、学年全体を対象としており、どうしても大人数での講義となるためグループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えられる。

また、本科目は講義系となるが、「興味をもった」「視野が広がった」などの評価もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

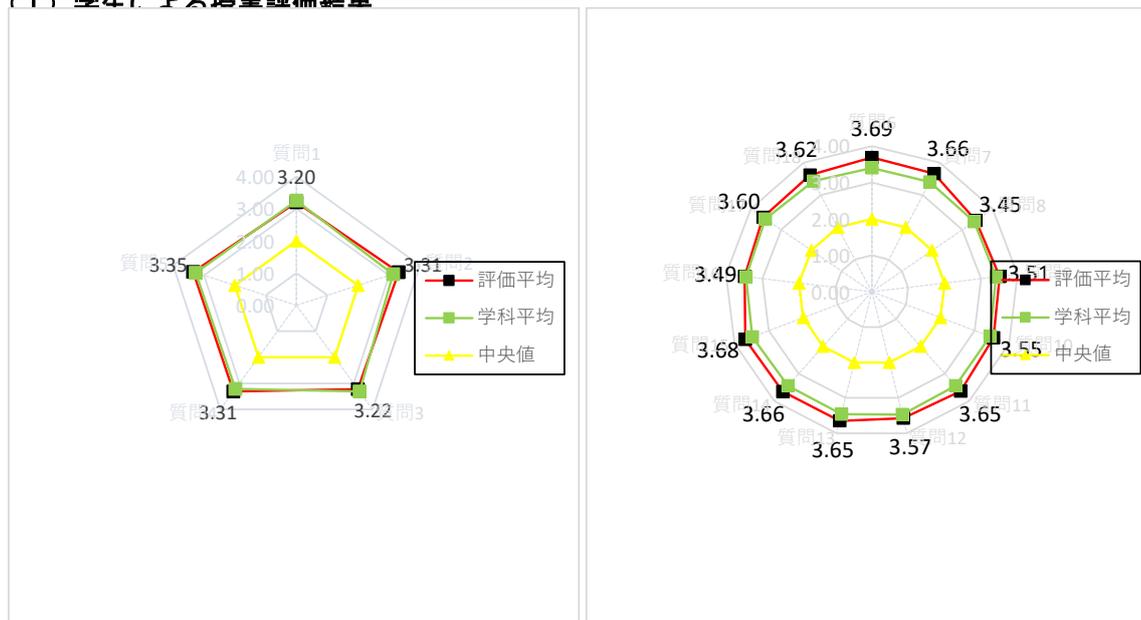
自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。

テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。

また、「知らなかったことが多く、福祉についてしっかり学べた」との記載もあった。学生にとっては興味もちにくい科目かもしれないが、少しでも理解が進むように工夫を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援論	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

65/67 (97%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、質問8以降については学科平均と同程度であった。

本科目は、学年全体を対象としており、どうしても大人数での講義となるためグループワーク等の学生交流が実施しにくいことが難しい点であった。

また、本科目は講義系となるが、「興味をもった」「視野が広がった」などの評価もあった。

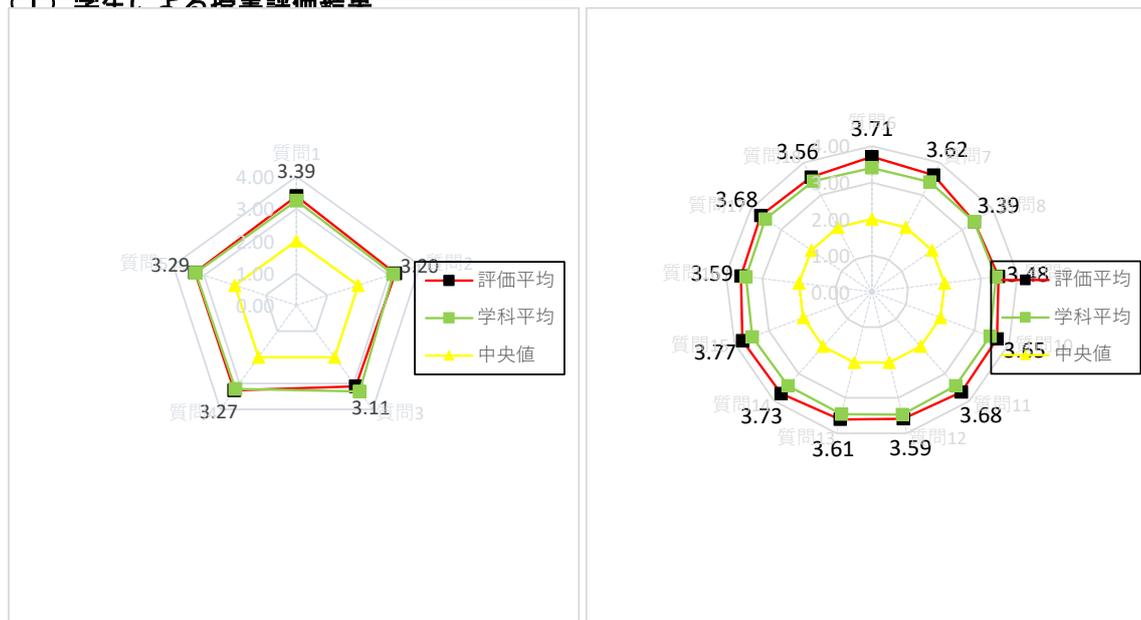
(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。

また、事例など教材を上手く活用しながら、より保護者支援などの実践に役立つ授業になるように工夫を図っていくようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会的養護 I	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

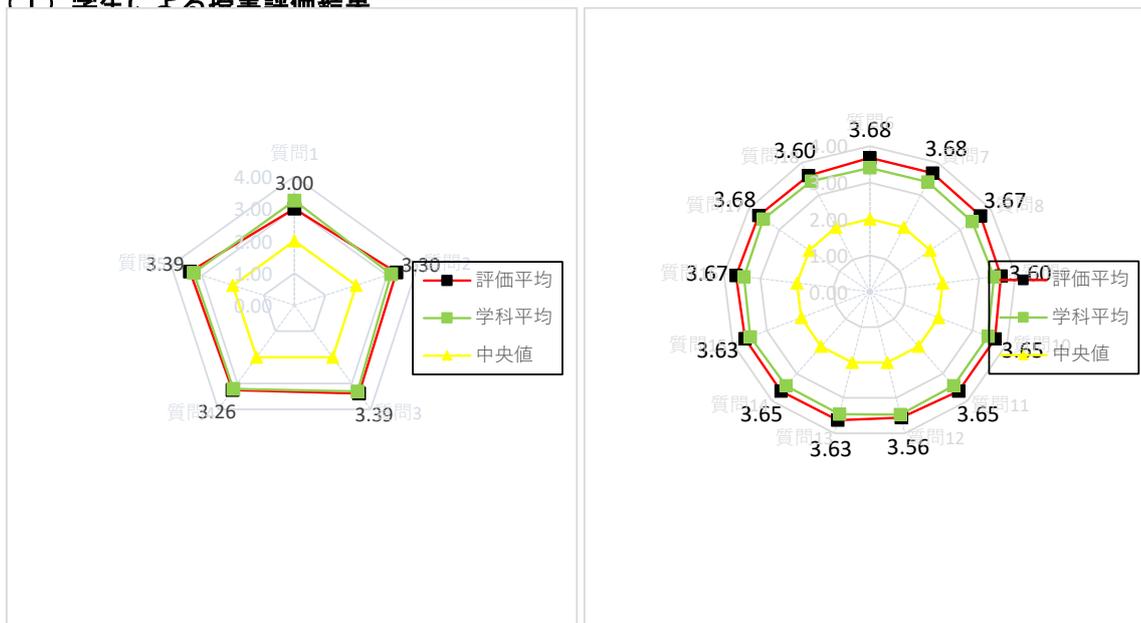
66/66 (100%) の回答であった。
 授業評価の各質問項目においては、質問 6 以降については学科平均と概ね同程度であった。
 学年全体を対象としており、どうしても大人数での講義となるためグループワーク等の学生交流が実施しにくいことが難しい点であった。
 また、本科目は講義系となるが、「興味をもった」「視野が広がった」などの評価もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。
 また、社会養護に興味をもち就職を選択を学生もおり、より学生の進路選択に貢献できるように工夫を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育・保育者論	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

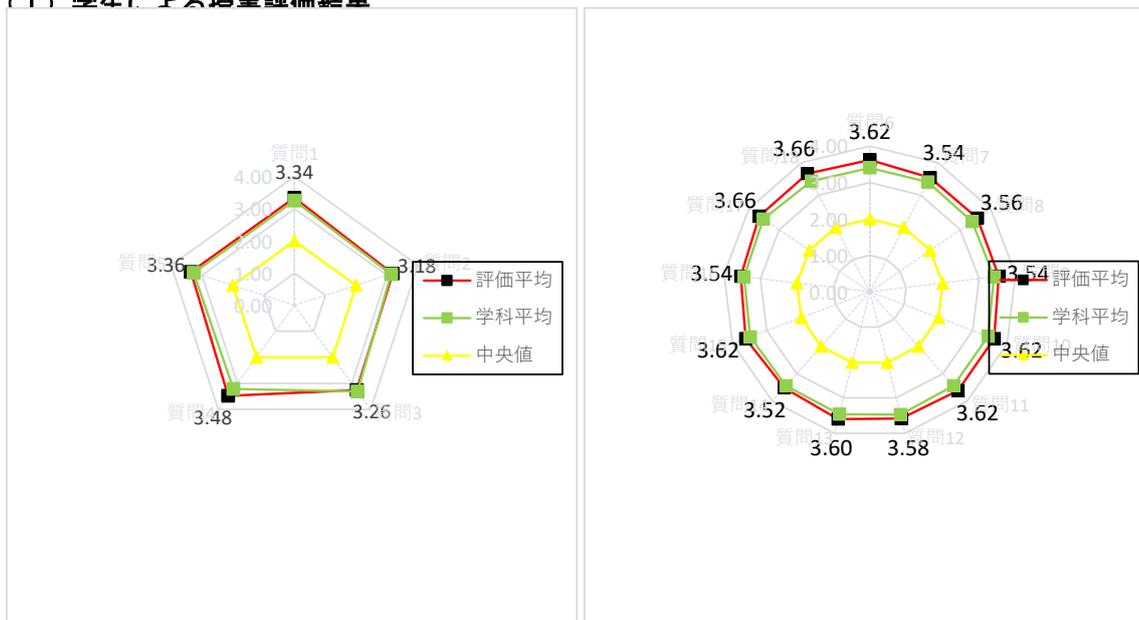
学生自身の授業への取組、および教員の授業方法に関する評価はいずれも学科平均と同程度であった。全体として大きな偏りは見られなかったが、「授業の欠席が多い」という傾向があり、学習の継続性や到達度への影響が懸念される。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の導入で学びの意義を丁寧に伝えるとともに、出席への動機づけを強化する。また、出席状況の共有や簡易な振り返りの活用などを通して、欠席による学びの断絶を防ぎ、継続的な参加を促す工夫を講じていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		発達心理学	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

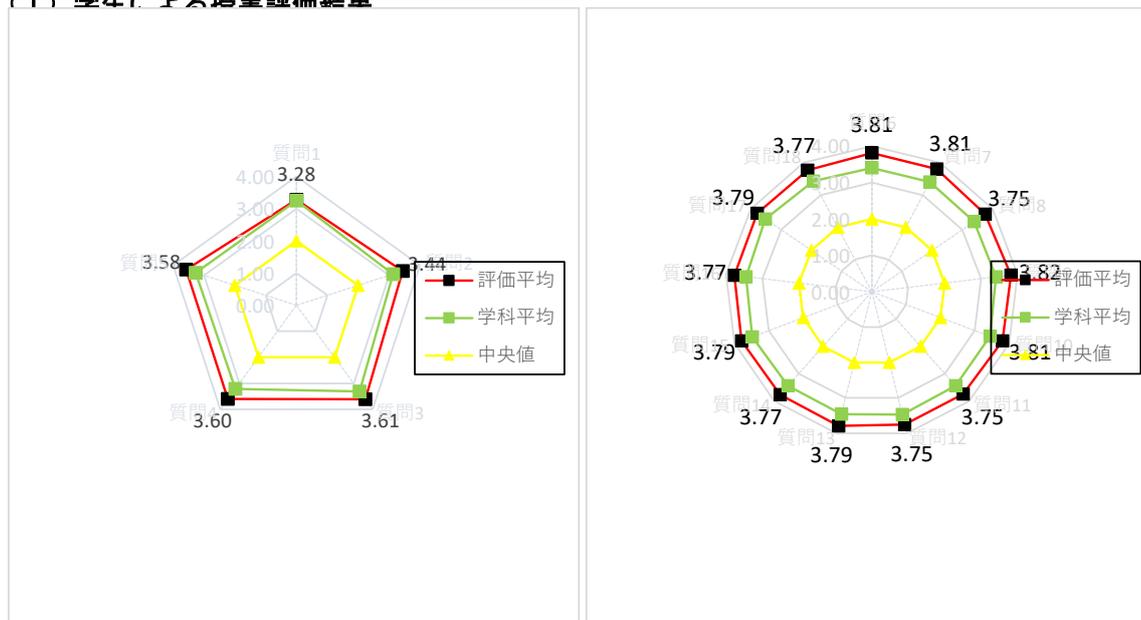
評価はほぼ学科平均と同等である。自由記述に2名から「難しかった」とコメントがあった。他3名から「子どものことについて知ることができた」「対応の仕方が分かった」という具体的な内容の理解を示すコメントがあった。一斉授業である為に質疑応答をすることがなく、質問14がやや低くなっているのはそのことが要因になっていると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容や到達目標については、本科目が教職、保育士の必修科目となっており、変更が難しい。その為、難しさを感じる学生も複数いることを想定して、教示方法について検討していく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援の心理学	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

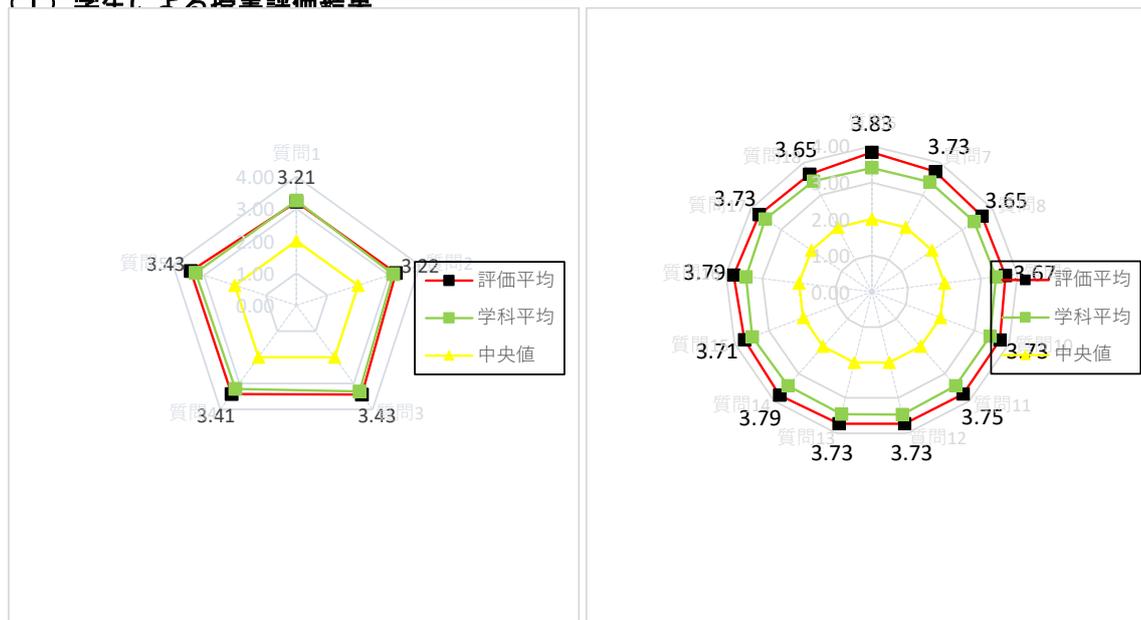
全体として学科平均と同程度からやや高い評価であった。学生の意欲は比較的高く、授業の実施方法も学生にとって一定の参加しやすさがあったと考えられる。また本科目では期末試験を実施したが、特にテスト対策は行わず、A4用紙1枚の自作のメモのみを持ち込み可としていた。この点に関して、自由記述では「テスト対策をしてほしい」「持ち込める枚数を増やしてほしい」とのコメントがあった。試験の実施方法に関しては授業の当初から繰り返し知らせているものの、学生は授業内容の重要な点を意識しながら参加することができていないと思われる。担当教員としても、より重要な点を分かりやすく伝える工夫が必要だと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業方法や内容としては、前年度と同様でよいと思われる。ただし、期末試験に関する情報提供の方法については、小テストの実施等、授業内で内容を振り返る機会を準備したり、早めに試験の準備を呼びかけたりすることが必要だと思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども理解と教育相談	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体として学科平均と同程度からやや高い評価であった。一方で学生の取り組みに関しては、やや低い評価の項目もあった。

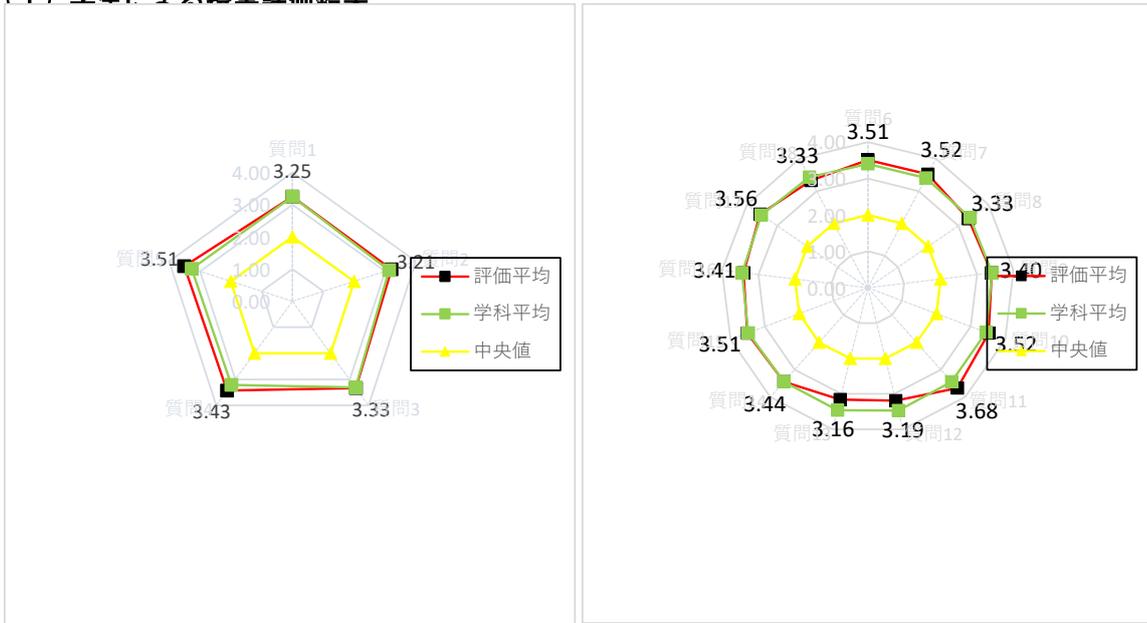
自由記述の中で、考える時間や意見を共有する時間をもう少し取ってほしいとのコメントがあった。本科目は、概ね概論の説明→関連する事例の紹介→事例に対する対応の検討という流れで進めている。この対応の検討の部分では、学生が個人で考えた後、学生同士で意見交換をする時間を取っている。毎回同様の活動を行っているが、2024年度の授業では、そのような機会が不十分であったのかもしれない。加えて、担当教員の態度に関する否定的なコメントもあった。平均的な評価としては肯定的であるものの、一部に教員の話し方を不快に感じた学生がいたようであった。今後留意すべき点である。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容を大きく変える必要はないと思われるが、より学生同士が活発に意見交換ができるよう、時間や機会の設定を工夫することが求められる。また学生に対する接し方に関しても、都度振り返ったり学生の様子を見たりしながら、学生が学びやすい授業になるよう気を付ける必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの保健	66名

(1) 学生による授業評価結果

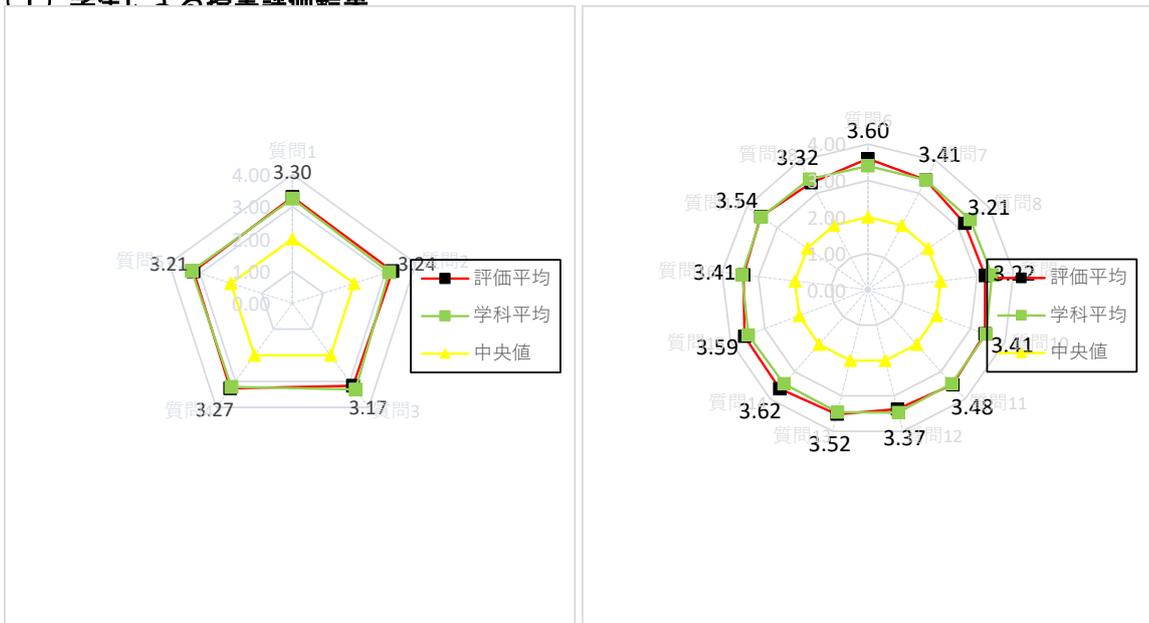


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの食と栄養	66名

(1) 学生による授業評価結果

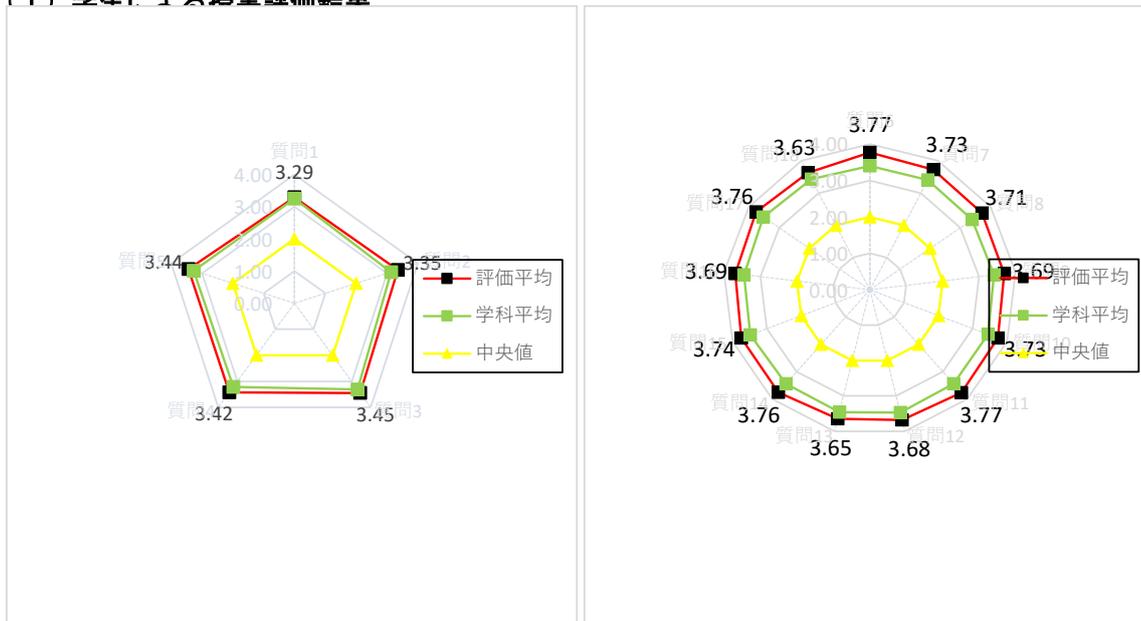


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育課程・方法論	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

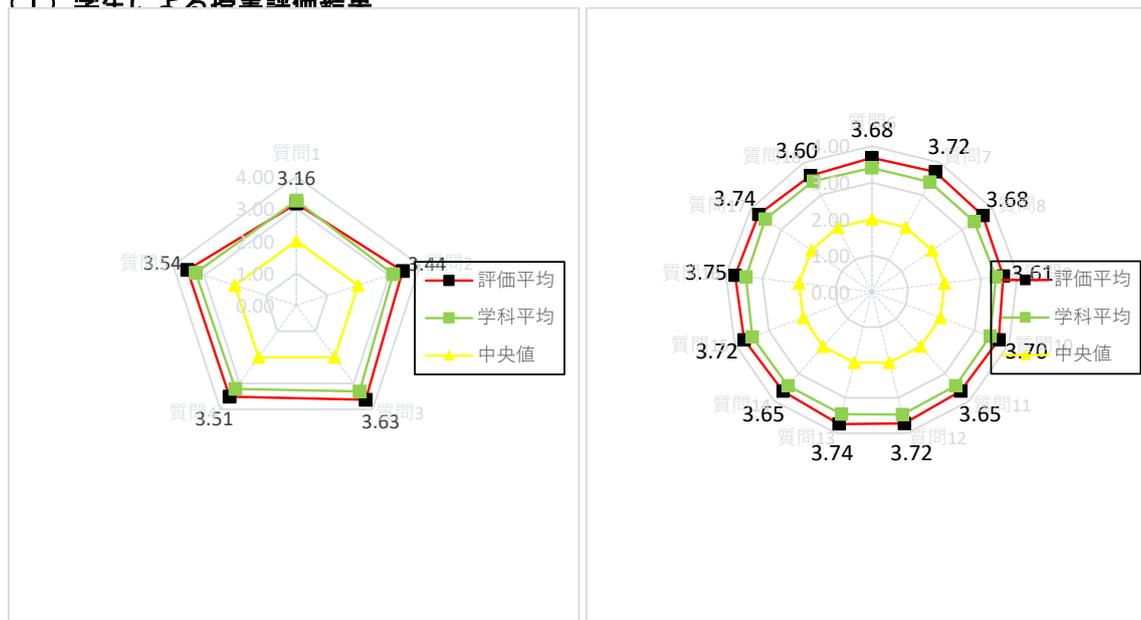
学生自身の授業への取組に関する評価は学科平均と同程度であり、一定の主体性が保たれていた。一方、教員の授業方法については「分かりやすさ」や「熱心さ」などの項目でやや高い評価が見られ、学習環境としてはおおむね良好であったと評価できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が学びの内容をより深く理解し、自らの考えとして定着できるよう、授業内に意見交換や振り返りの時間を積極的に取り入れる。
また、学習の意義や現場とのつながりを明確に示し、学びへの実感と興味をさらに高めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容総論	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問の全ての項目において学科平均と大差ない評価となっており、特に問題となるような点は見当たらない。

特に評価が高かったのは「双方向的なやり取り」に関する項目である。この授業ではエピソード演習に対する自身の考えや保育観を見つめなおす内容を多く取り扱うが、学生の考えをまずは受けとめ、多様な価値観に触れられるような授業展開を心掛けたことがこの評価に繋がったのではないかと考える。

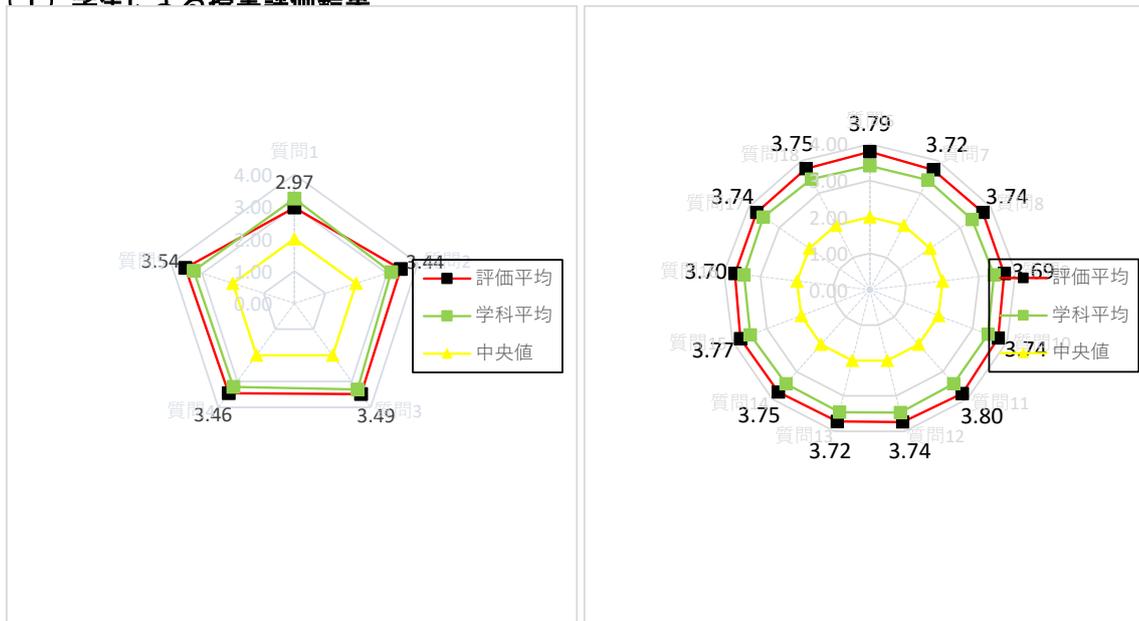
(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身はこの授業に真剣に取り組めていたと評価をしている(質問3)。しかし、実際に授業した感触からは、学生の取り組み状況には斑があり、もう少し真剣に取り組んでもらいたいと思えるような回もあった。

次年度はより学生の興味・関心を引き出せるような教材の工夫や進行の工夫をすることで、どの授業回であっても学生が主体的に学びに向かえるような授業を展開したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（健康）の理論と方法	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

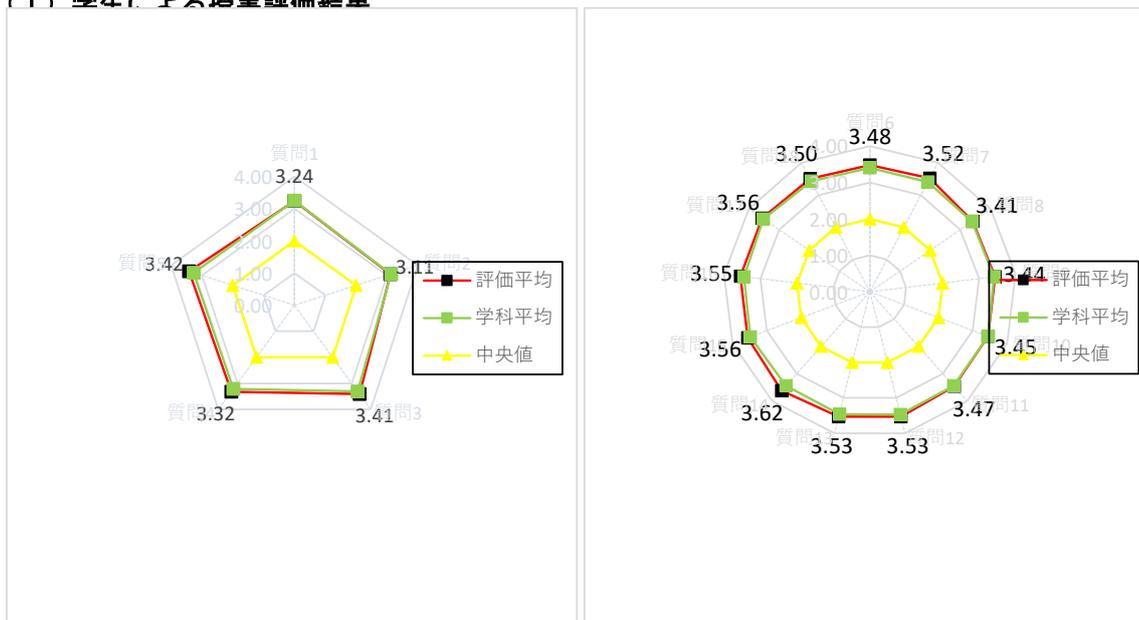
全体的に高い評価を得ることができた。この授業では模擬保育やグループ発表を中心とした授業を展開したが、学生からは「どうすると上手く子どもをまとめることができるかを考えながら取り組めた」「保育現場で実際に必要な物事の見方、目の向け方を学べて良かった」との声が挙がり、こちらが意識していることが学生に伝わったことが評価につながったと考えられる。しかしながら、グループワークでは積極的に取り組む学生と消極的な学生もみられたため、もう少し工夫することができたのでは以下といったことが反省点と挙げられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き実践をととして様々な視点から考える機会となるような授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（人間関係）の理論と方法	66名

(1) 学生による授業評価結果

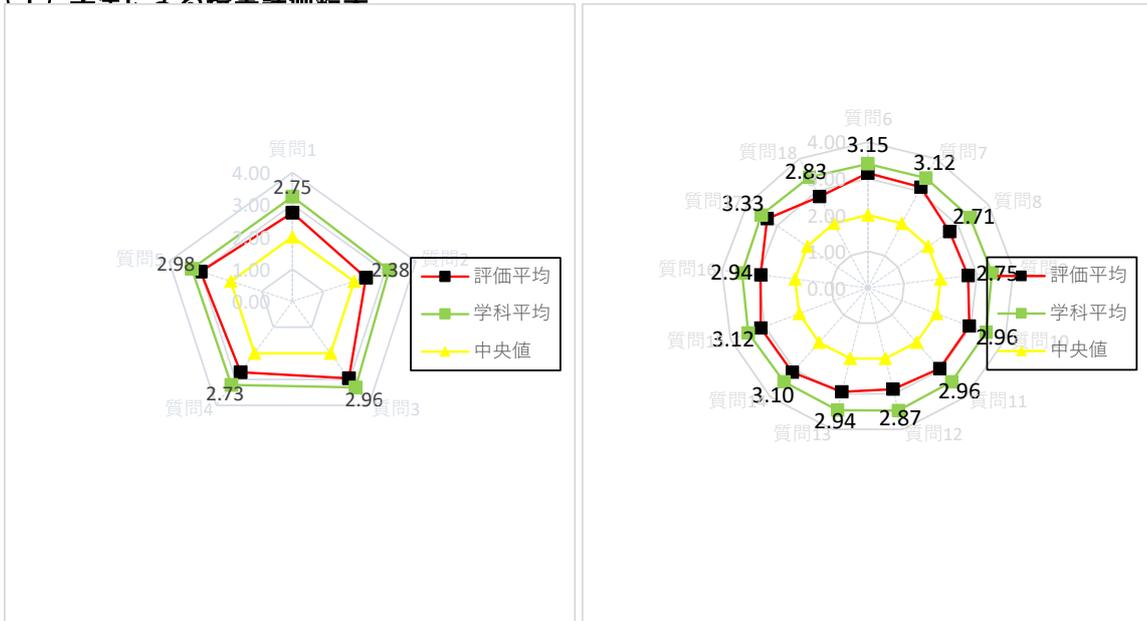


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（環境）の理論と方法	54名

(1) 学生による授業評価結果

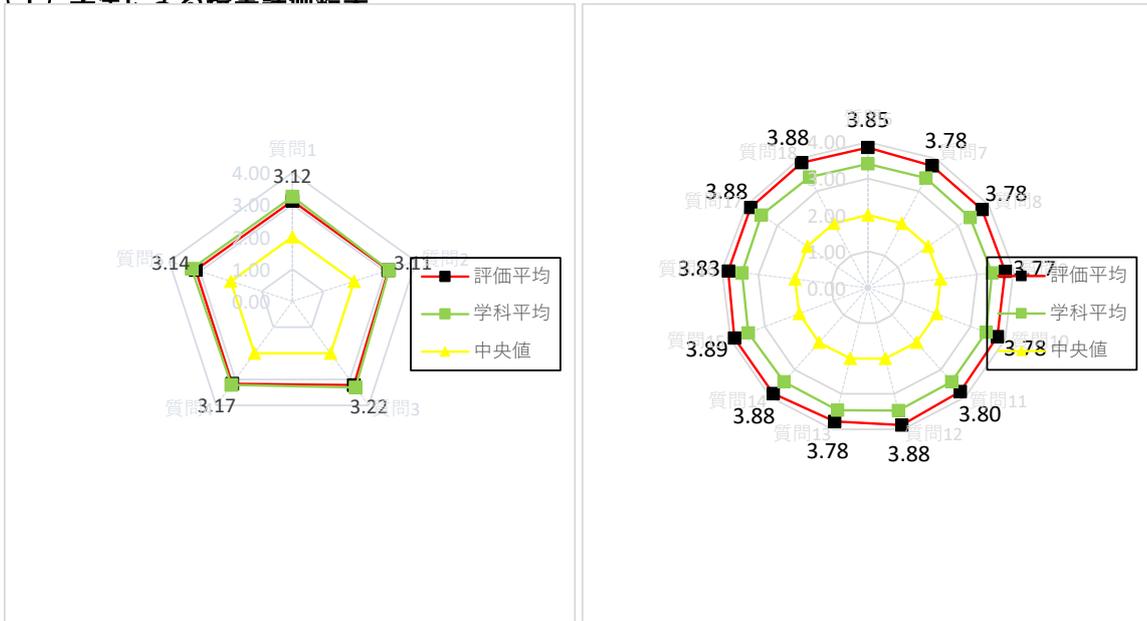


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（言葉）の理論と方法	66名

(1) 学生による授業評価結果

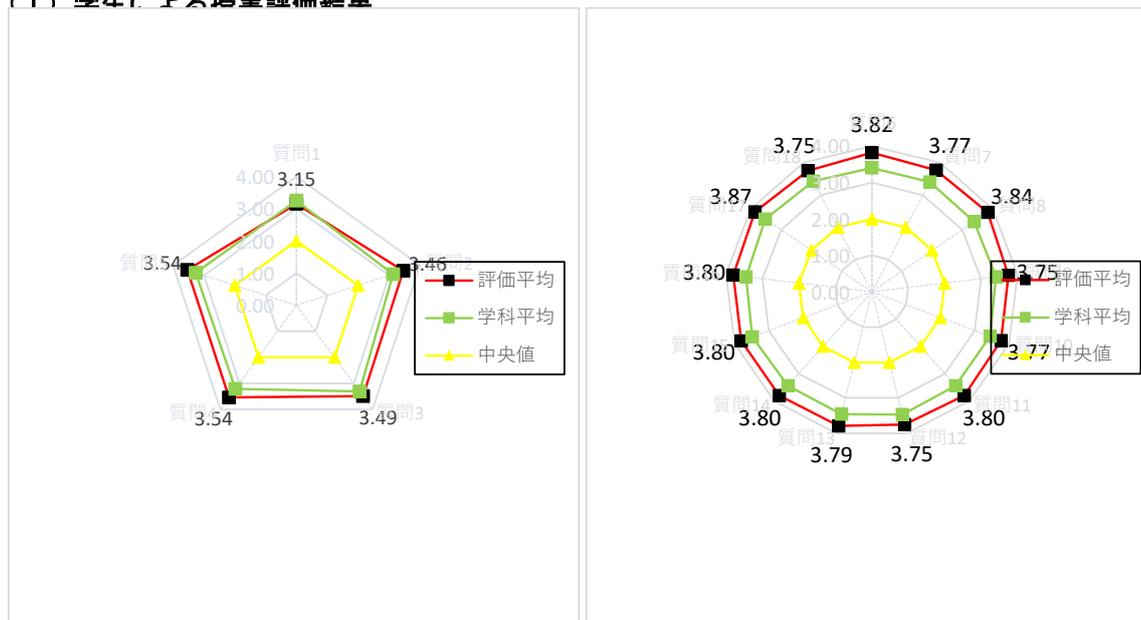


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（音楽表現）の理論と方法	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

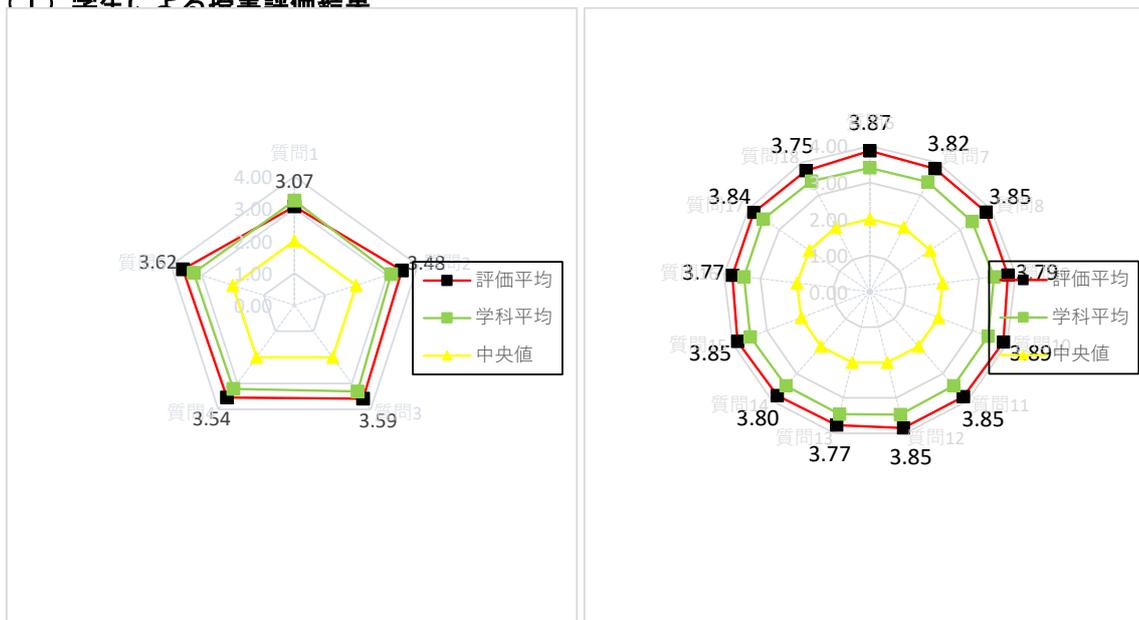
回答率は、履修者66名のうち61名（92%）であった。
 学生による自己評価としては、ほぼ平均値より上回っているが、質問1「出席回数」のみは下回っている。
 授業に対する評価としては全質問において平均値を上回っていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は単独教員の授業であり、進度などはクラスごとのペースに合わせてながら調節していった。
 自由記述における「楽しかった（3名）」などからも見られるように、授業方法については多数の学生の満足度が得られたと言えるが、一部、「Teamsでの動画提出方法にやりにくさを感じた」ことも挙がっていた。
 普段からやり慣れていないと難しかったかもしれないが、不具合がある場合は別の方法での提出を認める等
 次年度においても臨機応変に対応していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（造形表現）の理論と方法	65名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

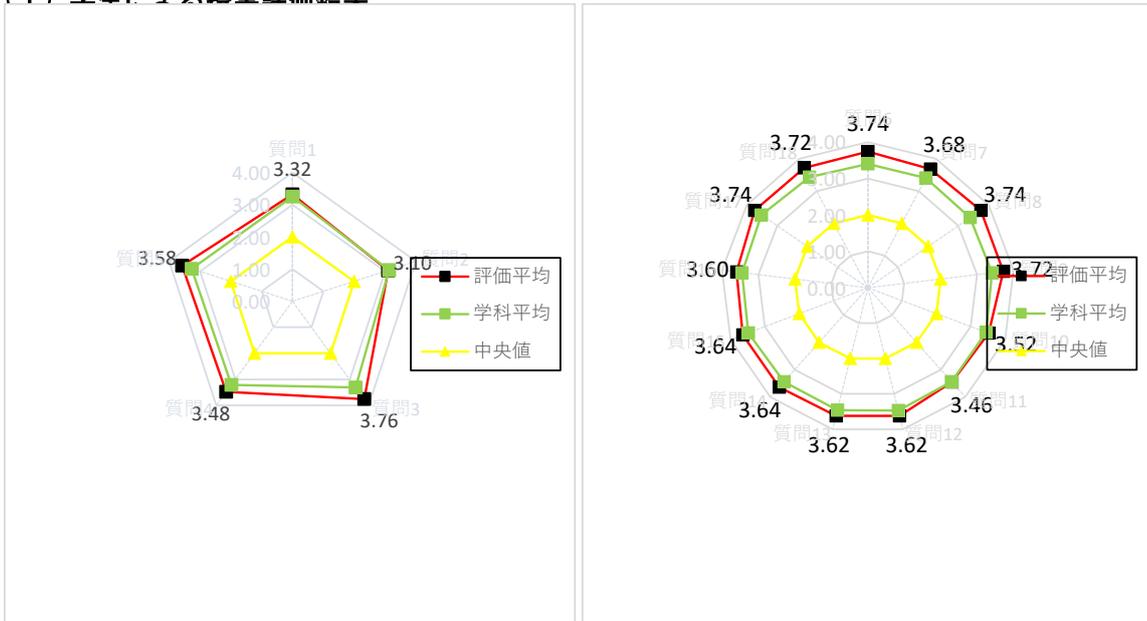
質問6～18までの、教師の指導内容や指導方法に対する評価に関しては高い評価結果となっている。質問1の「授業は何回欠席しましたか」という設問に関しては、心身の体調不良等の事由により欠席した学生が複数名いたことによる結果である。シラバスでは(1)幼児期における自由表現と課題表現のバランスを考慮した授業内容を工夫した。自由表現領域では臨床美術(クリニカルアート)やモダンテクニックの技法を取り入れた自由に描く・作る指導内容。課題表現領域では、特定のテーマや技法を体験させる活動(例:動くおもちゃを作ろう、ぶどうを作ろう等)双方ともに学生のスキルは高まったと思われる。(2)多様な素材の活用については、画用紙、和紙、絵の具、クレヨン、粘土に加え自然素材(葉、石、木の実)などの材料を選ぶ・組み合わせる・変形させることで創造性を育てる指導を行ったが、これは実習指導にも活かされたという声が多かった。(3)言葉との連携として、作品に五感を生かした言葉でコメントするエクササイズを問い入れ、思考力や表現力が高まったと感じてる。今後も指導では「評価」よりも「共感」を大切にしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度の振り返りをもとに、次年度は次のようなシラバス(案)で幼児期の造形活動の理論と方法を学ばせたい。①実習の設定保育(4～5歳児)をイメージアイデアを練る。(実習における設定保育(4～5歳児)をテーマにしたの指導案(略案)を作成する。ここでは教科書「実習の日誌と指導案完全サポート」を参考にしながら作成させる。ここでは設定保育の作品サンプルと指導案(略案)を完成させた上で、導入(歌・リトミック・絵本など)も発表させ自己評価、相互評価させる。②設定保育発表会をアクティブラーニング型授業で行う。ここではサンプルを紹介し、導入を実際に披露し、指導上の留意点(安全面や声かけ等)を発表する。③保育現場で使えるクリニカルアート(臨床美術)を体験させる。保育現場で使えるクリニカルアートの制作と五感を生かしたコメントの演習を行う。④身近な材料「紙コップ」を使った造形遊び。作成から遊ばせ方までを相互発表させる。⑤「動く虫」をつくる。ここでは制作後、子どもへの安全な遊ばせ方を学ぶ。⑥ホワイト絵具を使った紙版画遊びの指導・支援の方法。ここでは「版画遊び」の指導・支援の方法を身に付けさせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（リズム表現） の理論と方法	55名

(1) 学生による授業評価結果

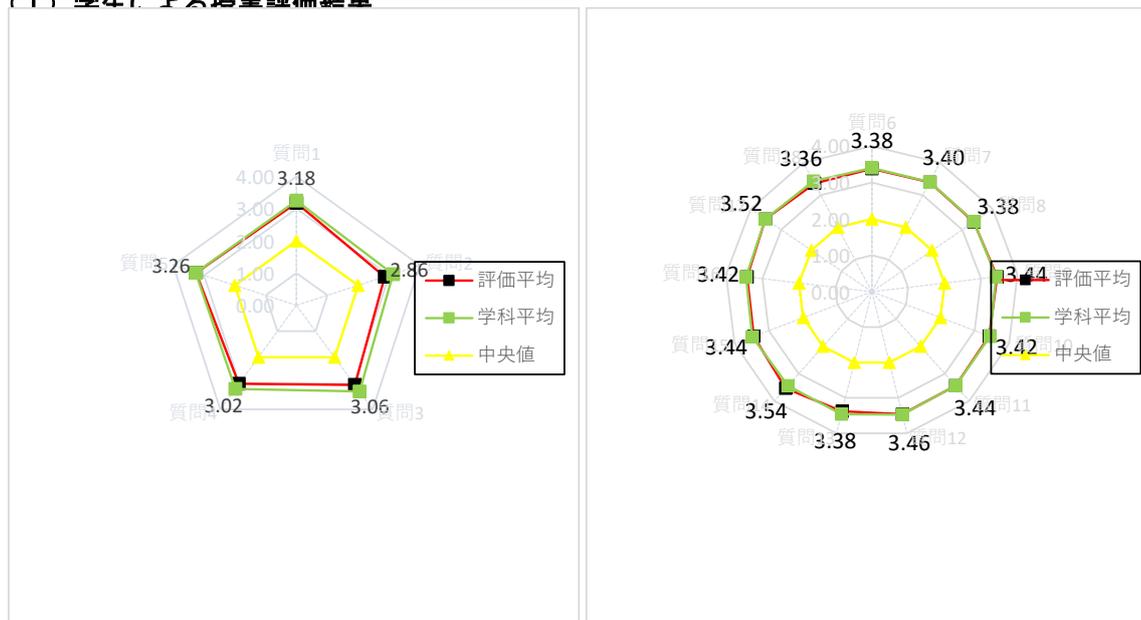


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と健康	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

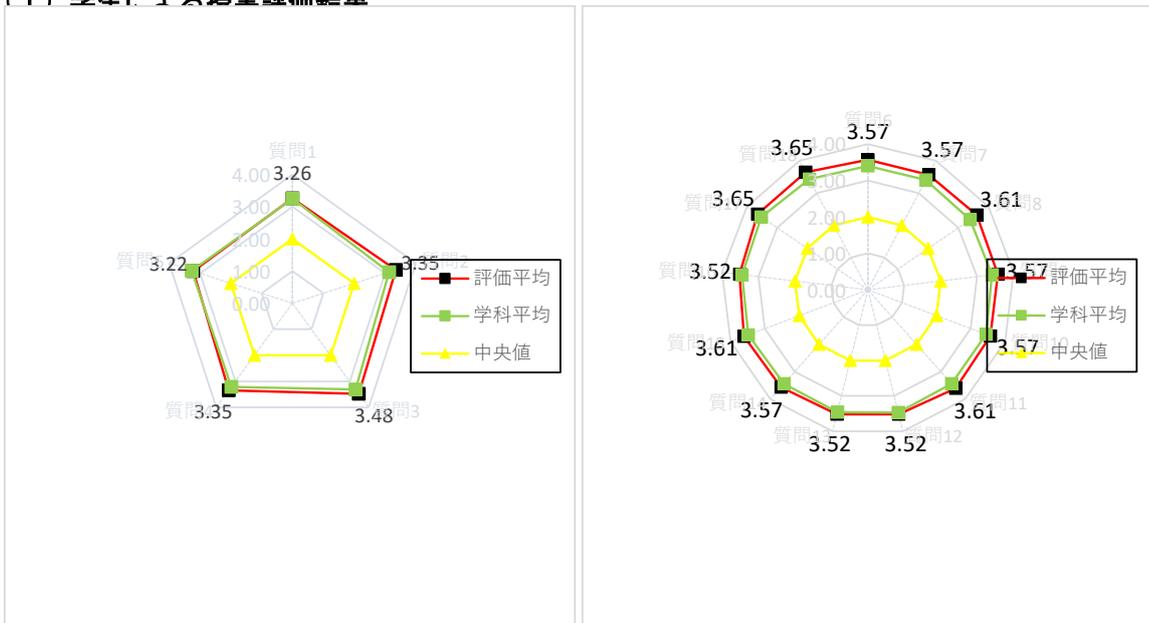
この科目は講義と演習で授業計画は構成されてるが、学生にとって授業計画の流れが分かりにくくなってしまったことが評価に表れていると考えられる。領域「健康」に関する基本的な知識を学びつつ、運動遊びを通じた領域「健康」への理解を目的としていたが、何を伝えたいのか曖昧な部分もあったのではないかと考えられ、もっと工夫が必要だったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は授業回数が15回から8回に減る。より目的を明確にした授業の流れが求められてくることから、学生がしっかりと理解できるよう、保育者や子どもの視点で考える機会も作りながら授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		公衆衛生学	30名

(1) 学生による授業評価結果

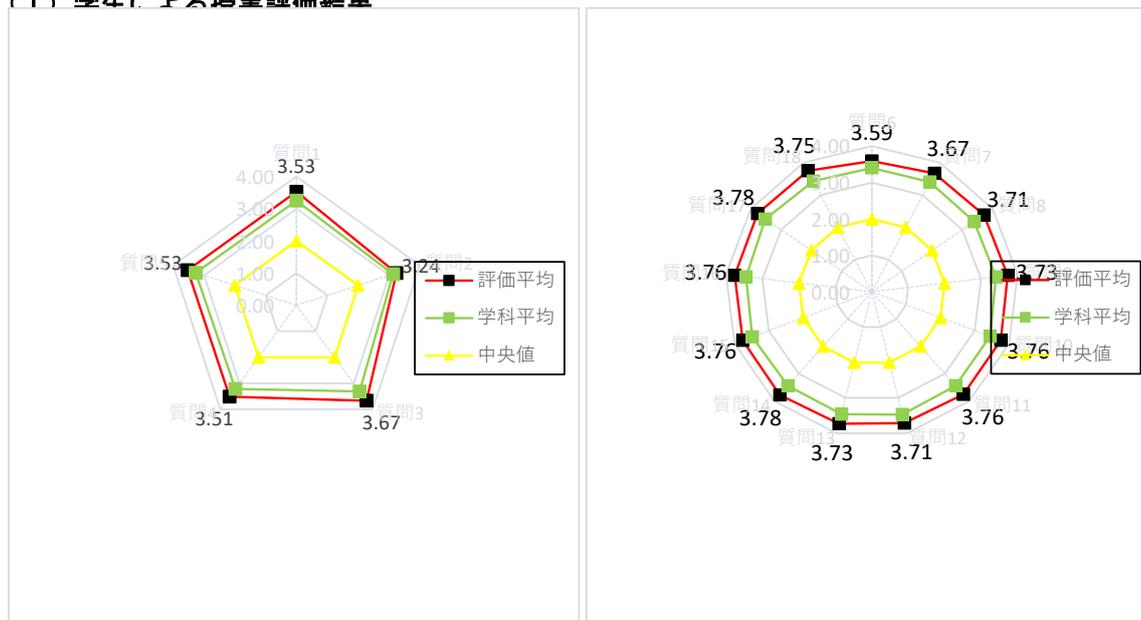


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と人間関係	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体として学科平均と同程度か、やや高い評価であった。学生からは肯定的な評価を得られていることが分かった。

自由記述の中では、特に毎回の授業冒頭で、前回の振り返りを行うことに対して肯定的なコメントが多かった。

また、事例について学生の意見を発表する場面を設定しているが、発表の前に学生同士で意見を共有する時間を持つことで、安心して発表できたとのコメントもあった。

本科目は8コマであるが、内容を考慮して最初の実習が終わってから授業のほとんどを実施することにして、そのため、実習での子どもや保育者の様子を振り返りながら学ぶことができ、それが学生にとっての学びやすさに繋がっているのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

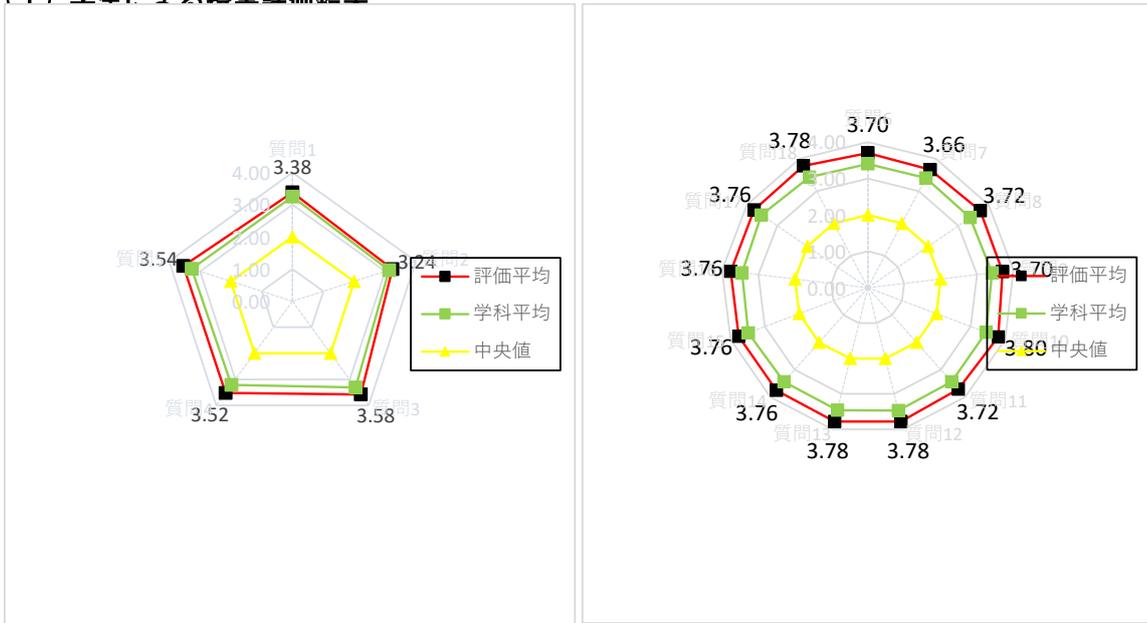
次年度も引き続き肯定的な評価を得られるよう、前回の振り返りを行いながら授業を実施していく。

また学生間のコミュニケーションの時間も適宜準備し、様々な考え方を共有しながら個々の学生が自分の意見を持てるようにしていく必要がある。

実習との繋がりを明確に意識できる授業の構造になるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と言葉	55名

(1) 学生による授業評価結果

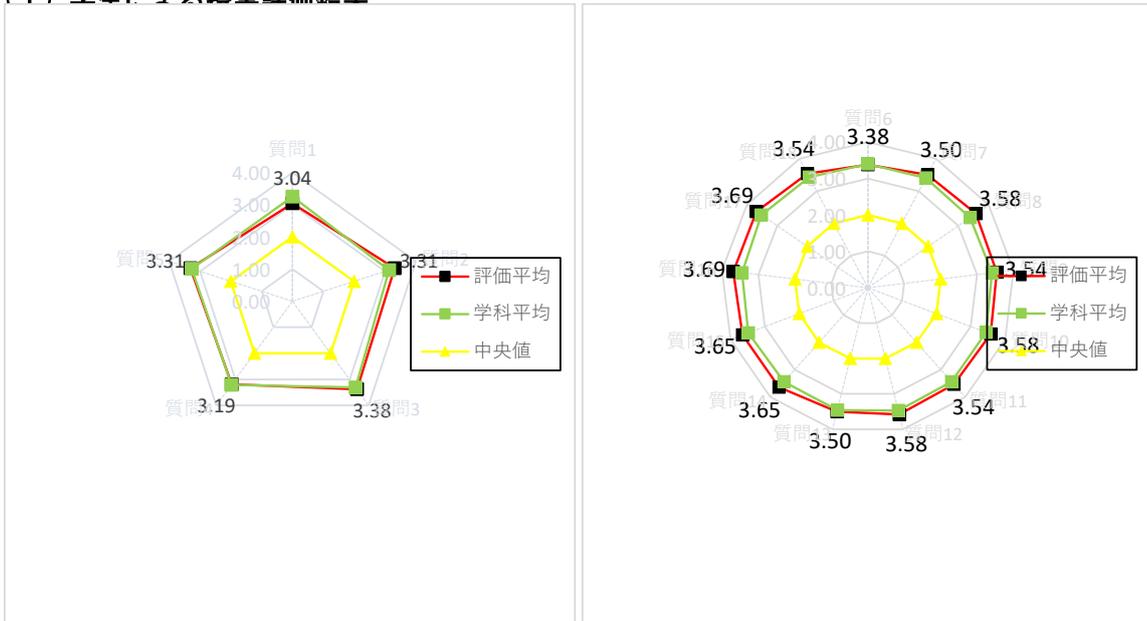


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		健康福祉概論	30名

(1) 学生による授業評価結果

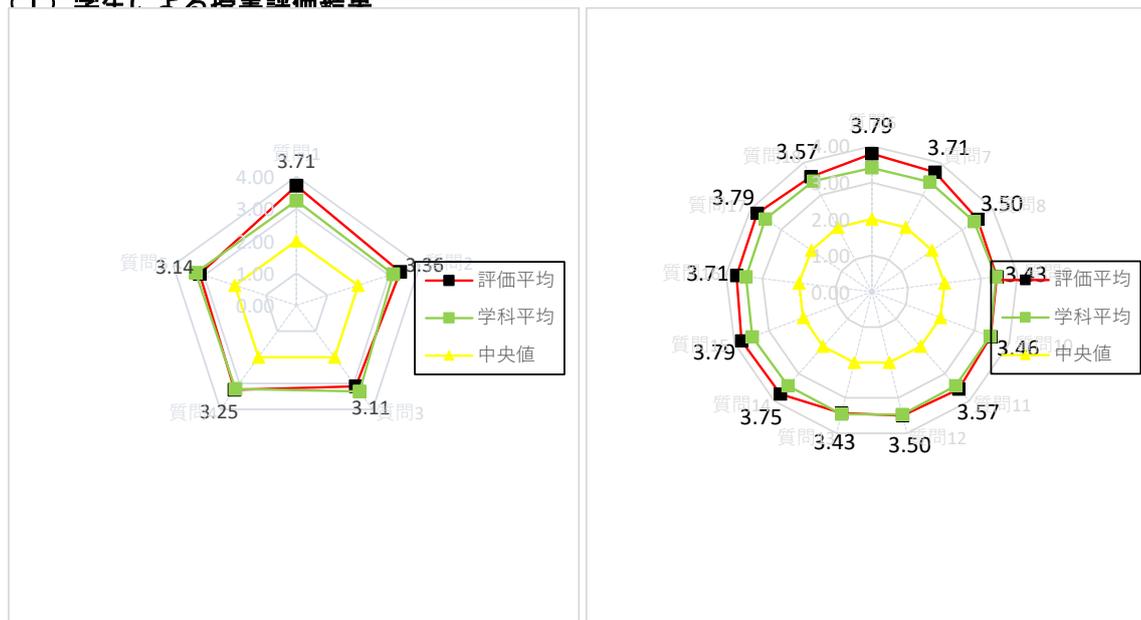


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		解剖生理学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

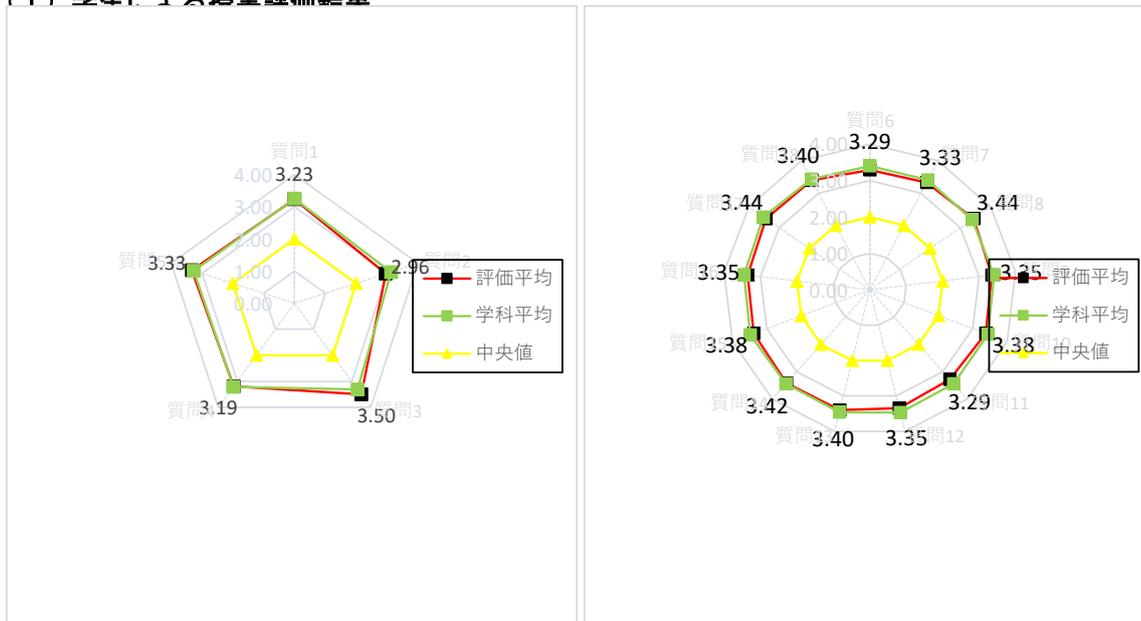
総じて平均的な自己評価と授業評価と判断している。強いていえば、質問13が若干低いほかは、平均よりわずかに高くなっている。また、自己評価で質問3と5が若干低くなっている。この学習内容は、知識ペースの内容であり、基本的に憶えることが非常に多い。授業では、テキスト内容の全てを説明せず、単元にそってポイントをしぼって解説をしている。学生は、憶えることを覚悟して望んでいることが感じ取れるが、集中力が途切れてしまっているようにも感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業展開では、インターバルをとり振り返りをさせているが、これをもっと細かく刻んで集中力を維持させたい。この際には、学生の声掛けを十分に行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と音楽表現	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

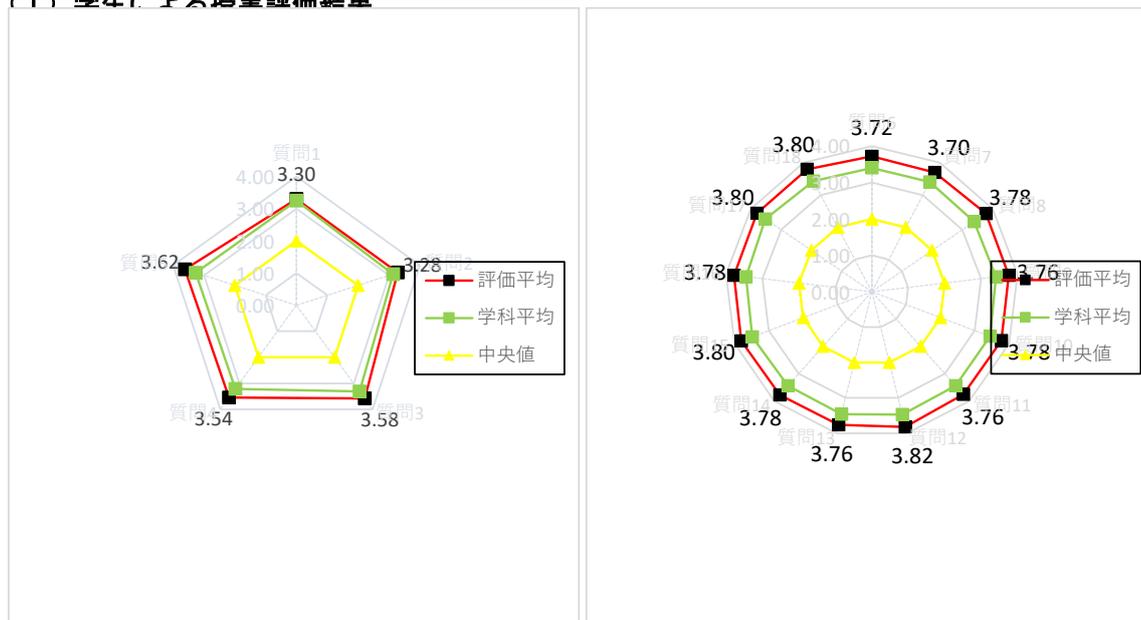
本授業は、従来前期開講の「音楽の基礎」「ピアノ」で学んだ音楽の技術を「保育」に繋げていく科目である。しかし、諸事情により今年度は「ピアノ」が後期からの開講となったことに伴い、本授業内容も若干の変更を余儀なくされた。学生はピアノの演奏技術が未だほとんど身に付いていない状態で、本授業を受けることとなり、困難さを感じていたのかもしれない。そのためか例年の評価と比較するとかなり低い評価となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の評価が著しく低下したことで、科目の年次配置がいかに学びに影響を及ぼすかについて知ることができた。次年度は通常通り「ピアノ」が前期開講となり、年次配置も例年通りとなるため、本授業内容を再度見直し、今の学生に合った内容となるよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と造形表現	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

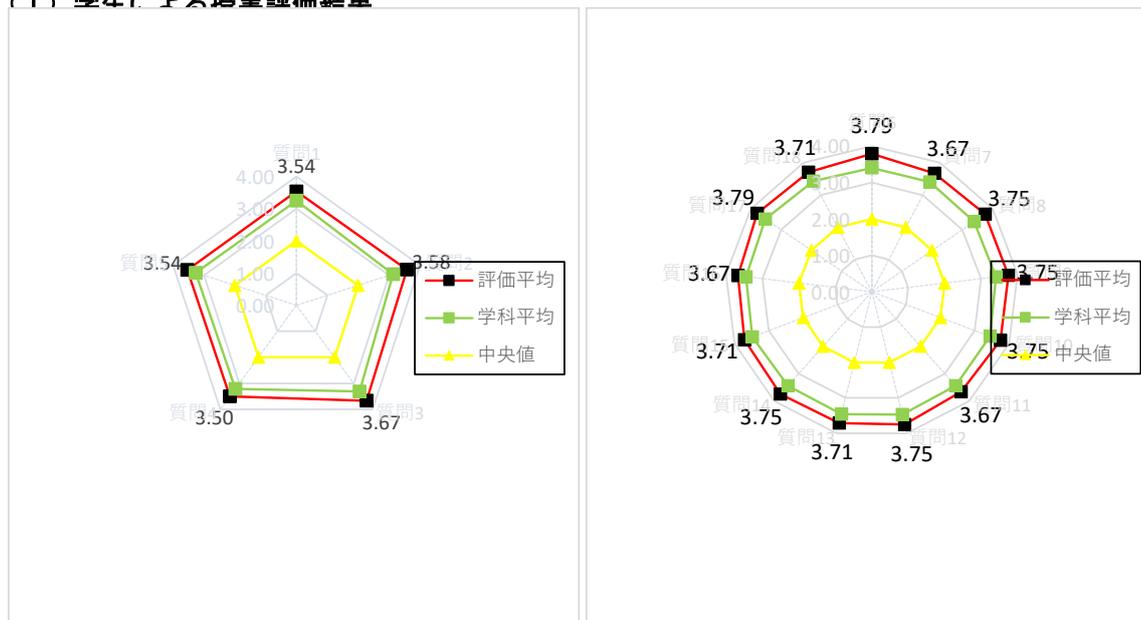
質問2については、予習・復習に活用するような呼びかけが不足していたことが要因と思われる。質問2以外については高い評価である。自己評価の観点に従い結果を分析する。①「子どもの主体性を尊重する指導力の養成」については、ヴィクトル＝ローウェンフェルドの理論や、日本臨床美術学会における実践資料等も踏まえ、技術面だけに着目せず子どもの思いに共感する「言葉かけ」の演習を多く取り入れた。このことで学生からは「実習における造形指導に自信がついた」というコメントも寄せられた。②「過度な干渉を避ける支援力の養成」についても、必要に応じた「ヒント」や「声かけ」の仕方を理解できた学生が多かった。③「素材を工夫する力の養成」については発達段階に合わせ、安全で扱いやすい素材の選択を心がけながら指導案を作成する力が伸びている。④「完成だけではなくプロセスを大切にする指導力の養成」については①～③の評価の観点と重なるが制作の過程における「言葉かけ」における語彙力が高まってきた。⑤「授業環境の整備」美術工芸室は子ども学部と共有のため、整理整頓を心がけ、安全に配慮した環境を保持できている。

(3) 次年度に向けての取り組み

令和6年度の反省を踏まえ、シラバスの活用について意識させるような指導を心がけていきたい。ただし、シラバス通りに授業を展開することは大原則ではあるが、まずは計画ありきという「手段の目的化」に陥ることなく、新入生の状況を踏まえながら臨機応変に対応していくことに留意したい。学生たちの授業評価は高評価ではあったため、そのことを踏まえたとし令和7年度は、造形表現を子どもたちの遊びに繋げるためのスキルを身につけさせたい。そのため、本年度のシラバスを踏まえながらも、次年度は、モダンテクニックの演習に加えて、モダンテクニックを生かした造形遊びとして「コラージュ体験」を取り入れることで、学生が保育実習の設定保育等においても生かせるような授業展開を図りたい。また、数年継続している「クリニカルアート（臨床美術）」的なアプローチを大切にした演習を通して、子どもたちの発達段階に応じて感性を刺激するような技法体験を設定するスキルや、子どもの自尊感情を高めるような「言葉かけのスキル」を高めていきたい。また合理的な配慮が必要な学生への支援についても、可能な限りきめ細かに支援していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		解剖生理学実験	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

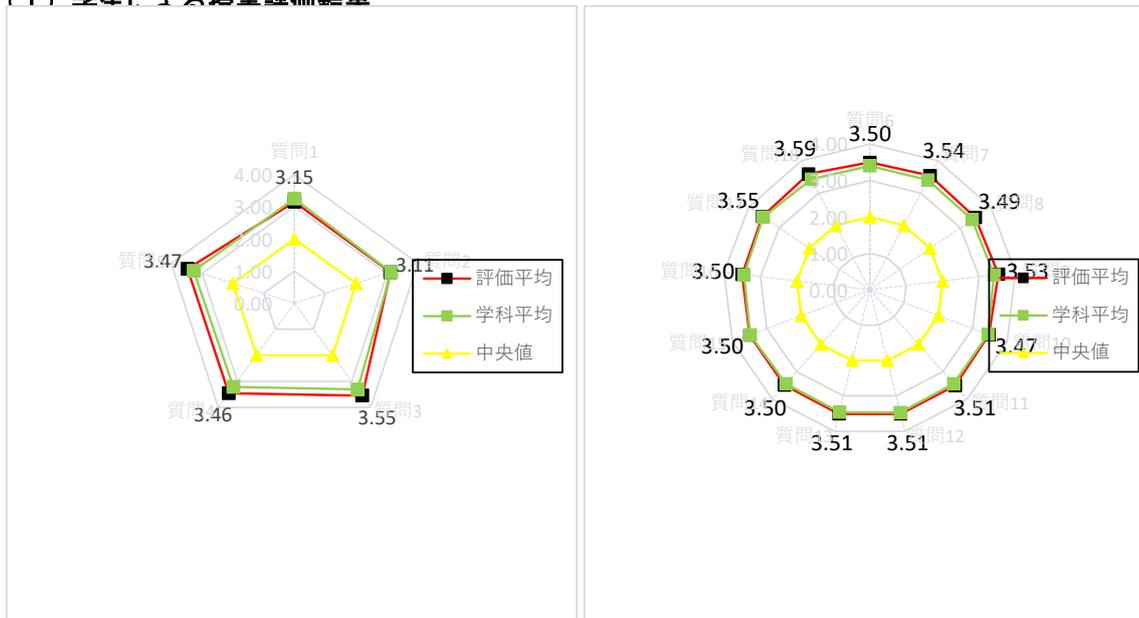
解剖生理学の知識を身近に感じるような実験内容を行った。
 学生の皆さんが積極的に授業に参加してくれた為、スムーズに進行することができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の興味が湧くような実験を行い、解剖生理学の知識につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅰ	86名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

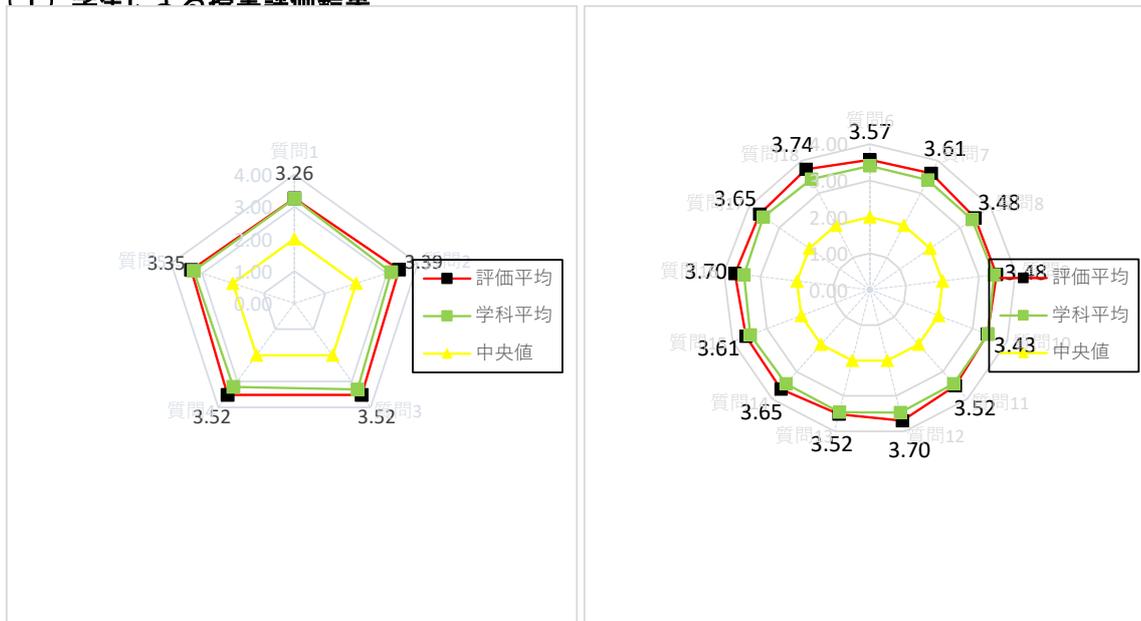
この評価結果は、前期の2年生開講「ピアノ伴奏法Ⅰ」再履修者および、後期の2年生開講「ピアノ伴奏法Ⅰ」再々履修者、そして後期の1年生開講「ピアノ伴奏法Ⅰ」（全員初履修）という3パターンの学生が混在しているため、分析が難しい。一つ一つを見ていくと、それぞれの特徴が見られたが、ここでは割愛する。学生自身の自己評価については、ほとんどが平均値を示しているが、質問1「出席状況」や質問2「シラバスの活用」については数値が若干低い。授業の評価については、ほとんどが平均値よりも僅かに下回っているが、この科目は複数教員で個人指導を行う実技科目であるため、その特性が表れた結果とも言える。

(3) 次年度に向けての取り組み

複数教員による科目であるため、評価基準や指導方法に、学生によって差が生じないように今後も情報共有していく必要がある。時には学生より、教員に関する不満や要望を受けたりもするが、今後も学生や教員間を取り持つ役目を担い、専任教員が介在する形を継続していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

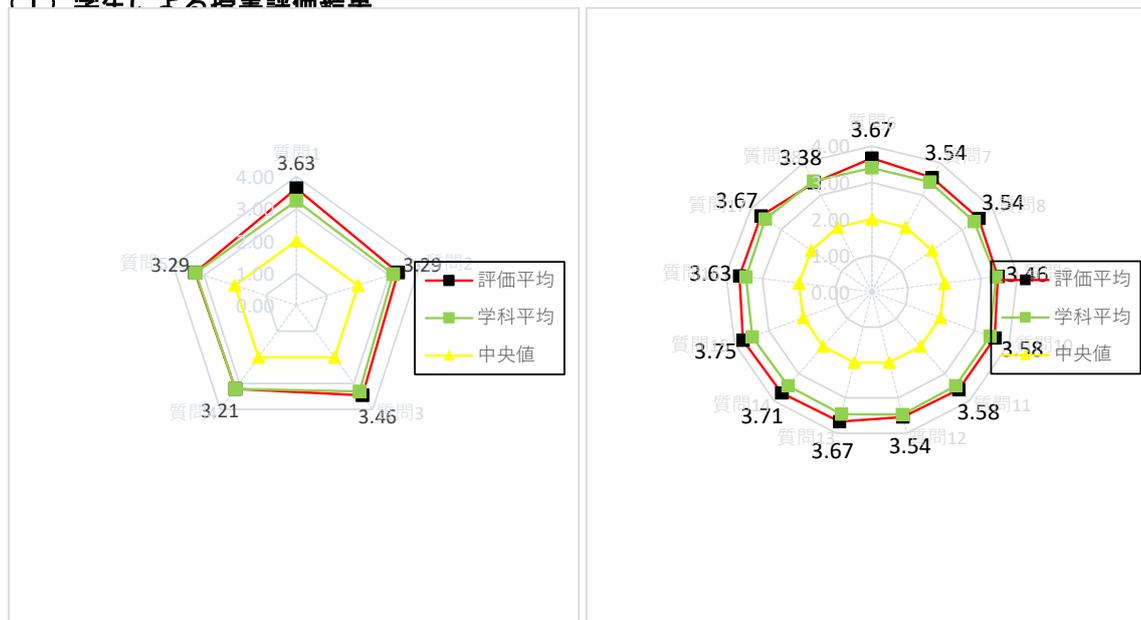
総じて平均的な自己評価と授業評価と判断している。強いていえば、質問10が若干低いが、自己評価を含めて平均よりもわずかに高いものとなっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

総合評価は平均よりもわずかに高いことから、学習方法は変えずに、より印象深い学習になるように日常のトピックを入れるなどして授業を充実させたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学実験	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

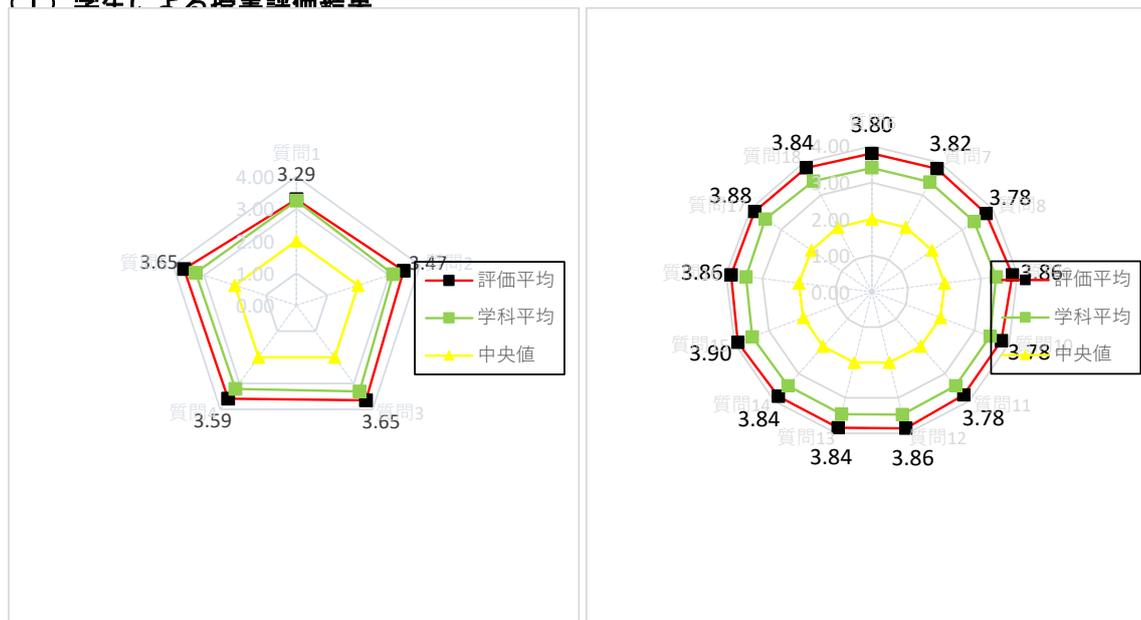
総じて平均的な自己評価と授業評価と判断している。強いていえば、総合評価が低い傾向が低かった。これは自己評価の質問4に関連するかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業では、数値データの取扱い、実験の基本操作から各種の実験を行っている。実験レポートでは、数値の取扱いをポイントの一つにしている。恐らくは、学生の実験と数値取扱いに慣れないことが総合評価に影響していることを想像する。実験自体は難しい内容を取り扱ってはいないので、説明を工夫することを検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅱ	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

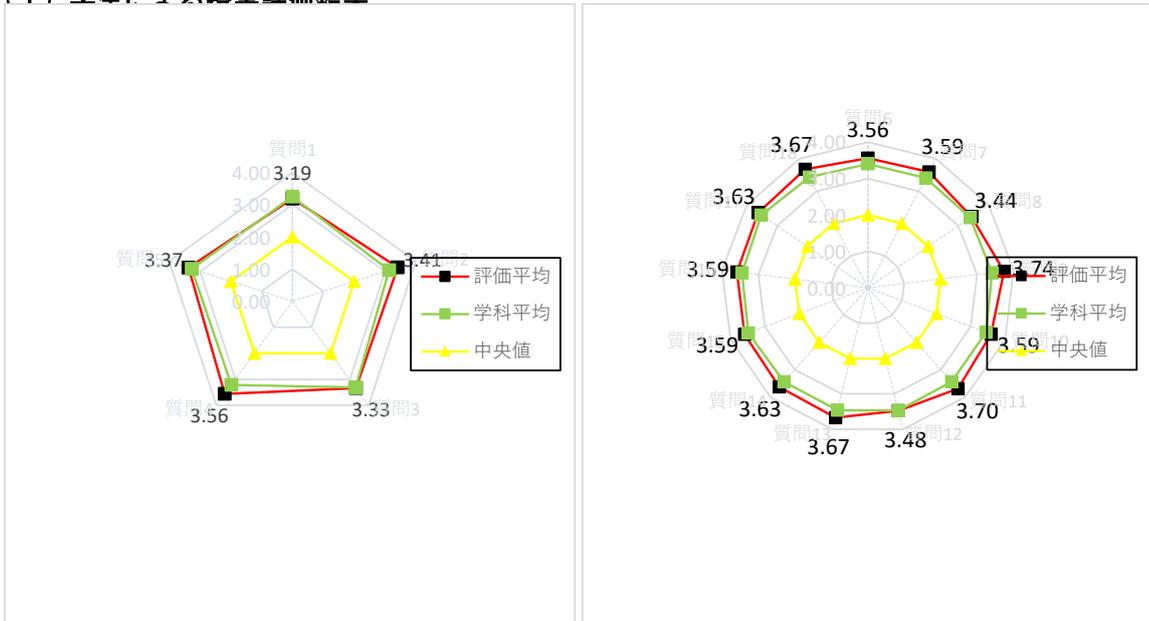
この科目は「ピアノ伴奏法Ⅰ」の単位を取得した者のみが履修する。
 回答率は57/57名（100%）であった。
 いずれの項目においても、平均値を上回る数値が見られた。
 学生自身のモチベーションも高く、教員とのコミュニケーションにも慣れてきたことが
 起因しているのではないかとと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は複数教員による個人指導で進めているため、
 今後も学生指導や評価方法に差が生じないように情報共有を続けていく必要がある。
 専任教員としては、時に個人的に教員に関する相談を受けることもあるが、
 学生との間を取り持ち、それぞれの思いを正確に伝えていくように努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		病態生理学	30名

(1) 学生による授業評価結果

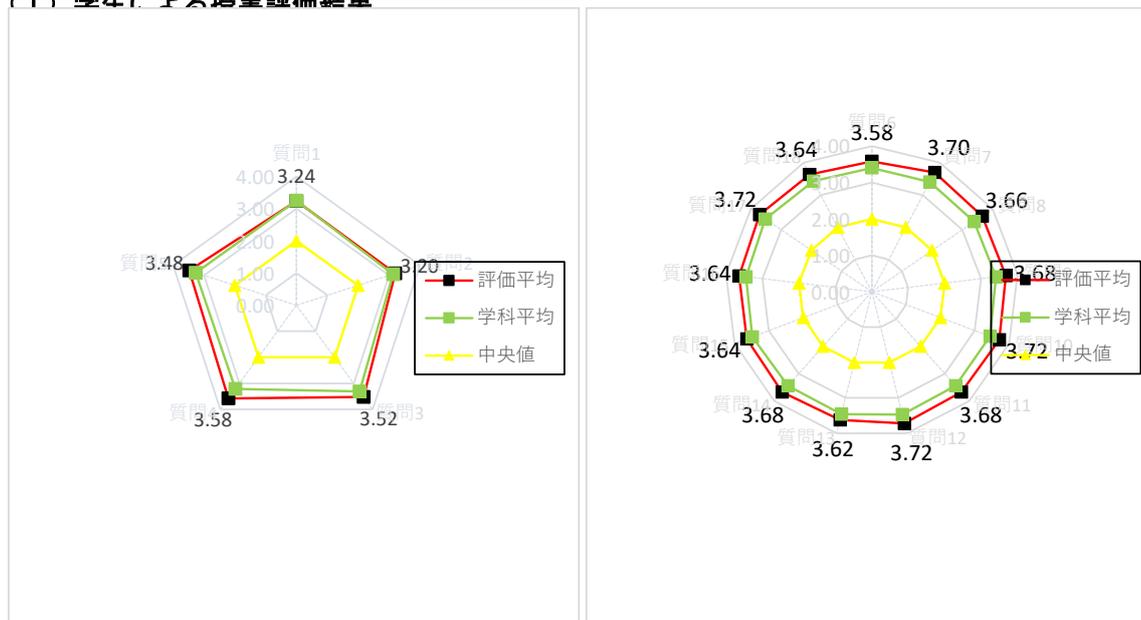


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		音楽の基礎	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

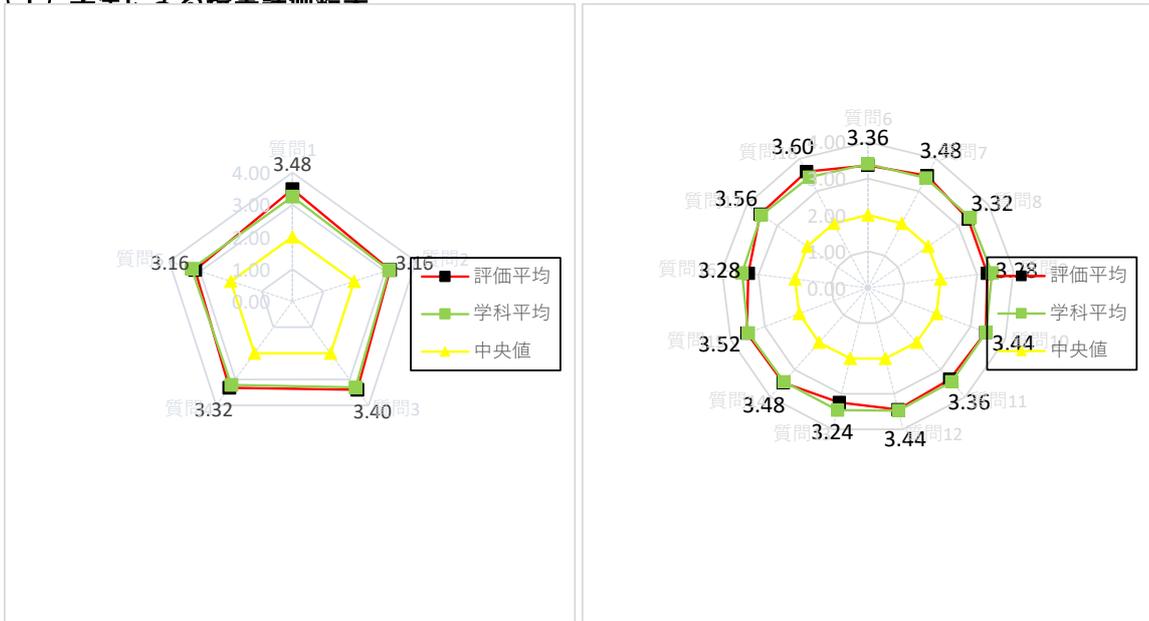
本授業は、ピアノ等の音楽経験や音楽の予備知識を問うアンケートに基づいて習熟度別に「未経験者クラス」「経験者クラス」のクラス編成で行っている。今年度は、諸事情により、通常であれば同時期（1年前期）から開講されるピアノ授業が後期からの開講となったことに伴い、本授業の内容を大幅に変更し、授業の後半3分の1程度について「ピアノ」の内容を入れる形をとり、授業は2名で担当した。授業で扱う内容が増加したことに伴い、やや丁寧さを欠いた授業になっていたのかもしれない。例年は高評価を得ていたが、全体的に評価が低下したのはそのためであると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はピアノ授業が前期からの開講となるため、本授業も通常に戻し、特に初心者の学生が確実に音楽理論を身に付けられるよう、リトミックの手法も使い、楽しみながら学べるよう授業を組み立てたいと考えている。また、今年度授業内容の変更に伴い、授業内容から除外したPCを使用した授業「楽譜作成ソフトの活用」については、次年度復活させ、学生がPC上で楽譜を書くスキルを身に付けられるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		運動生理学	30名

(1) 学生による授業評価結果

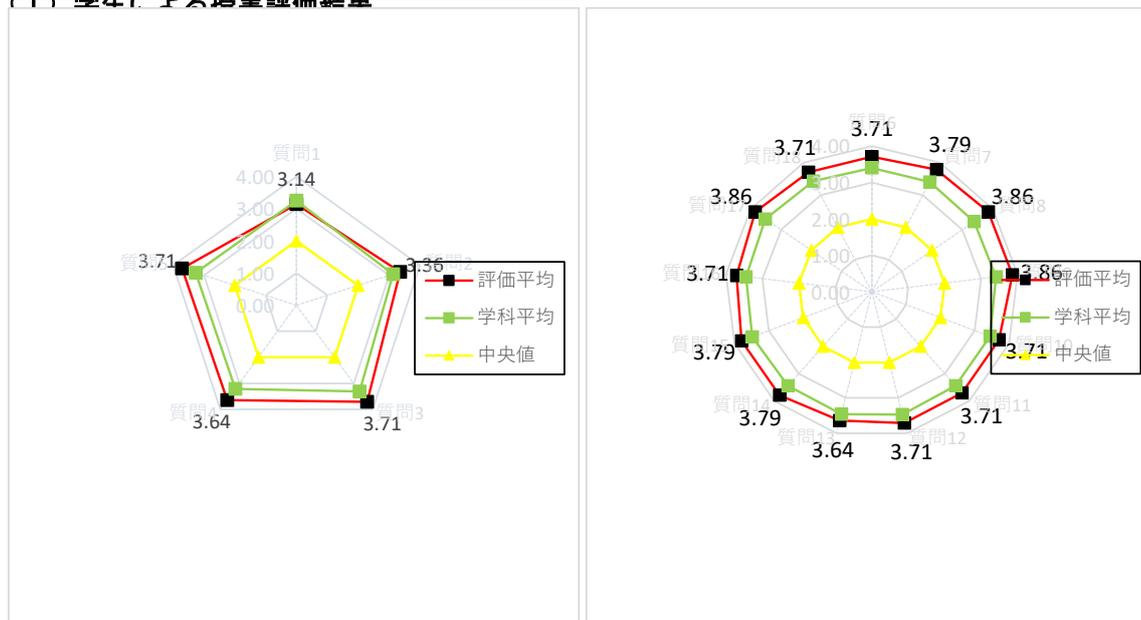


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		リトミック	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

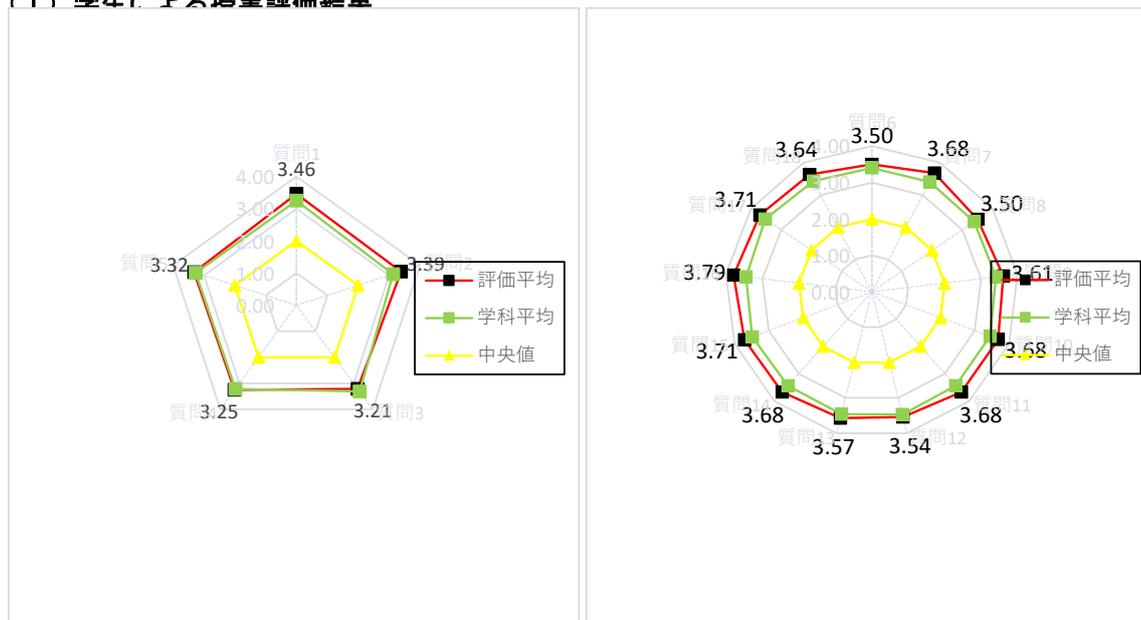
「リトミック」は多くの園で保育の一環として採用されている音楽活動であり、本学では「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の資格取得ができる科目として開講されている。内容は幼児保育の音楽的学びの中でも、特に保育現場での実践に特化した内容であり、実習などでもすぐに実践に繋がられるため、学生の評価は概ね高いものであった。授業内のグループ活動の中では、常に学生自身の発想や工夫が求められることから、学生も毎回達成感が持てるのではないかと思う。毎回の授業での演習後にノート記入の時間を確保し、活動を振り返りつつ、活動内容の一つ一つを学生自身の言葉で文字に置き換える作業を大切にしたい点も、学生の満足につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は21名が履修し、その内15名が「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」を取得した。入学時においては「リトミック」という言葉さえ聞いたことがないという学生も一定数いるため、1年次の音楽科目の中で、リトミックについて触れるなどし、そのスキルの習得に学生が興味関心を持ち、資格取得に積極的になるよう取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学 I	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

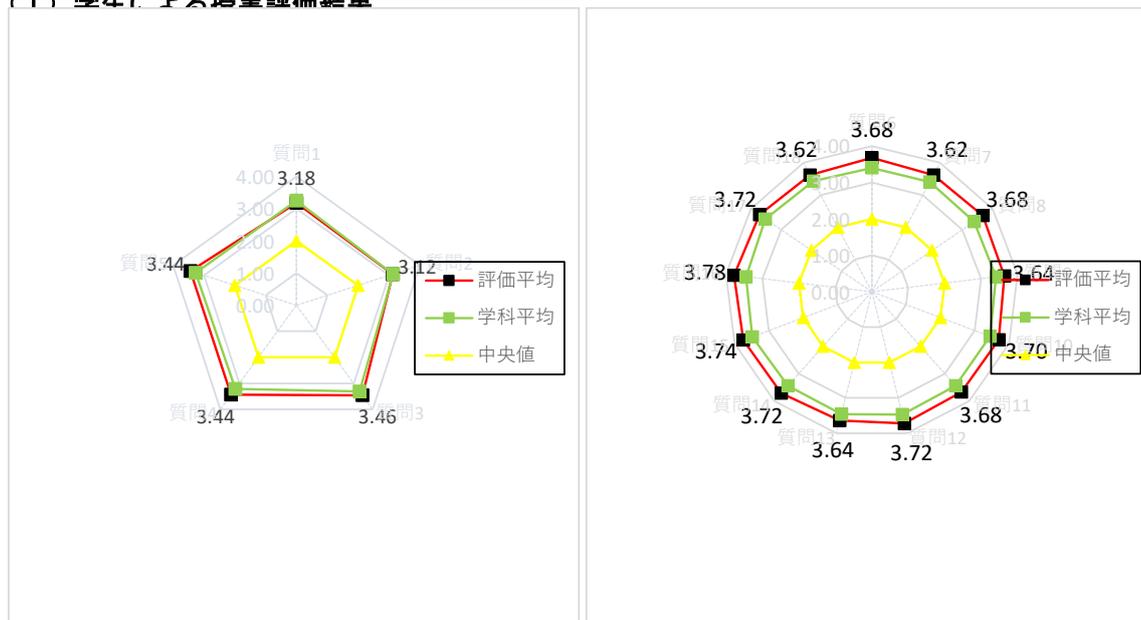
学生による自己評価は、ほぼ学科平均と同等で、質問5（総合評価）は3.32となった。昨年の学生の自己評価は3.75と非常に高かったのに比べると低い結果となっている。質問6以降の授業評価についてはほぼ学科平均と同等の値であるが、質問7、9～11、14～18は学科平均よりも高値を示した。このことから授業で用いるスライドや配布資料について、授業中の教員の対応については学生はある程度満足しているようであった。しかし、昨年の学生に比べると自己評価、教員評価とも低かったことからいかに学生のやる気を引き出し理解度を高めていくかが今後の課題と考える。自由アンケートは、「食品について様々な知識を学ぶことができました。」とのコメントであった。コメントの内容、数からも昨年の学生との差を感じる結果となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容は同じでも学ぶ学生は毎年変わる。それを踏まえて次年度も今年度同様、学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。食健康コースにも今年度から留学生が多く入学し、日本人学生と留学生の双方のコミュニケーションや理解を深める授業となるよう、食関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育 I	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1から5に関しては学科平均と比べ若干評価が低いものの、大きく平均を下回るような項目は無く、学生はこの科目を受講するにあたり興味・関心をもって取り組むことができていたと言える。

質問6から18に関しては全項目で学科平均を上回っているため、授業への満足度が高かったと言える。

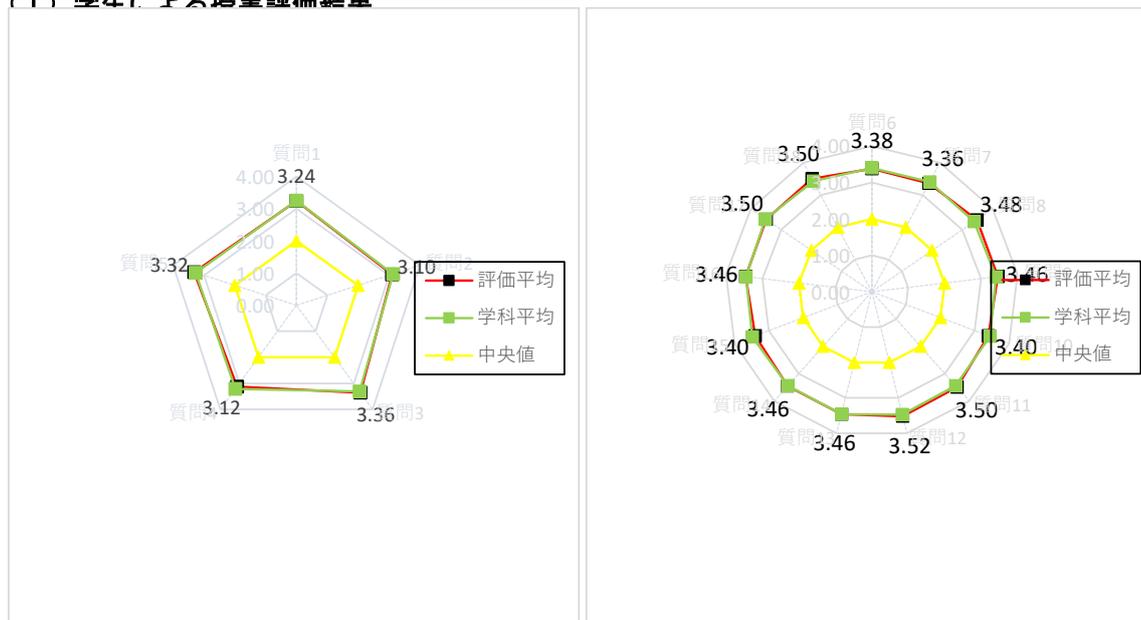
特に評価が高かった項目は「双方向的なやり取り」に関する項目である。授業の課題として毎回感想や授業を受けての疑問・質問を提出してもらっており、翌授業回の最初に回答をする形式を取っている。そのため、学生は自身が提出した課題が次の授業に活かされ、授業内容の理解が深まると感じたのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の結果を踏まえ、次年度も学生の質問や疑問を拾い、授業に繋げることができるよう、本年度同様の課題を課したい。また、自由記述に「楽しかった」という感想が書かれていたが、今後も学生の興味を喚起できるよう、子どもに関するエピソードや視聴覚教材を適宜使用し、授業の充実を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育Ⅱ	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は例年、他の科目に比べて学生の評価が高かったのだが、本年度は全ての項目で学科平均に届かなかった。同じような形態で同じ内容を伝えており、特に昨年度と変更した点は無いように思うが、学生の意見としてまずは真摯に受け止めたい。

特に学科平均との差が大きかった項目は「授業の到達目標を明確にして、授業を展開しましたか（問7）」であった。演習を中心とした授業であるため、本時の取り組み内容に関しては説明をしていたが、学生には「到達目標」に結びつけるのが難しかったのかもしれない。具体的な項目を到達目標として提示すれば良かったのだろうか。

また、「公平に学生に対応しましたか（質問15）」も学科平均との差が大きな項目である。公平に接していたつもりではあるが、学生の理解度や意欲に応じて対応をしていたため、学生にとっては公平性を感じることが難しかった可能性がある。

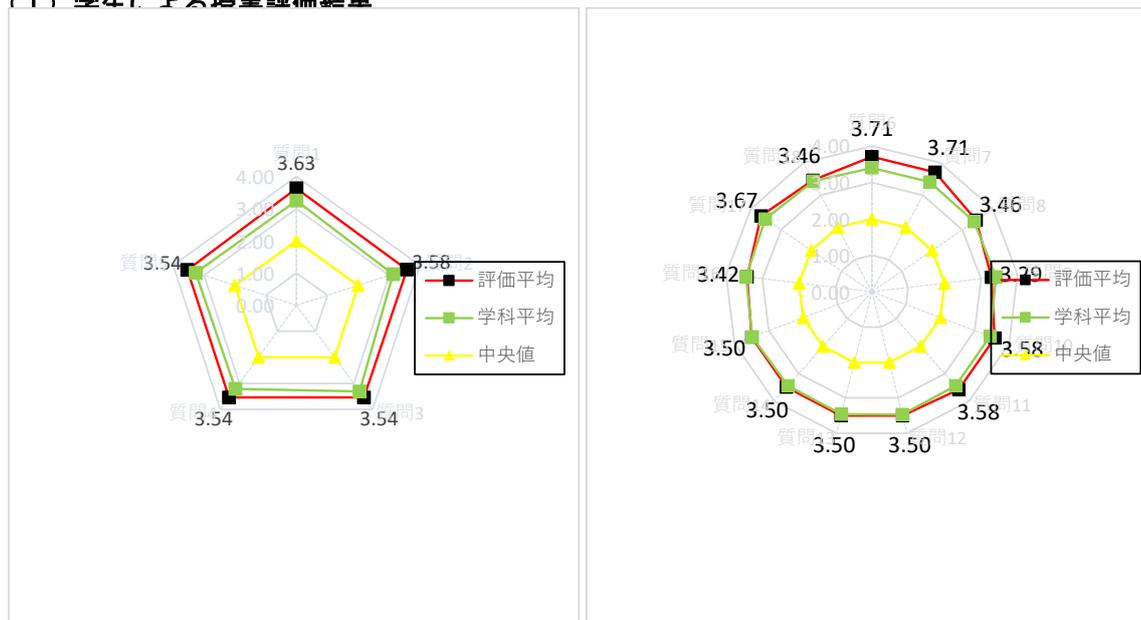
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、初回の授業でしっかりと授業の到達目標を確認することはもちろん、毎回の授業で到達目標を具体的に示し、学生が目的意識を持って演習に取り組めるようにしたい。

また、一人一人の状況に応じて指導をしつつも、学生が不公平感を事がないよう意識しながら授業を展開したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学実験	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の自己評価は、学科平均とほぼ同等であった。授業全般の評価についても全体的に学科平均とほぼ同等の結果となった。

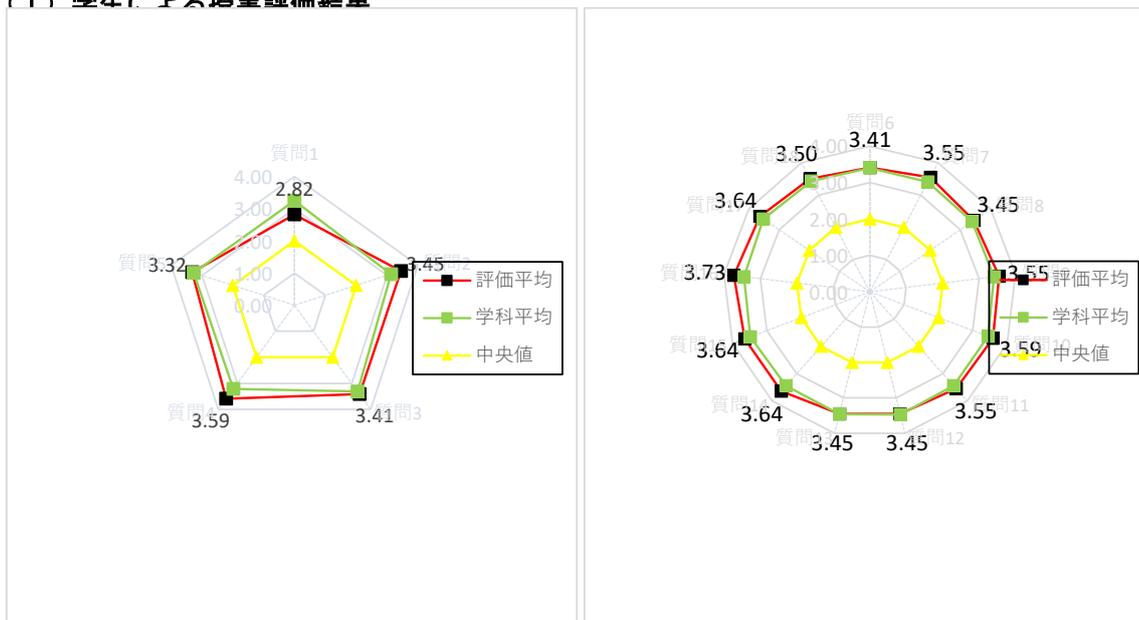
過去の総合評価の結果を比べると、一昨年は総合自己評価3.2、授業の総合評価3.1、昨年は総合自己評価3.5、授業の総合評価3.42、今年は総合自己評価3.54、授業の総合評価3.46となった。過去の評価よりは上がっていた。一昨年度より時間割の都合で1回に3コマ（2回分の授業）の授業に変更し実質の授業項目は減となっているが、今年は3年目で少し慣れ、教えることにも少し余裕がでて学生指導も昨年より手を入れることができたように思う。しかし学科平均値より低い評価であり今後一層の授業改善を検討したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も一層、時間を有効に活用した実習内容に改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学Ⅱ（食品加工学を含む）	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

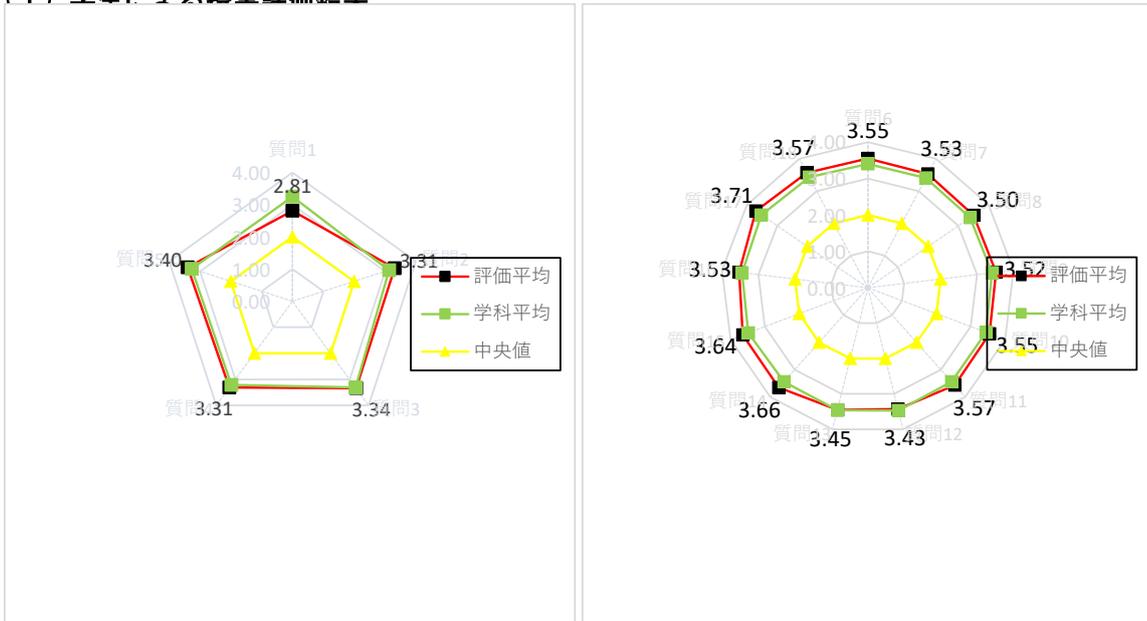
学生による自己評価は、全体的に学科平均とほぼ同等の結果を示した。実際の授業において今年の学生は前期と比べ意欲が低下した学生が見られたのでそれがこの結果に表れたのではないかと考える。学生の授業に対する全般に対する評価は、ほぼ学科平均と同等の高値を示しており、学科平均と概ね同等の結果であった。総合評価について昨年と比べると、一昨年は自己評価3.17、授業評価3.07、昨年は自己評価3.63、授業評価3.71、今年は自己評価3.32、授業評価3.50となった。学生の意識が高くよく勉強していた昨年の学生と比べ、今年の評価は低かったが、一昨年よりは今年の評価が高値を示した。自由アンケートでは、「食べ物とそれに関わる化学について多くを学びました。魚の種類、その生息環境、餌、植物の用途についても学びました。留学生を置き去りにせず、連れてきてくださり、本当にありがとうございました。一緒に学びましょう。」「朝一限から頑張ってきているから先生も遅れず来てほしい。」など授業内容や留学生対応への肯定的な学生の声とともに時間通り授業をスタートできなかった回に対する学生の厳しい声もあり、双方の声を次年度の改

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。また、学生の声を大切にしながら、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの健康と安全	66名

(1) 学生による授業評価結果

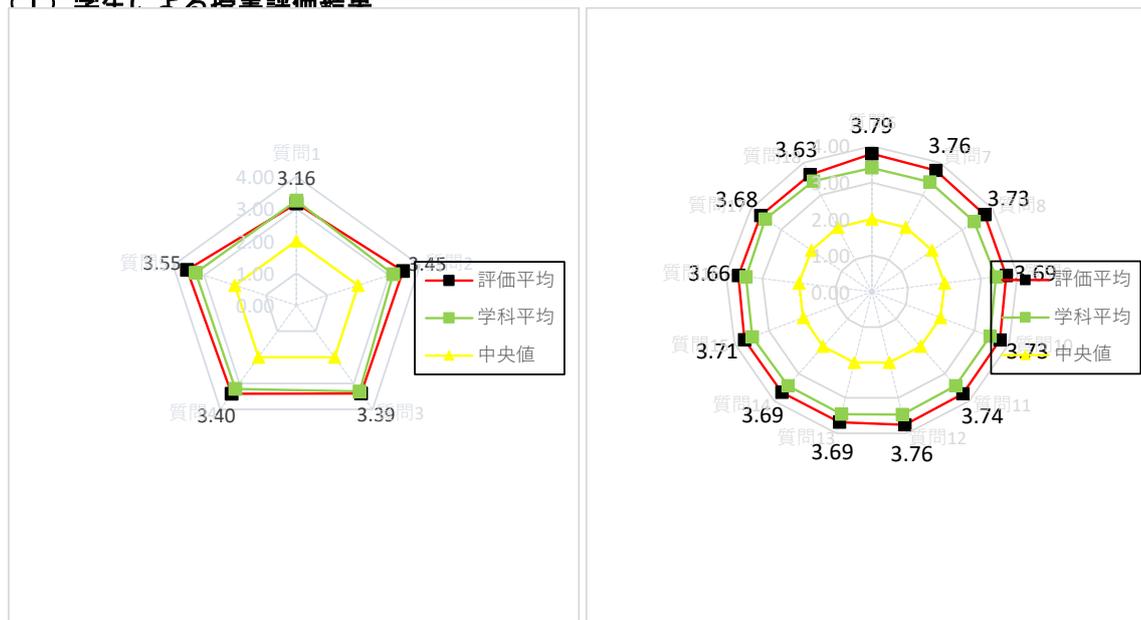


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		特別な教育的ニーズの理解とその支援（障害児保育）	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

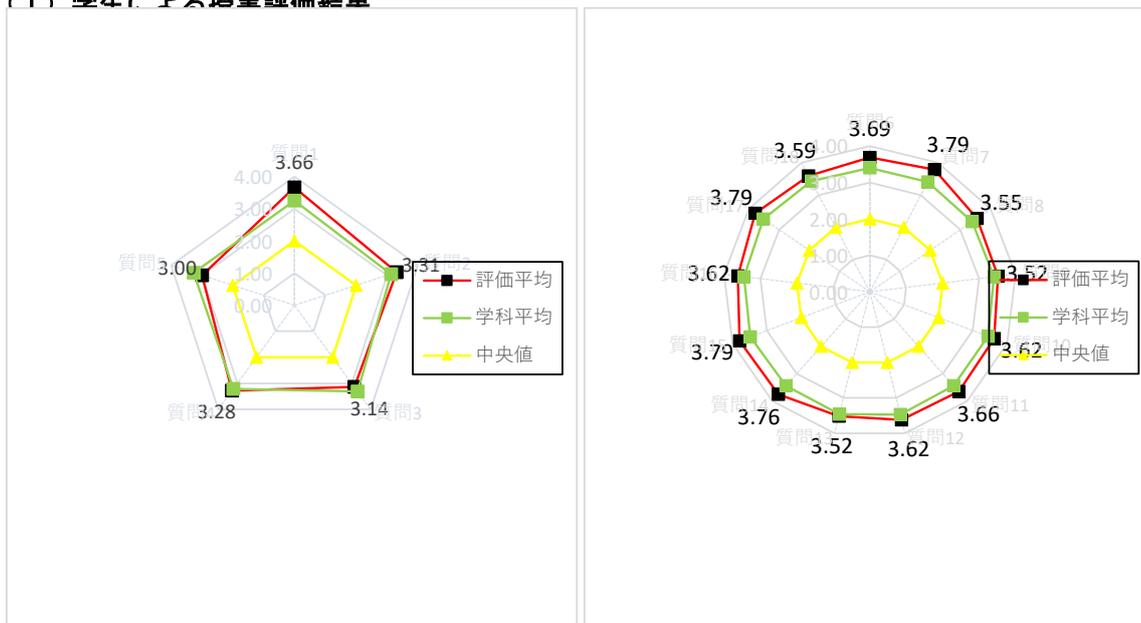
多くの評価項目について0.1スコア程度高くなっている。概ね学科平均となっている。自由記述の中には、お礼の言葉等も散見される中、「自分（教員）の自慢話」とであるといった意見が1件あった。授業の中では、実際に教員が関わってきた子どもの事例等を紹介しているが、それらを紹介する際の言葉の使い方が気に障ったことが予想される。この点について今後授業を進めていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

以前、障害児の姿勢等を説明の為に模倣すると「差別」と言われたり、今回のように「自慢話」と言われたり、授業評価としてよりも誹謗中傷に近い意見が散見される時代となってきている。このことから、授業内容の改善は当然検討するが、評価の仕組みについても検討する必要があるように思われた。このことを十分に踏まえて今後は慎重に授業を進行していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		基礎栄養学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

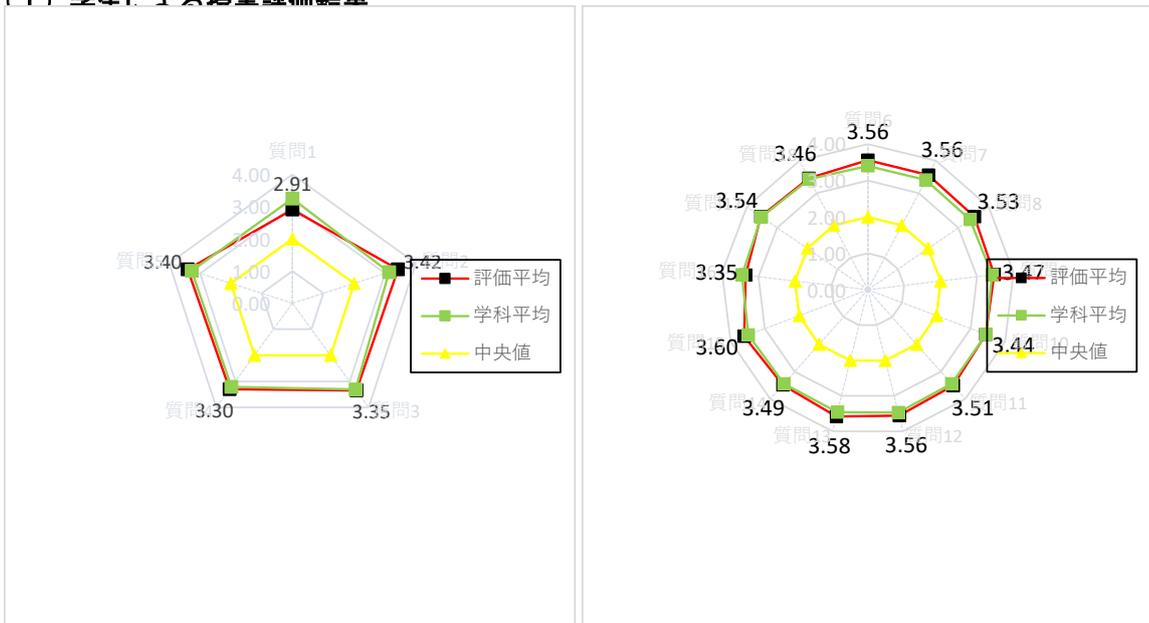
総じて平均的な自己評価と授業評価と判断している。強いていえば、授業に不満なく平均よりも若干高いが、自己評価の質問3と5が低い。授業に不満はないが、自己評価で自信がなくなっていることが考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習は基本、知識ベースの内容であり、憶えることが多い。自信を持たせるために振り返りや自信を持たせる声掛けの程度を増やして意欲向上を図ってみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会的養護Ⅱ	67名

(1) 学生による授業評価結果

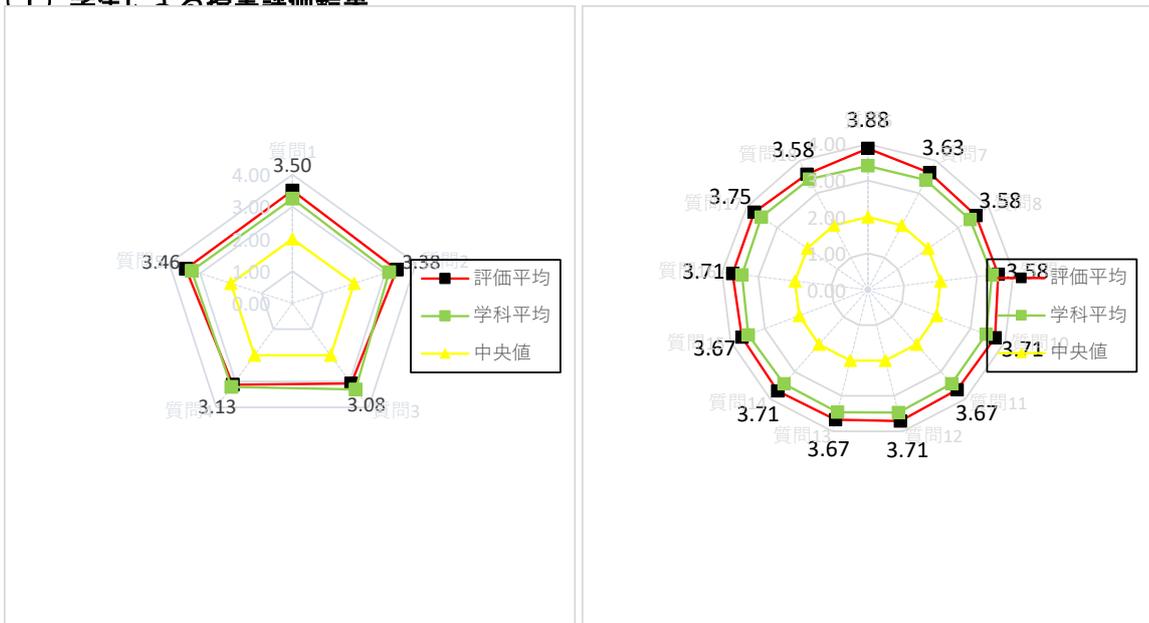


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		病態栄養学	24名

(1) 学生による授業評価結果

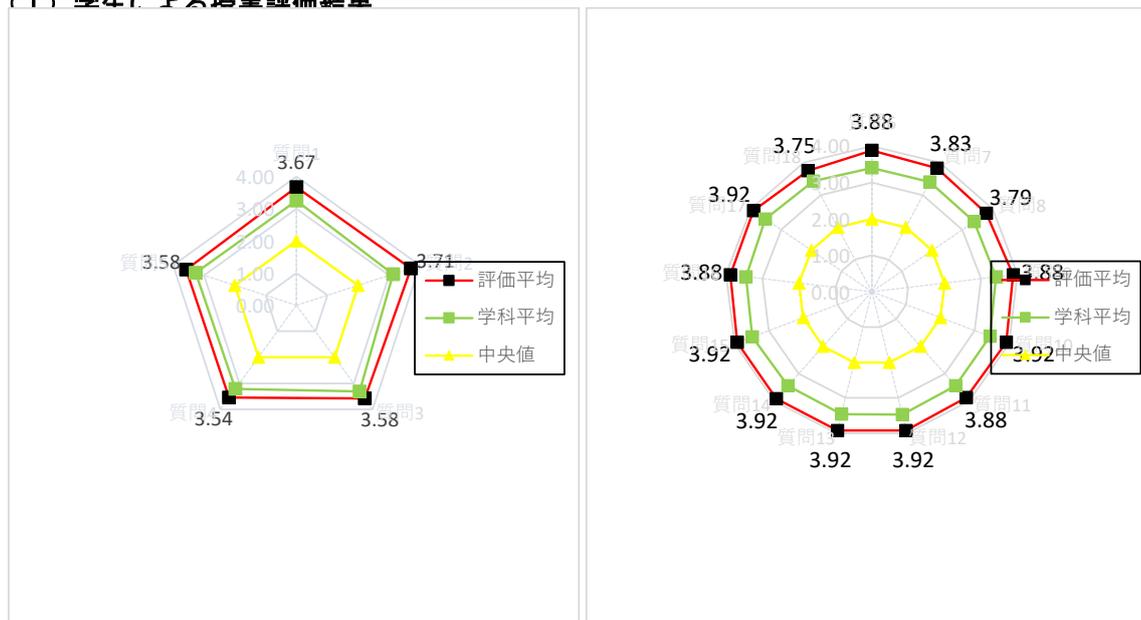


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		臨床栄養学	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

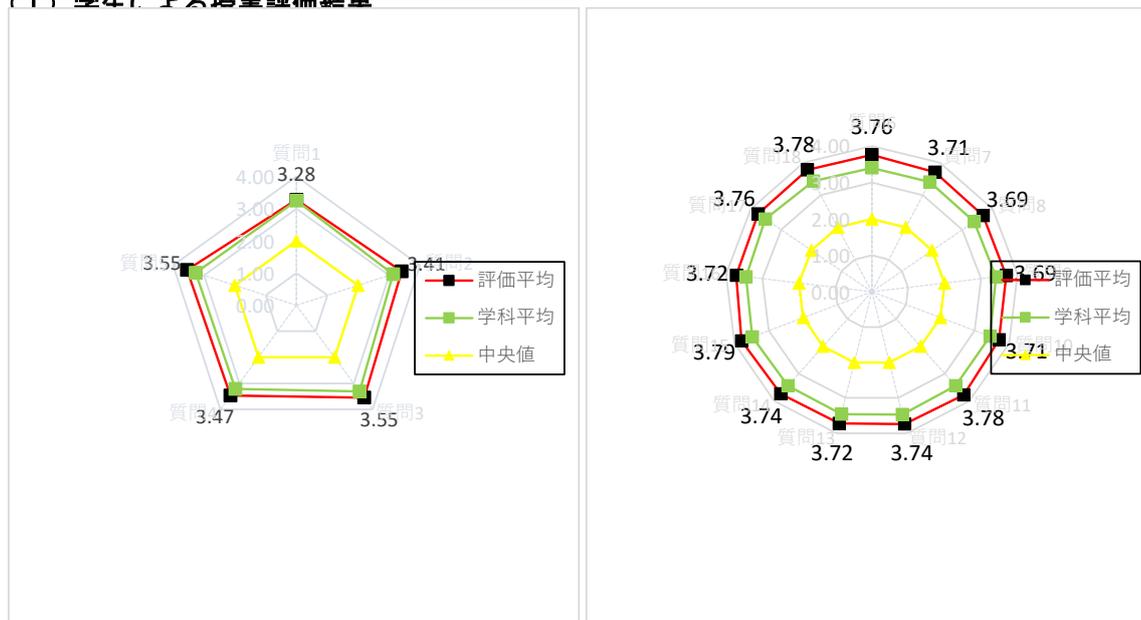
授業の総合評価は3.75であった。質問6～18について学科平均と上回り、ほとんどの質問項目で8割程度が評価4.0であった。概ね高評であったと思われる。特に、質問10、12～15は評価が高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

概ね高評であったと思われる。特に、質問10、12～15は評価が高かった。視聴覚機器や板書の用い方、声の大きさや授業の進むスピードなどは学生にあったものであったと考えられる。また、教材のまとまりや見やすさについて分かりやすかったとコメントしてくれていた学生もいた。専門的で難しい内容であると思うが、今後も動画の活用やトピックを適宜交えながら印象に残る分かりやすい授業展開を心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子育て支援	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

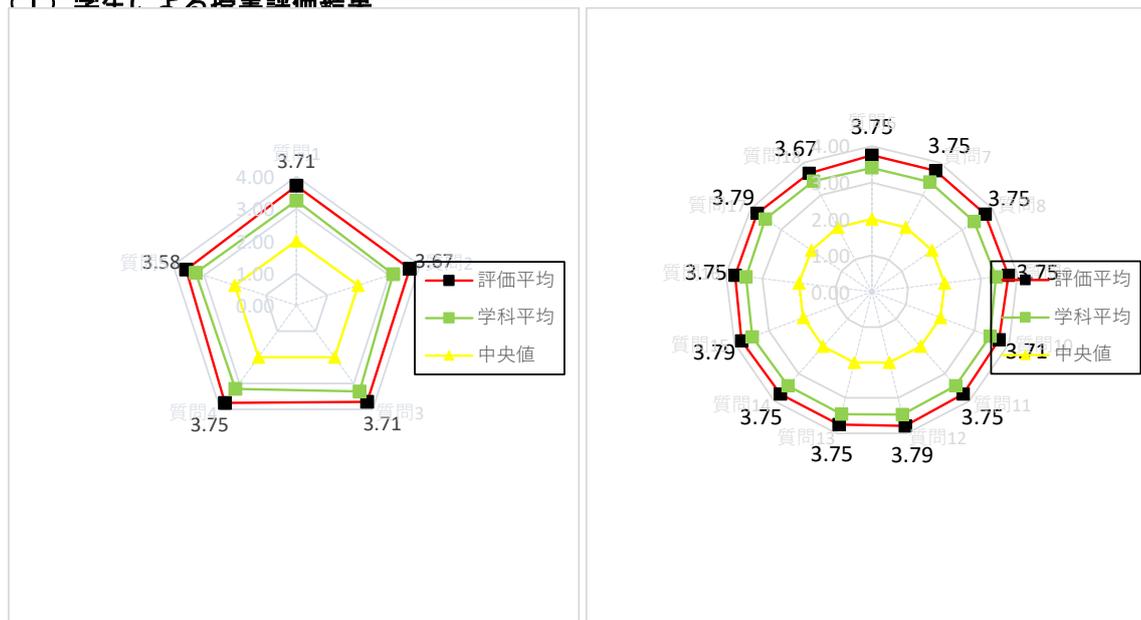
すべての評価項目で学科平均を上回っていた。自由記述の中には「子育て支援について更に深く学ぶことが出来てよかったです。ありがとうございました。」といったコメントもあり、学生の理解がある程度進んだことが分かった。特に本科目はオムニバスであり、子育て支援のコメントがあることから大村准教授の丁寧な授業進行が高い評価につながったものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は本科目が15コマから8コマへ変更される（大村：6コマ、川邊：2コマ）。その為、これまでの内容を十分に吟味して、必要十分な情報や知識の提供に留意して授業を進行していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		臨床栄養学実習	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

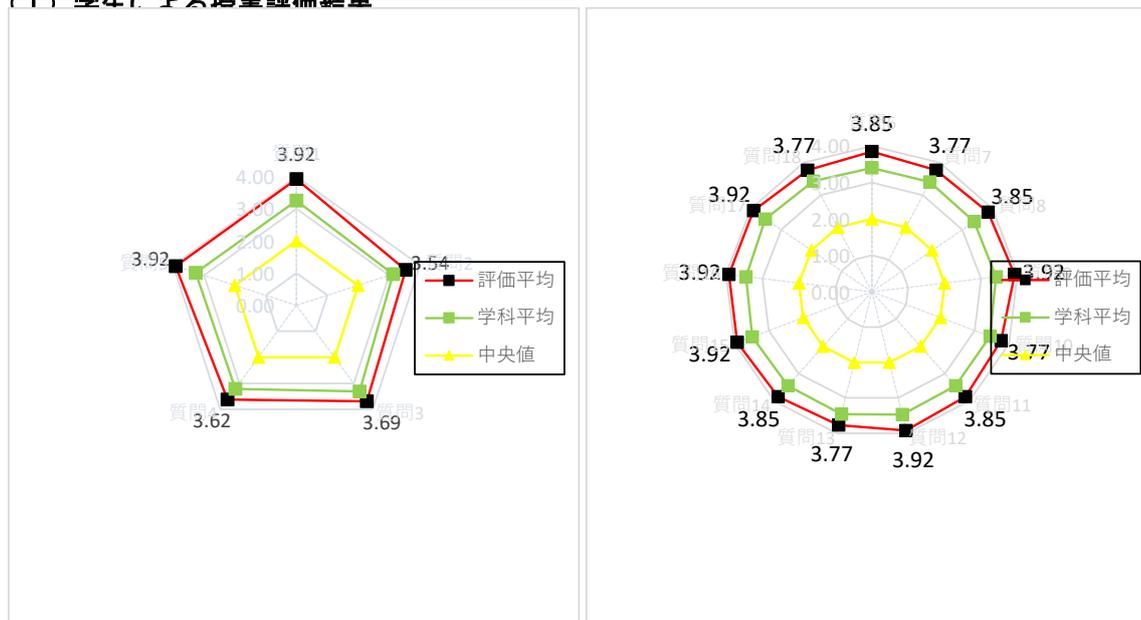
授業の総合評価は3.67であった。質問6~18については学科平均と大差はなかった。ほとんどの質問項目で7割以上が評価4.0であった。概ね高評であったと思われる。特に、質問12、15、17についての評価が高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

概ね高評であったと思われる。本授業は、1、2回目に調理の基礎の振り返りを、その後、常食の献立作成や常食から治療食への展開法、特別食の調理実習を柱として構成している。基礎の振り返りではお米の炊き水や重量変化、乾物の戻し率や調味の割合などこれから現場で必ず使っていく内容を実際に体験をして理解するようにしている。また、献立作成や献立の展開については、提出させた課題をしっかりとチェックすることで学生の理解度を把握し授業法の改善へとつなげている。この授業展開へ変更してから学生からの評価は良いが、次年度は留学生が8名いるため授業のボリュームや内容の見直し、より分かりやすい授業へと改善する必要があると考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		歌唱表現	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

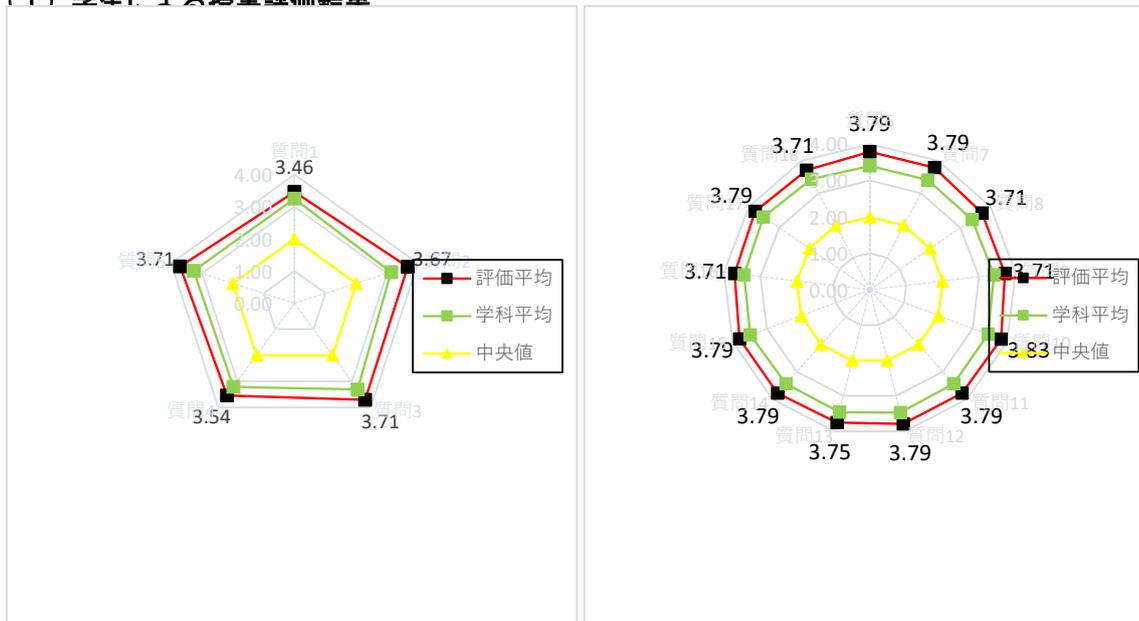
本授業は卒業課題研究でミュージカルを選択した学生が履修し、ミュージカルの発表のための歌唱について呼吸法、発声法等声のトレーニングを体験しながら歌唱技術を向上させるとともに、声によって表現することについて学ぶ内容である。学生の評価は概ね高く、最初は歌うことに恥ずかしさを感じていた学生も、授業終了時は、歌うこと、表現することに対して苦手感や恥ずかしさを払拭している様子が窺え嬉しく思った。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業はR6年度で終了し、R7年度以降は開講されない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養学実習	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

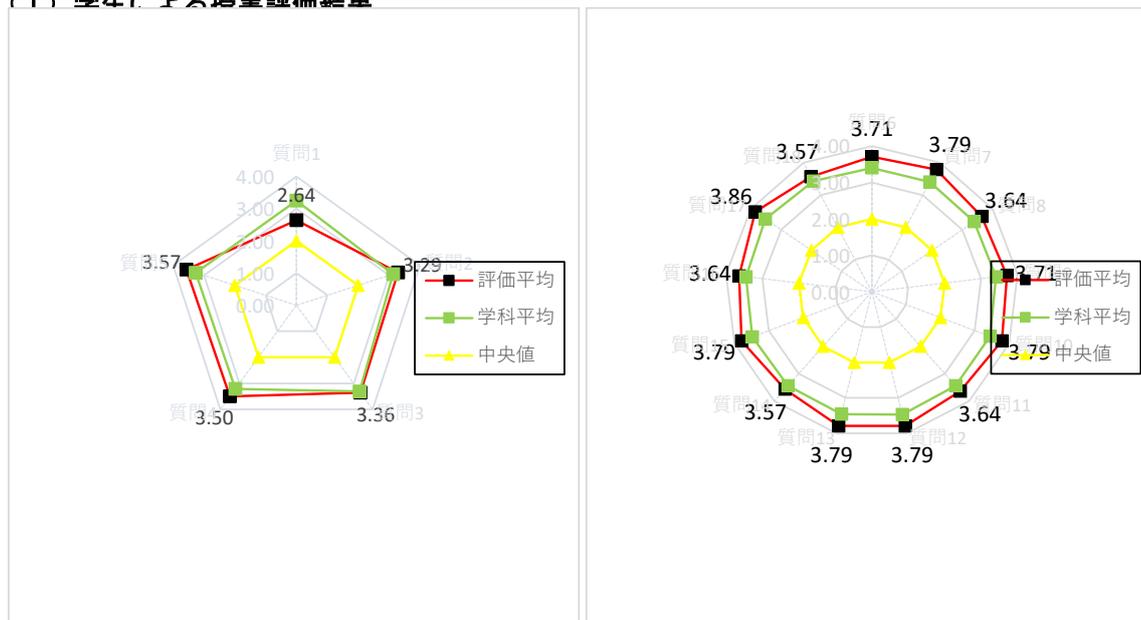
授業の総合評価は3.71であった。質問6~18のすべての項目について学科平均よりも評価が高く約8割が評価4.0であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業は、主に食事摂取基準（2020年版）とその活用について、栄養ケアマネジメントについて、POSについて等他の授業内で教えることが出来なかった内容を組み合わせて構成している。どちらかという和管理栄養士よりの内容となるが管理栄養士の補佐として仕事をしていく場合もあるため理解しておく必要がある。授業の中では基礎的知識の部分を演習をまじえて教えている。学生の様子を見ていると難しいながらもしっかりと取り組んでいた。自由記述には「難しかったけど分かりやすかった」とのコメントがあった。次年度は食事摂取基準が改定される年でもあるため授業内容を見直し理解しやすい授業展開に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		器楽表現	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

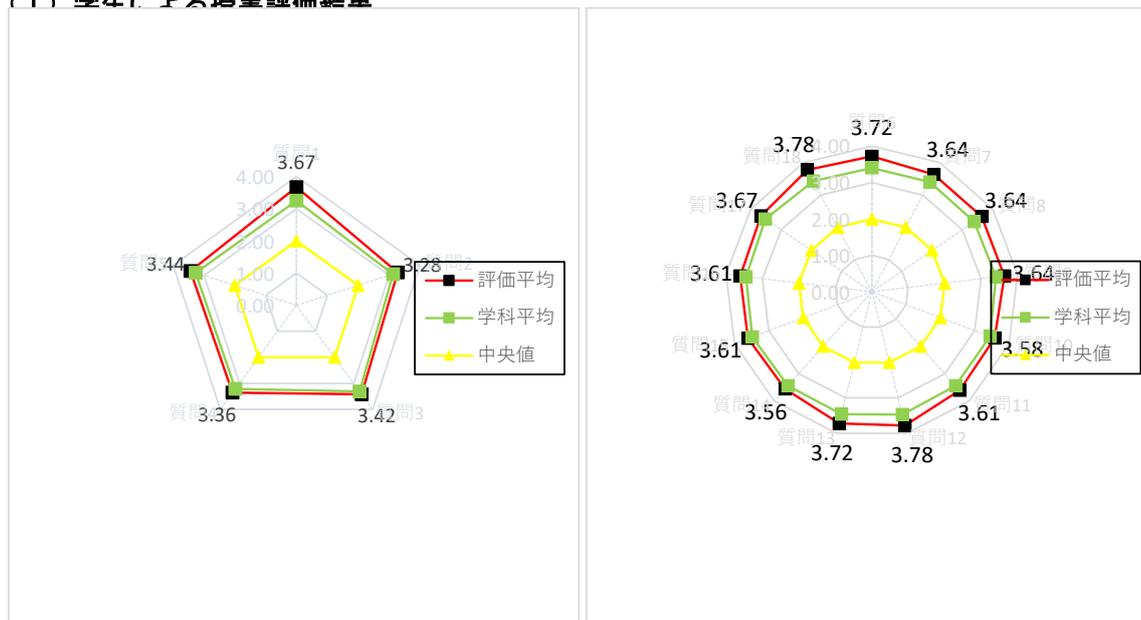
履修者16名中14名が回答した（回答率88%）。本科目は「卒業課題研究」で「器楽アンサンブル」を選択している学生が、表現・音楽コース科目として履修しているものである。学生自身の自己評価としては、ほとんどが平均値であったが、質問1「出席回数」、質問3「真剣に取り組んだか」については下回る結果となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は金曜4限に開講。5限の「卒業課題研究」と連続したコマで開講し、しかも1～3限は空きコマという環境だったため、毎週のように出席状況に偏りがあった。そのためメンバー揃ってのグループ活動がなかなかできず、その面での不満を述べている自由記述も見られた。当該科目は今年度で終了する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		発達と老化の理解 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

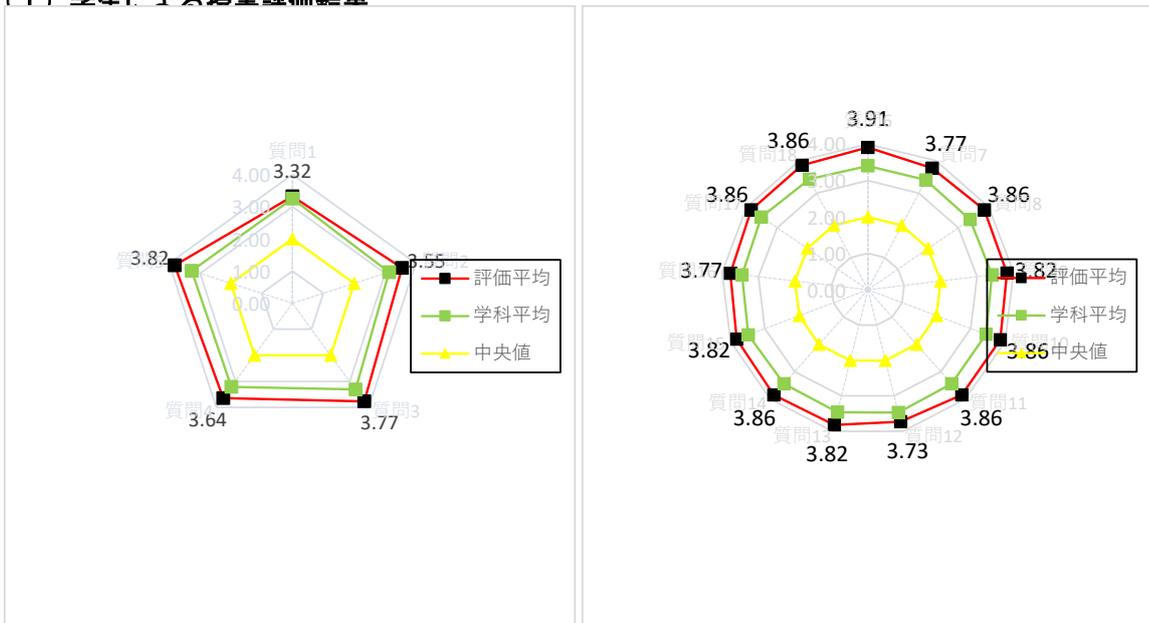
教授者に対する評価は全項目にわたって、学科の平均値より高かった。総合評価では学科平均3.49に対して授業者に対する評価は3.78と約0.3ポイント高かった。総じて反省すべきところが見当たらない。ただし、板書については3.58と他の評価事項に比べて相対的に低く、今後改善の余地があると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

教授者に対する評価は全項目にわたって、学科の平均値より高かった。総合評価では学科平均3.49に対して授業者に対する評価は3.78と約0.3ポイント高かった。大きく改善する必要は見当たらない。ただし、板書については3.58と他の評価事項に比べて相対的に低かった。パワーポイントの漢字の読み仮名の記述を工夫する必要があると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児ダンス	29名

(1) 学生による授業評価結果

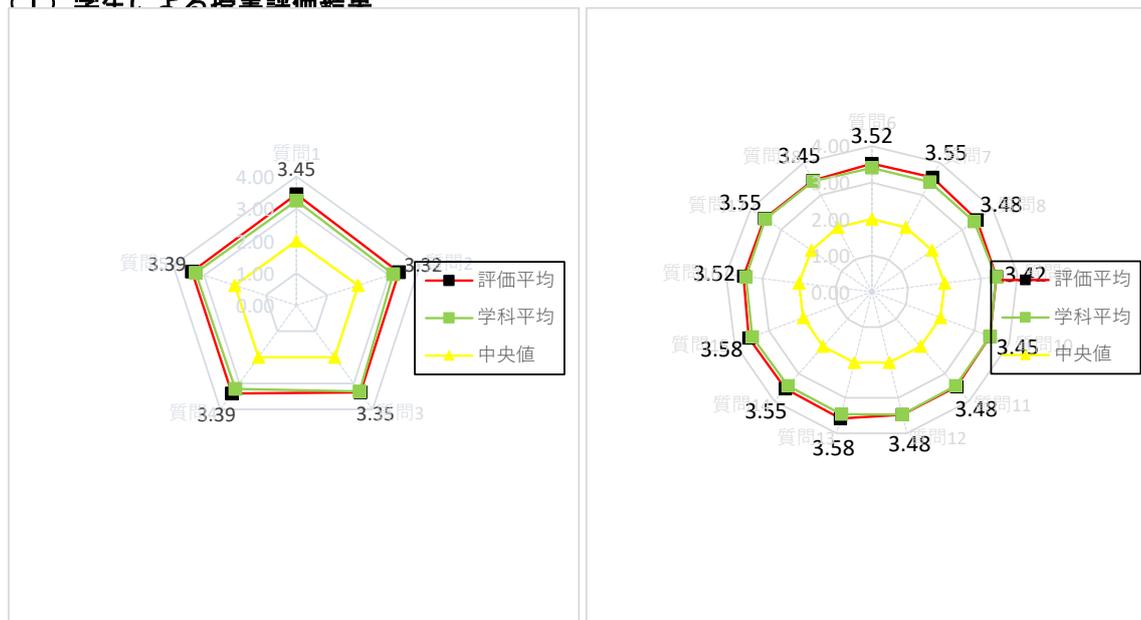


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		発達と老化の理解Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

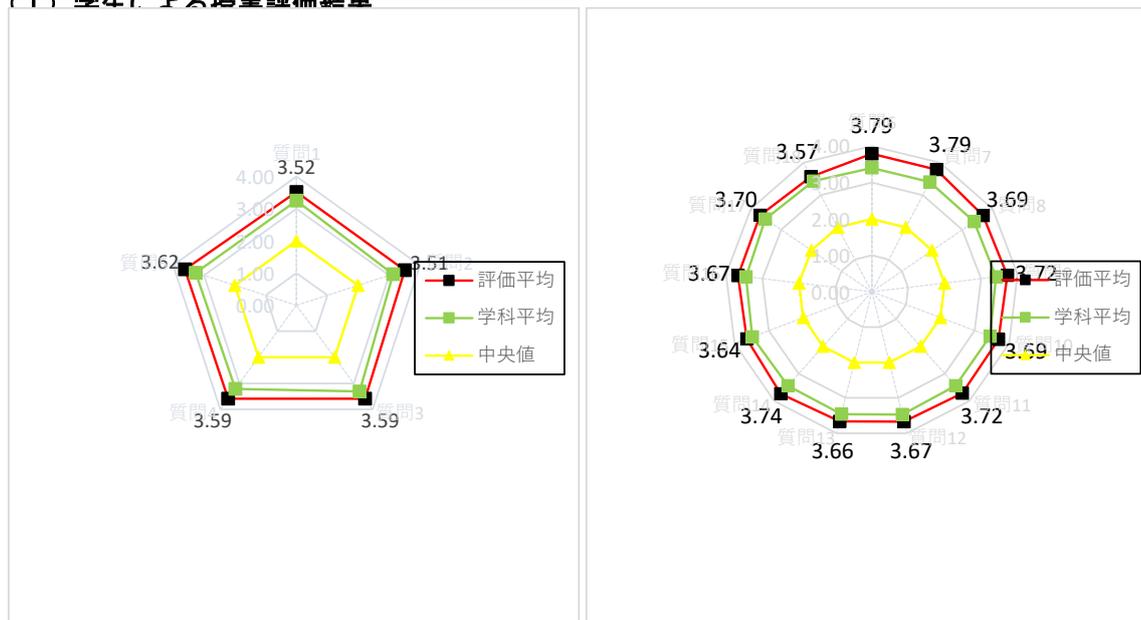
41名中31名が実施、21名が質問がないところにも回答。自由記述には発達について理解できた、わかりやすかったとの書き込みがあった。学科平均と比べると少々低いところがある。わかりやすい工夫、視聴覚教材、板書、資料の配布、双方向のやり取り、熱心さ等に一人2をつけていた。また半数近くが3につけていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の説明と、評価時間の確保と提出の確認を行う。全体に見直しわかりやすい工夫を加える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導 I	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

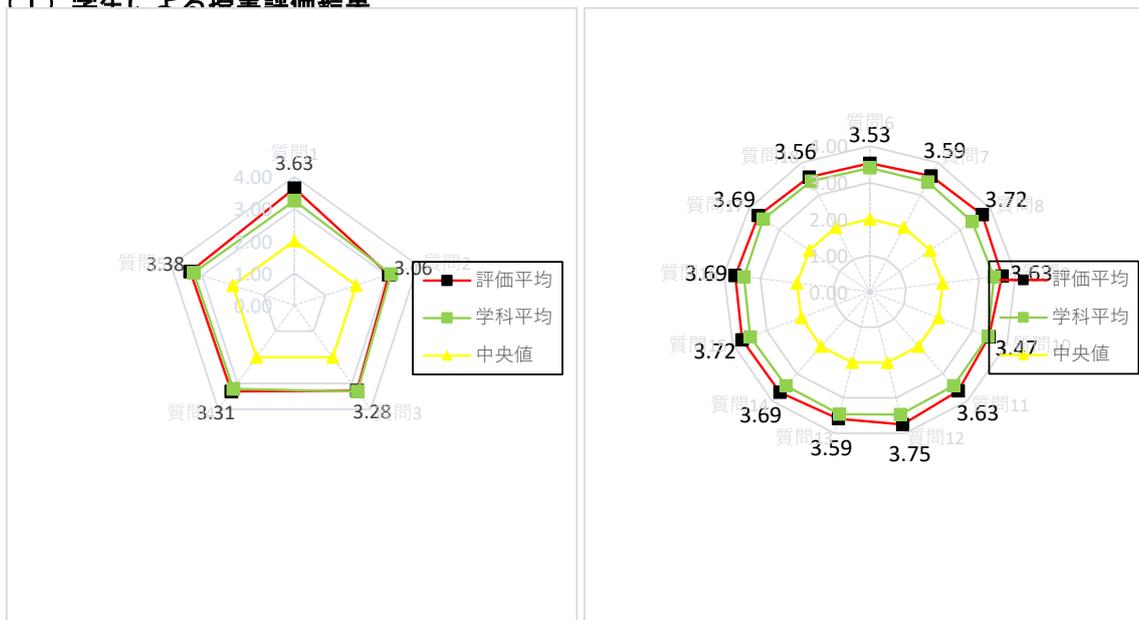
57/66 (86%) の回答であった。
 学生による評価平均においても、概ね学科平均をわずかに上回る結果となった。また、資格取得に関わるため、質問1出欠や質問3授業への集中は厳密に運営している。
 実習指導は、保育士資格取得に直結するが、様々な理由によりモチベーションを保てない学生も散見される。他方で、実習担当教員が個別かつ丁寧に学生指導を継続的に行っていることが評価されていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の不安感に寄り添い、前向きに実習を行うことができるよう、授業を進めていきたい。
 また、授業外でも対応できる体制を整えておくことが学生にとっては安心材料となるため、引き続き学生のニーズにその都度対応しながら実習に向けての指導を続けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

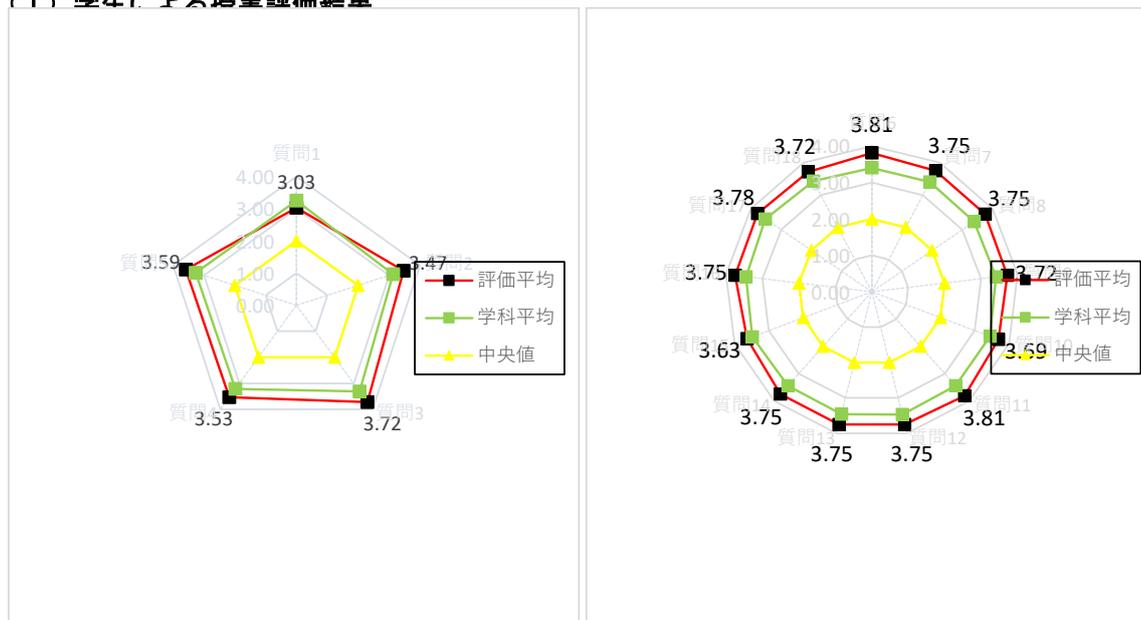
受講者41名のうち32名がアンケートに回答し、回答率は78.0%であった。評価項目の平均はおおむね3.5前後と高水準であり、「授業の分かりやすさ」「教員の説明」「教材の適切さ」等において安定した評価が得られている。自由記述でも、「難しい言葉をやさしい日本語で説明してくれる」「復習があるので理解しやすい」など、留学生への配慮や説明の明確さが高く評価された。一方で、「毎週テストをしてほしい」など学習の定着を望む声もあり、主体的に学びたいという意欲も見られた。全体としては、学生の理解度と満足度の高い授業であったといえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後は、授業内容の定着を図るためにミニテストや確認課題の導入を検討する。また、認知症の各類型や症状への理解をさらに深めるため、事例ベースの考察や映像教材の活用など、より具体的な学習機会を提供する。留学生に対するわかりやすい日本語の説明は継続しつつ、日本人学生にも学びが広がるよう、専門用語と平易な表現を併用した説明を心がける。学生同士の対話やグループワークも適宜取り入れ、多角的な理解と学び合いの促進を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		こどもの遊び	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

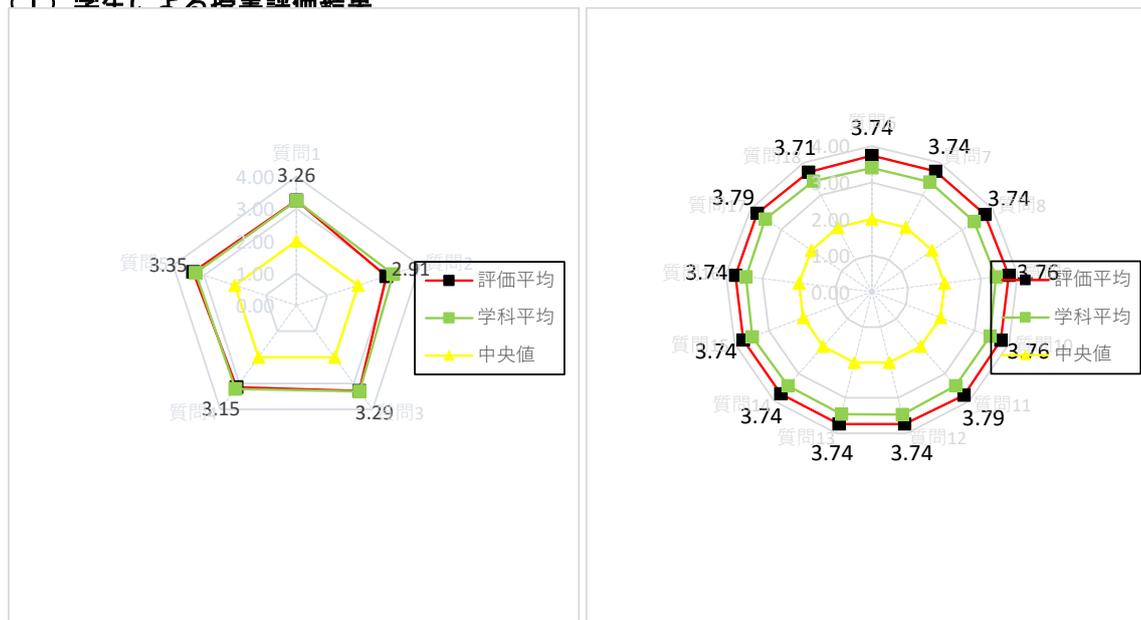
本科目は「保育カウンセリング」と合わせて「親子いきいき広場」を実践する科目となっている。そのため、「保育カウンセリング」と同内容となる。欠席回数やや多いものの、全体としては学科平均と同程度からやや高い評価となった。実際に地域の親子を支援するため、活動の計画から運営・評価まで学生が主体となって行うことから、高い意欲をもって取り組んだ学生が多かったものと思われる。自由記述の中でも、実践の中で保育にとって大切なことを数多く学べたとのコメントもあった。現場に近い体験ができる活動として、一定の評価を得られたものと考えられる。一方で、活動時のルールの共有方法に関しては、「必要なことを前日に伝えないでほしい」といった否定的なコメントも見られた。また、実践のための準備が授業時間内で終わらない場合には、グループごとに時間外の活動も可としていたが、「それはやめてほしい」といったコメントもあった。教員としては、ルールを事前に決めて共有する工夫が求められる。加えて活動の計画時には、できるだけ時間内で実施できるよう援助していくことも求められる。

(3) 次年度に向けての取り組み

2024年度までは心理・環境コースの学生のみが参加していたが、2025年度からは幼児保育学科の学生全員が活動に参加することとなる。科目に関わる教員も増えるため、教員間の情報共有や連携をより緊密に行うことが必要となる。またルールの共有や活動に向けた準備の時間配分など、学生が見通しをもって活動に取り組めるよう、教員が積極的に声をかけることも求められる。学生にとって、現場で活用できる実体験ができる活動になるよう、主体性や意欲を引き出しながら計画的に活動を進められる工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解Ⅱ	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

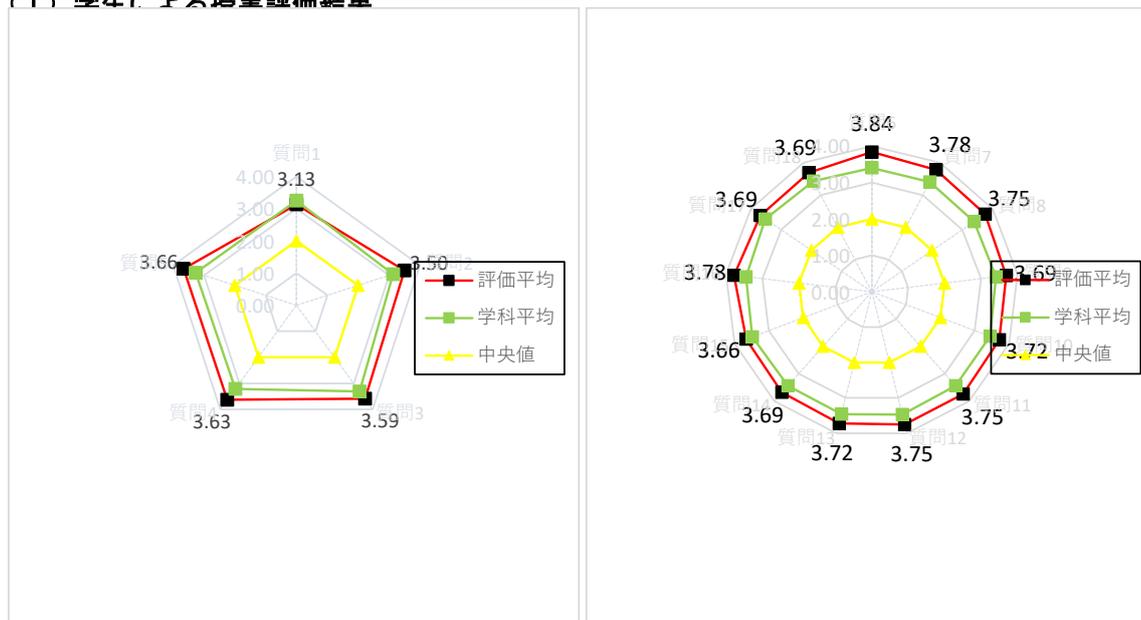
質問2のシラバスの活用、質問4の授業を理解するために自分で工夫したかについては、学科平均値より低い値である。居眠りや私語等はせずに受講していることから、真面目に受講したものの、やや受動的態度であったことが推測される。質問6から質問18の評価は、学科平均よりも高い値であった。本科目は、「認知症」という介護福祉士にとっては必須となる知識を習得しなければならず、学生が理解しやすく、DVDやインターネット動画等の視聴を取り入れることで、認知症の人のリアルな現状を把握できるように心がけた。そのことが、質問8授業の工夫、質問9わかりやすい工夫、質問10視聴覚機器の適切な活用等の高評価につながったものと推測される。

(3) 次年度に向けての取り組み

認知症は、机上の学びだけでは十分な理解は難しい。学生は、1年次の介護実習や高齢者施設でのアルバイトの経験等認知症の人との関りの経験があり、それぞれにある程度の理解はできている。しかし、施設独自の認知症ケアの方法や思いこみ等もあり、認知症に対する考え方やケアの方法について偏りがあるのも事実である。認知症について正しく理解しケアの方法の多様性を知ることは、非常に重要であると考えており、今後も、認知症の自身や認知症の人の家族からのメッセージ等を教材としながら、学生の学びを深めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育カウンセリング	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

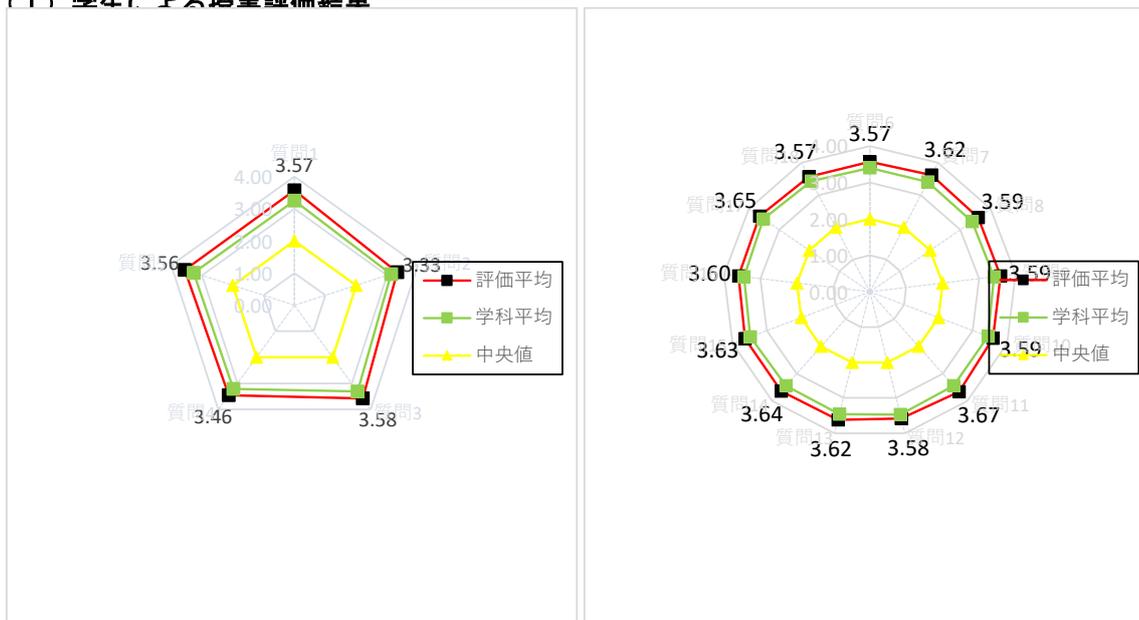
本科目は「保育カウンセリング」と合わせて「親子いきいき広場」を実践する科目となっている。そのため、「保育カウンセリング」と同内容となる。欠席回数やや多いものの、全体としては学科平均と同程度からやや高い評価となった。実際に地域の親子を支援するため、活動の計画から運営・評価まで学生が主体となって行うことから、高い意欲をもって取り組んだ学生が多かったものと思われる。自由記述の中でも、実践の中で保育にとって大切なことを数多く学べたとのコメントもあった。現場に近い体験ができる活動として、一定の評価を得られたものと考えられる。一方で、活動時のルールの共有方法に関しては、「必要なことを前日に伝えないでほしい」といった否定的なコメントも見られた。また、実践のための準備が授業時間内で終わらない場合には、グループごとに時間外の活動も可としていたが、「それはやめてほしい」といったコメントもあった。教員としては、ルールを事前に決めて共有する工夫が求められる。加えて活動の計画時には、できるだけ時間内で実施できるよう援助していくことも求められる。

(3) 次年度に向けての取り組み

2024年度までは心理・環境コースの学生のみが参加していたが、2025年度からは幼児保育学科の学生全員が活動に参加することとなる。科目に関わる教員も増えるため、教員間の情報共有や連携をより緊密に行うことが必要となる。またルールの共有や活動に向けた準備の時間配分など、学生が見通しをもって活動に取り組めるよう、教員が積極的に声をかけることも求められる。学生にとって、現場で活用できる実体験ができる活動になるよう、主体性や意欲を引き出しながら計画的に活動を進められる工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習 I (保育所・施設)	120名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

57/66 (86%) の回答であった。

学生による評価平均においても、概ね学科平均をわずかに上回る結果となった。

保育実習 I (保育所・施設) は、学生にとってははじめての学外実習であり、心身ともに負荷がかかる状況であるともいえる。

学生を支えるために、担当教員も事前の実習指導で十分な準備を行い送り出すように時間と労力をかけている。

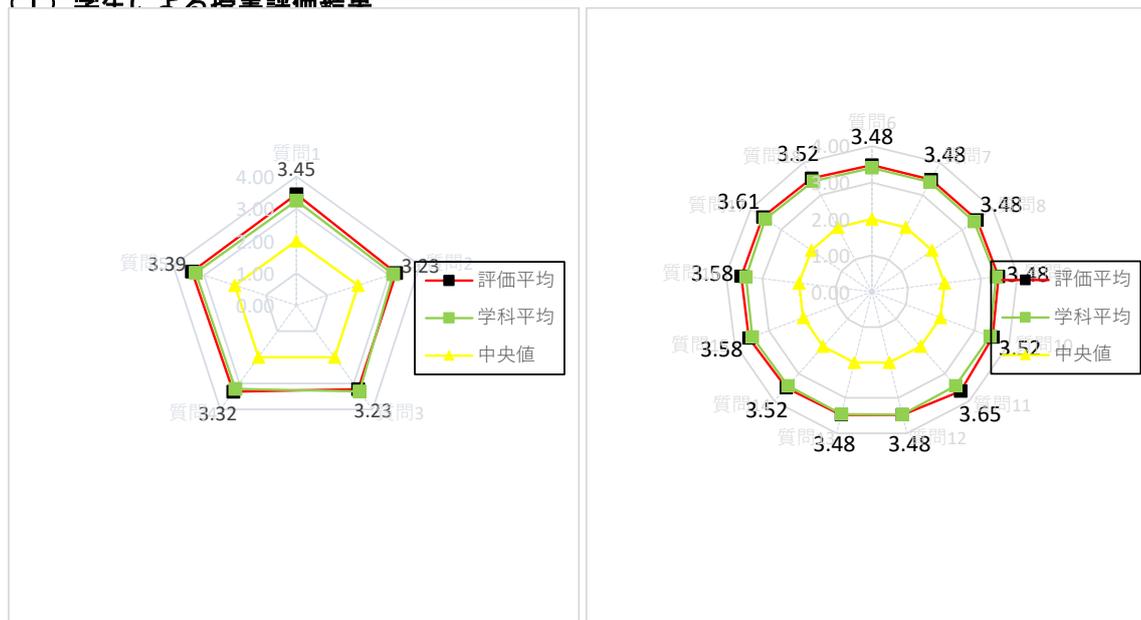
(3) 次年度に向けての取り組み

配慮が必要な学生増加など、年々実習指導を行う教員の負担も重くなっている。また、実習先よりお叱りを受けることも増加している。

次年度に向けては、実習担当者間で連携しながら授業運営を計画し、これまでの丁寧な関わりとサポートを継続できるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

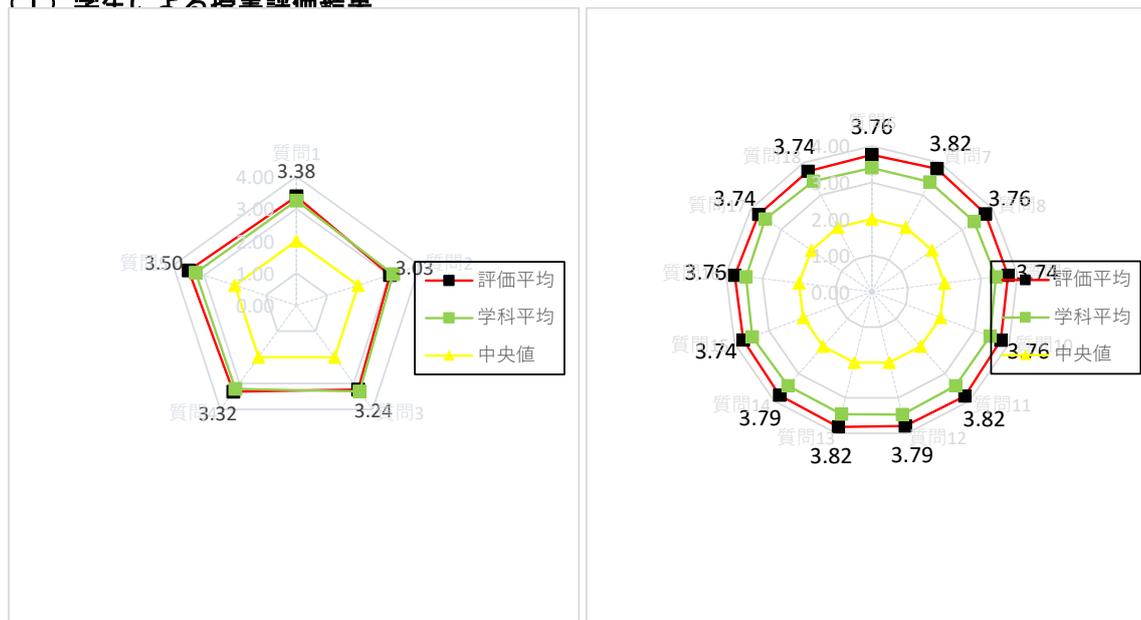
41名中31名は評価を行い21名が質問がないところに回答していた。出席は学科平均より少し良かった。授業評価は学科平均よりかすかに低かった。自由記述はわかりやすかった、上手だったとの記述があった。国家試験で役立つ内容を中心に進めた。声の大きさ、明瞭さ、話すスピード、進む速さ双方向のやり取り、熱心さについて

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の説明ときちんと質問を確認して評価すること、評価の時間を確保し提出の声掛けと確認を行う。全体的に見直し、声は大きく、明瞭に話し、話すスピードも確認しながら進める。双方向を増やす、進む速さ、理解度を確認しながら進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解Ⅱ	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

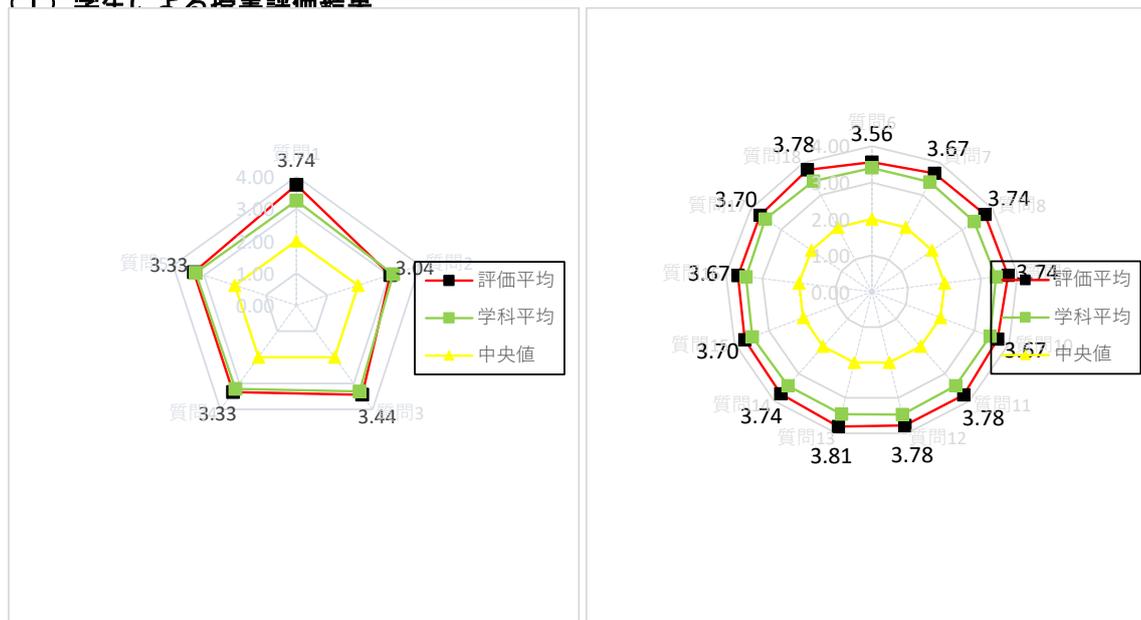
アンケート結果によると、「障害の理解Ⅱ」は総合評価3.74と高評価であり、特に「教員の話し方・声の大きさ・明瞭さ」「視覚資料や板書の活用」「教員の質問対応」などの項目で3.8前後の高得点を得ている。すべての質問に対して回答率は100%であり、学生の関心の高さがうかがえる。自由記述でも「教え方が丁寧で分かりやすい」「障害についての理解が深まった」といったポジティブなコメントが多数寄せられた。一方で、質問2（シラバスの活用）や質問3（積極的な参加）に関しては平均3.03、3.24と他項目より低く、学生の主体的な関わりや事前準備に課題があることが示唆される。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の理解をさらに深めるために、次年度は各回の冒頭で授業目標や学習ポイントを明示し、シラバスをより積極的に活用できるよう働きかける。また、主体的学習を促すため、小テストやペアワークを適宜取り入れ、発言や参加の機会を増やす。自由記述での肯定的評価を活かし、やさしい日本語や視覚資料を多用した説明を継続するとともに、理解の定着を図るため復習の時間も確保する。さらに、授業外での学習支援（復習動画の配信や質問受付）も検討し、多様な学習スタイルに応える環境整備を進める。全体として、好評を得た要素は維持しつつ、学生の学びへの能動的参加を促進する工夫が求められる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ I	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

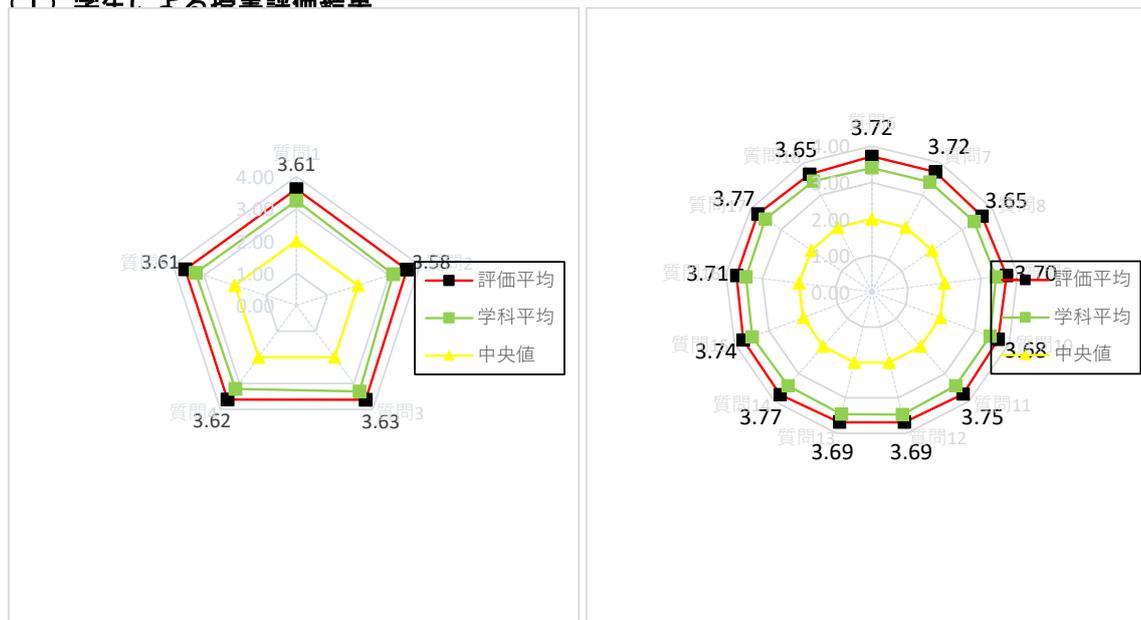
42名中27名しか回答していなかった。質問がない項目も回答している学生が19名もいた。授業への出席状況は学科の平均より良かった。シラバスの活用は学科の平均より悪かった。授業評価は全体的に学科平均より良かった。自由記入もなかった。到達目標の明確化と、視聴覚教材と板書の用い方、公平性について2を付けた学生が1人いたので、工夫が必要。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の内容をきちんと説明し、きちんと読んで評価をするように促す。全員授業評価を行うように授業の最後にしっかり伝え、後日、再度確認する。シラバスについて詳しい説明と不明な点がないかの確認を行う。板書を書くときは奥の方から書き、公平性については声掛け、対応等を再度見直してみる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅱ	127名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

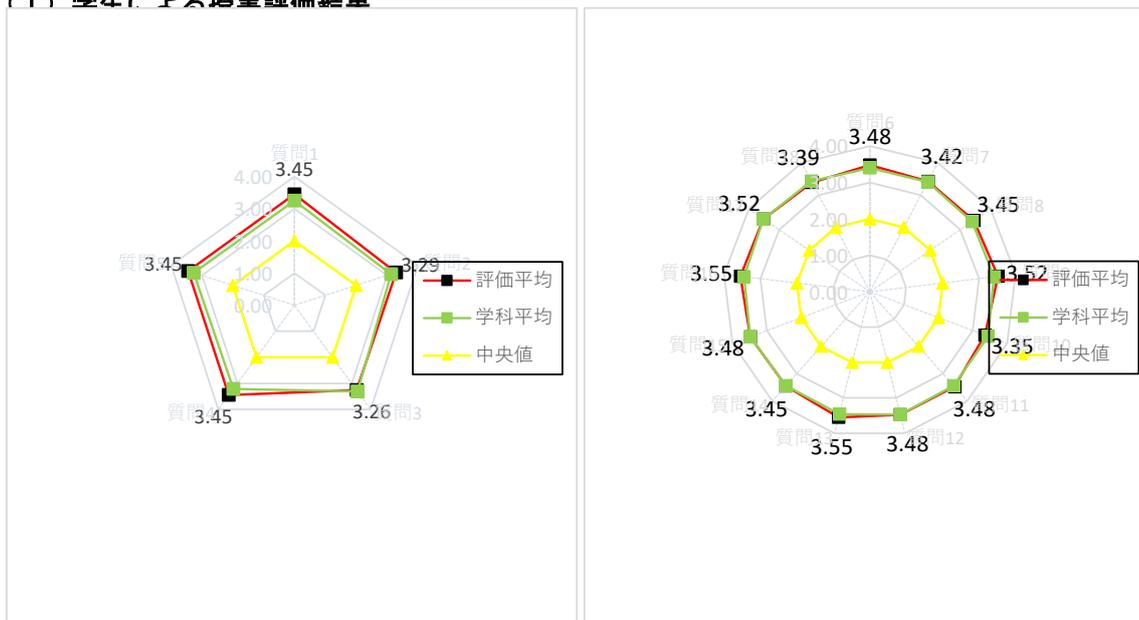
全ての項目において、学科平均を上回る結果であった。
 学生の取り組みに関する項目（質問1～5）に関しては、授業の出席や提出物の完了などを実習参加の条件として提示しているため、他の科目に比べて学生の意識が自然と高くなっているのだと考える。加えて、学生にとって就職を控えた時期の実習であるため、高い意欲をもって授業を受講することができたのではないだろうか。
 また、同様に教員や授業展開に関する項目（質問6～質問18）もかなり高い評価となっている。この科目では、就職後に社会人として恥ずかしくないマナーや倫理観を身につけてほしいと考え、丁寧な指導を心掛けている。また、基準を学生に示し、最後まで完遂できるよう指導を徹底している。その姿勢が学生に評価されたものと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述にも感謝の気持ちが次多く書かれており、年度以降もこのまま学生の就職を見据えた指導を続けたいと思う。
 その一方で、前期に1名ではあるが「初めての就職活動だからもっと丁寧に指導してほしい。髪色検査が厳しすぎる」という意見が書かれていた。就職に向けての身だしなみ指導（髪色検査）であり、丁寧な指導の一環として実施をしているのだが、学生にはその点が伝わりづらかったのかもしれない。次年度は実習、就職に関する指導を、学生が納得できるよう、より丁寧に説明をして実施をしていきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

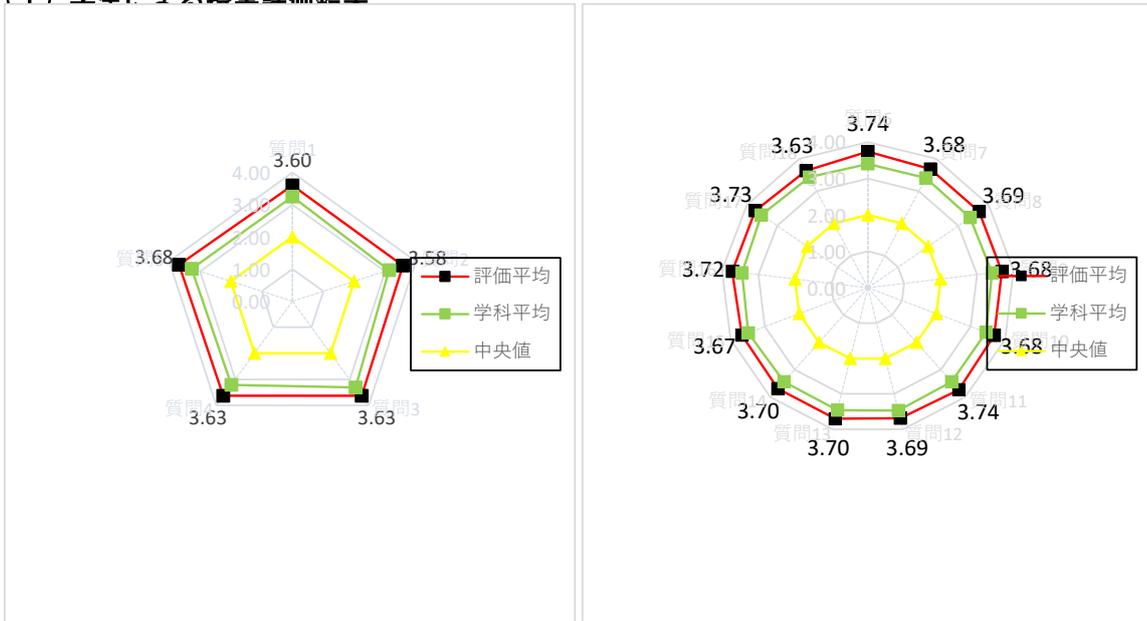
41名の履修で31名の回答である。21名が質問がないところに回答していた。全体的に学科平均より低い。自由記述には毎回のテストは勉強する機会を増やし、いろいろな知識が入り、わかりやすくおもしろいとの評価ではあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の内容の説明と、最後の授業での声掛けと確認を行う。全体的に見直してみる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅱ（保育所）	125名

(1) 学生による授業評価結果

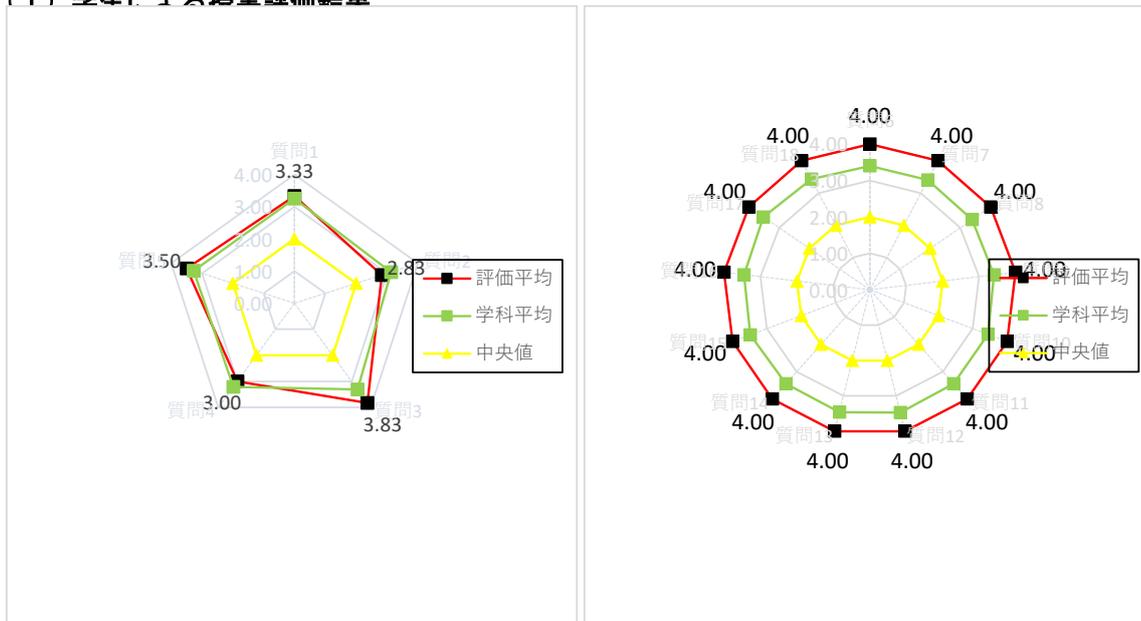


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅲ	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

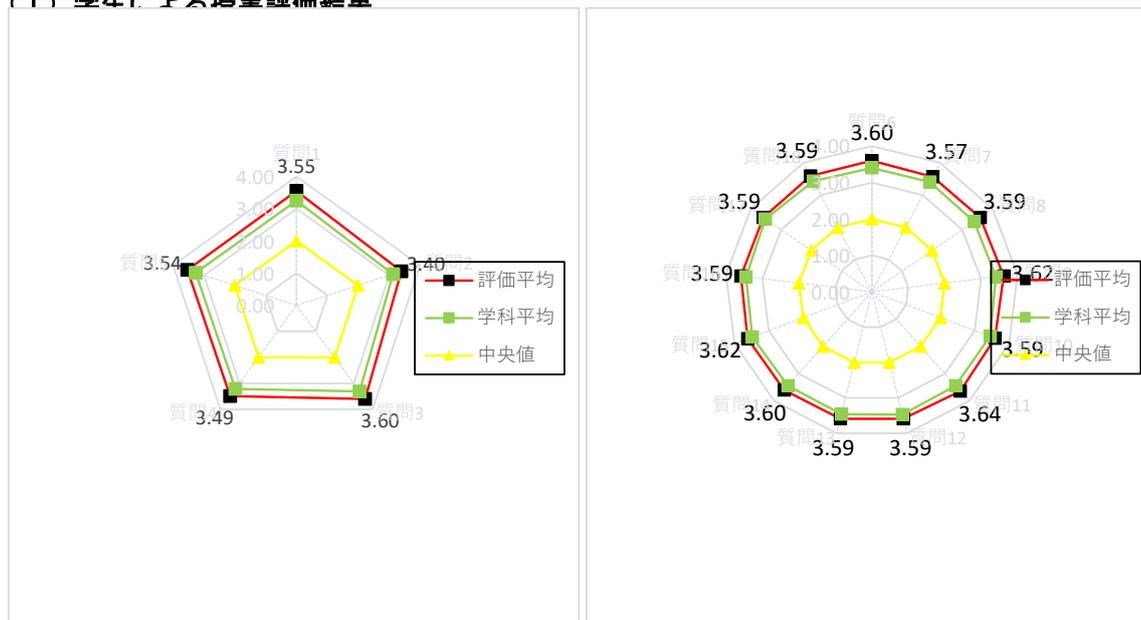
3/3 (100%) の回答であった。
 授業評価の各質問項目においては、質問2と質問4については学科平均を上回っていた。
 その理由として、本科目は施設実習に関する指導であり、より学生が主体的になって取り組む科目だからと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、進路選択や就職活動も見据えた最後の保育実習となる。
 学生の将来や職業選択にあたって、より深く考えて取り組むでもらえるよう働きかけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習指導	180名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の取り組みに関する項目（質問1～5）に関しては、授業の出席や提出物の完了などを実習参加の条件として提示しているため、他の科目に比べて学生の意識が自然と高くなっているのだと考える。加えて、2年次学生にとって就職を控えた時期の実習、1年次学生にとっては初めての实習であるため、高い意欲をもって授業を受講することができたのではないだろうか。

授業展開や教員に関する項目（質問6～質問18）は、学科平均と同じもしくは若干低い項目が多かった。特に1年次の実習指導に関しては、授業開始から初めての实習までの期間が限られているため、授業スピードの速さや内容の多さを感じてしまうことは否めない。しかし、その分細かな点まで丁寧な指導を心掛けているため、学生は概ねこの授業を好意的に受け止めており、今回の評価に繋がったのだと思う。

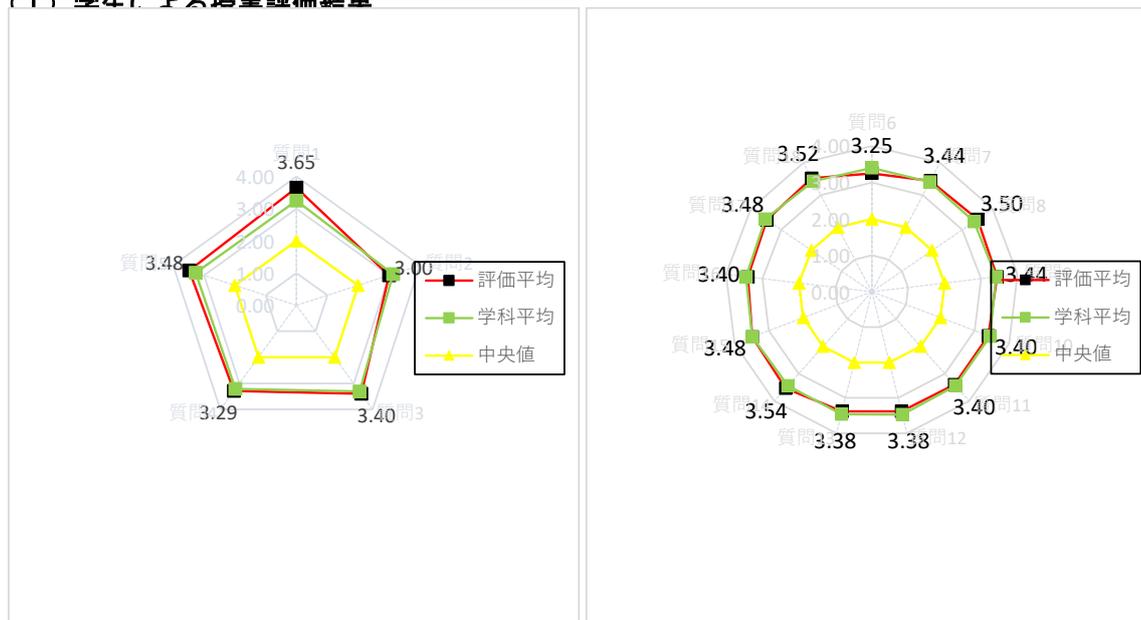
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も丁寧な指導を心掛け、実習に前向きに取り組むことができるようサポートしていきたいと思っている。

自由記述では2年間の指導に対する感謝の言葉が書かれていた。実習での成功体験は学生の保育職への就業意欲に直結すると考えているため、一人一人が自信をもって実習に取り組むことができるよう、指導を続けたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習 I	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体として学科平均よりも低い評価であった。特にシラバスに関する説明やシラバスの活用についての評価が低くなっていた。

一方で出席回数等の学生の取り組みは相対的に高い評価であり、総合評価も学科平均と同程度であった。本科目は実習であり、学内での講義よりも保育現場での実践が主な内容となる。そのため、特に後半の授業の実施方法等に関する設問は、本科目の内容にはそぐわないものが多いと思われる。

学生にとっても回答しにくく、それが評価の低さにつながった可能性が考えられる。

学生の取り組みや総合評価はそれほど低くないことを加味すれば、科目全体に対しては一定の満足度を得られていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

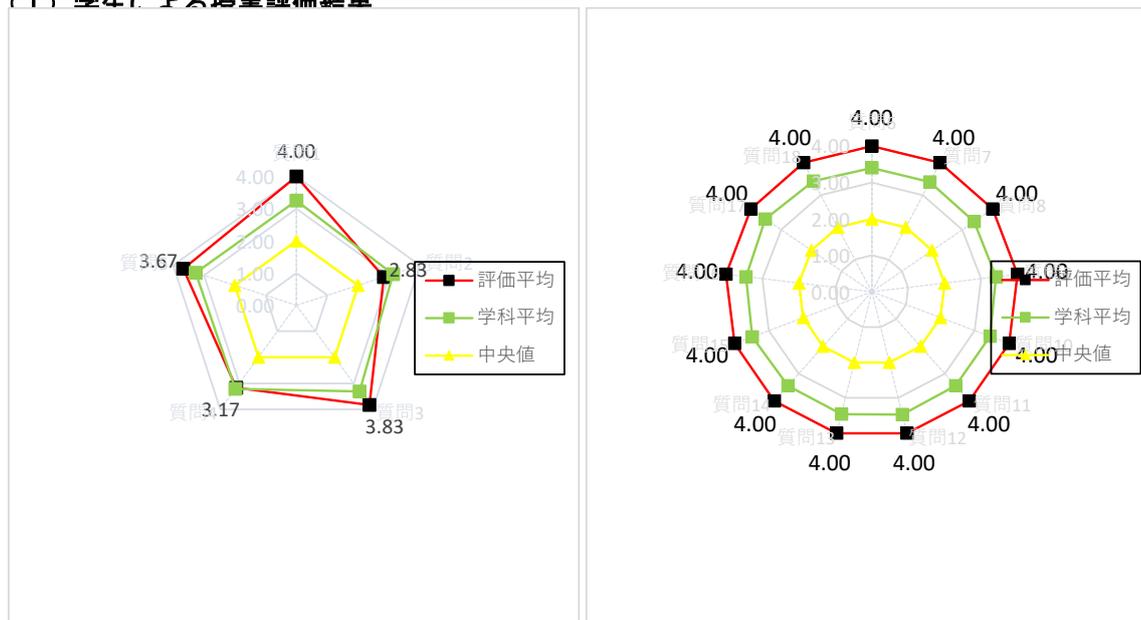
実習科目のため、授業の実施方法に関する設問の評価を高めることは難しい。

到達目標についても、実習指導の中で繰り返し説明してはいるものの、学生の中で実習と結びついていないことが推察される。

次年度は、到達目標等を説明するタイミングを考慮し、学生がより目的意識をもって実習に取り組めるよう工夫する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅲ（施設）	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

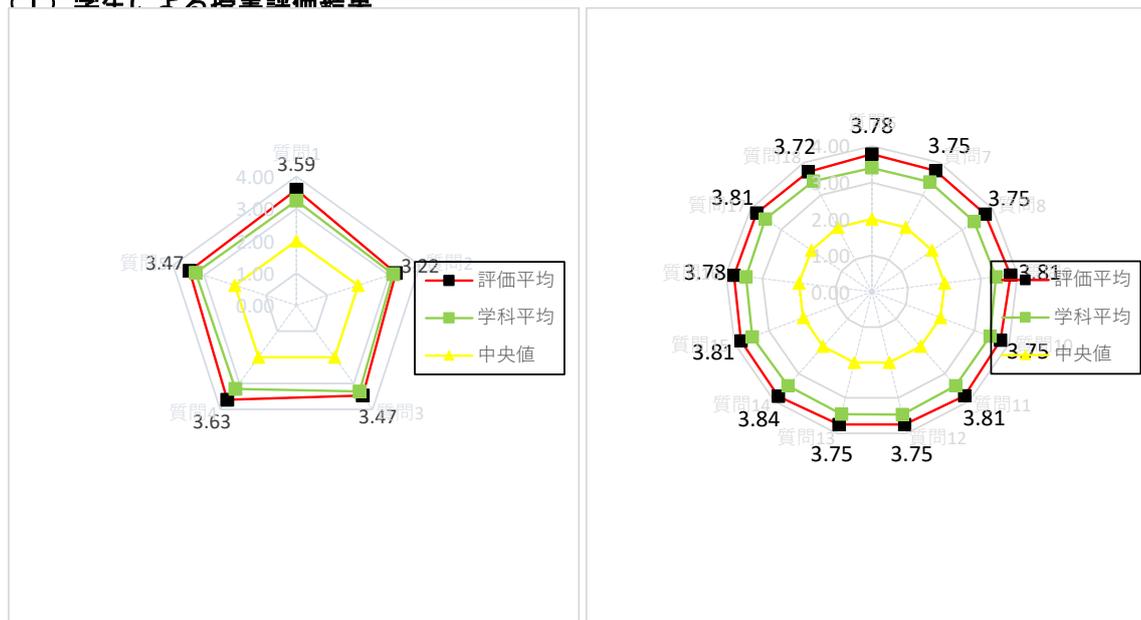
3/3 (100%) の回答であった。
 授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均を上回っていた。
 その理由として、本科目は施設実習を選択した学生が履修するため、進路や就職に直結した学びになっていると考えられる。
 学生が主体的に学べるように、学生の希望を聞き取りながら調整を図っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、進路選択や就職活動も見据えた最後の保育実習となる。
 2回目の施設実習というストレスや負荷がかかる状況となるが、学生の将来や職業選択に直結できるように働きかけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ IV	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

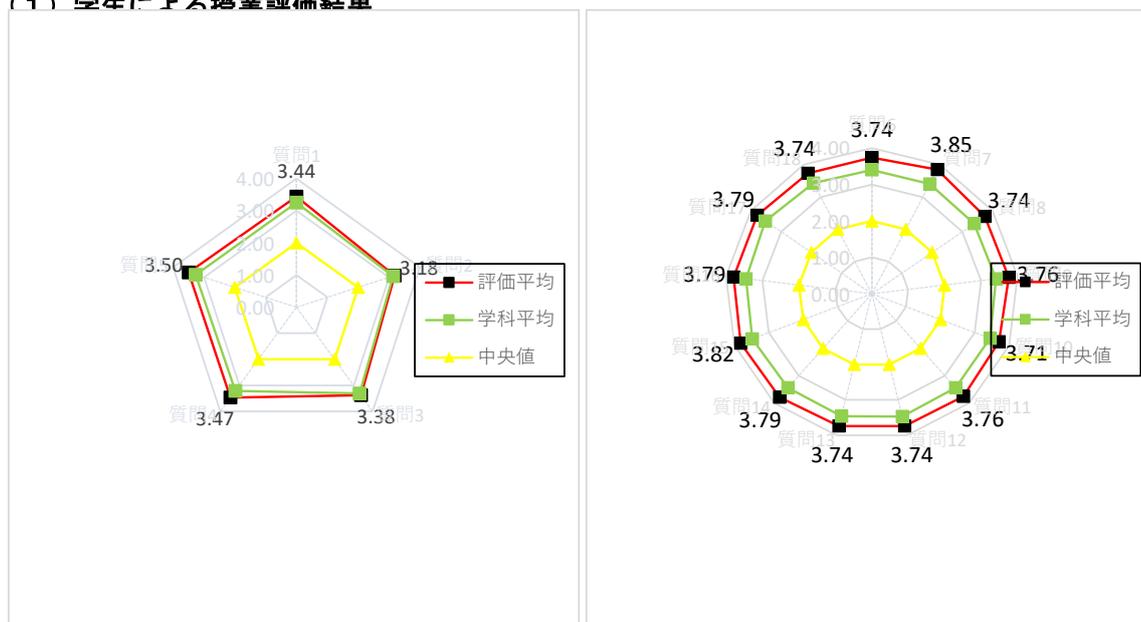
38名中32名が回答、14名が質問がないところも答えている。全体的に学科平均より良かった。自由記述は素晴らしくプロの先生に教わったとあった。専門性が高い内容が多かったためか。視聴覚教材、板書、声の大きさ、明瞭さ、話速さ、授業を進める速さについて1名が2をつけていた。授業内容的にはこころとからだのしくみⅢとおなじような流れではあるがより専門性の高い内容になったためか評価は高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の説明と、提出の促しと確認を行う。板書をよりわかりやすく行い、視聴覚教材は太文字で提供し、明瞭に発音し、話すスピードについては時々確認し、早口にならないように心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケア I	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

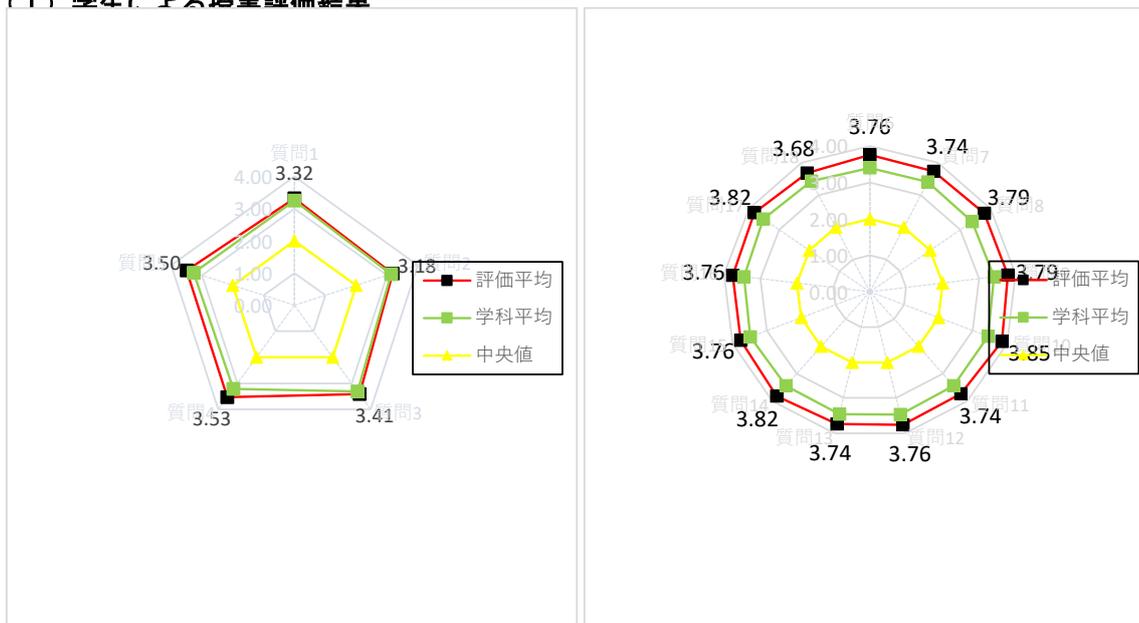
38名中34名が回答。質問がないところに回答していた学生が16名。自由記入は素晴らしいプロの先生に教えてもらったあった。看護職であることを言っているのか不明。授業評価は学科平均より全体的に良かった。22の声の大きさ、明瞭さ、話す速さについて1名2につけていた。学生自身のシラバスの活用については学科平均より低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の声掛けと確認を行う。シラバスを活用しやすいように検討する。明瞭に分かりやすく話を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケアⅡ	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

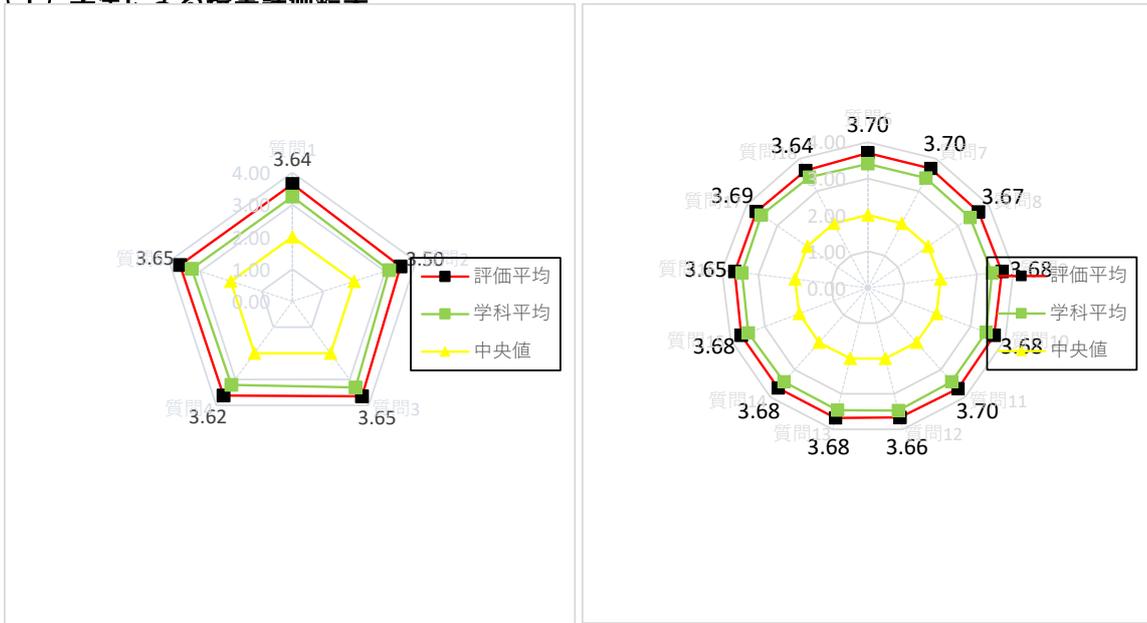
38名中34名回答。問題がないところに回答している学生が16名。シラバスの活用以外は学科の平均より良かった。教科書や配布資料、声の大きさ、明瞭さ、話す速さ、公平さが2が1名、総合評価に1を付けた学生が1名いた。全体的には学科平均より良かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価についてのアンケート内容の説明と評価項目をよく読んで選ぶこと、問題がないところには答えないこと、回答が済んだら済んだことを伝えてみることとしてみる。声の大きさやスピードに気を付けて授業を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習Ⅱ	128名

(1) 学生による授業評価結果

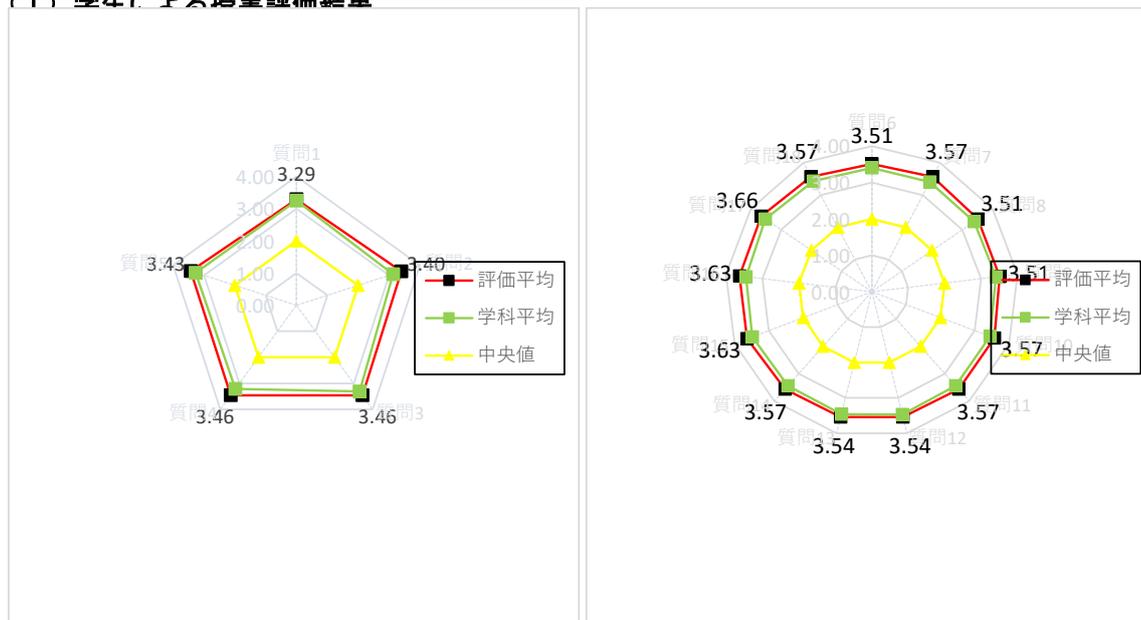


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケアⅢ	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

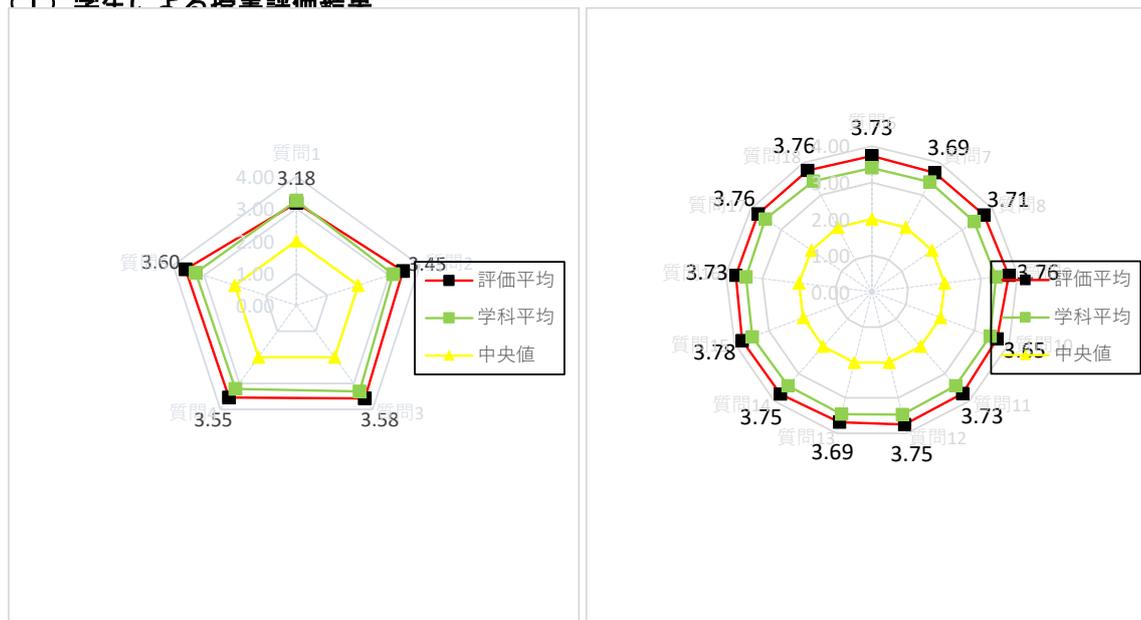
37名中35名が提出しているが登録となっているのは32名である。14名は質問がないところにも回答している。評価は学科平均とほぼ一緒であった。視聴覚機器や板書の用い方に1名2をつけている。実技であり特に視聴覚機器や板書を行っていない。声の大きさ明瞭さ、話す速さ、進む速さについても1名2をつけている。自由記述はない。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価について内容を説明し、全員提出すること、登録すること、質問をよく読むことを徹底する。外部からの講師とともに、話すスピード、声の大きさについて注意して行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育・教職実践演習 (幼)	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

55/66 (83%) の回答であった。

学生による授業評価結果においては、ほぼ学科平均を僅かに上回る結果となっている。

本科目は、学科教員によるオムニバス科目であり、毎回担当する教員が異なる。しかしながら、ある程度の評価が得られた理由として、それぞれの教員による専門や個性が上手くオムニバス教科として展開できているのではないかと考えられた。

個々の担当教員の工夫により、実践的な演習が図られた結果とも思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナ渦以降の近年は、各教員が遠隔授業や個別ワークなどの手法を多く取り入れて演習科目の役割を果たせるように工夫を図ってきた。

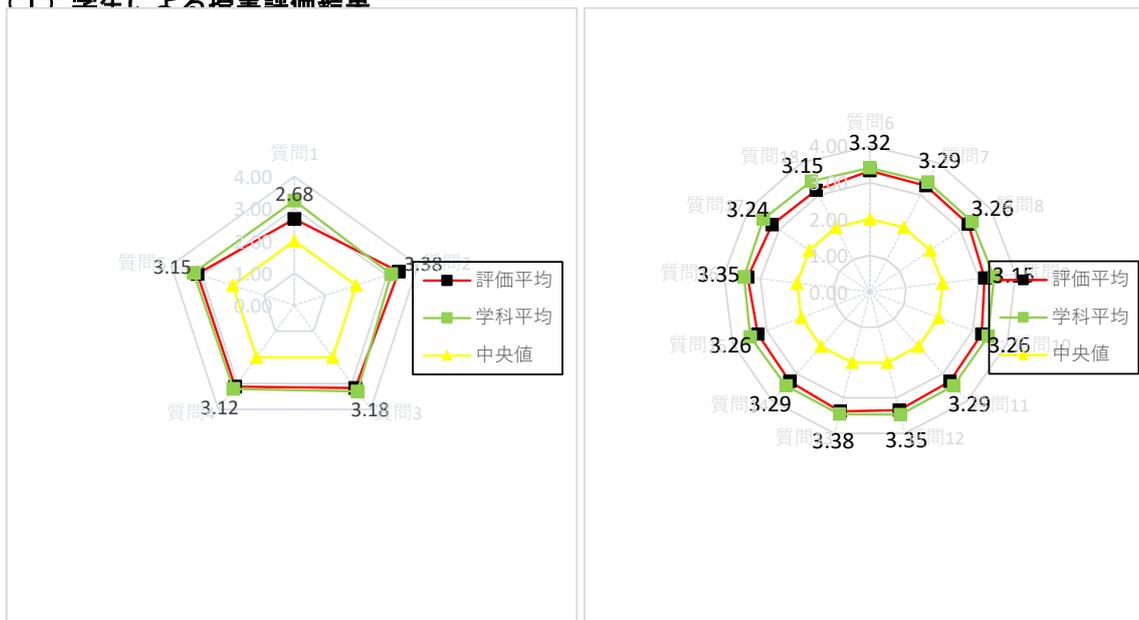
しかしながら、演習科目という性質を考えると、より実践的なグループワークやロールプレイ、ケーススタディなどの授業手法も取り入れていく必要があるかと思われる。

そのため、昨年度は249わくわくフェスタに参画し、託児体験プログラムも組み込んだ。

次年度は、学内行事などとの連携も含め、より演習科目としての授業展開が図れるように学科内にて議論を深めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学（演習含む）	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

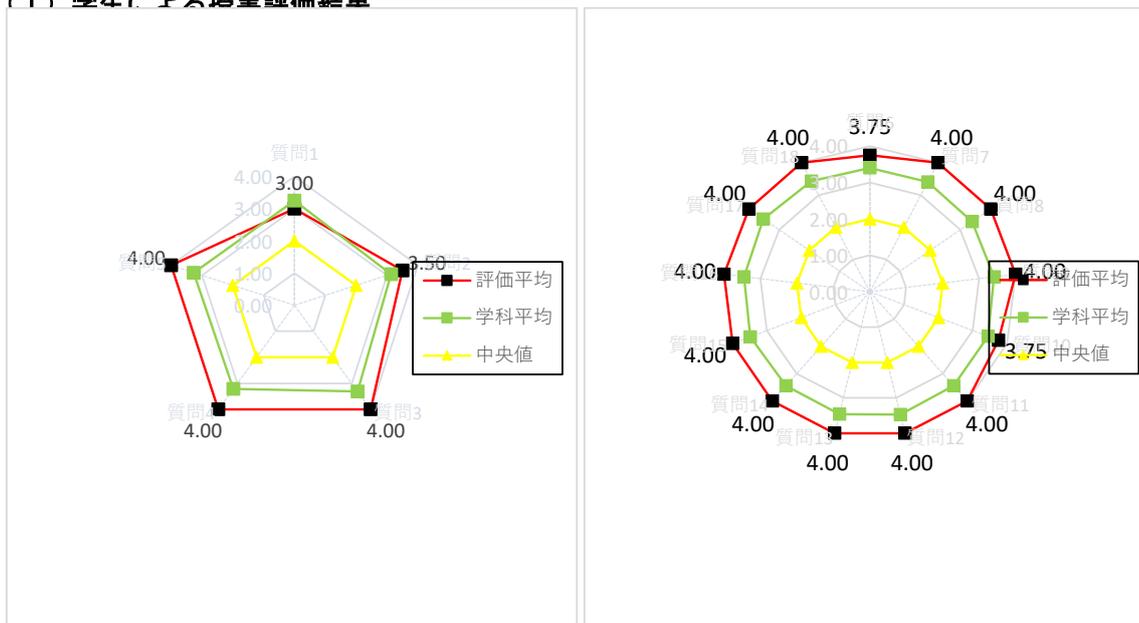
ほぼすべての項目で、学科平均より低くなっている。学生の中で、この科目の目的等が正しく伝わっていないことが要因として考えられる。また、この科目は学外での体験活動を行うこととなっているが、その体験内容が学生個人個人で異なるため、評価も難しいと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講学生に科目の目的・目標を正しく伝えるように努力したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

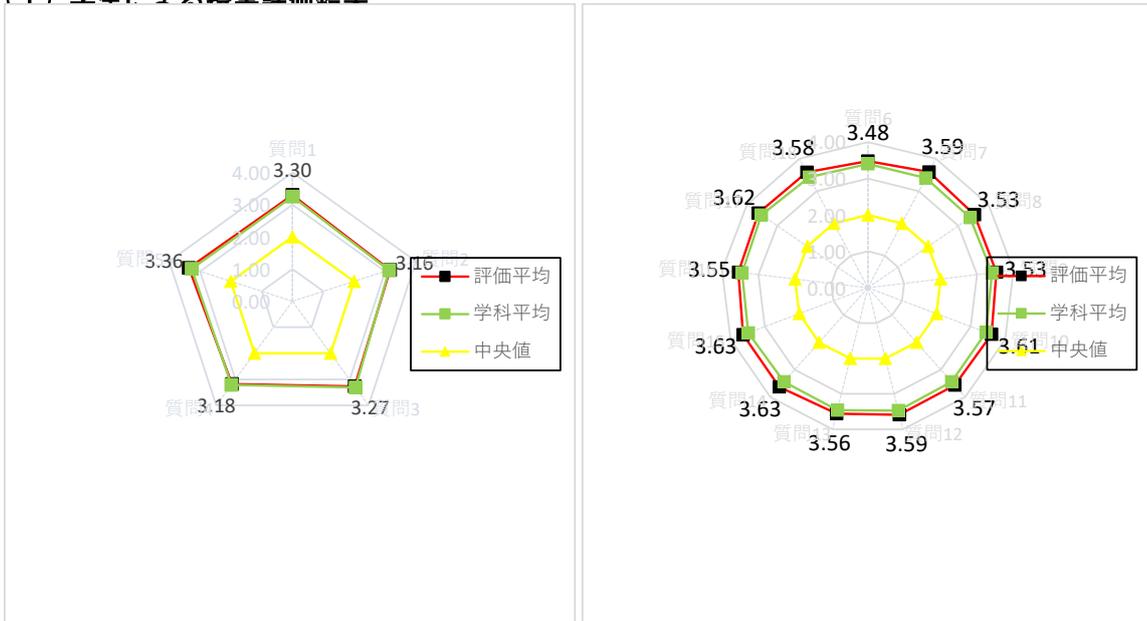
評価がほぼ満点であるが、ゼミ学生が4人ということも影響している。5月の段階では研究テーマが明確になっていたことで半期を過ごしやすかったことが要因と考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

後期の卒業課題研究Ⅱにつながるようスケジュール管理、学生の役割分担等について十分に協議しながら進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシー I (実習 を含む)	166名

(1) 学生による授業評価結果

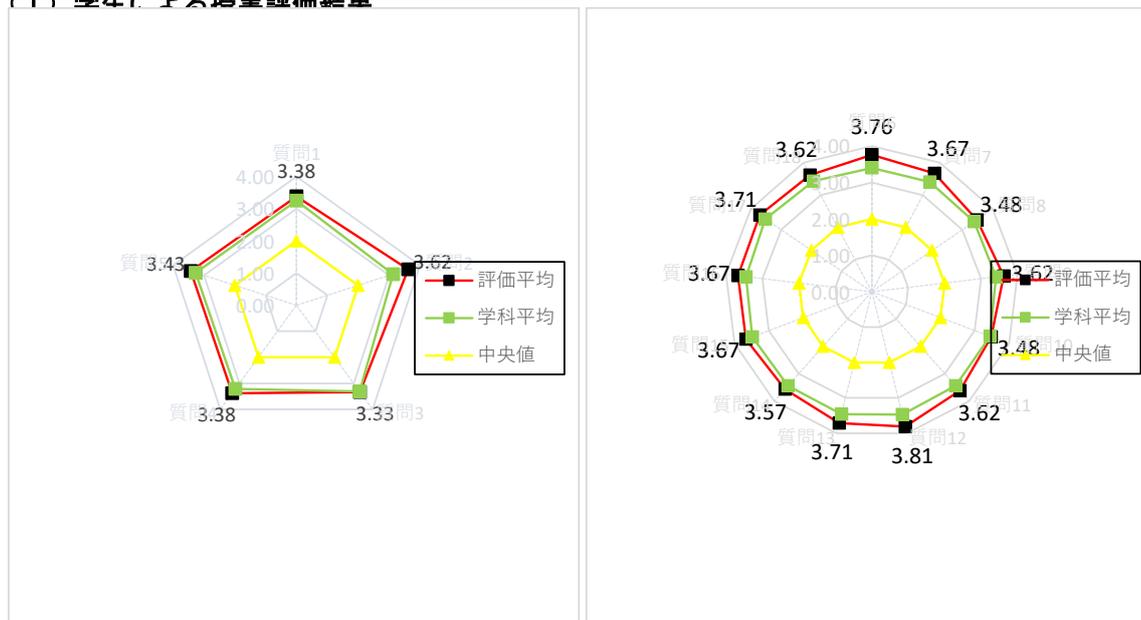


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学（演習含む）	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

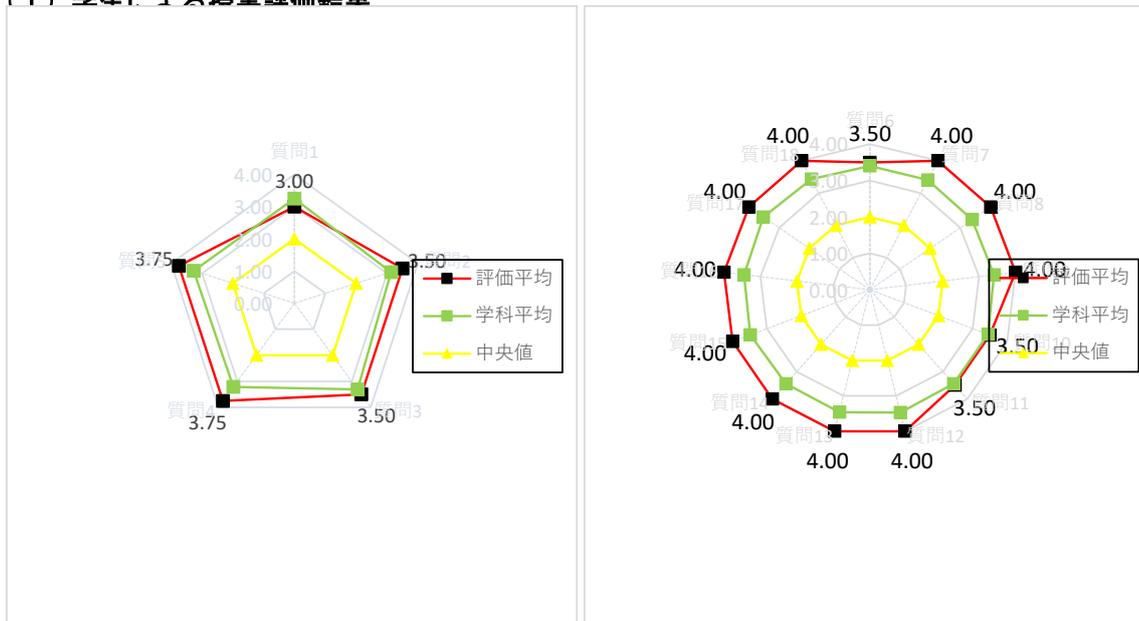
授業に不満なく、自己評価も高い。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は通年であり、前期は座学、後期は任意活動を中心に実施して、最後にまとめを行っている。授業では外部講師を招くなどして広い知見を得るようにしてる。授業のペースもゆとりをもたせている。この展開を継続して、応用・発展につながる考えや自らの行動につながるよう働きかけを強化したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

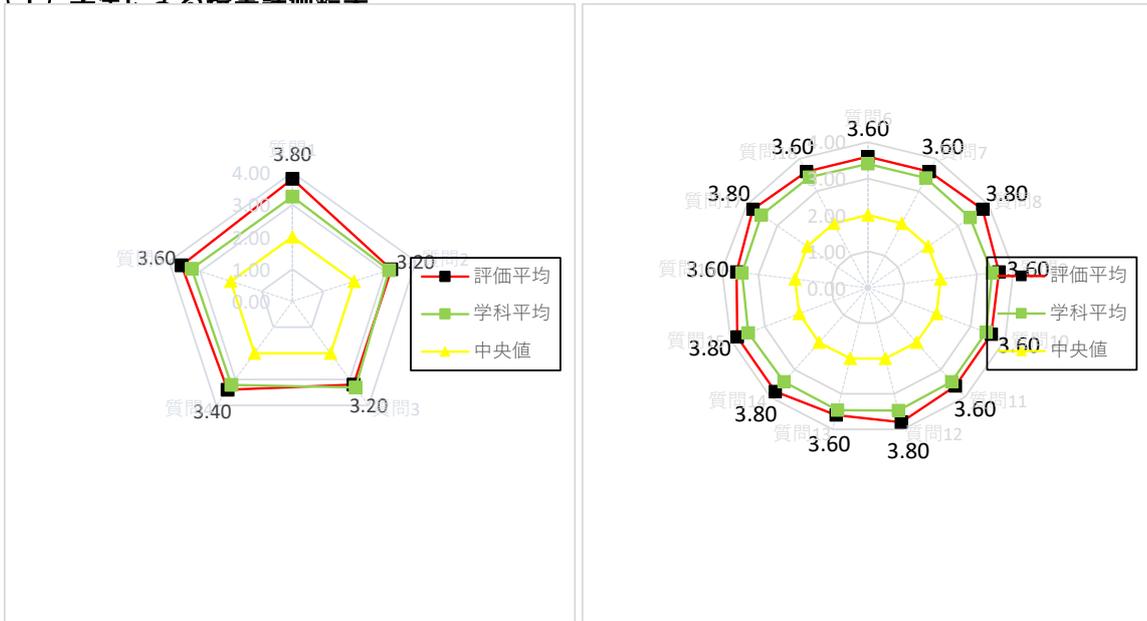
学生自身の授業への取組、教員の授業方法ともに、学科平均を上回る評価となった。特に「真剣な受講態度」や「自ら工夫した学び」に関する評価が高く、主体的に研究に取り組む姿勢が見られた。教員の関わりについても、「丁寧な対応」や「熱心な指導」が評価されており、学習支援の効果が表れている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の主体性をさらに引き出すために、関心のあるテーマに早期から触れる機会を設け、計画的な研究の進行を支援する。また、進捗共有や相互発表の場を設けることで、互いに学び合いながら探究を深められる環境づくりに努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	6名

(1) 学生による授業評価結果

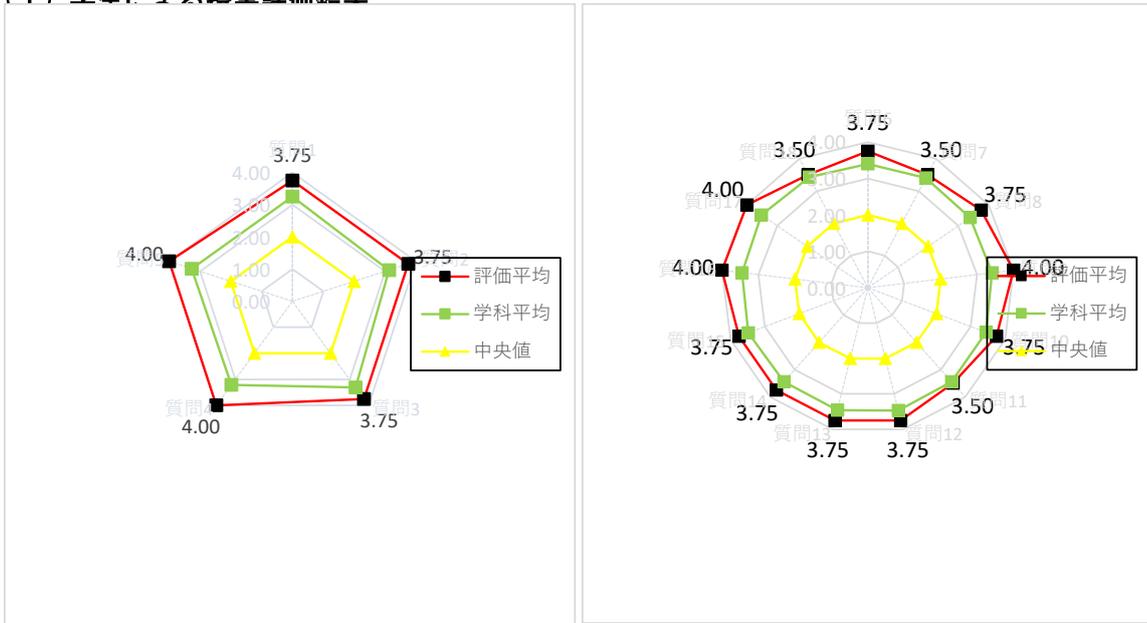


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	4名

(1) 学生による授業評価結果

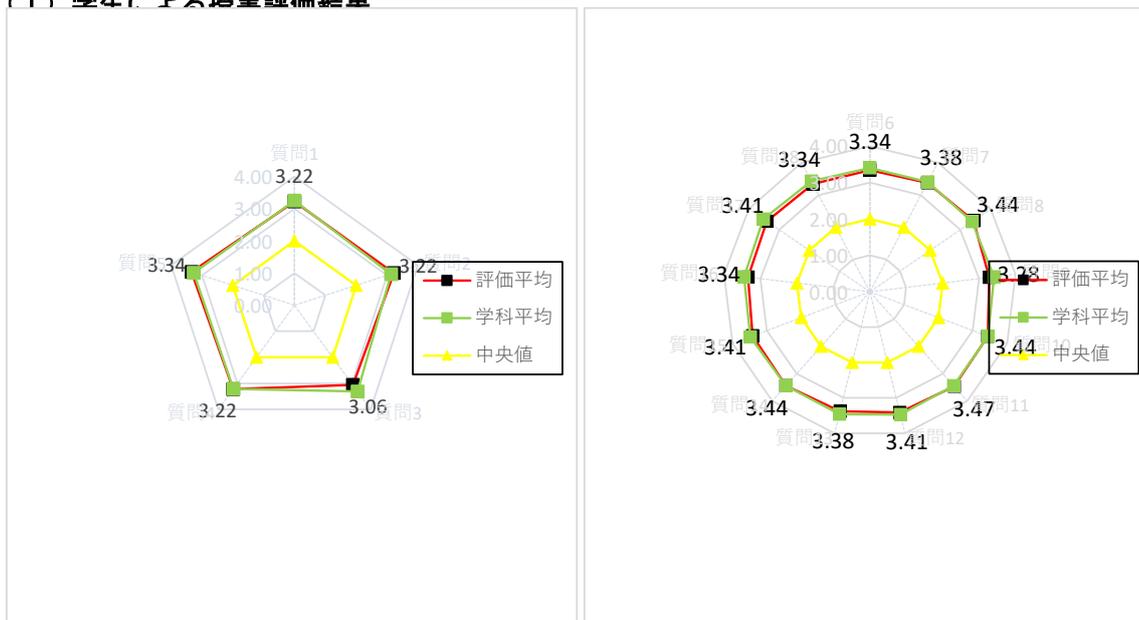


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学（演習含む）	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

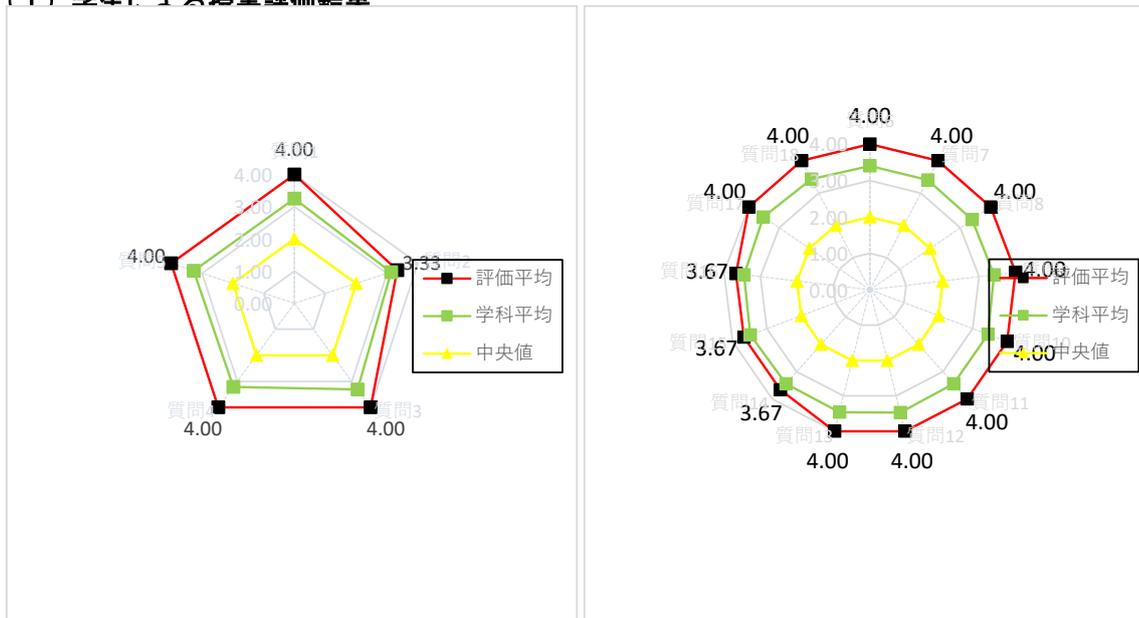
データがなく、41名中何人が回答し、自由記述に何が書いてあったか見ることができない。学生自身に関する評価は真剣に取り組まなかった、全体的に学科全体の評価と比べると低かった。自主的な取り組みに対してフォローする体制なので真剣に取り組んでいるのか母国語で話しているため判断がしづらい状況である。

(3) 次年度に向けての取り組み

話し合いはできるだけ日本語で行ってもらい真剣に取り組んでいるかどうかを判断していく。データがない理由を確認し改善してもらおう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

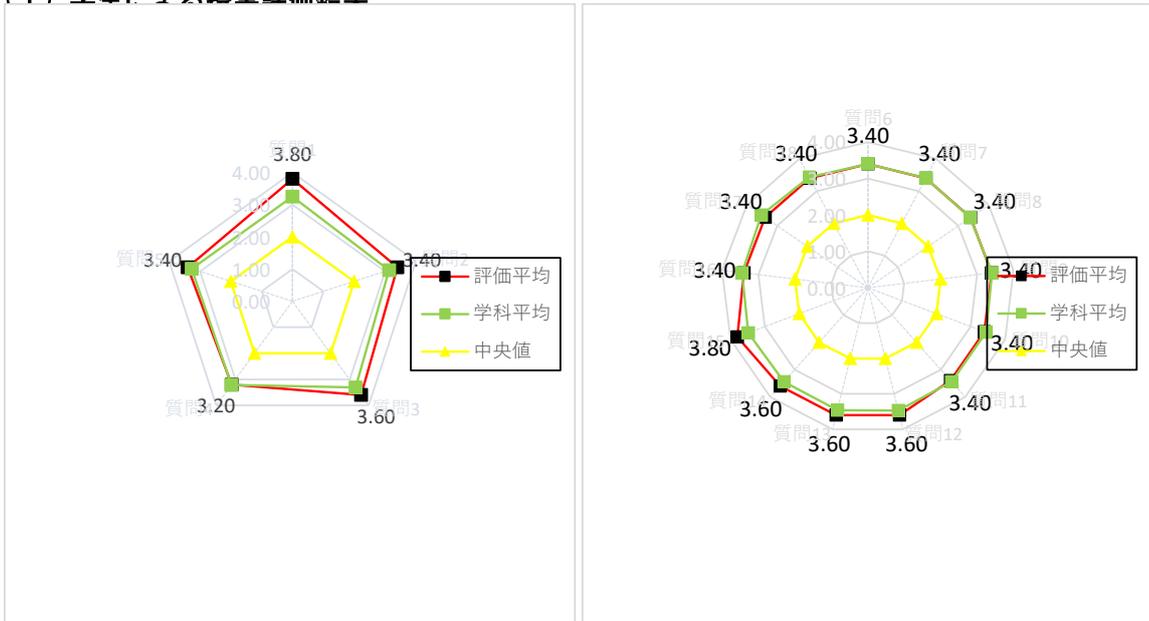
学生の自己評価である「シラバス（授業評価）を活用しましたか」の質問項目に対する評価が他の質問項目と比較してやや低いのは、前期のゼミ活動における「臨床美術（クリニカルアート）の理論学習と演習」において、材料の調達等でシラバスの順番が変更になったことも要因の一つであると考えている。可能な限りシラバスに示した順番で行うように心がけているのだが、生鮮品を用いたクリニカルアートの場合、モチーフが揃わないことがあった。その他の質問項目に対しては高評価であり、シラバスの内容や指導方法についてはこれまでの方法を継続していければと考えている。前期の活動において学生が非常に興味を示したのが、クリニカルアートの理念であった。これまで受けてきた図画工作や美術家の授業が、どうしても競争と評価の学習サイクルであったことに反し、クリニカルアートが共感と共有を大切にしているプログラムであるということで、苦手意識から解放されたという学生の感想が少なくなかった。学生たちの「保育現場に求められるカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーション能力」が高まったことは大きな成果であったと捉えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

このゼミでは毎年臨床美術（クリニカルアート）の考え方やスキルを保育現場でどのように生かせるかについて意見交換したり、実際に体験しながら指導者の留意点について考えたり、実際にできあがった作品に対して「言葉かけのシミュレーション」を行ったりしている。次年度も、まずはクリニカルアートに関する理論学習を学生の字たちに配慮しながら丁寧に行いたい。その上で、幼児保育に生かせるレベルのクリニカルアートのプログラムを体験させたい。ここで特に指導に力を入れているのは、出来上がった作品のシェアリングである。「望ましい言葉かけ」を「褒めること」だと思っている学生も少なくない。無理に褒めるのではなく五感を生かしたコメントができるようなスキルアップを特に前期では意識して行っていく。また、後期の「保育現場におけるプログラム体験」に向けて、発達段階に考慮したモダンテクニックの技法演習にも力を入れたい。また、本物に触れて鑑賞後の感想交流をするというアクティブラーニング型の活動も積極的に取り入れ、保育士としてのスキルアップにつなげさせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

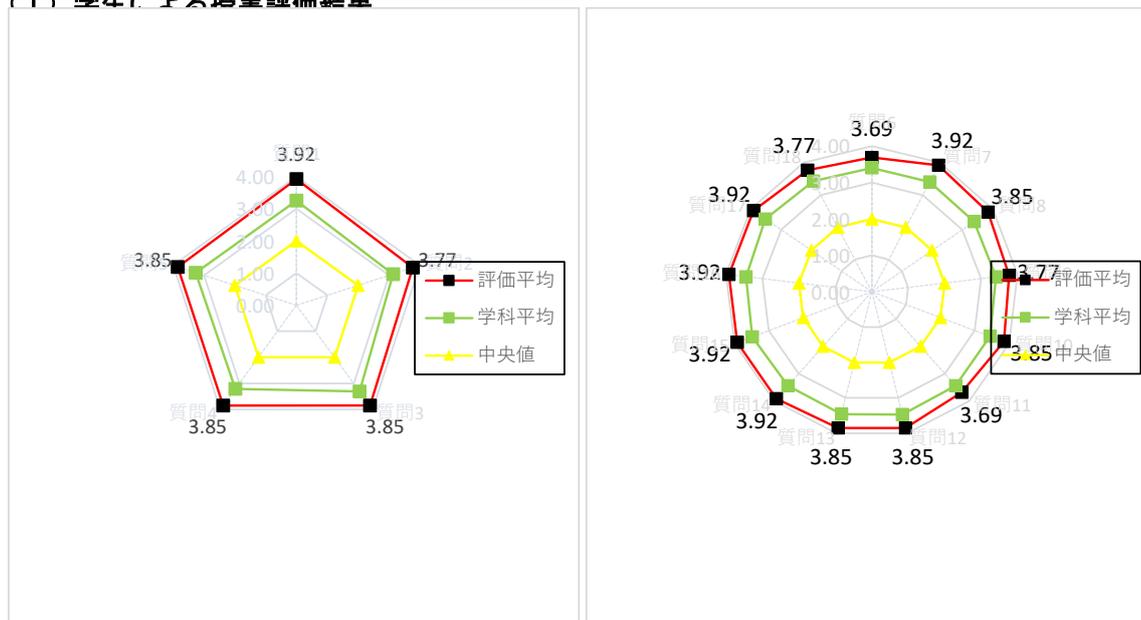
全体として学科平均と同程度からやや低かった。特に後半の質問に関する評価が低くなっていた。卒業課題研究は少人数で、学生の関心に合わせたテーマ選択を行うが、2024年度はテーマ選択に時間がかかったことが評価が低くなった原因として考えられる。一方で、欠席回数は非常に少なかった。学生の関心に沿った内容を実施していたことや、無理に進めようとしなかったことが、出席の意欲を引き出すことにつながった可能性がある。また学生に対する教員の対応に関しても、学科平均と同程度の評価であった。大きな問題はなかったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

到達目標や授業計画等に関しては、もう少し明確に学生に伝える必要があると思われる。また次年度は、より早い段階でテーマを決め、学生が目的意識や意欲をもって卒業課題研究に取り組めるようにすることが求められる。学生への対応に関しては、今年度同様、個別のやりとりを行いながら、ゼミ全体として研究を進められるような授業を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

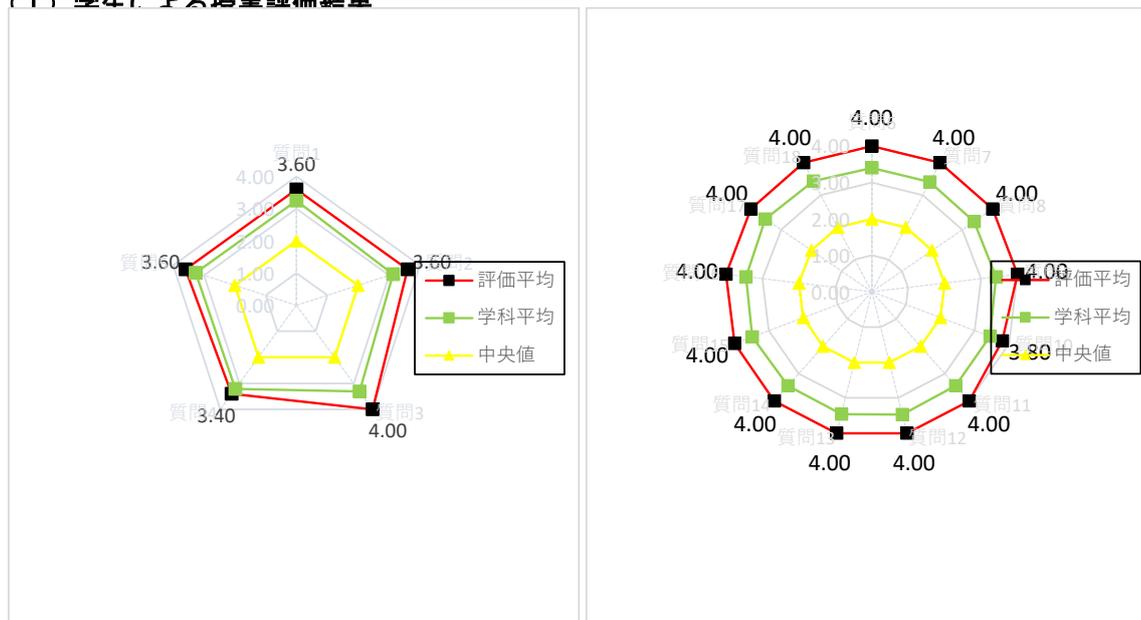
学生による本授業の評価は「シラバス」に関する項目以外は概ね高評価であった。卒業課題研究のシラバスは学科統一のものとなっているが、授業初回のオリエンテーション時に本授業の「授業概要」「授業目標」「スケジュール」について資料で示すようにしている。しかし、表現・音楽コースの卒業課題研究は「249わくわくフェスタ」に向けた取り組みの中で、日々現れる新たな課題を一つ一つ解決しながら進めていくため、シラバスの活用が難しい。学生自身の評価、教員の授業に対する評価の両方で「シラバスの活用」に対する評価が他と比較して低いのはそのためである。それ以外の項目では、学生、教員に共通して高評価である。「249わくわくフェスタ」という目標に向けて学生自身が意欲をもって本授業に取り組み、授業最後の中間発表会でも一定の達成感を持ったことの流れであると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業課題研究における「ミュージカル」の取組みは今年度で終了し、来年度は新たに「リトミックゼミ」を立ち上げ、地域交流など積極的にも行いたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

5/5 (100%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均よりやや点数が低かった。

その理由として、ゼミ活動はフィールドワークも取り入れているため、より体験的に取り組むことができたからだと思われる。

少人数だからこそその授業展開が図れたかと思われる。

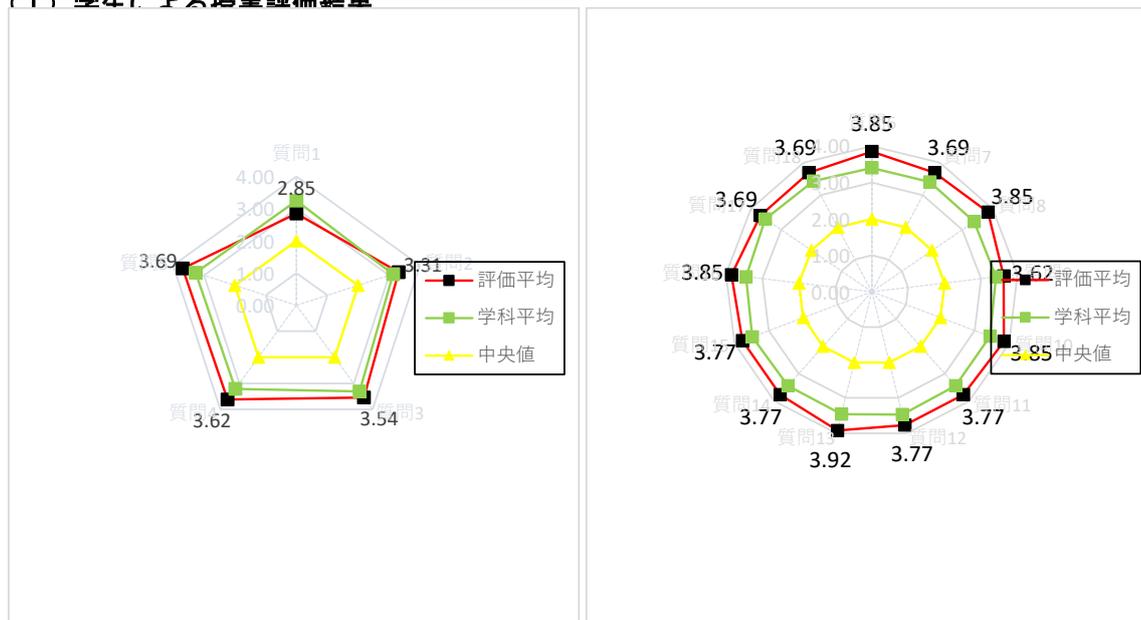
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、卒業研究はフィールドワークを取り入れ、学生が主体的に活動できるようにしていきたい。

また、地域のステークホルダーとつながり、学生も楽しめるようにゼミ活動の調整を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

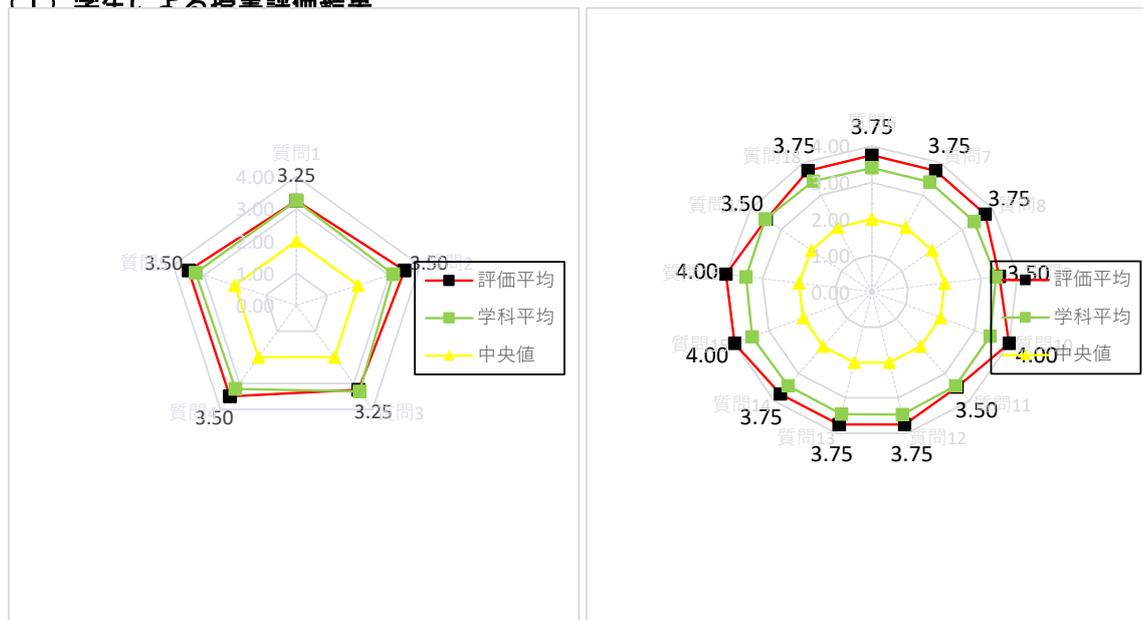
回答率は、履修者16名のうち13名（81%）であった。学生自身の評価としては、概ね平均値を上回っているが、質問1「出席回数」においては、目立って下回っている。これについては、欠席の多い学生集団が一部見られたことが一因だと思われ、自己認識もしていたことがわかる。授業に対する評価はほとんどが平均値を上回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

当該科目は、表現・音楽コース科目「器楽表現」と連続して行っており（金4，5限。1～3限は空きコマ）、出席率に、毎回大きな偏りが見られた。そのため、メンバー全員揃ってのグループ活動がなかなか実現できず、学生自身も苦労したと思われる。時間割のバランスよい組み方は学科全体の課題であるが、学生自身がモチベーションを保ち、活動しやすい環境を整えることも必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

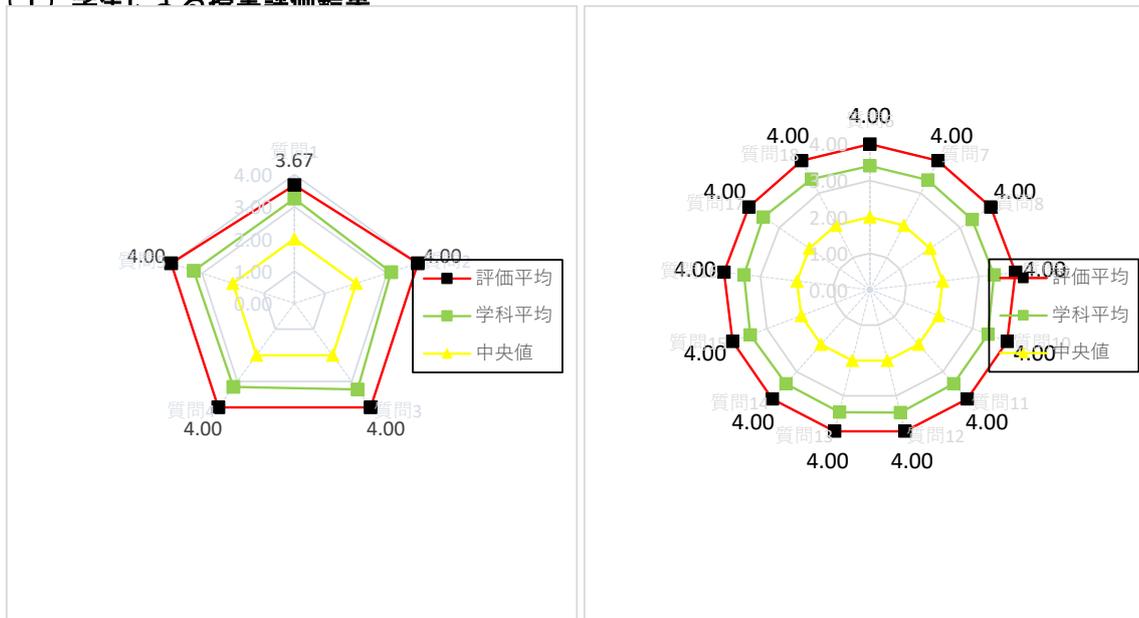
全体的に学科平均と大きな差がなく、学生はこの授業を好意的に評価していることが分かる。また、自由記述には「学生のペースで主体的に楽しく学習できました」と書かれていた。少人数でのゼミ活動であるため、この授業では一人一人の興味関心や意欲を大切に授業を展開した。そのため、「公平に学生に対応しましたか(質問15)」と「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか(質問16)」は共に学生評価「4.0」と満足度が非常に高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も一人一人の意欲を引き出せるよう、しっかりと学生とコミュニケーションを取りながら授業を進めていきたいと思う。学生にとっては自身の興味・関心に応じた取り組みに主体的に取り組むことができる授業であるため、学生の学びが深まるような取り組みや指導を引き続き心掛けたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

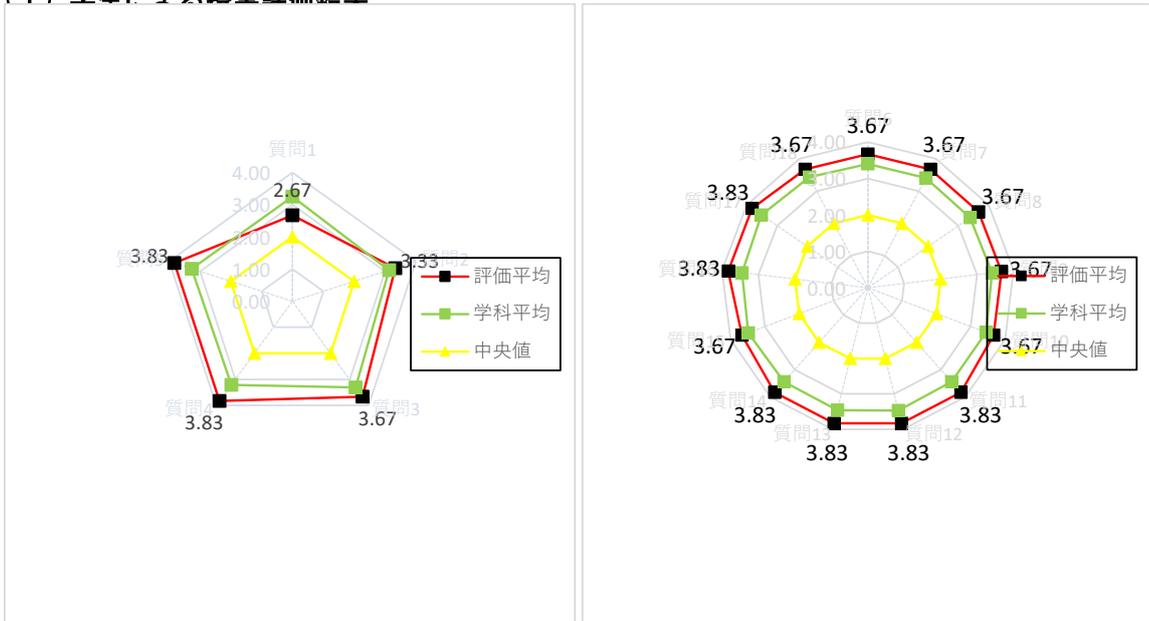
学生自身の取組、教員の授業方法ともに、学科平均を上回る評価であり、「卒課題研究Ⅰ」よりもさらに高い結果となった。特に「自ら工夫した学び」「真剣な受講態度」などで高評価が得られ、研究のまとめに向けて主体的に取り組む姿勢が育っていた。教員の指導についても「熱心さ」「丁寧な対応」などが評価され、学生の学びを後押しする関わりが一定の成果を上げたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

研究の達成感や学びの充実感につながるよう、発表や共有の機会をさらに充実させる。また、テーマ設定からまとめまでの一貫した支援体制を整え、学生が自信を持って取り組めるような環境づくりを一層進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	6名

(1) 学生による授業評価結果

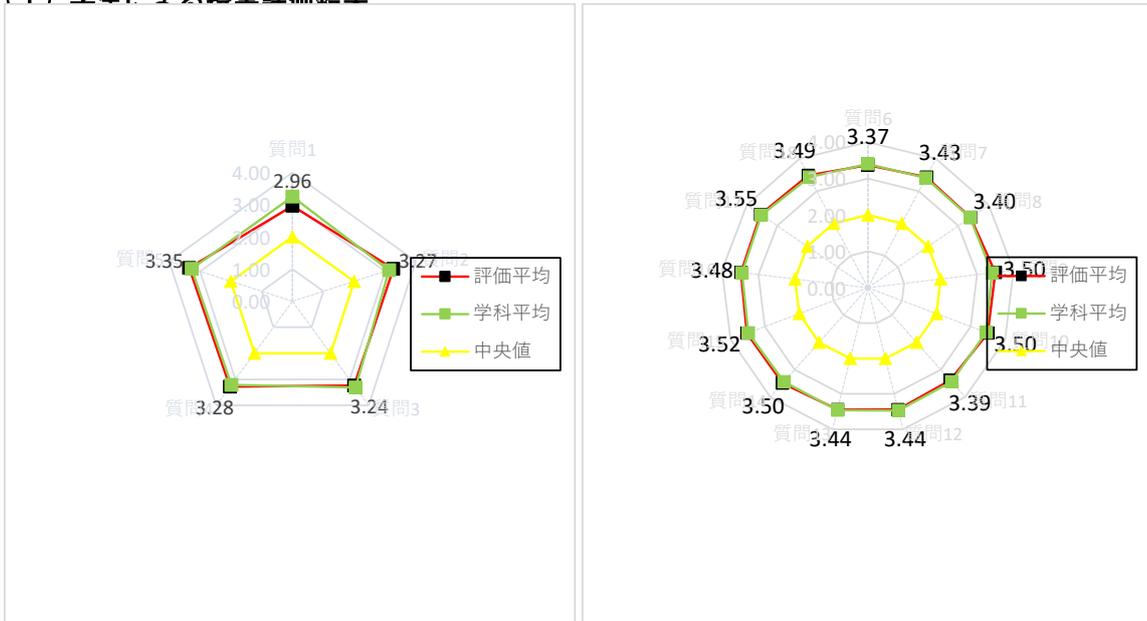


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシーⅡ	125名

(1) 学生による授業評価結果

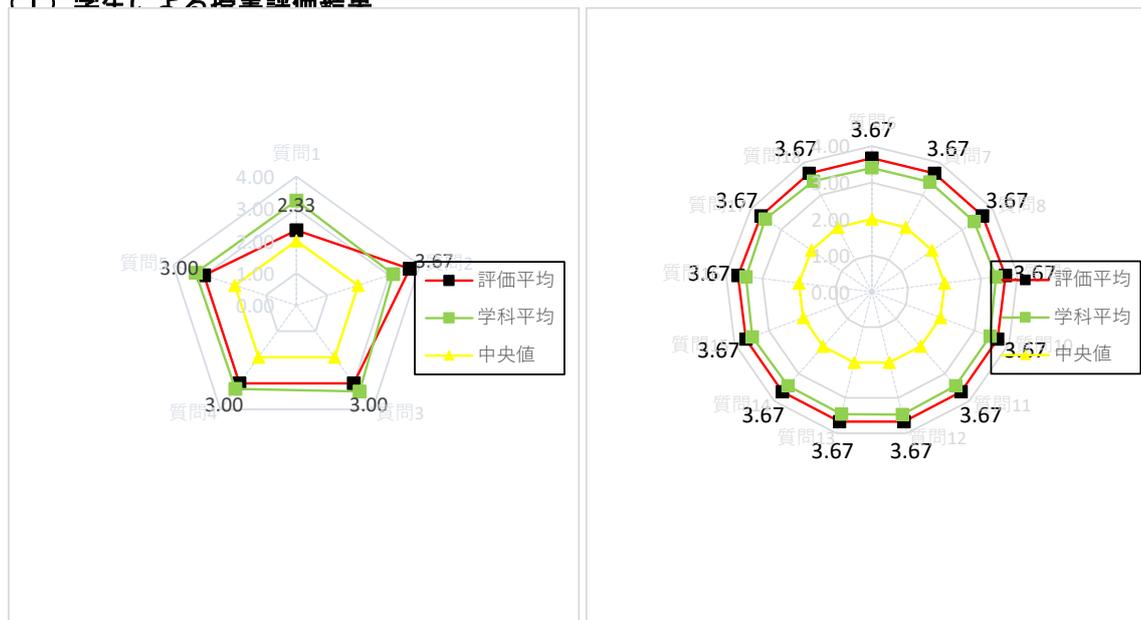


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の授業への取り組みに関する質問項目（質問1～質問5）に関しては、学科平均よりもかなり低い評価となっている。特に後期（卒業課題研究Ⅱ）の時期は研究実践が既に終了しており、活動の振り返りやまとめに多くの時間を割いたため、なかなか意欲をもって取り組むことが難しく、学生の自己評価が低く出ているのではないかと思います。また、回収率が6割（5名中3名提出）であった点も問題であると考えます。

一方で、授業の方法や教員に対する評価は決して悪いものではなく、全体的に学科平均と変わらない評価となっている。授業内容や進め方には一定の理解を示すものの、なかなか学生の意欲には繋がらなかった結果が、評価として表れているのではないかと思います。

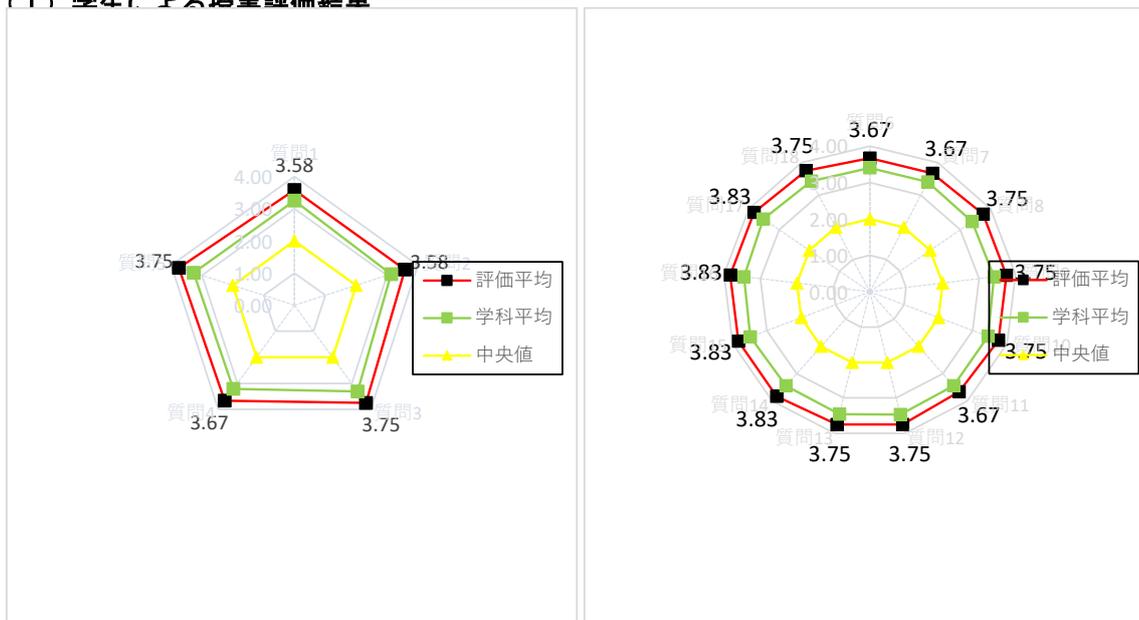
(3) 次年度に向けての取り組み

後期はどうしても活動のまとめが中心になってしまう。しかし、学生が意欲をもって主体的に取り組むことができるような活動を準備することで、学生の学習意欲を促すことはできるのではないかと思います。次年度は学内外での子どもとの触れ合いや、行事への参加など、学生が主体的に動けるような活動を設定したい。

また、回収率の悪さは正確な評価に繋がらないため、次年度は授業時間内に回答時間を設けるなど、回収率を高める工夫が必要であると思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

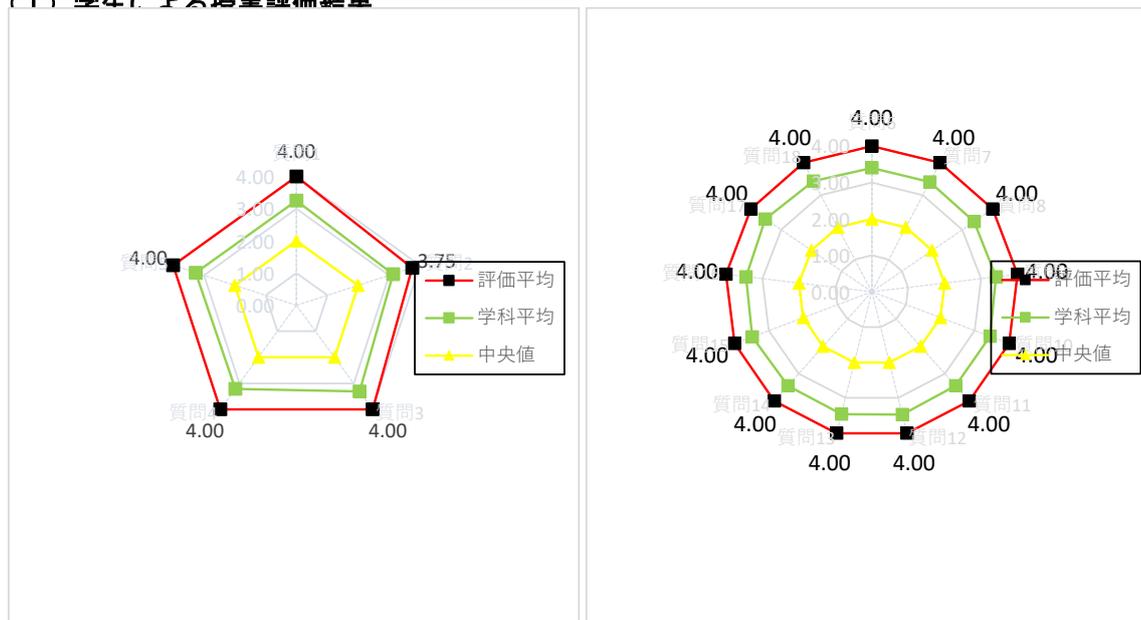
本授業は前期の卒業課題研究Ⅰに引き続き、表現フェスタ（実技発表会）に向けて、ミュージカル「いはひめ」の演技、歌、ダンスなどの舞台発表に向けた準備と発表会までの過程である。評価は全体的に高い値であり、ミュージカルづくりの過程と舞台発表での学びに対する学生たちが達成感や満足度の高さが窺える。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業課題研究における「ミュージカル」の取組みは今年度で終了し、来年度は新たに「リトミックゼミ」を立ち上げ、地域交流など積極的にも行いたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

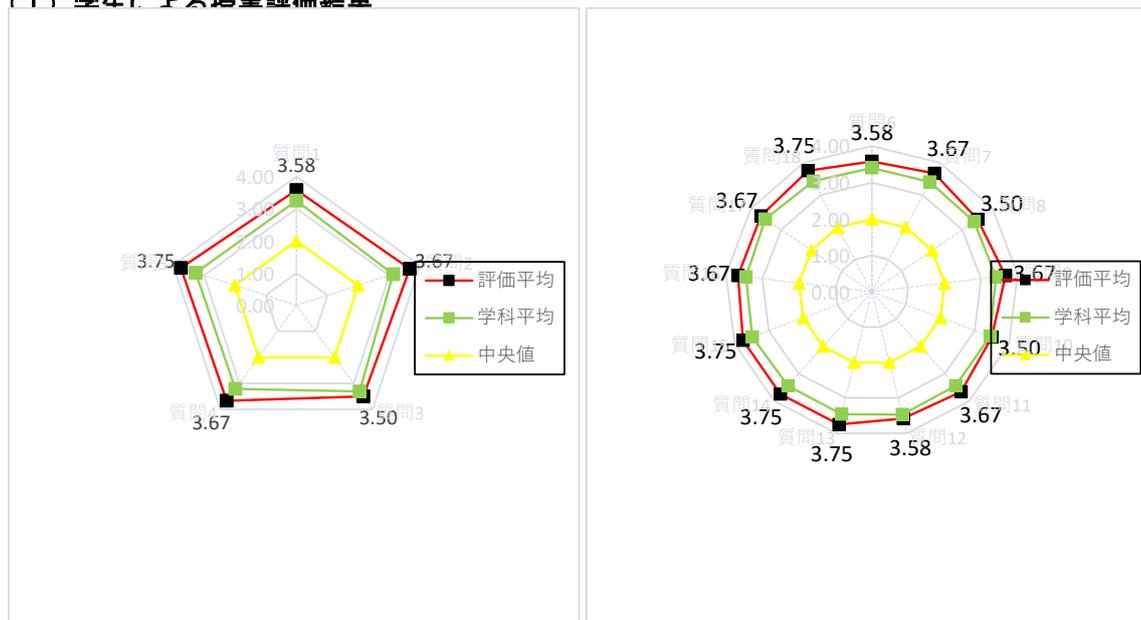
すべての項目において満点だった。前期の卒業課題研究Ⅰでもコメントしたが、ゼミ学生が4名ということもあり、このような結果になったのであろう。自由記述には、「多くのことを教えていただきありがとうございました。先生のおかげで楽しい授業になりました」「1年間がんばりましたありがとうございました！」とあり、学生が自ら考える授業になったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も本年度同様に学生の思いを大切にしつつ、研究意欲を高めるようなスケジュールリング、テーマ設定に心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

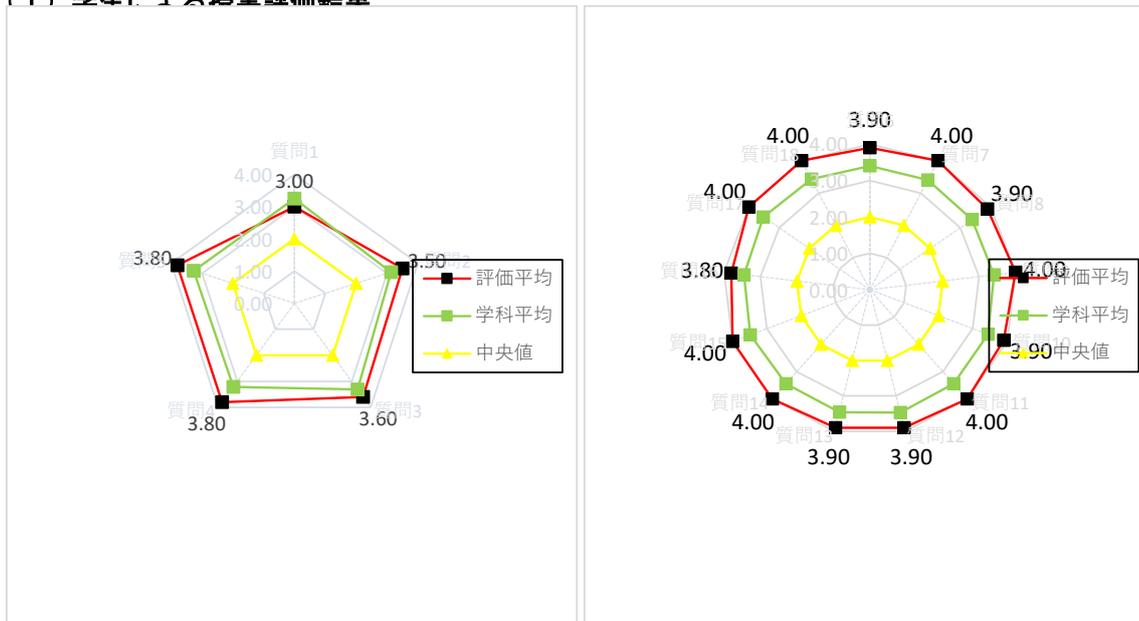
学生の自己評価では、質問1の授業の出席以外は全て学科平均を上回った。昨年度より産学連携でレシピ開発を行っている。地域企業の要請を受けて地域の食材を用いたレシピ開発が学生の興味関心を喚起し、学生の得意分野を活かす取組みができたことが大きな要因と考える。授業評価全般についてはほとんどが学科平均を上回り一部は同等の数値を示した。授業はグループ研究で互いに協力し合い自発的に取り組み、優れた活動ができた。後期になると学外実習や就職活動に忙しく、ゼミ活動への意欲の低下がやや見られた。しかし、レシピ開発と他大学や企業との交流を交え、多くの取組みを達成する中で反省点はあるが、学生の達成感と満足度は高かったといえる。

(3) 次年度に向けての取組み

次年度は、今年度の開発レシピを活かした取組みに加え、新規な食材によるレシピ開発に取り組む予定である。その際も学生と密にコミュニケーションを取り、テーマについて話し合い、学生の興味関心を成果に結び付けたい。学外の地域活動など学生の食、栄養の知識、技術を実践できる活動を効果的に取り入れる工夫をして取り組む予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

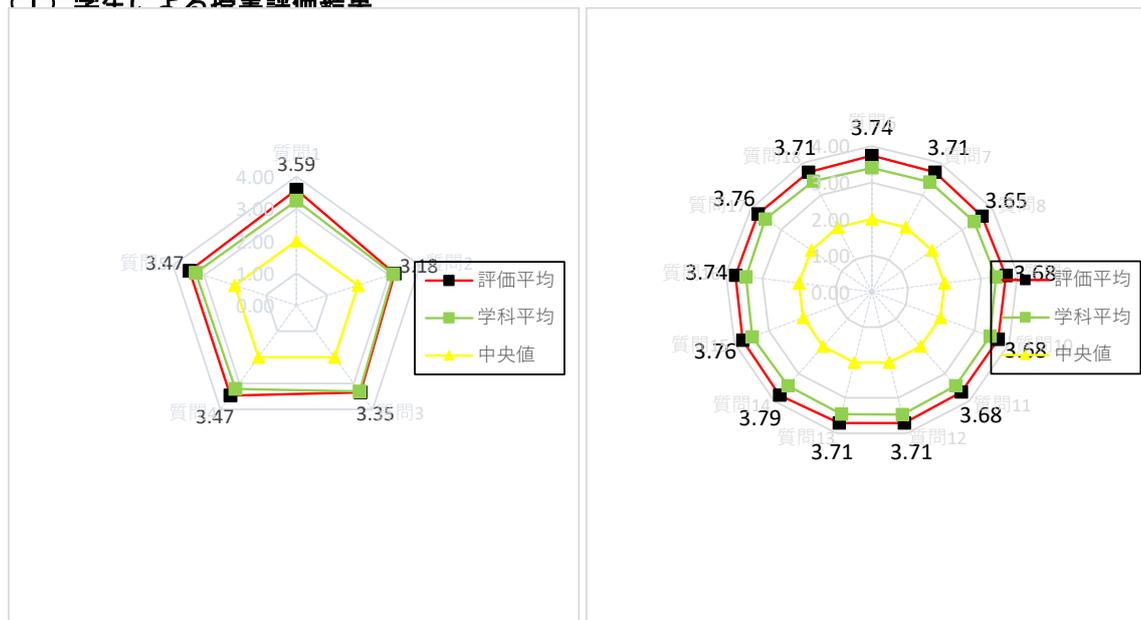
回答率は履修者16名のうち、10名（63%）である。
 前期開講「卒業課題研究Ⅰ」と比較すると、全ての項目で数値が上昇しているため、
 学生・教員共に発表会に向けて意識を高めて取り組んだことがわかる。
 ただし、質問1「出席状況」については、大きく下回っている。
 この部分は、前期と同様に低い値であったが、発表会が11月という早い時期に実施されたことで、
 後期の前半部分（10～11月）に集中して多数開講したため、
 全開講時間に全員が揃うことに多少の無理があったことが起因しているのではないかとと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度からはコース制度が完全に終了し、アンサンブルはゼミのひとつとして継続していくことになる。
 履修人数もこれまでのような10人強とはいかず、しかも単独学年で完結していかねばならない。
 そのため抜本的な見直しと新しいアイデアをもって、地域貢献できるような音楽活動の在り方を
 学生と共に模索していきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

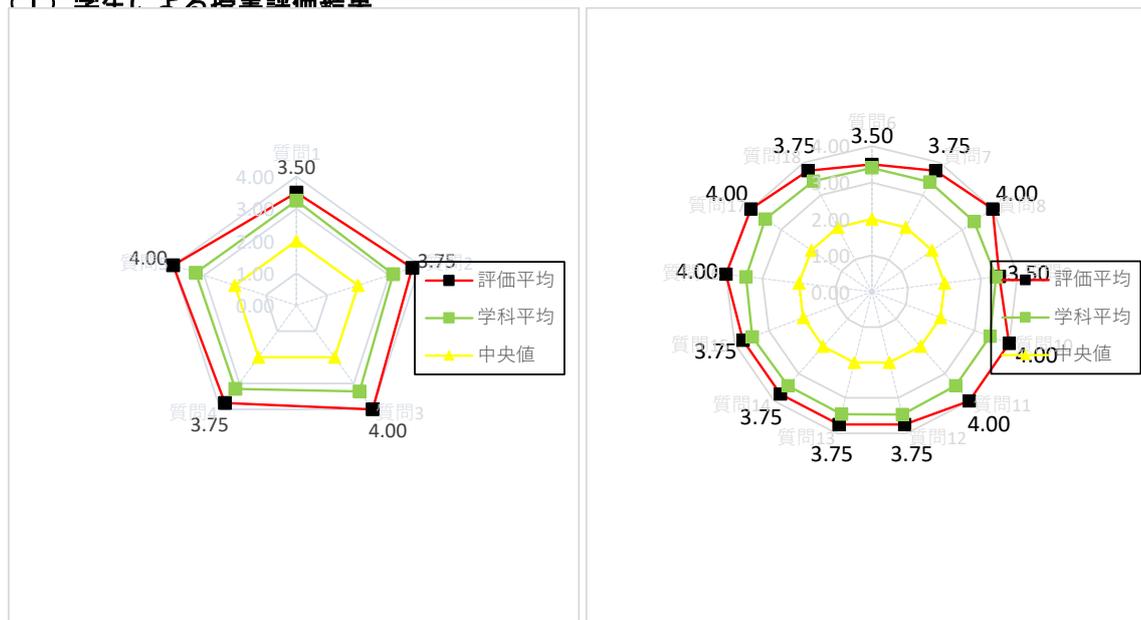
本授業は、授業評価平均が全体的に高く、特に「教員の説明が分かりやすい」「学生の質問や相談に丁寧に応じていた」「学習意欲を引き出していた」といった項目で3.7以上の高評価を得ている。総合評価も3.66と良好であり、学生の満足度は非常に高いといえる。一方で、質問2（シラバスの活用）や質問3（自己課題への主体的取組）など、学生自身の学習計画や主体性に関する項目が他に比べやや低く、今後の改善の余地がある。また、自由記述には「素晴らしくてプロな先生に教えてもらった」との記載があり、教員への信頼感と感謝がうかがえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

高評価を得た点を維持・継続するとともに、学生の学習への主体的関与をさらに促す工夫が必要である。具体的には、シラバスの活用方法について授業内で改めて触れる時間を設け、自己課題の明確化を支援する仕掛けを検討する。例えば、学期初めに学びの目標設定ワークを導入し、振り返りを定期的実施するなどの仕組みが有効である。また、グループや個別相談の機会をより柔軟に設けることで、学生の思考の整理と課題の深掘りを支援し、主体的な学びにつなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

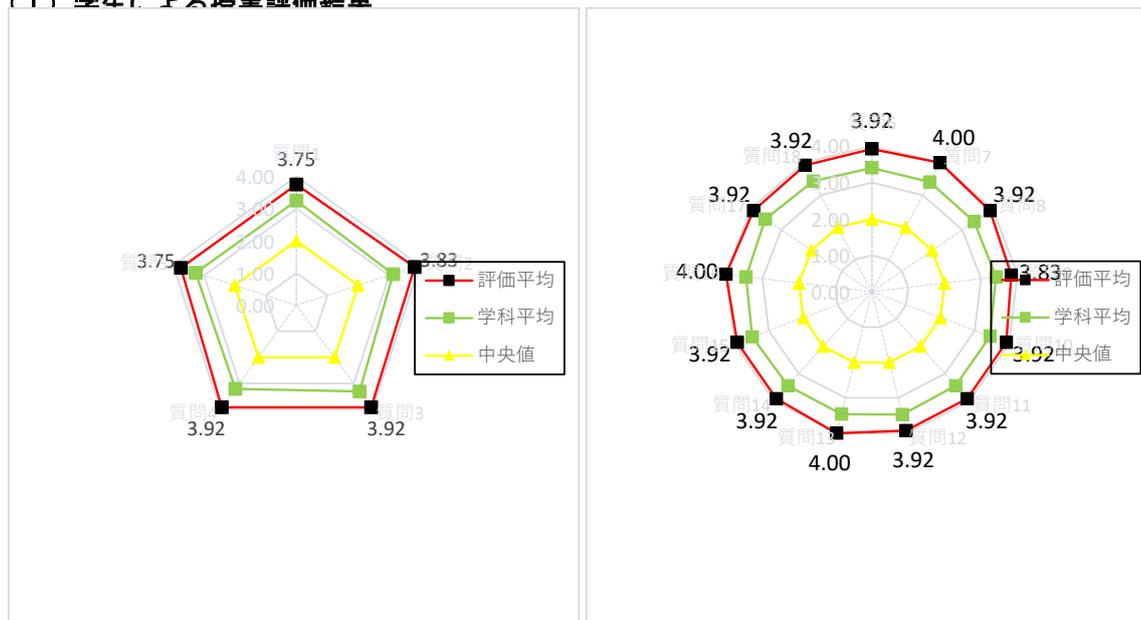
後期は、主としてクリニカルアートやモダンテクニックを生かした現場での演習に力点を置いた。質問9については短大内での授業よりも、学外における実践が多かったことが要因であると思う。現場での実践については、事前に密に連絡を行った上で出向いた。小城市教育委員会を通して小城中学校におけるアートを生かした異文化交流の依頼があった。また、佐賀県国際課と多久市との共催で「アートを生かした市民と外国人との異文化交流」は令和4年度に続いて2回目の実施となった。どちらの実践もアートを生かした異文化理解であったために、留学生との交流も深まった。また、波佐見町（長崎県）の放課後児童クラブにおけるワークショップは、昨年度に続き施設からの要請で出向いた。ゼミ生たちは小学生が対象であるということで、言葉かけに不安を持つ者がいたが、実際に行ってみて「発達段階に関係なく、五感を通じたコメントは関係づくりに非常に有効であることが分かった。」という感想を寄せるなど、成果が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

臨床美術（クリニカルアート）の理論やスキルを保育現場でどのように生かせるかについて意見交換したり、実際に体験しながら指導者の留意点について考えたり、実際にできあがった作品に対して「言葉かけのシミュレーション」を行ったりしている。次年度も、まずはクリニカルアートに関する理論学習を学生の字たちに配慮しながら丁寧に行いたい。その上で、幼児保育に生かせるレベルのクリニカルアートのプログラムを体験させたい。ここで特に指導に力を入れているのは、出来上がった作品のシェアリングである。「望ましい言葉かけ」を「褒めること」だと思っている学生も少なくない。無理に褒めるのではなく五感を生かしたコメントができるようなスキルアップを特に前期では意識して行っていく。また、後期の「保育現場におけるプログラム体験」に向けて、発達段階に考慮したモダンテクニックの技法演習にも力を入れたい。また、本物に触れて鑑賞後の感想交流をするというアクティブラーニング型の活動も積極的に取り入れ、保育士としてのスキルアップにつなげさせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業の特徴は学生自らテーマを設定し目標を立ていくため、グループ内でのコミュニケーションにも重きを置いて授業に取り組んでいる。評価の結果は学生自身のQ4「授業の出席回数」3.92と高く、総合自己評価は3.75であった。教員側の授業内容・方法においては全ての項目は3.83～4.00であった。総合評価は3.91である。学生自身が積極的に参加できるように双方向的なやり取りをおこない、質疑応答の時間を設けるなど興味・関心をもたせながら授業を展開した。総合評価を学科平均と比較すると0.34高かった。

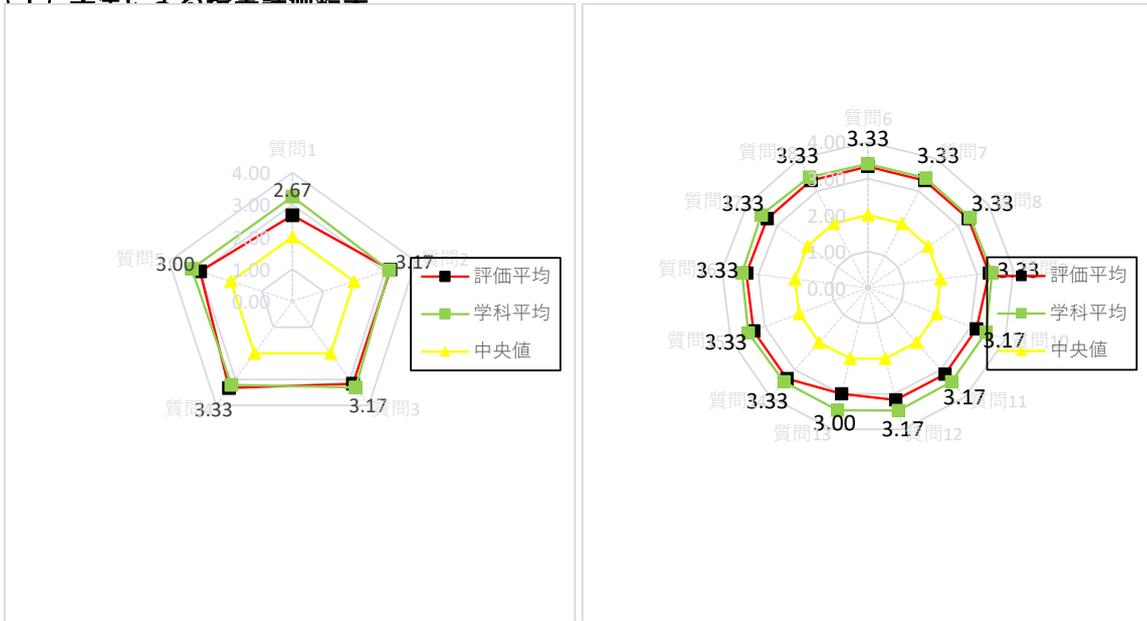
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みは今年度同様におこなっていく。

- ①シラバスを活用させ目的意識を明確にする。
- ②グループ活動では互いが意見を出し合い、ディスカッションできる環境をつくっていく。
- ③机上・学内だけでなく地域との連携ができるような体制で実施し実践力を高めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	21名

(1) 学生による授業評価結果

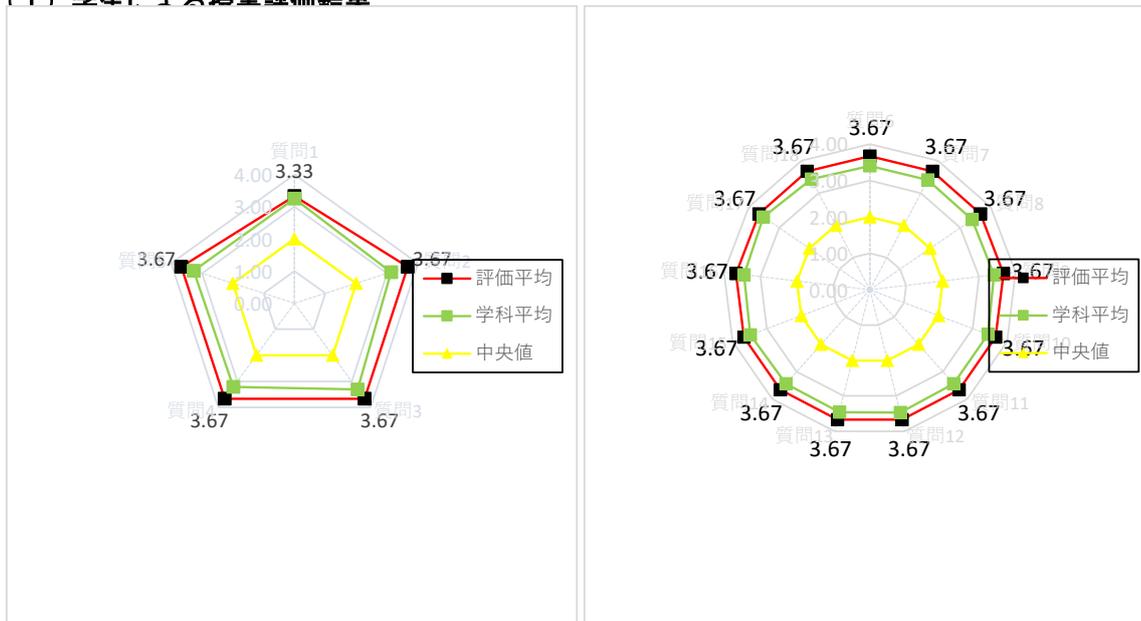


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

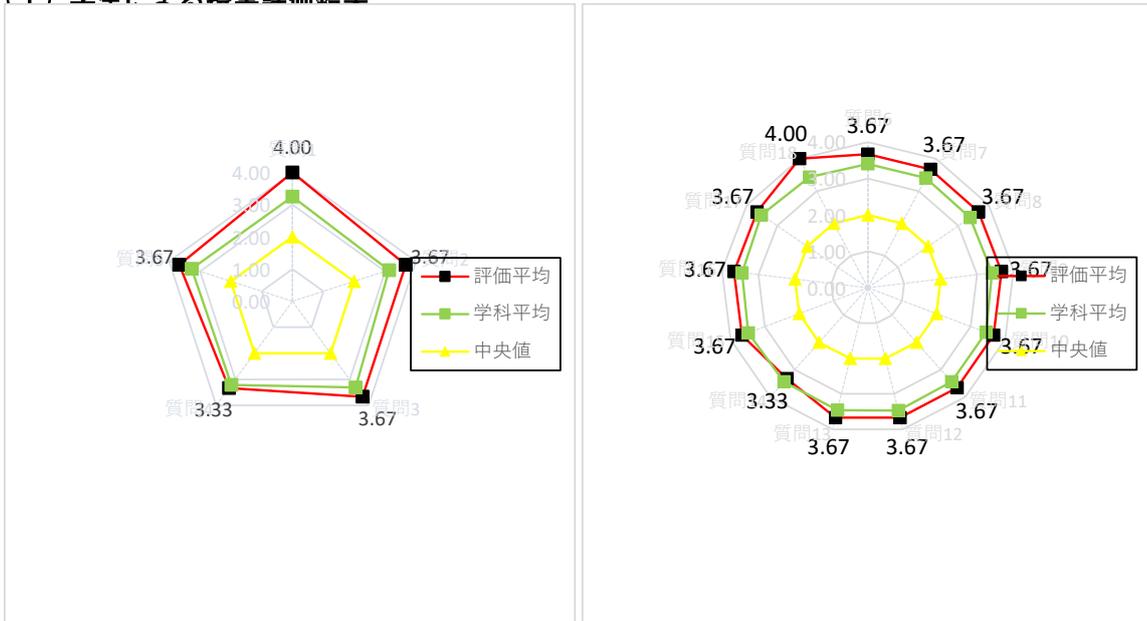
全体として学科平均と同程度からやや高い評価であった。前期の卒業研究課題Ⅰに比べて高い評価となったのは、卒研発表会に向けてテーマを決め、明確な目標をもって取り組めたことが一因と考えられる。授業に対する学生の取り組みも積極的で、関心に沿ったテーマを取り上げ、学生同士で協力して活動を進められたため、学生にとっても満足度の高い授業になったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、目標に向かって学生同士が協力して取り組むことを支援していく必要がある。また学生が意欲を持てるようなテーマ選びや、学生に対する平等な対応、教員も積極的に活動に入っていくことなどが求められると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

(1) 学生による授業評価結果

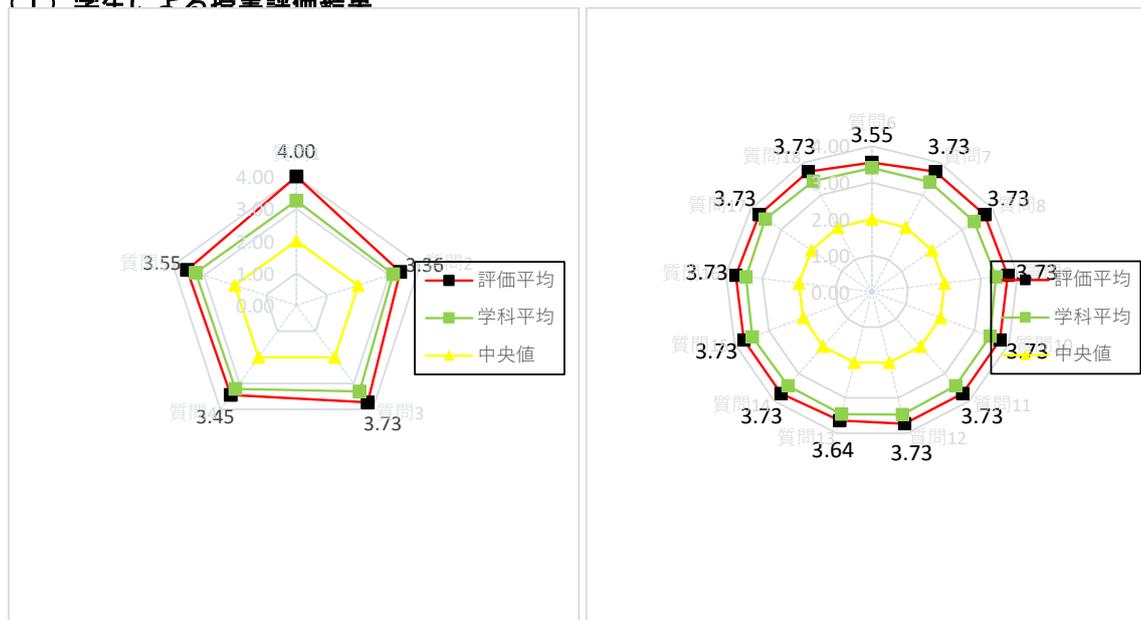


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

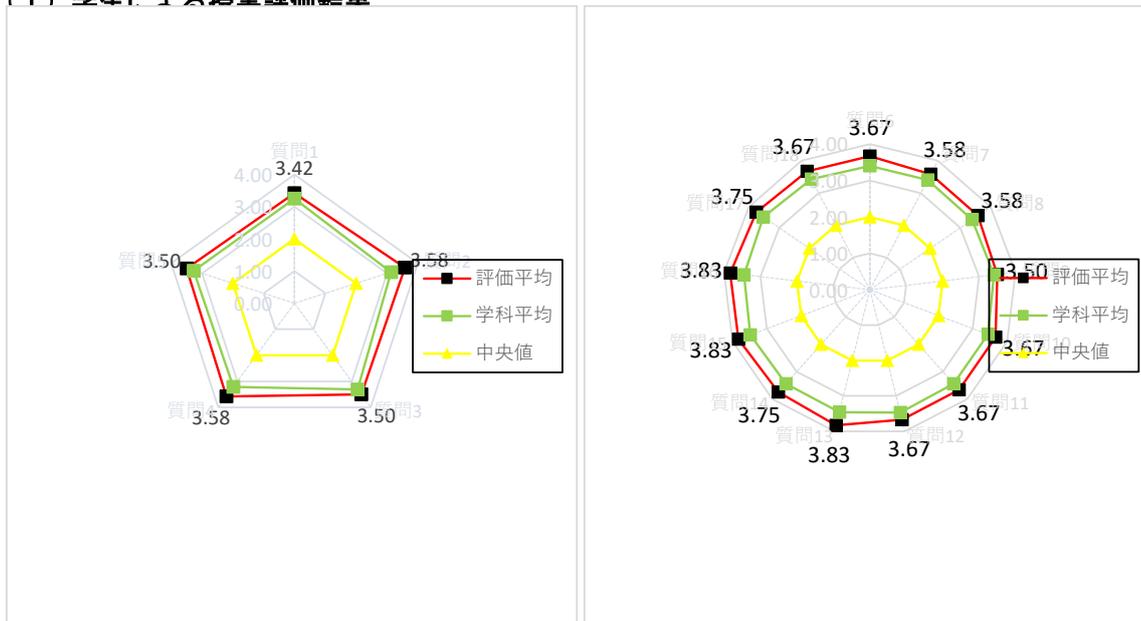
授業の総合評価は3.73であった。質問6~18について学科平均並みであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究は、例年、学生が取り組みたいテーマで行っている。今年度も起業体験をテーマに取り組みたいということであった。テーマに選んだ食材ができるところから学ぶため学外の生産者にアポを取って体験学習に臨み、その後学内での起業体験を行った。学生達は意欲的に取り組むことができていた。起業をするために必要な一連の流れを経験していく中で大変さを実感したようであったが、同時に、終了した後の達成感、満足感も大きかったようである。次年度も学生達と意見交換を重ねながら自ら考え動き解決する能動的な卒業研究としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

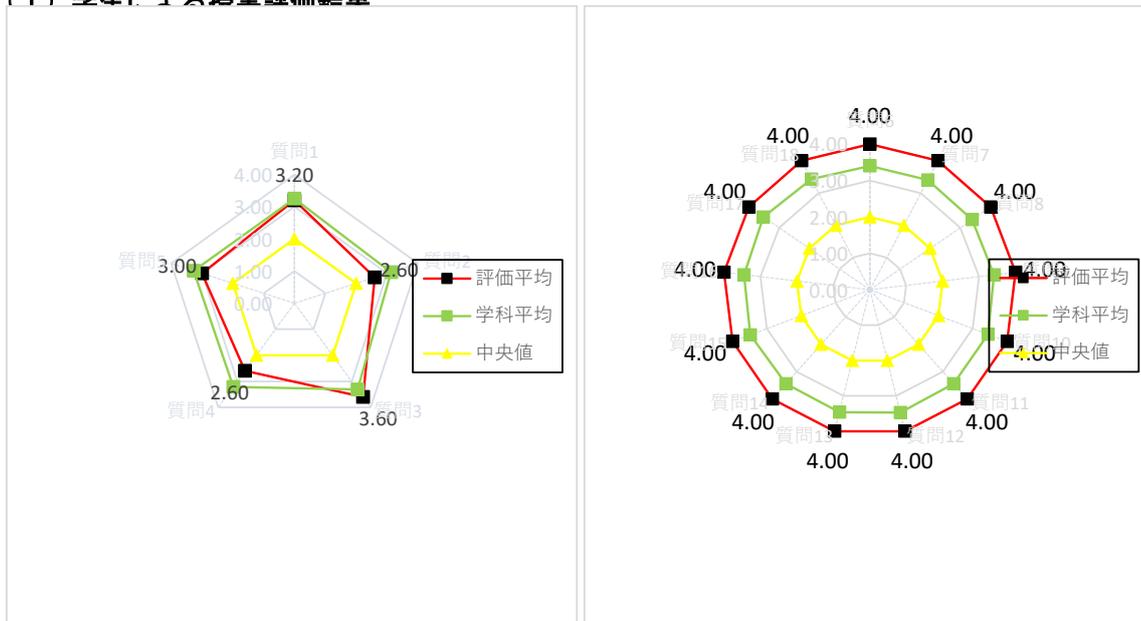
総じて平均的な自己評価と授業評価と判断している。強いていえば、比較的平均よりも若干高い値となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究では、グループ自らテーマを考えて基礎から応用実践に取り組んでいる。この方法を継続して、必要な声掛けを行う以外は、学生の自主性を育むように指導をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

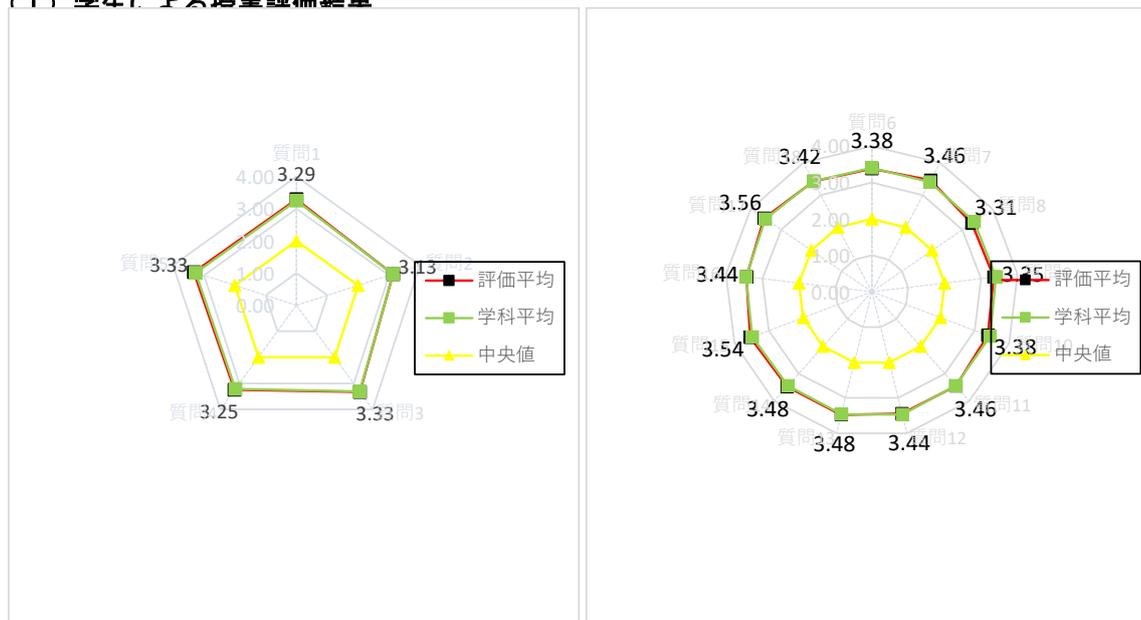
5/5 (100%) の回答であった。
 授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均よりやや点数が低かった。
 その理由として、ゼミ活動はフィールドワークも取り入れているため、より体験的に取り組むことができたからと思われる。
 少人数だからこそその授業展開が図れたかと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

ゼミ活動においては、次年度においてもフィールドワークを取り入れ、学生が主体的に活動できるように工夫していきたい。
 また、研究発表会においては、学生の整理しまとめる力を伸ばすために、プレゼンテーションの指導にも時間を割いていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		レクリエーション概論	64名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

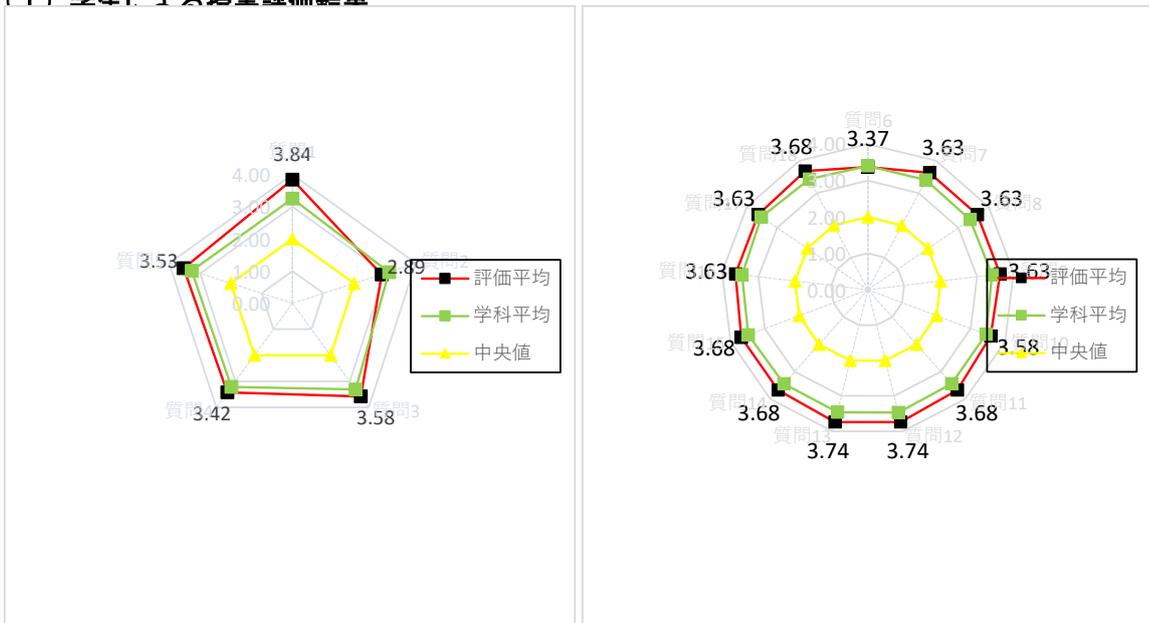
この科目はレクリエーションインストラクター取得に関連した科目であるが、取得を考えない学生も受講できるため、学生の温度差があるなかでの授業に難しさを感じている。また、この科目は遠隔授業のため、オンラインやオンデマンドで実施したが、上手く伝わらないことや学生の顔が見えない中での授業は非常に難しかった。ブレイクアウトルームなどを活用したりしたが、その様子を確認することも難しく、その不安要素がそのまま評価にも表れていると考えられる。遠隔授業での工夫や遠隔だからこそその工夫などまだやれることがあったのではないかと反省している。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は対面での実施を検討してもらっているが、レクリエーションの意義、必要性について学生が理解できるように工夫をしていきたい。また、資格取得を目指す学生、そうでない学生といることを理解しつつ、授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		レクリエーション実習	15名

(1) 学生による授業評価結果

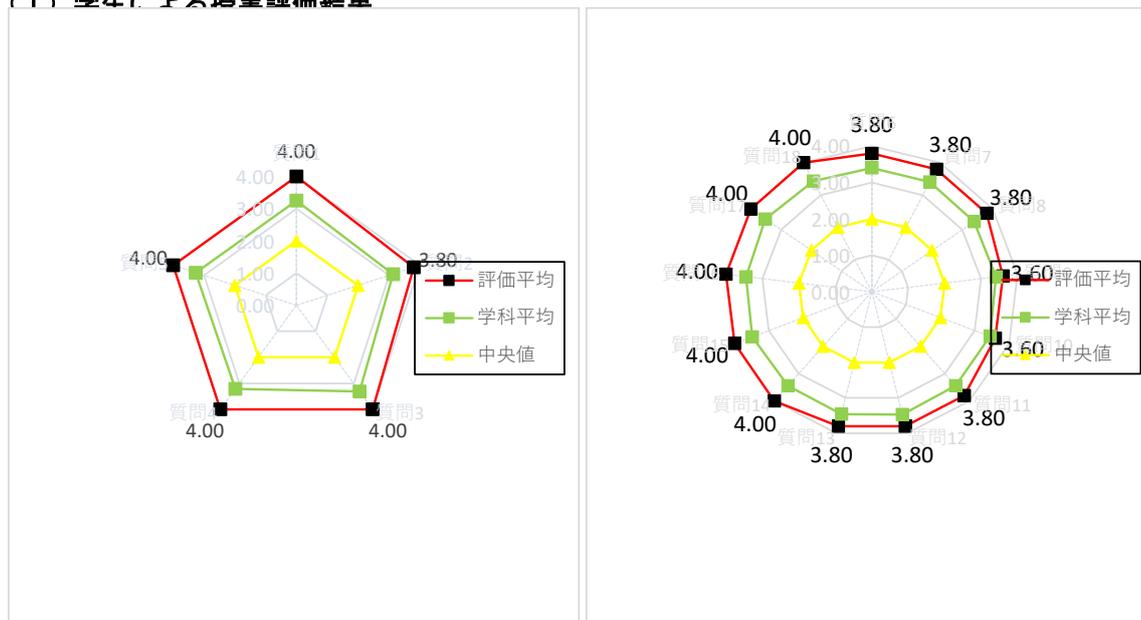


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		レクリエーション演習	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

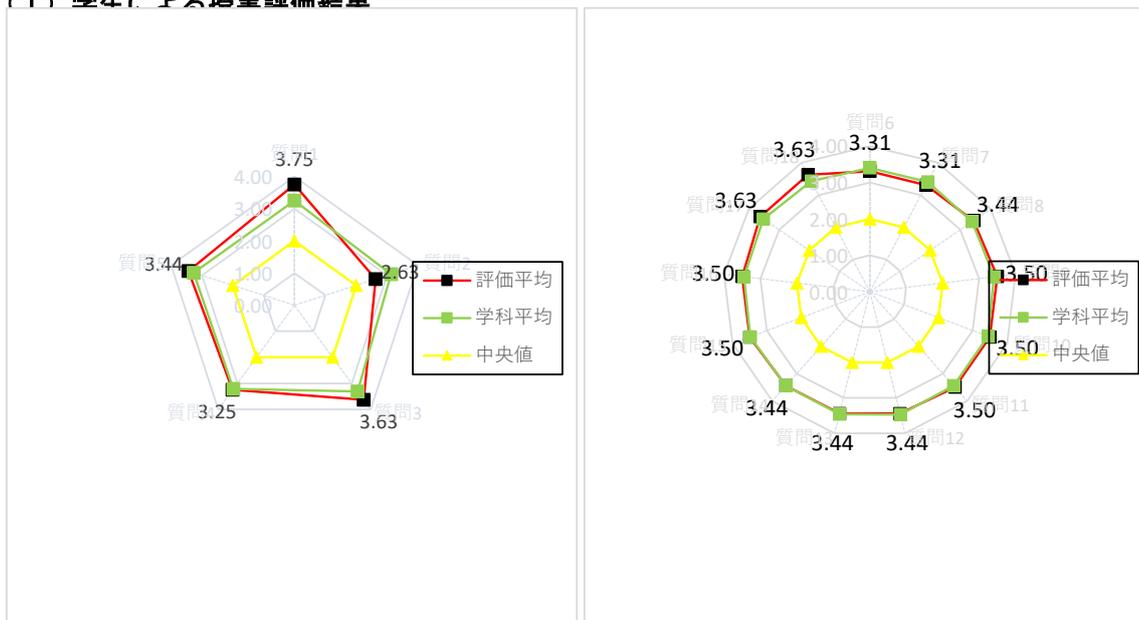
この科目はレクリエーションインストラクター取得に関する科目であり、実技であるが、今年度は受講者が少なかったため、人数に応じた授業内容を展開した。こちらでレク教材を提供しながら、後半は学生の実践演習の場を設け、支援する側と受ける側の両方の視点から受講者全員で学び合う機会をつくったことも評価につながったのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も一方的な授業でなく、学生と共に学びあう環境を意識しながら、レクリエーションの価値を伝えることができる授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの支援 I (基礎・実習)	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

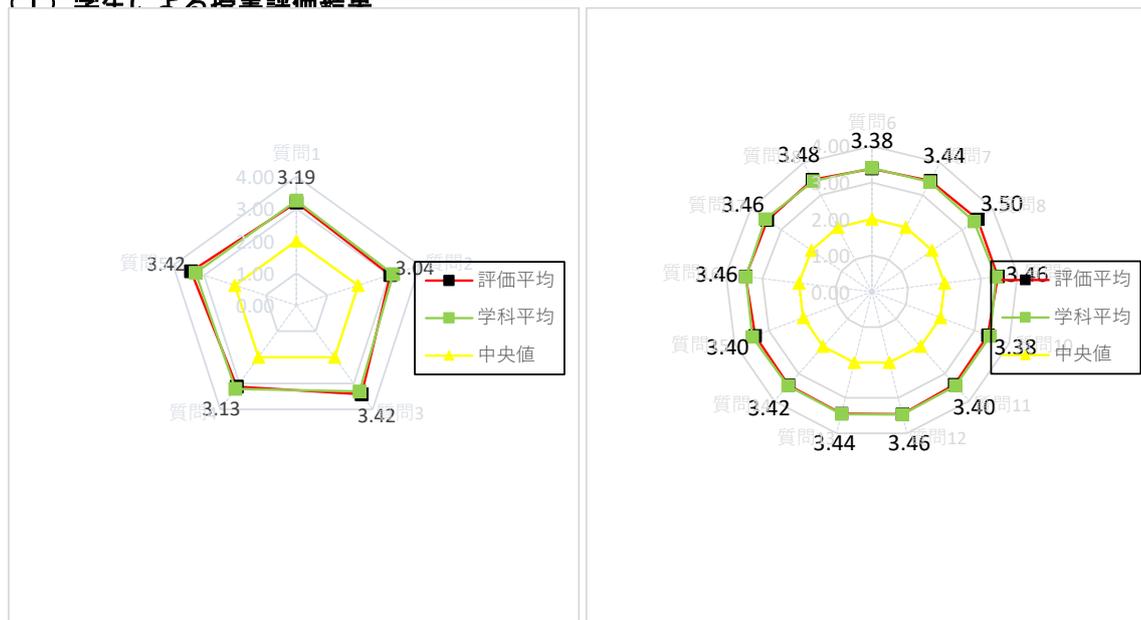
シラバスを活用したかという質問がかなり低くなっている。また全体的な評価も特に目標設定や授業計画に関する評価が低くなっている。この科目はシラバスはあるものの、多くが実習から成り立っており、実習期間の細かい目標等については別途配布して説明会も開いている。しかしながら、それを意識している学生はほぼいなかったため、説明がなかったと思込んでいるものと思われる。また、この科目の評価項目として質問内容が適切でない可能性もあり、評価に迷った可能性がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、シラバスというよりも授業の内容や実習の目標について途中で確認をしながら授業を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう体験Ⅰ	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

まずは回答率89%（履修者54名中48名回答）ということで、昨年度学科内での課題であった回答率の確保は達成できたと言える。

また、評価を確認したところ全項目で学科平均と大きく差がある項目は無く、学生は概ねこの科目に満足していると考えられる。

本科目は令和6年度に「2年間をかけて学生の実践力を磨く」ということを目標に開始した新規科目である。附属三光幼稚園の見学や2年次に取り組む「親子いきいき広場」の見学、地域の子育て家庭を対象に実施した「249わくわくフェスタ」での遊びの提供など、多くの実践を重ねてきた。学生は各取り組みの目標やスケジュールを意識しながら準備を進めることができていたように思う。また、子どもたちやその家族の様子をイメージしたり、実際に関わったりすることで、自身の課題に気づくことができていた。学生が各実践に意欲的に結果が、この評価に結びついていると考える。

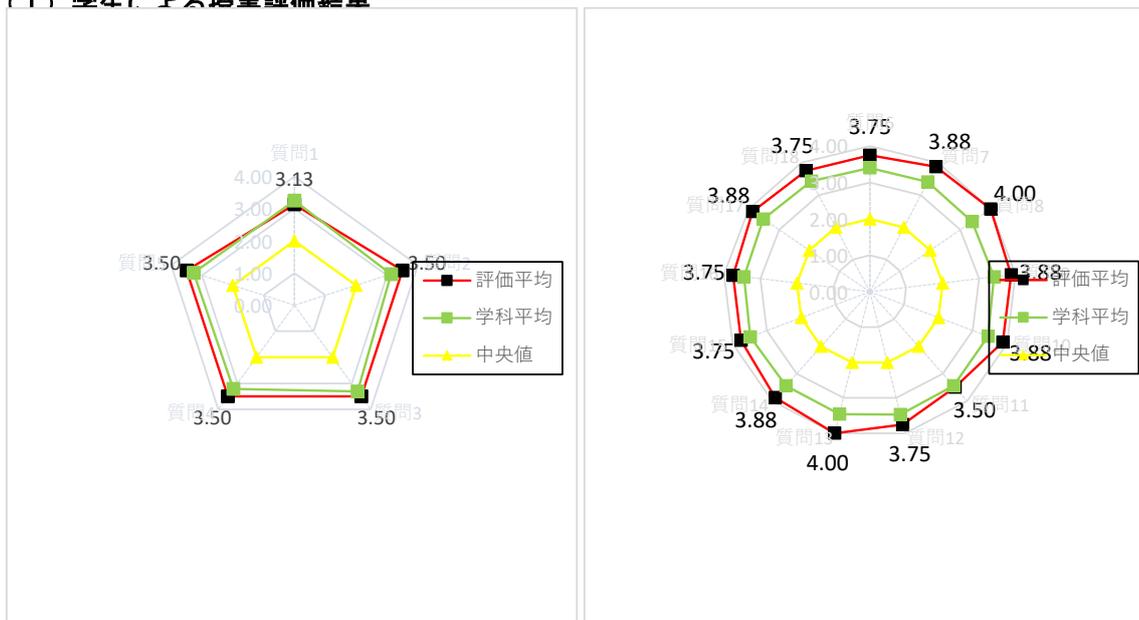
(3) 次年度に向けての取り組み

令和6年度は科目開講初年次であったことから、教員も手探りで授業を進めていた部分がある。しかし、次年度以降は本年度の反省を踏まえ事前準備をしっかりと行うことで、より学生の興味・関心を引き出すことができるような授業を展開できると考える。

学生が保育の専門知識や技術を意欲的に学べるよう授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		アートマネジメント演習	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

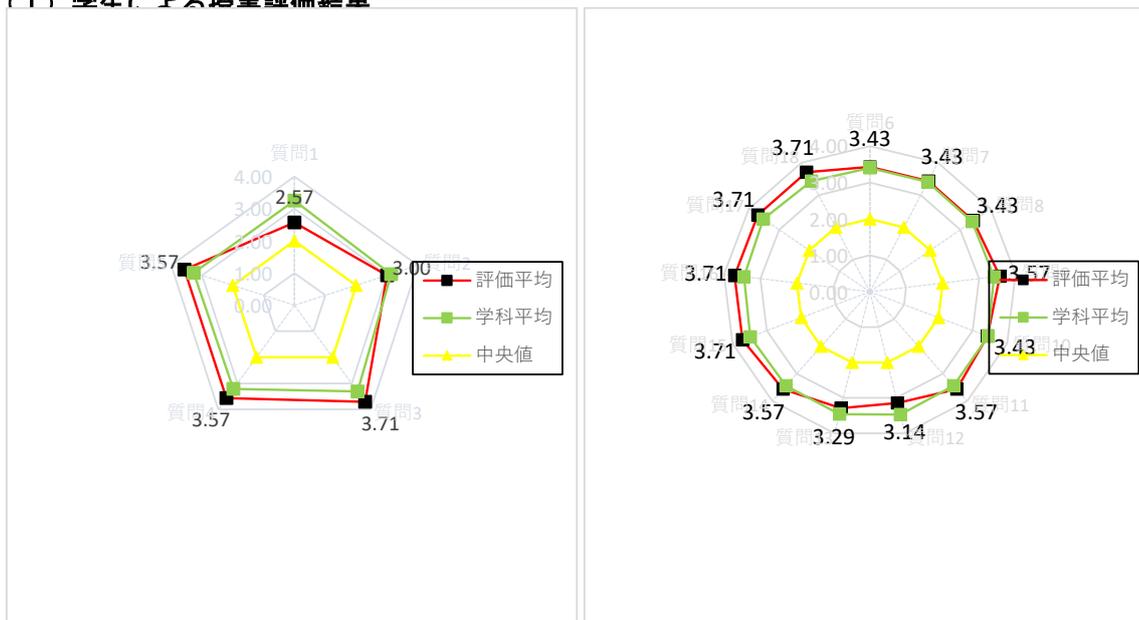
授業評価は全体的に高評価である。質問項目11については教科書がないため資料配布のみであったことが理由であると思う。結果を以下のように分析した。(1) 専門知識の網羅性について①アートマネジメント(美術館運営、文化的政策、広報戦略等)に関する基本的な知識については概要説明にとどまった感がある、実践的なノウハウや事例も紹介する必要がある。(2) 実践的な内容については、①実際のプロジェクト企画やイベント運営シミュレーションなど、実務に役立つ演習を工夫した。特に現場におけるワークショップは高い効果がみられた。佐賀県や多久市、小城市などと連携したワークショップが展開できた。(3) 教材・資料の質については、①日本臨床美術学会発行のテキストも有効活用しながら、現実的で興味を引く内容になるように工夫した。最新の内外のアートシーンや地域アートプロジェクトを紹介できた。(4) 授業の進行・構成については、①基礎から応用へとテーマを整理しながら学生が理解しやすい資料作りに努めた。美術展を鑑賞後、グループディスカッションやプレゼンテーションなど参加型の活動を取り入れたことで、言語活動も活性化した。

(3) 次年度に向けての取り組み

令和7年度は本年度の結果を踏まえ以下のような授業改善に力を入れていく。(1) 専門知識の網羅性の向上①アートマネジメントが求められる美術館、文化的政策、広報戦略等に関する、より具体的な事例を紹介し基本的な知識を身につけさせる。また、学生の就職先における実践的なノウハウも例示する。(2) 実践的な内容については実際のプロジェクト企画やイベント運営シミュレーションなどを本年度も取り入れていく。保育現場等におけるワークショップも継続したい。教育機関や行政機関等と連携したワークショップについては、令和7年度も実施予定である(3) 教材・資料の質については、授業担当者が所属している日本臨床美術学会の資料等活用しながら、具体的な演習内容になるように工夫する。(4) 授業の進行・構成については、基礎的な内容から発展的な内容へとテーマを整理しながら学生が理解しやすい資料作りに努める。授業全体では、アクティブラーニング(主体的・対話的学び)のスタイルを多く取り入れながら、学生主体、課題解決学習的な授業となるように努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		英語検定 I	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

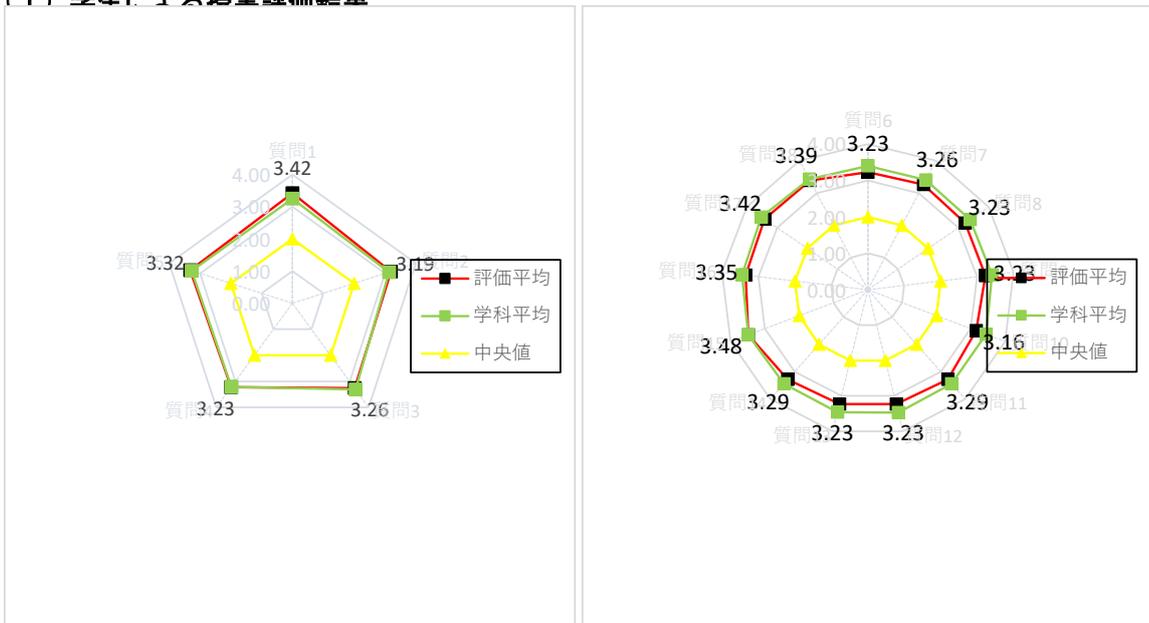
本授業ではTOEIC400点突破を目指すことを目的とした科目となっている。受講生の英語力に差があったため、問題の難易度に対する捉え方がそれぞれ違っていったように思える。欠席者が多く継続的な学びを支援することが難しかったが、次年度に資格試験を受験するという受講生も若干名いた。声の大きさや話すスピードについての評価がよくなかったことは反省して、次年度に活かしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は本授業を担当しない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		英語検定Ⅱ	42名

(1) 学生による授業評価結果

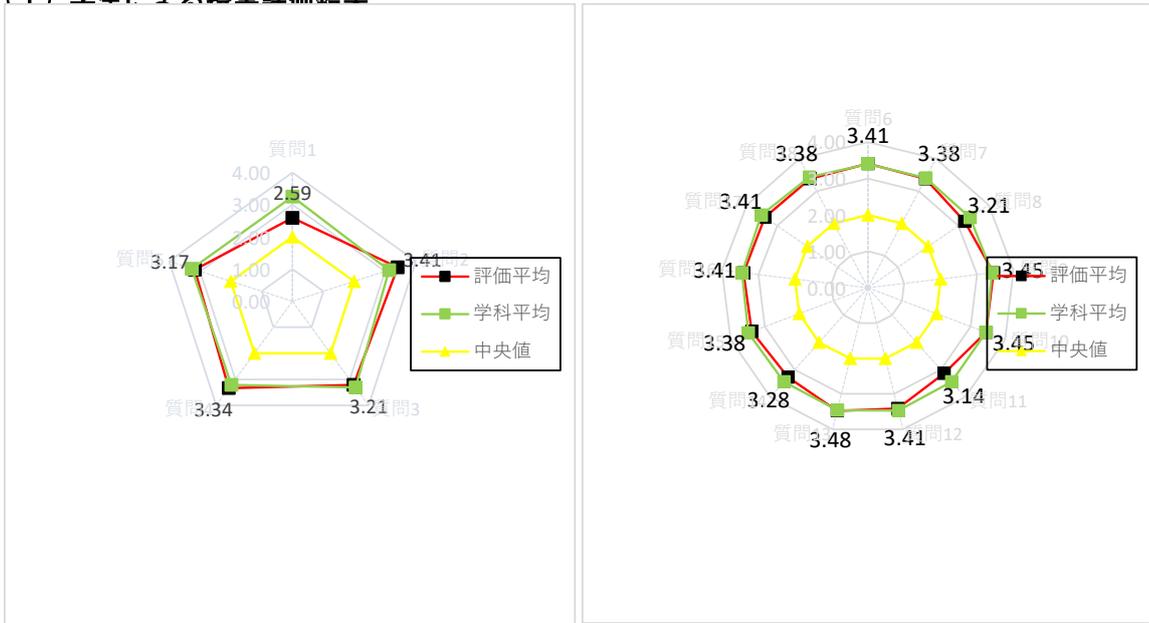


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		英語検定Ⅲ	34名

(1) 学生による授業評価結果

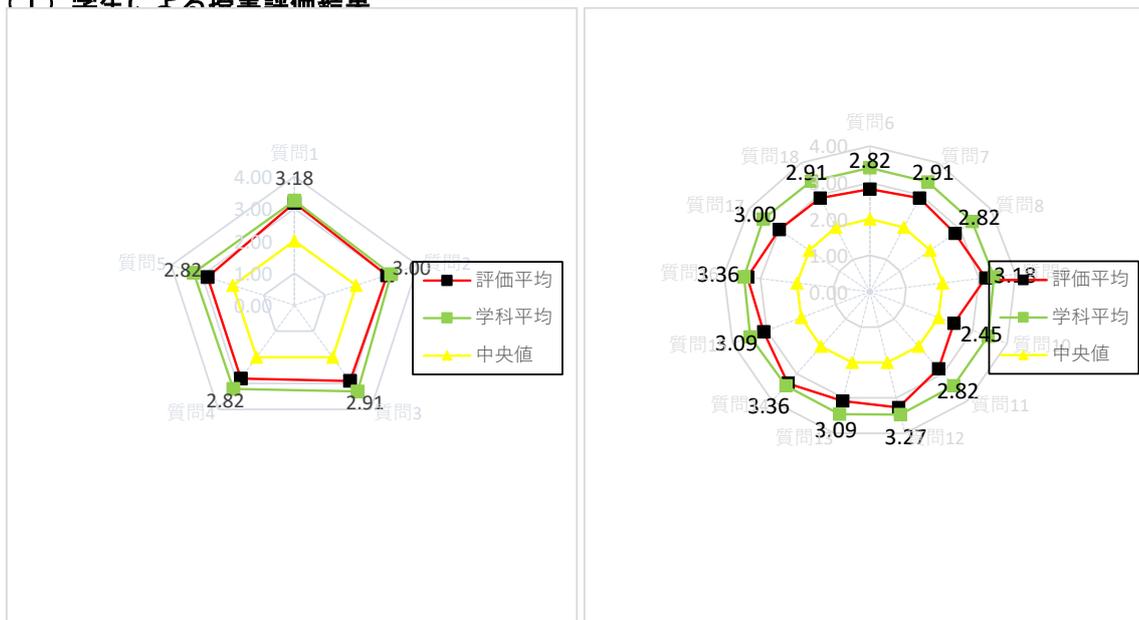


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		中国語コミュニケーション	11名

(1) 学生による授業評価結果

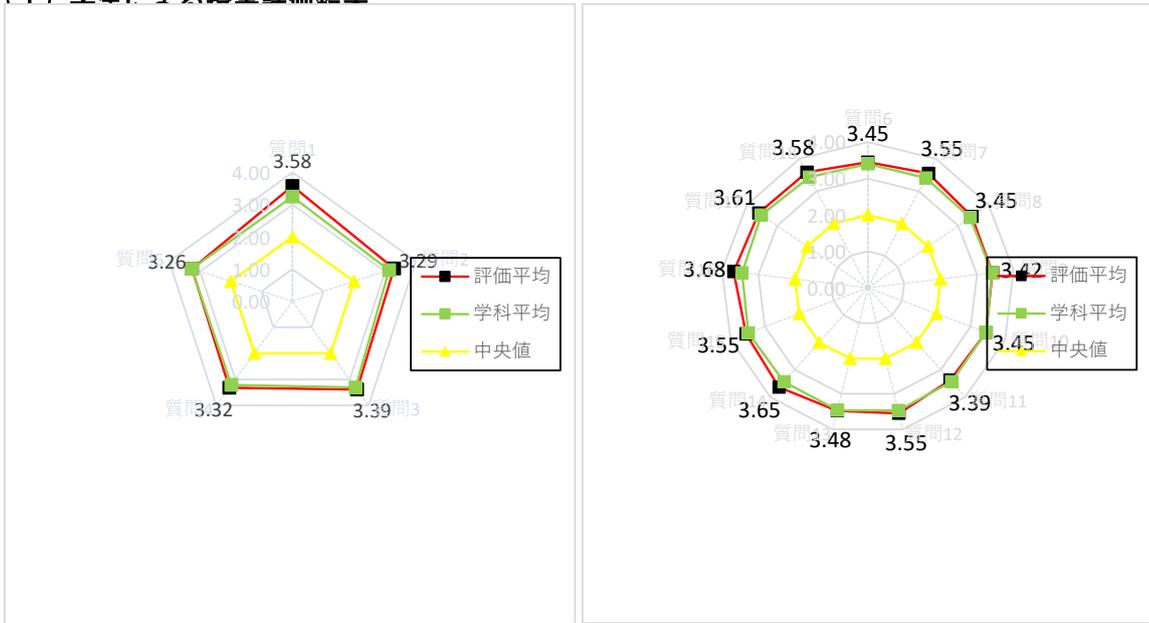


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		韓国語コミュニケーション	41名

(1) 学生による授業評価結果

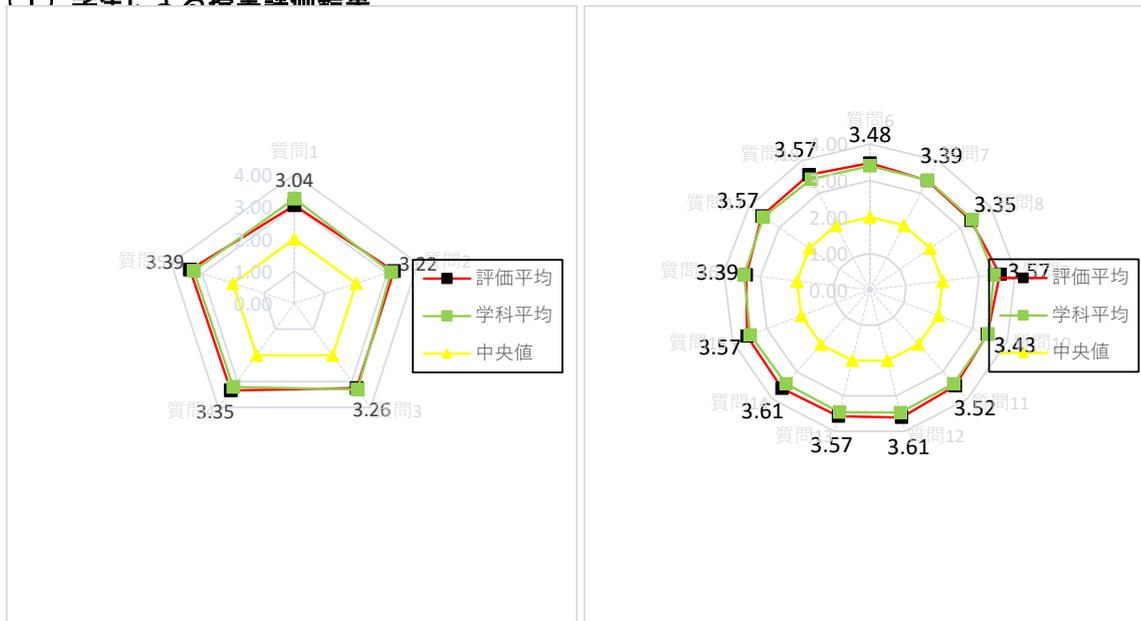


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語 I	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

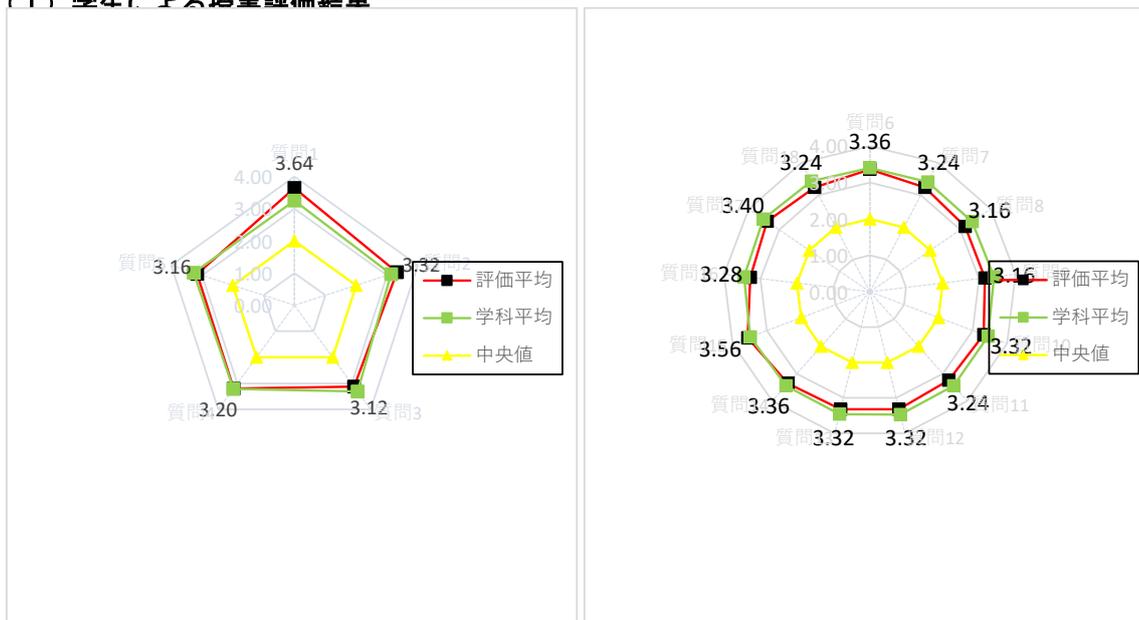
学生自身の取組は学科平均と同程度であったが、欠席の多さがやや気かりである。教員の授業方法についても全体としては学科平均と同程度であり、「分かりやすさ」や「熱心さ」などで一定の評価が得られていた。一方で、「双方向的なやり取り」に関する評価がやや低く、学生との関わり方に改善の余地が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

欠席を防ぐため、出席の意義や学習の流れを明確に伝えるとともに、授業への参加意欲を高める工夫を行う。また、質問や発言の機会を意識的に取り入れ、学生とやり取りしながら進める双方向的な授業展開を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果

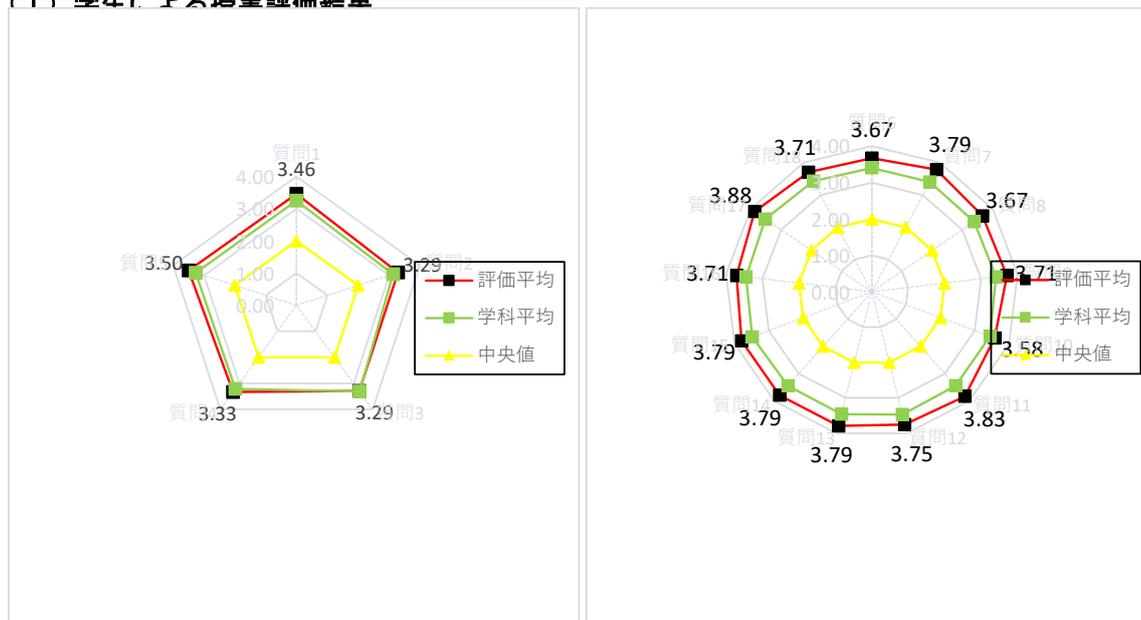


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

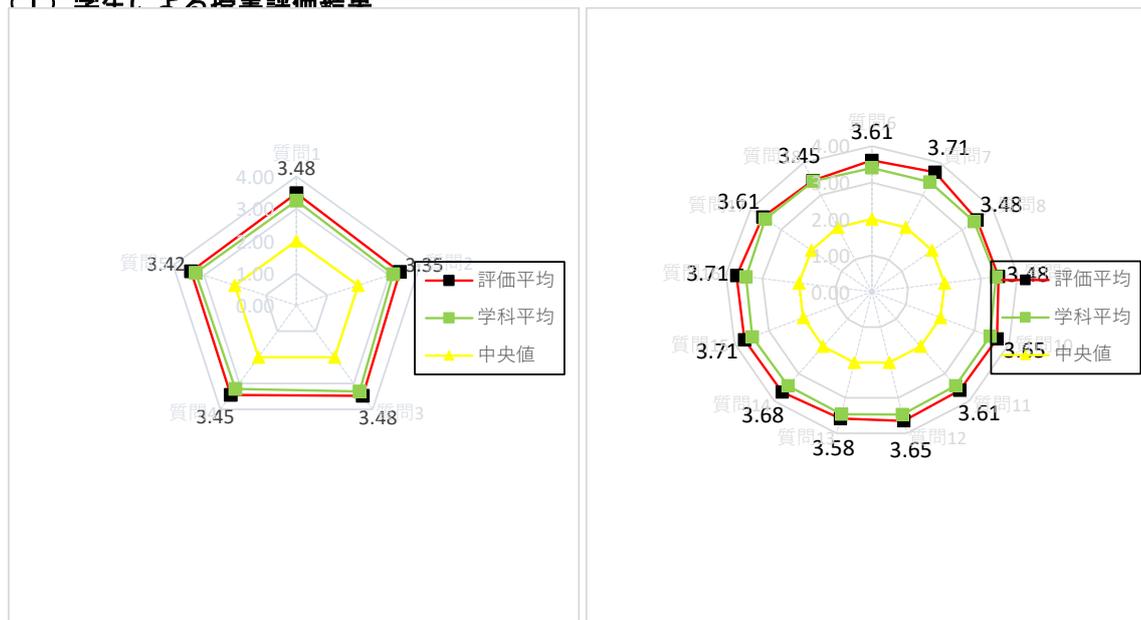
学生自身の授業への取組は学科平均と同程度であったが、出席状況は良好で、継続的に学習に取り組む姿勢が見られた。教員の授業方法に関しては、「分かりやすさ」「熱心さ」「丁寧な対応」などで特に高い評価が得られており、学科平均を上回る結果となった。授業内容や進め方が学生にとって受け入れやすく、学びやすい環境が整っていたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

良好な出席状況を維持しつつ、発言や意見交換の機会をさらに増やし、学びをより主体的なものにする。また、理解を深めるための補助資料や課題を適宜取り入れ、個々の学びを支える工夫を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語Ⅲ	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

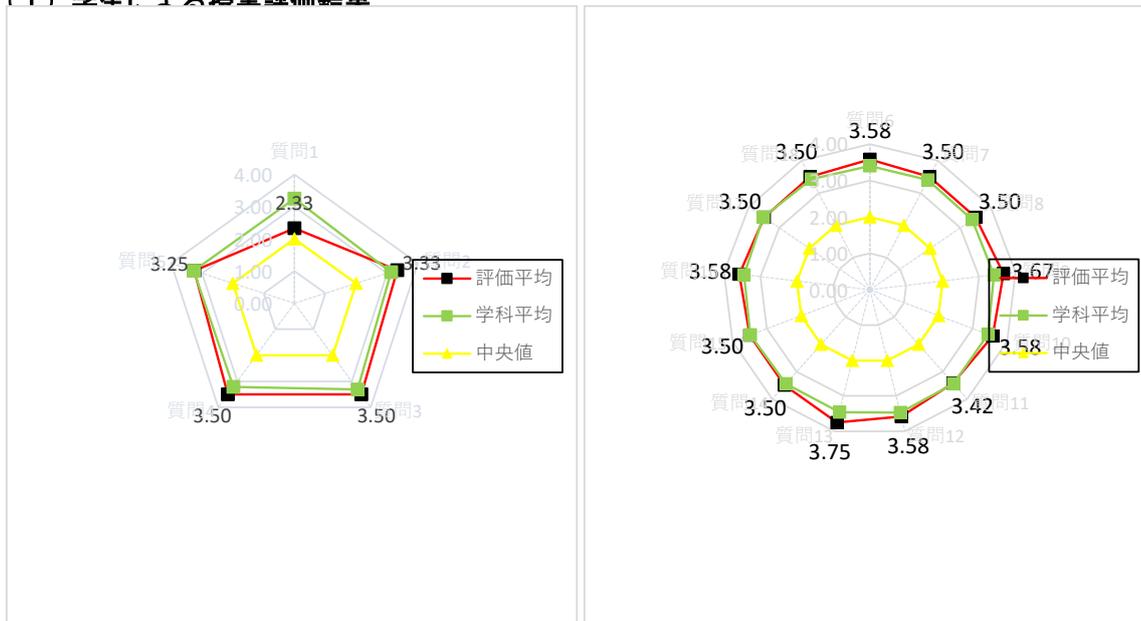
概ね平均的な評価であった。本授業は日本語能力試験のN1レベル取得を目指し、毎回過去問を解かせて解説した。本授業を通して、読む楽しさが増したという受講生もいたが、その一方で着いていけないという学生もいた。受講人数が多く、一人ひとりの力の伸びを見ることが難しかったが、読解力に関しては継続して読解を行ったことで向上が見られたのではないかと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

N1レベルの問題を継続して行うことに加えて、クイズやゲームを取り入れて、受講生のモチベーションを高められるような工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語検定 I	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身の授業への取組は学科平均と同程度であったが、出席状況が芳しくなく、学習の継続性に課題が見られた。

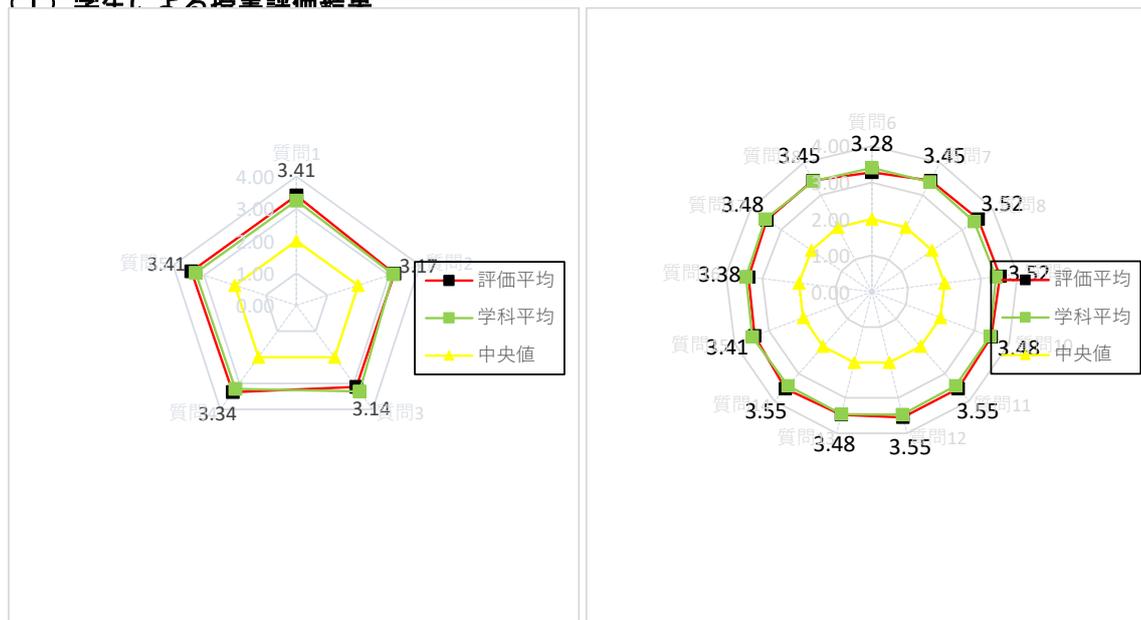
教員の授業方法に関する評価は全体として学科平均と同等であり、「分かりやすさ」や「授業の進む速さ」などで安定した評価が得られている。ただし、出席率の低さは学習成果や資格取得への影響が懸念される点である。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の導入で学習の目的や検定の意義を丁寧に伝えることで、出席への意欲を高める。また、学習の進捗を可視化する仕組みや小テストを取り入れ、継続的な参加と意識づけを促し、目標達成に向けた支援を強化していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語検定Ⅱ	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身の授業への取組は学科平均と同程度であったが、「居眠り・私語」についてやや気になる傾向が見られた。

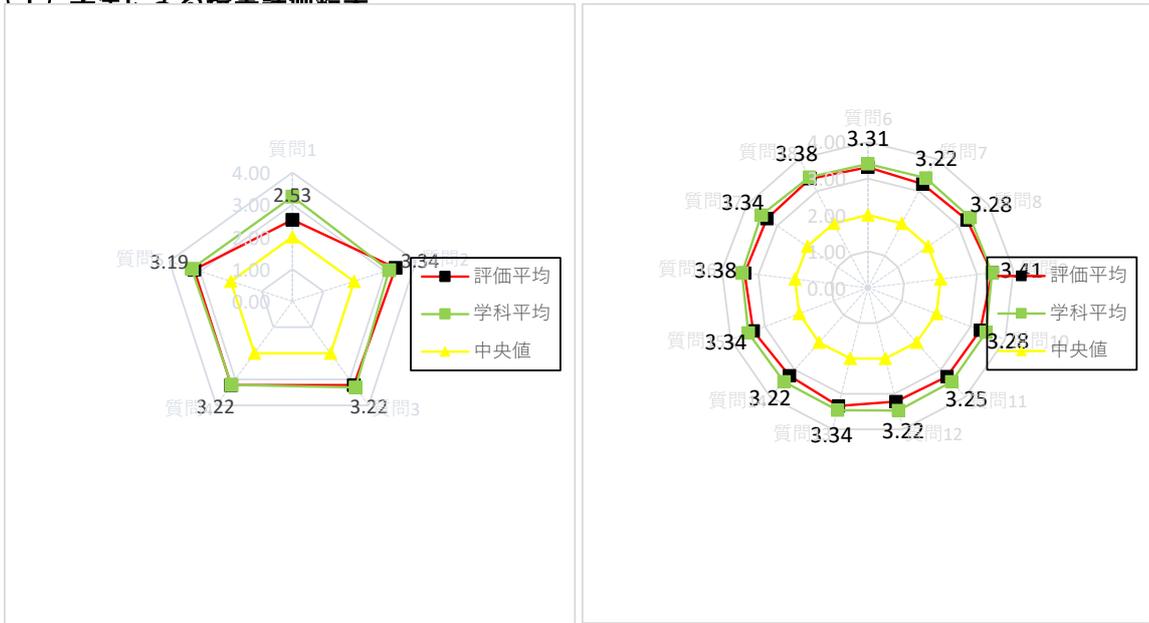
教員の授業方法に関しては、全体として学科平均と同等の評価であったが、「公平な対応」「双方向的なやり取り」「熱心さ」の3項目でやや低い評価が見られた。授業への関心や教員との関わりに課題が残る結果となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生との対話や声かけを増やし、参加意識を高めるとともに、公平な対応を意識して授業を進める。また、学習の目的や意義を明確に伝え、授業の雰囲気づくりに努めることで、集中力の維持と双方向性の向上を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語検定Ⅱ	38名

(1) 学生による授業評価結果

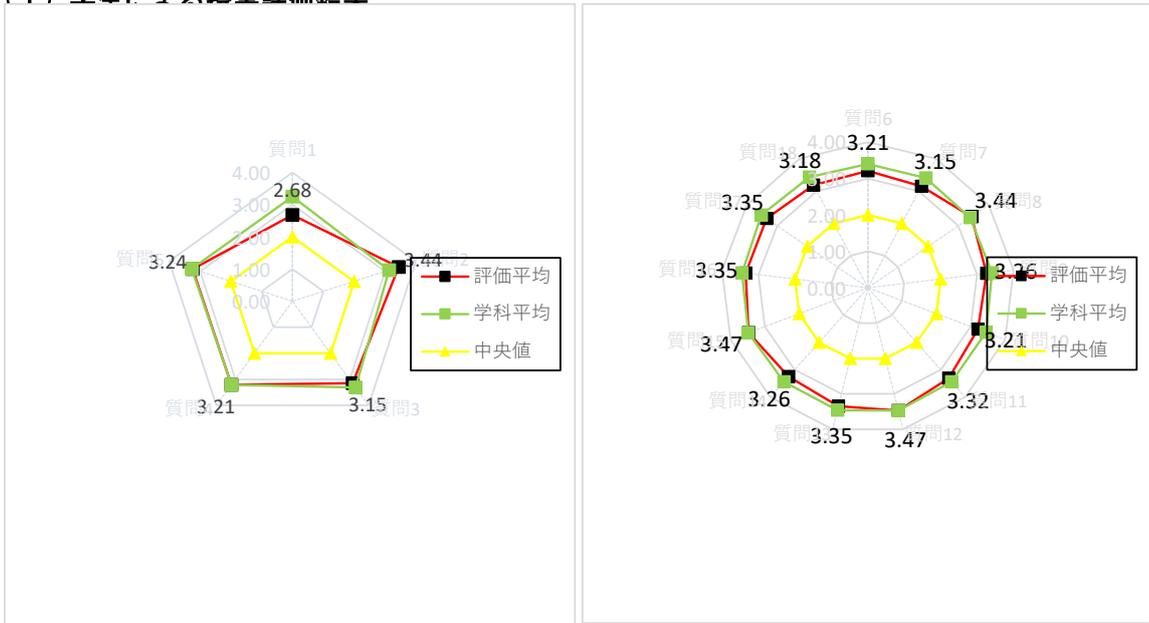


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語検定Ⅲ	41名

(1) 学生による授業評価結果

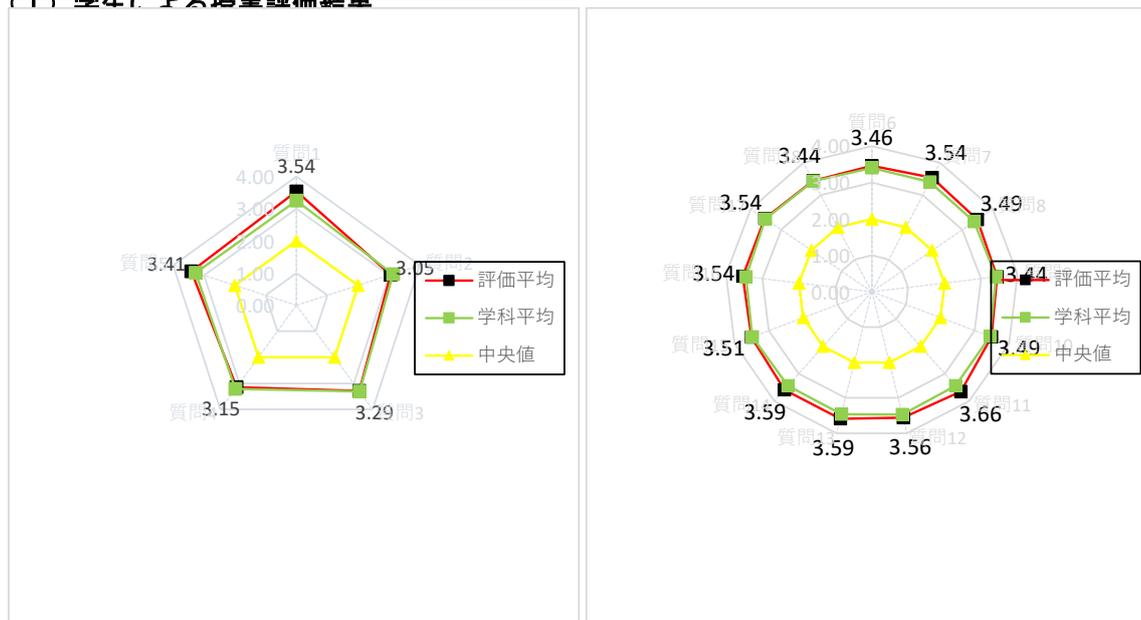


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語応用（方言と介護）	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

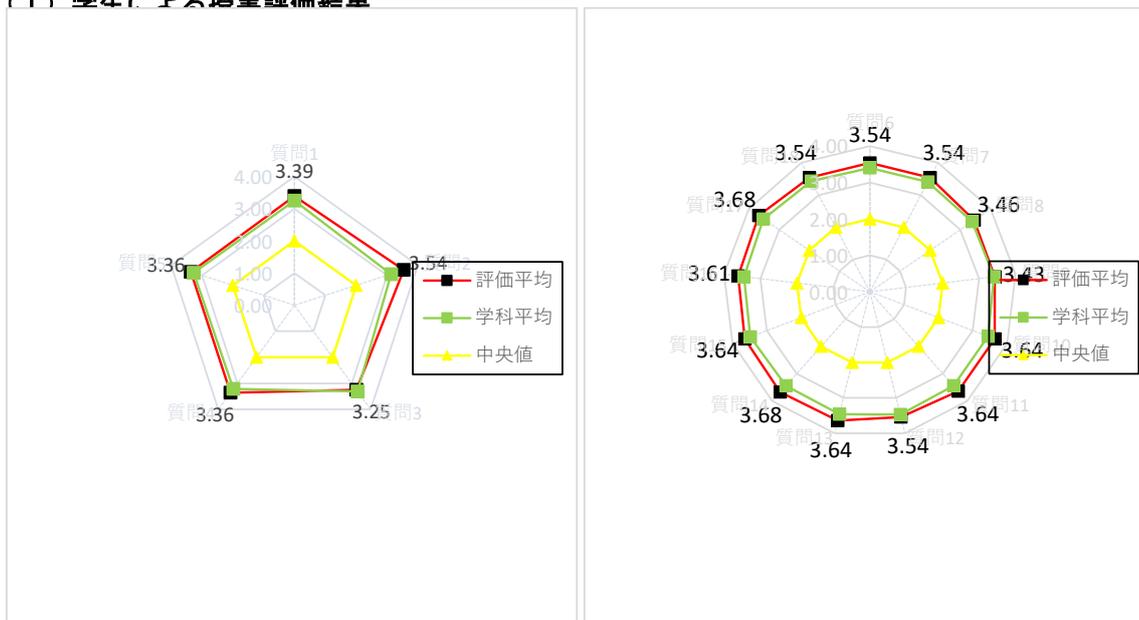
前期と後期と2回評価が行われた。自由記述では、わかりやすかった、楽しかった、現場でどういう会話をしたらよいかがあった、佐賀弁がわかるようになったとの記述があった。全体的にすべての項目に2をつけている学生が1名いた。自由記述に理由は書いていなかったのわからないが日本語がとても上手な学生にとっては物足りなかったのかもしれない、もっと日本語の勉強を増やすべきだったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の説明を行い、評価の時間を作り、提出したかの確認を行う。日本語の向上のための時間を増やす。文字についての指導も増やす。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生による自己評価は、学科平均とほぼ同等の値であった。実際の授業において昨年度は特に意識の高い学生が多く見られたこと、今年度より留学生が加わったことなどが要因となり昨年度と授業の雰囲気に変化していた。

授業評価についてはまた学科平均とほぼ同等の値を示した。昨年度と比較すると、学生の自己評価の高低と対応するような評価の差が見られた。

本年は留学生が加わったことで授業スピードをゆっくりにしたため昨年取り入れたような多くのグループワークはできなかった。その代わりに日本の事情と留学生の母国の事情を問うような質問を投げかけを試みたが、それもあまり時間がとれなかったように思う。次年度も留学生と日本字学生の混合クラスとなるのでこれら試みについて継続していきたい。

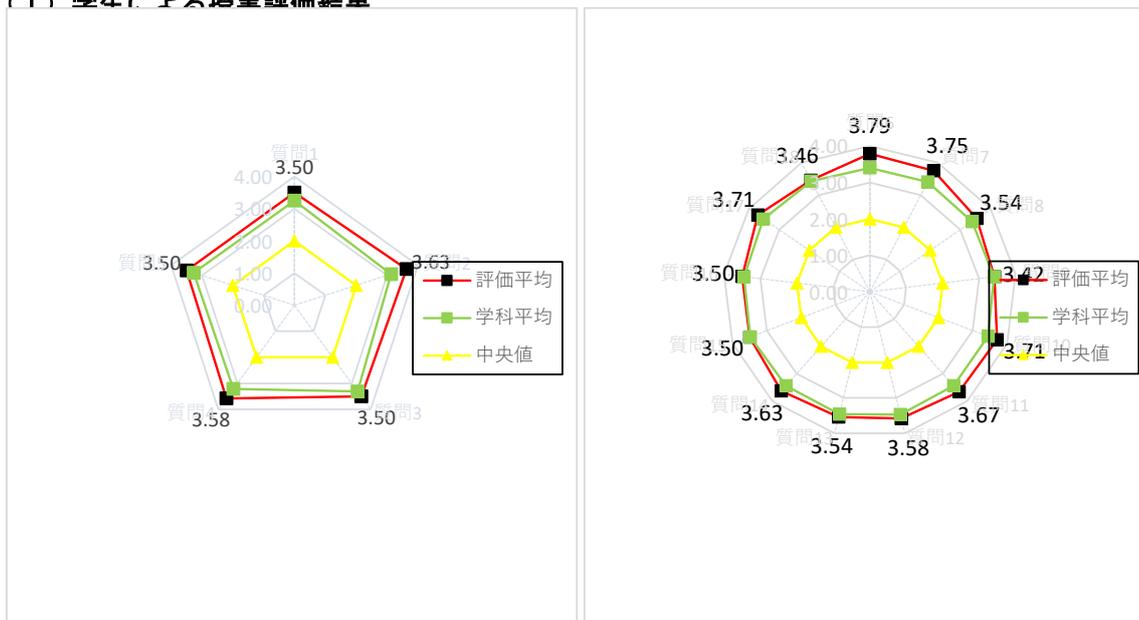
自由アンケートの中に「教科書だけではなくいろんな知識をプラスアルファで教えてください良かったです!」「食中毒についていろいろな知識が取れました。」などの声が寄せられた。このような学生の声を参考と励みにして、今後も更にその時の学生に対応した授業展開の工夫を行い授業改善に努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今年度同様、文化の違う学生同士の相互理解を意識した双方向授業について検討し、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を少しでも増やしたい。また、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学実験	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

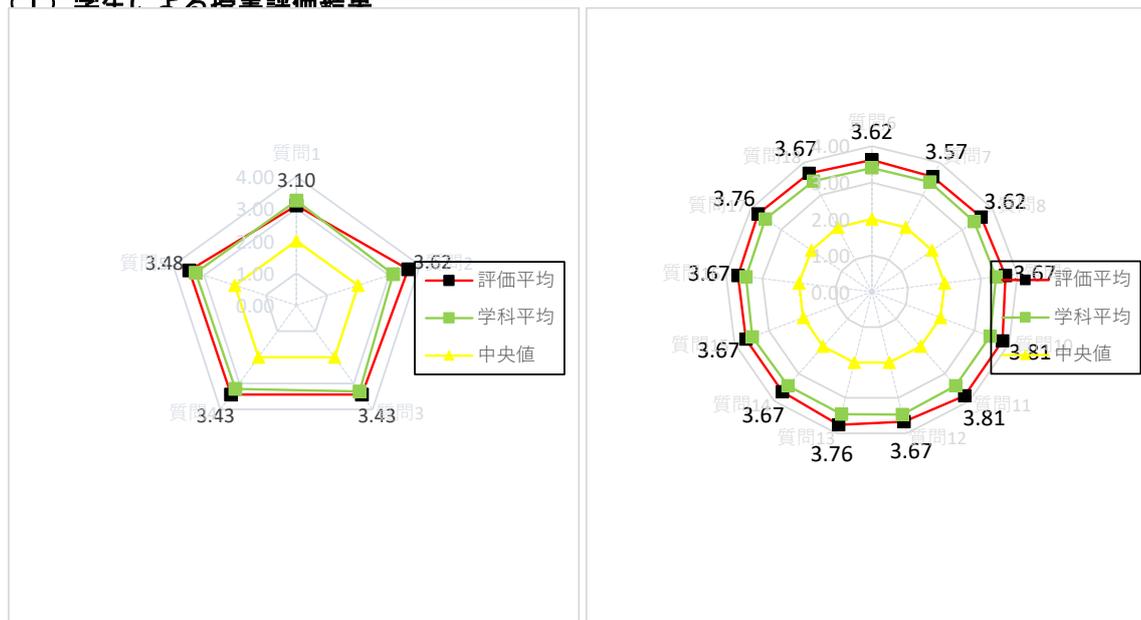
学生の自己評価は、学科平均値と同等となっている。学科平均値より高値を示した項目は、質問6、7、質問10、11、質問17であった。このことから授業内容について学生は適切と考えるが、学生とのコミュニケーションや学生の自発的活動、実験項目に対する興味関心を引き起こす工夫が足りなかったと感じる。今後一層の内容、展開の工夫を検討したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、今年度の授業を振り返り、授業内容を再検討していきたい。前半は食品学実験で後半を当該科目で展開しているので両科目の棲み分けを更に検討し実験内容と授業展開を改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論 I	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

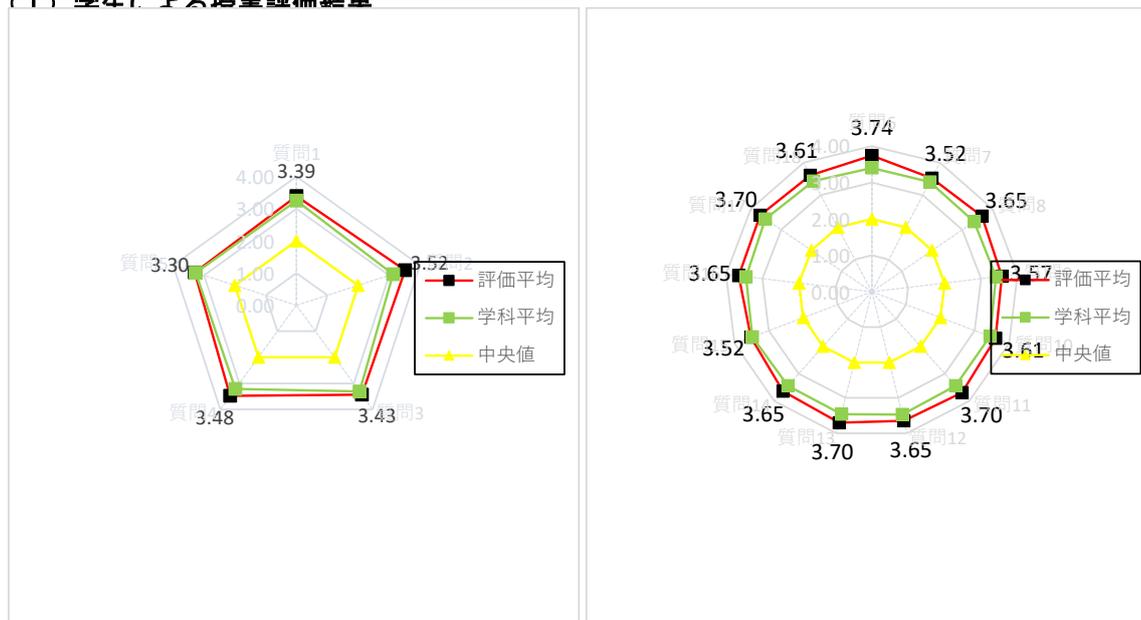
栄養指導論 I は、栄養士の専門科目で、人々の健康・維持増進をはかるために正しい食生活を確立させるための実践的に取り組みやすい学問である。評価の結果は学生自身のQ1「授業は何回欠席しましたか」3.10と低かったがQ2シラバスの活用については3.62と高く、総合自己評価は3.62であった。授業内容・方法においてはQ10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか」とQ11「視聴覚・配布資料等は役に立ちましたか」は3.81と高い評価であった。Q7の「目的を明確にして授業を展開していましたか」は3.57で他の項目と比較して若干低かった。この総合評価は3.63である。総合評価を学科平均と比較すると0.18高かった。学生のコメントは「ちゃんと教えてくれましたので細かいこととか、分らない事をしっかり理解しました」等があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は評価が低かった「出席状況」の改善に向けて、魅力ある授業内容を展開し出席率を高めたいと思う。そのためには、学生の自己評価で質疑応答の時間を設けて興味・関心をもたせながら双方向的な学習につなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習 I	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

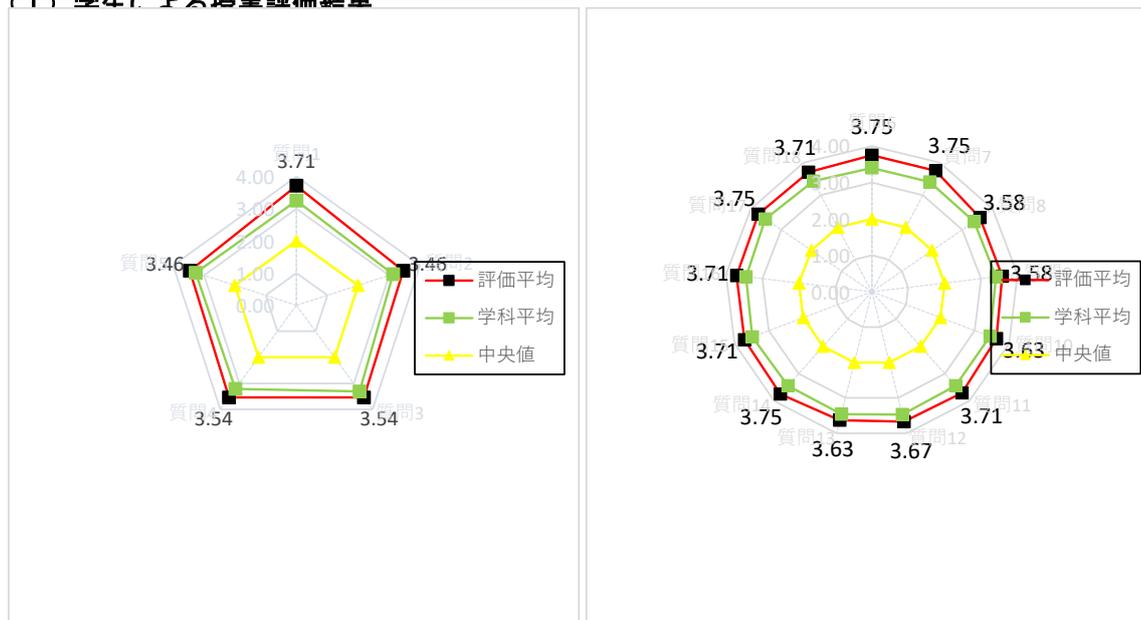
この授業は栄養士の専門科目である栄養指導論で習得した知識を実地または実物について実際に学びながら将来現場で栄養指導に役立つ力を修得していく授業である。評価の結果は学生自身の総合評価3.30であった。教員側の評価は3.52～3.75の値で総合評価は3.60であった。全体でよい評価を得ることができている。総合評価を学科平均と比較すると0.11高かった。学生からはコメントに「色々教えてくださいましたのでほんとうにありがとうございました」があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後の取り組みとして各項目の評価を高めていくことと、この科目の実習は実践的要素が含まれているので理解しやすい科目である。今後も興味・関心が持てるように分かりやすい内容で授業を展開し、予習・復習を習慣化させ積極的に学ぶ力を修得させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論Ⅱ	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

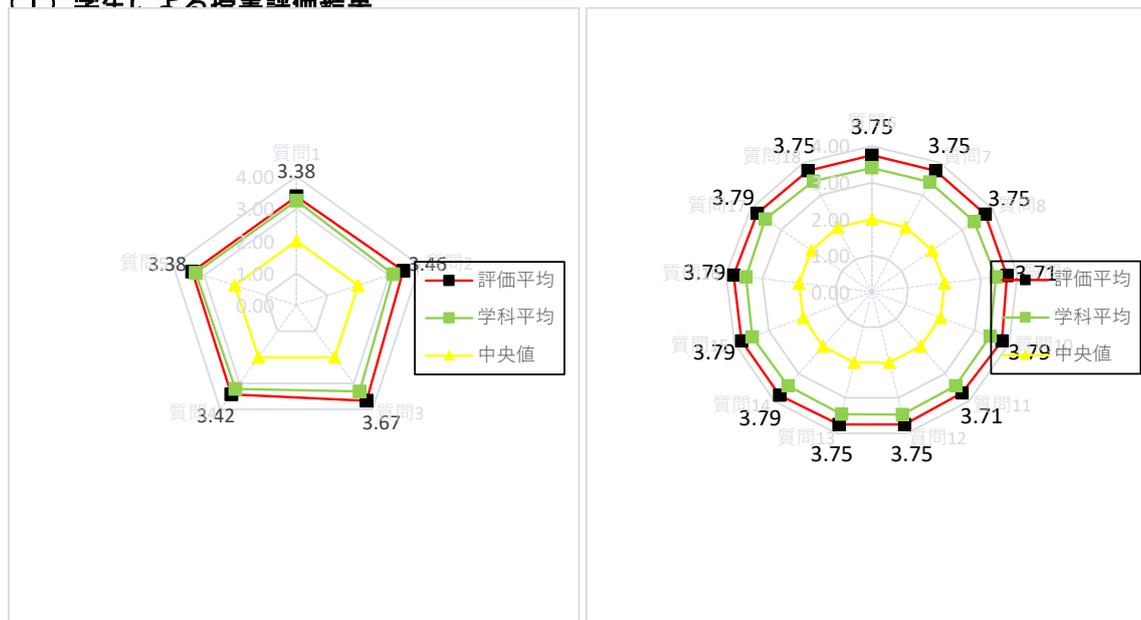
栄養指導論Ⅱの科目は栄養士資格必修科目である。栄養指導論Ⅰの授業内容を踏まえてライフステージ別に日常生活に即した内容である。評価の結果、学生自身の評価は学生の参加度であるQ1～5までの評価は3.46～3.71であったが学生の総合自己評価をみると3.46と低値であった。授業に対する教員側の総合評価は3.64であった。教員側の評価は Q6「シラバスの確認」、Q7「目標を明確にして授業を展開した」Q14「質問に忠実に対応したか」Q18「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」は3.75と高いあたりであった。この授業を総合評価は3.65である。総合評価を学科平均と比較すると0.01高かった。学生からはコメントに「パワーポイントが分かりやすかった」があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価は概ね良好であった。今後は学習の成果をさらにあげていくために、毎回の課題には丁寧に解答解説をしていくことで学力向上につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習Ⅱ	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

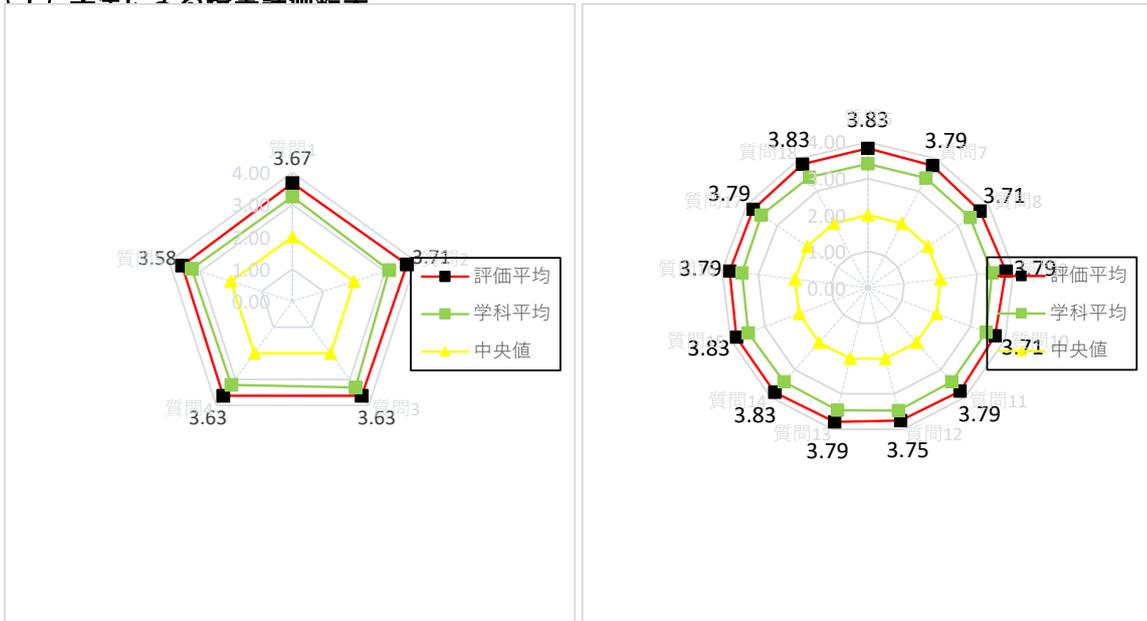
授業の総合評価は3.75であった。質問6～18のすべての項目について学科平均よりも評価が高く約8割が評価4.0であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業ではほとんどの回でPCを活用して実施している。学生の中にはPCを苦手とする者もいるが将来現場に出た時には必ず必要となるため、PCに慣れさせるためにも授業の中で機会を設けている。特に、栄養教育・調査に必要な統計処理については、扱うデータも栄養の分野に関わりあるものとし、できるだけ学生が興味を持って取り組めるようにしている。例年、どのような場面で活用するのかをイメージさせながら実施しており、比較的熱心に興味を持ちながら取り組んでくれたように思う。次年度も同様の方法で継続実施し学生の様子を見ながら改善につなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		公衆栄養学	24名

(1) 学生による授業評価結果

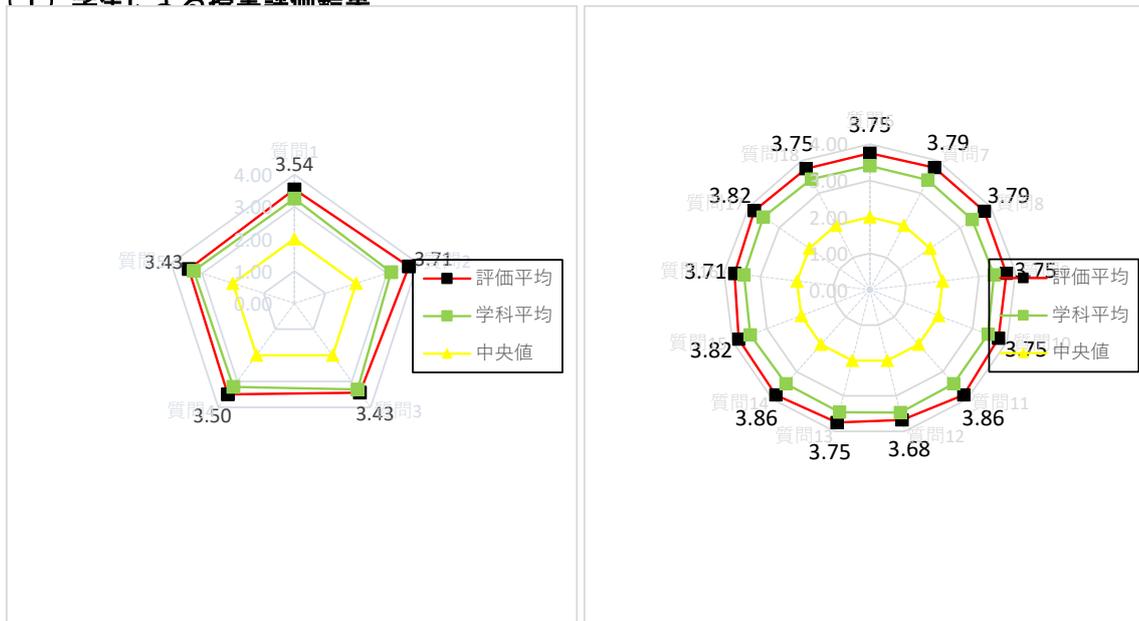


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

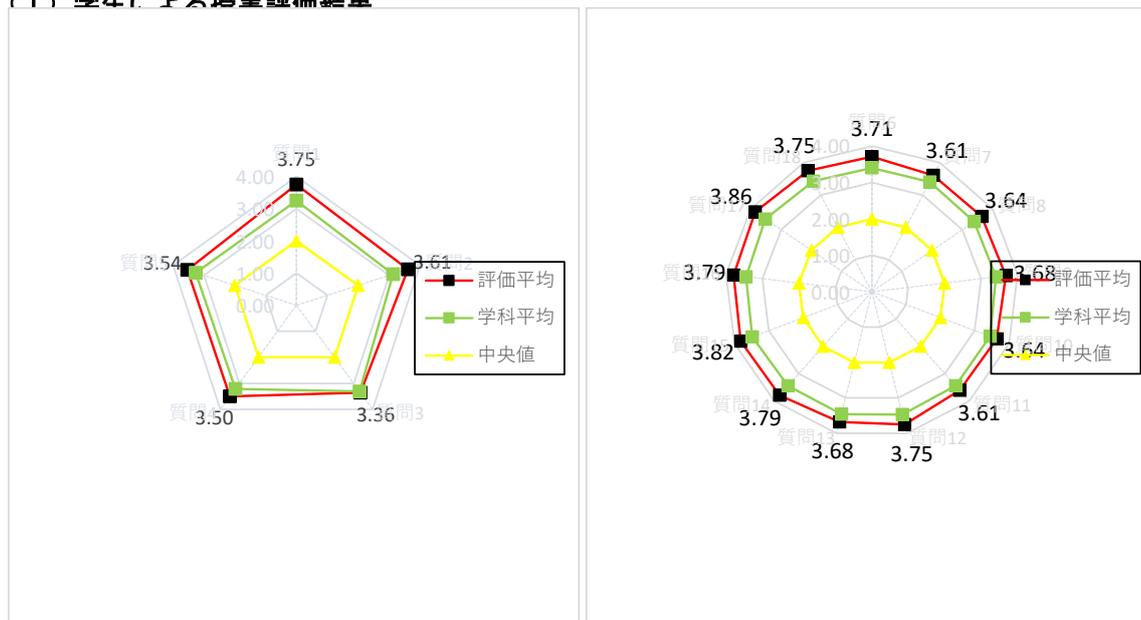
調理学は日常的な調理操作の基礎を科学的に学んでいく科目であるため、調理実習に結びつけることができるような内容で授業を進めていった。学生の評価で、低い評価はQ3「授業は居眠り・私語等をせずに真剣に取り組みましたか」が3.43で、高い評価はQ2「シラバスの活用」が3.71であった。総合自己評価も3.43である。教員側の評価も良好で総合評価は3.73である。総合評価を学科平均と比較すると0.09高かった。学生からのコメントは「調理に関する基本的な知識や調理の目的などを学ぶことができてよかった」があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

教科書と併用したスライドの中に語句の解説や写真を取り入れたことで分かりやすい授業であったことが伺えた。次年度はさらに分かりやすいスライドの作成を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（日本料理）	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。初回は調理と栄養価算定の目的や算出方法の理解から展開していった。実習では、技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解できるようにデモンストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ1「授業参加態度」3.75と高く、総合自己評価は3.54であった。授業内容・方法においても3.61～3.86の範囲で低い値は特にみられなかった。総合評価は3.70である。総合評価を学科平均と比較すると0.21高かった。学生からのコメントは「毎回グループを交代できればいいと思った」「私たちのグループはとても良く、調和が取れています」「調理に関する知識を学び実習で生かすことができたと思う」等があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

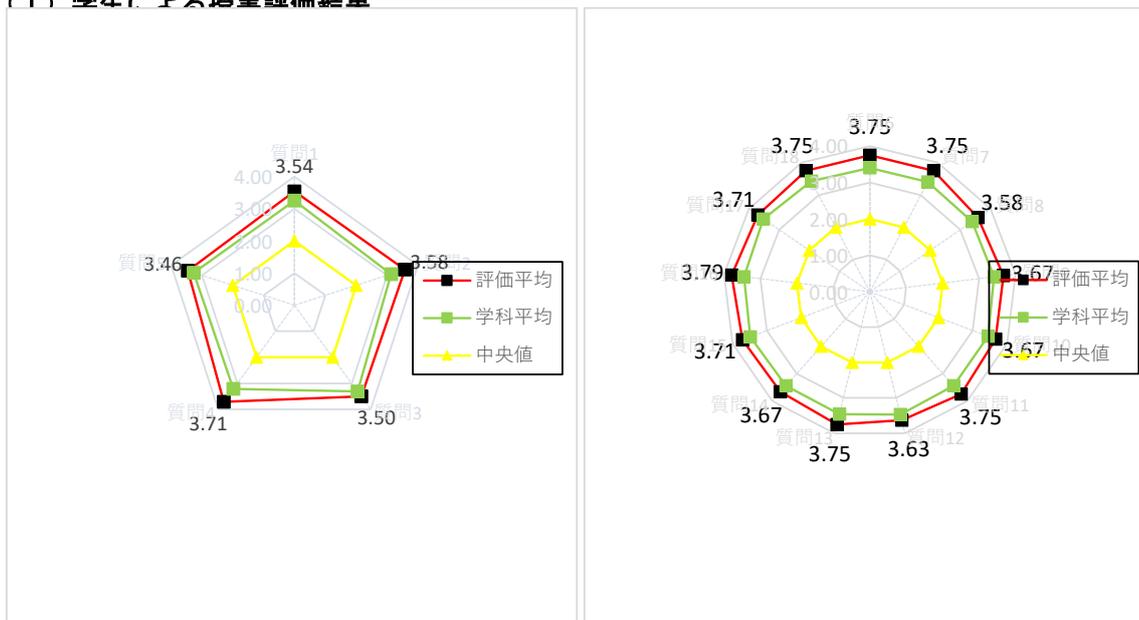
概ね良好であったことから、次年度も工夫しながら魅力ある授業にしたい。

引き続き、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

- ①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
- ②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理ヘスムーズに展開できるように訓練していく。
- ④実習時間の時間配分を明確にしてメリハリある実習を展開し学習意欲を高める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（西洋料理）	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解出来るような説明をイメージさせながら、特殊操作についてはデモンストレーションと併用しながら授業を進めていった。結果は、あなた自身の総合自己評価は3.46であった。授業内容・方法においてはQ16「双方向的なやり取りをしながら授業を進めていた」が3.79で、低い値は特にみられなかった。総合評価は3.67である。総合評価を学科平均と比較すると0.18高かった。学生からのコメントは「グループで調理をしっかりとって食べることができ楽しかったです」「この知識を将来に使いと思いました」「色々教えてくださいました、ありがとうございました」等であった。

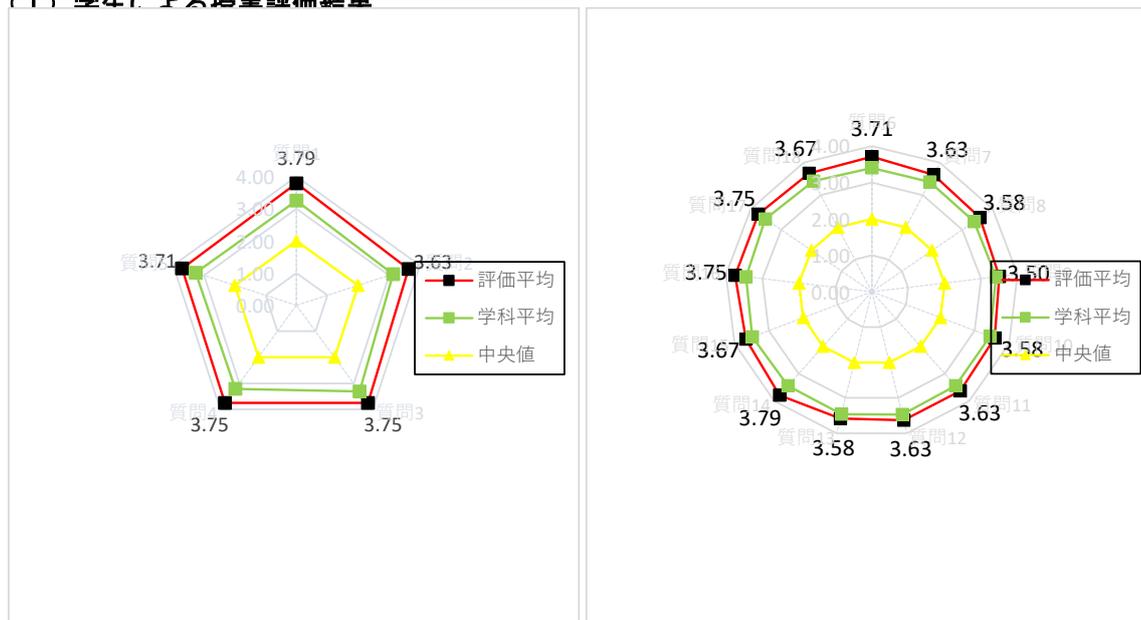
(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

- ①自分で調理操作と出来上がりがイメージできるように、家庭でも調理をする機会を増やすように促す。
- ②授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。しかし、過去の経験で実習時にカードを“忘れる”“紛失する”といったことから、カード管理も十分にできるよう指導する。
- ③学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ④包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理ヘススムーズに展開できるように訓練していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（中国料理）	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は2年後期に開講される。栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。既に1年次に日本料理と西洋料理を修得している。初回の授業では中国料理の特徴と特殊素材、特殊器具の説明を行った。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解できるようにデモンストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ1～4までのあなた自身の授業参加態度は3.63～3.79の評価であったが、総合自己評価をみると3.71と低かった。授業内容・方法においては全ての項目で3.58～3.79で、授業の総合評価は3.67であったことから、概ね満足している授業であったことが伺えた。総合評価を学科平均と比較すると0.23高かった。学生のコメントは特になかった。

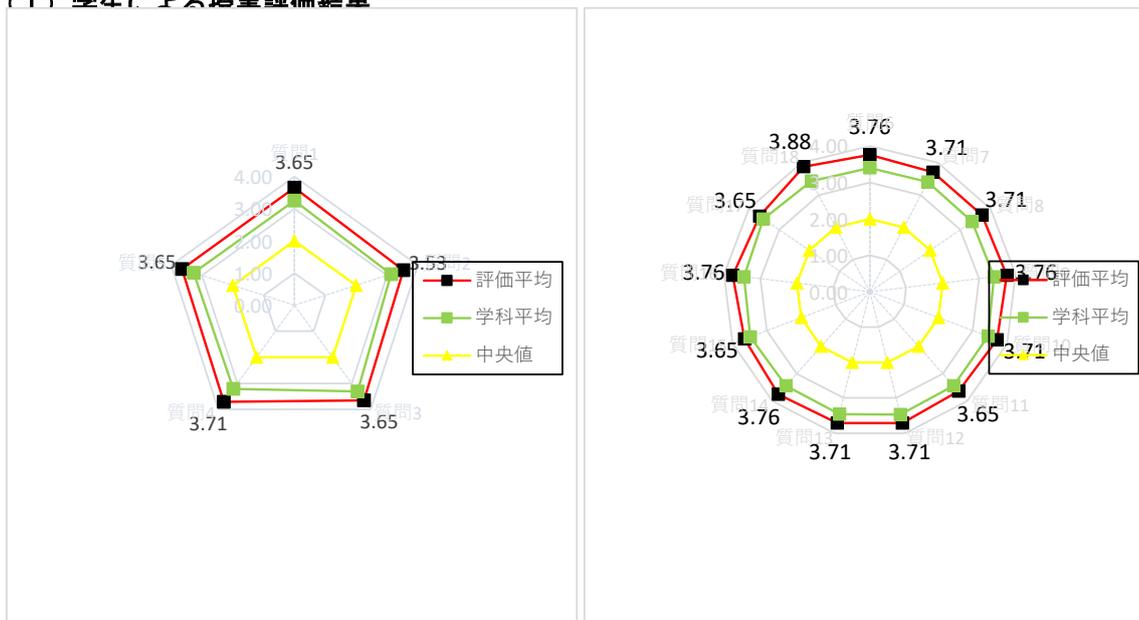
(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

- ①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
- ②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理ヘスムーズに展開できるように訓練していく。
- ④説明時間の配分を工夫し、ポイントをおさえながら授業を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食育演習	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

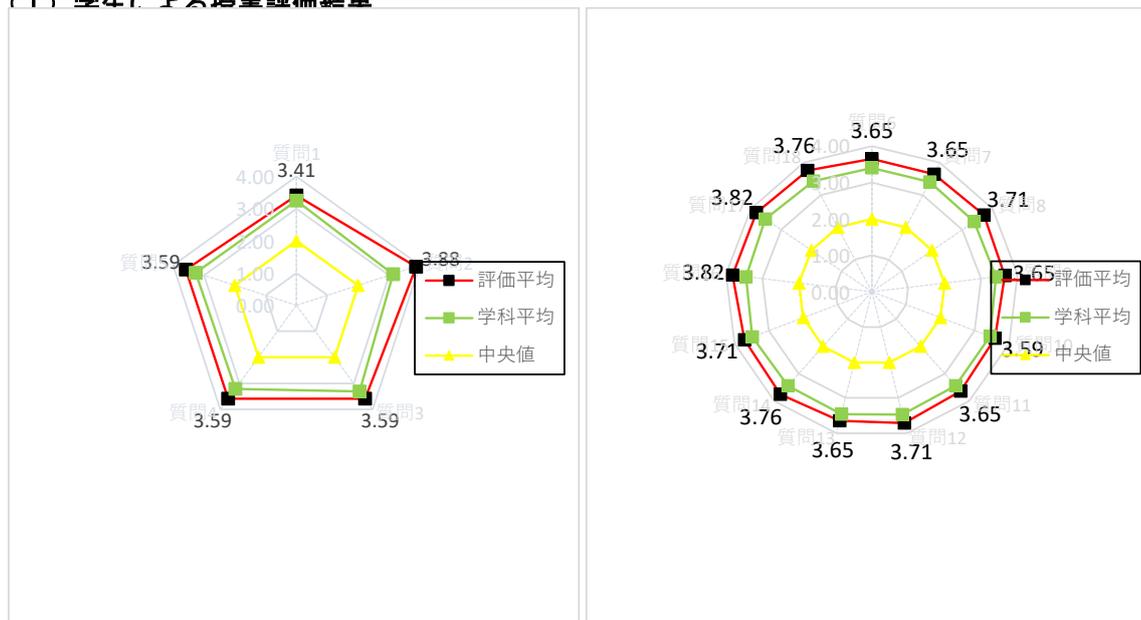
授業の総合評価は3.88であった。質問6～18のすべての項目について学科平均よりも評価が高く約9割が評価4.0であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業では親子クッキングの実践を通して食育指導を学ぶ機会としている。系列の附属保育園との協働実施で3歳～小学校低学年の子どもと保護者を対象として実践を行った。学生にとっては全ての作業が初めてとなるが、将来保育園栄養士を目指す学生も多く良い経験となったようである。今年度の実践を踏まえて改善を加え、次年度も取り組みたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		実践食育	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

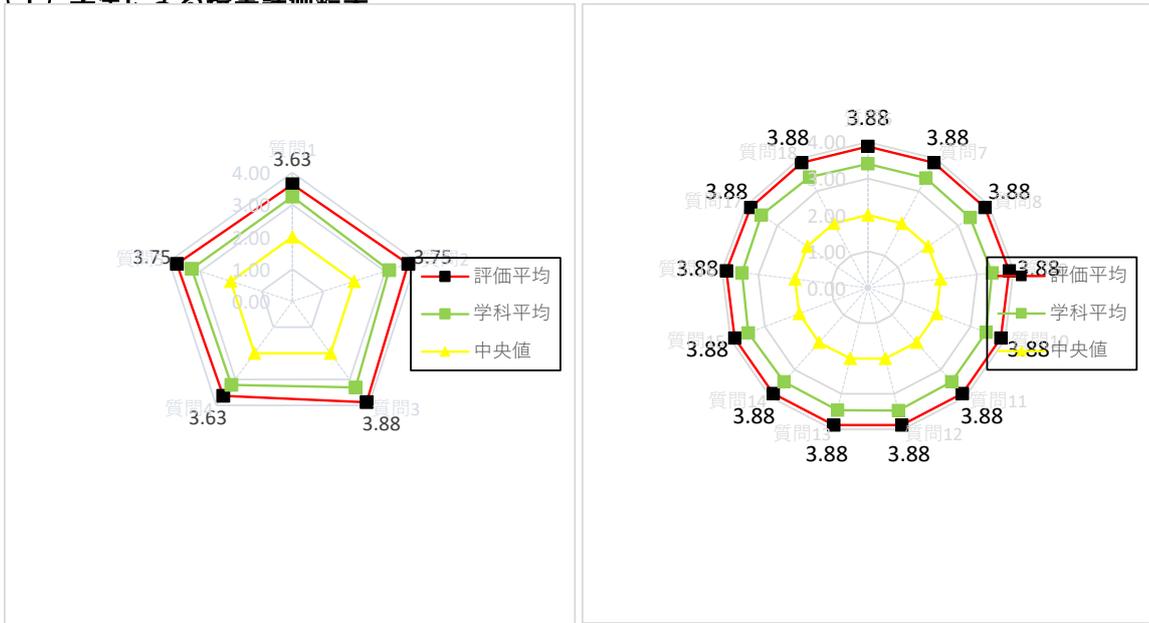
食育実践では、食育の計画から実施、評価、改善 (PDCAサイクル) までの一連の流れについて学習していく授業である。学内外で行われる食育活動に積極的に参加することで、対象者に応じた食育指導ができる力を養うように授業を展開していった。授業評価の結果は学生自身の総合評価3.59であった。教員側の評価は3.65~3.82の値で総合評価は3.68であった。概ね良い評価を得ることができている。総合評価を学科平均と比較すると0.24高かった。学生からはコメントに「野菜クッキーを作るのが初めてでしたが、楽しく作れたのでよかった」があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後の取り組みとして各項目の評価を高めていくために、今後も興味・関心を持てるように分かりやすい内容で授業を展開し、予習・復習を習慣化させ積極的に学ぶ力を修得させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		創作料理実習	8名

(1) 学生による授業評価結果

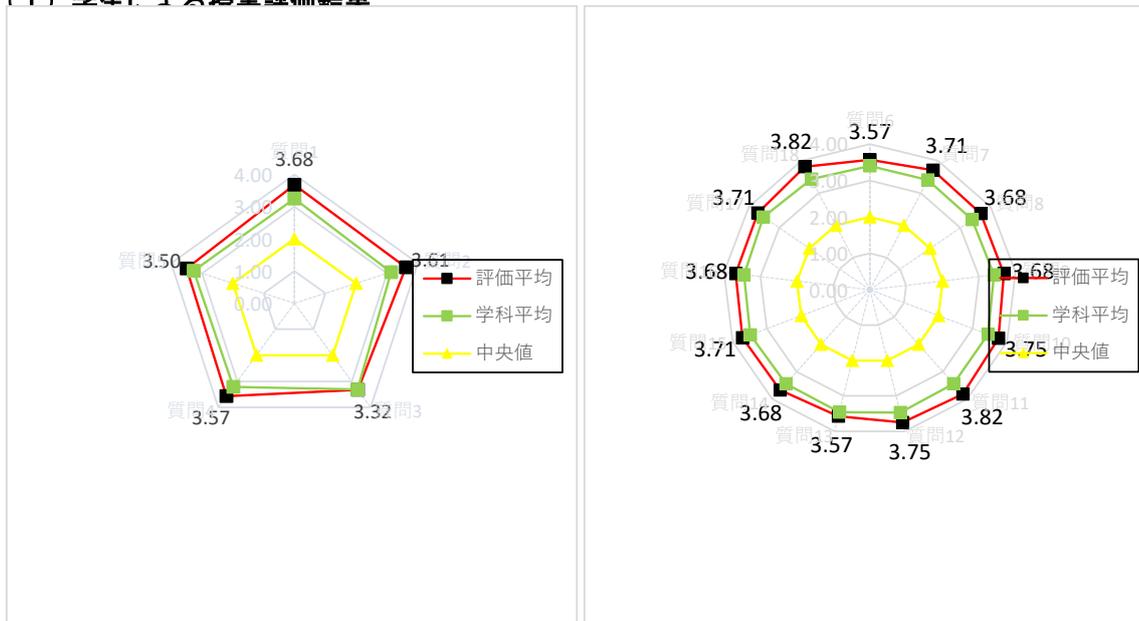


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食経営管理論	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

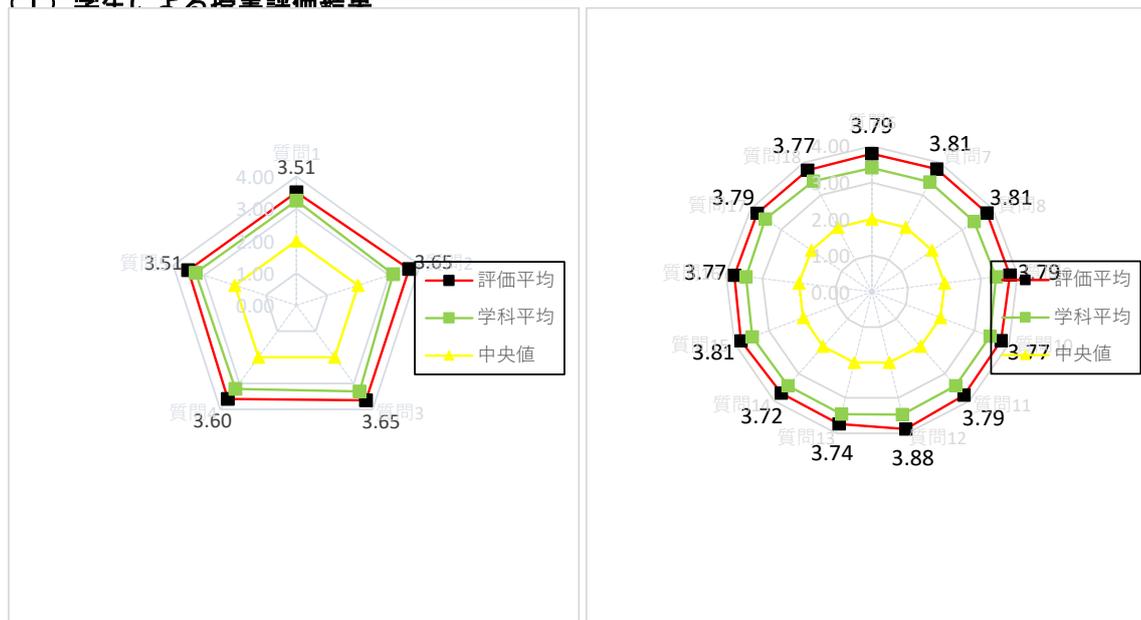
授業の総合評価は3.82であった。質問6～18のすべての項目について学科平均よりも若干評価が高く、中でも質問11と15について高評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度から留学生が正規性として在籍している。本授業は給食の運営に係わる内容を学ぶため、大量調理施設で決められているマニュアルについても学修しなければならない。留学生にとっては日本語が難しい言葉で表現されているので理解するのに苦労したのではないかと考えられた。教える側もどこまで言葉を噛み砕き教えればいいのか、どうすれば理解しやすいだろうか悩む部分が多かった。自由記述には「給食の運営について体系的に学べることはいいことだと思う」「給食の運営についての知識がよく分かりました」などの意見があった。次年度はさらに留学生の数が増える予定である。再度授業内容を見直し誰ものが理解しやすい授業を心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食管理実習 I	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

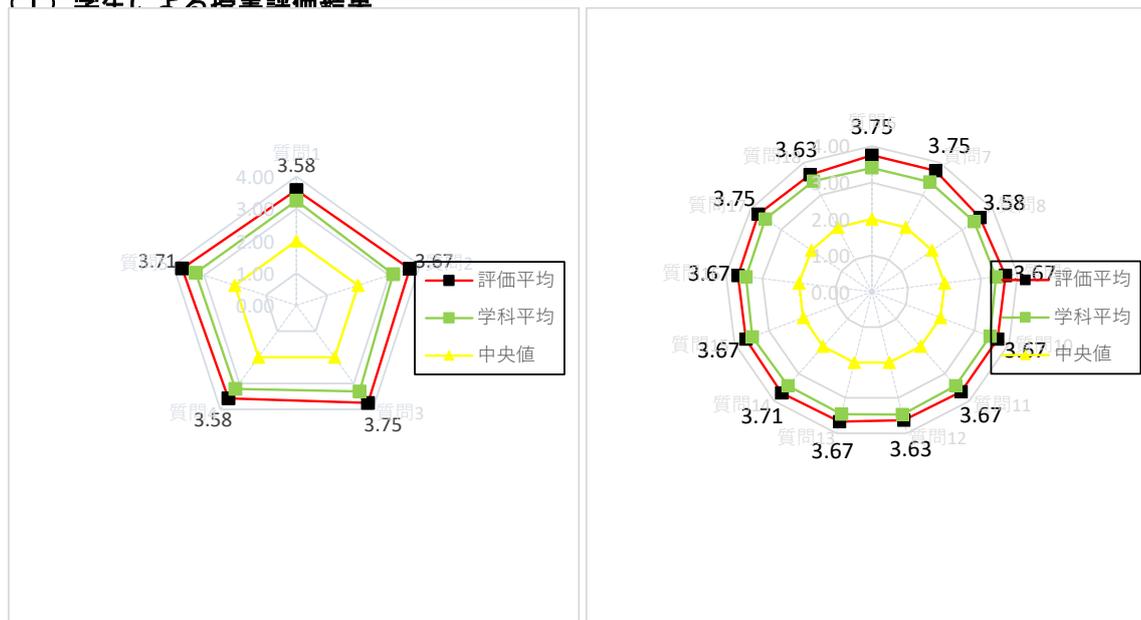
本授業について、ここに示された評価は、1年生と2年生の分の平均値となっている。この授業は1年を通して実施するものだが、この評価者は1年生と2年生は同一ではないため、結果を分けて評価をする。1年生の授業の総合評価は3.74であった。2年生の授業の総合評価は3.79であった。質問6～18について、1・2年生共に学科平均を上回っており、ほとんどの質問項目で約8割が評価4.0であった。この結果から、本授業の教育指導法は概ね高評であったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業は1年を通して実施する授業ではあるが、1年後期と2年前期で行う授業内容は異なっている。1年後期は、給食の運営に関する講義（演習）と西九州大学附属三光幼稚園での実践実習、2年前期は1年後期に学んだことをベースとして学内給食を実践することを目的としている。講義と実践では学生の学習意欲、理解度もかなり異なってくるが、例年、学生からの評価は比較的良好。このことから授業そのものはおおむね上手く展開できているのではないかとと思われる。次年度は留学生が学内給食の実践を行う。日本と留学生の母国の料理をミックスした給食で実践ができるよう検討していきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食管理実習Ⅱ	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

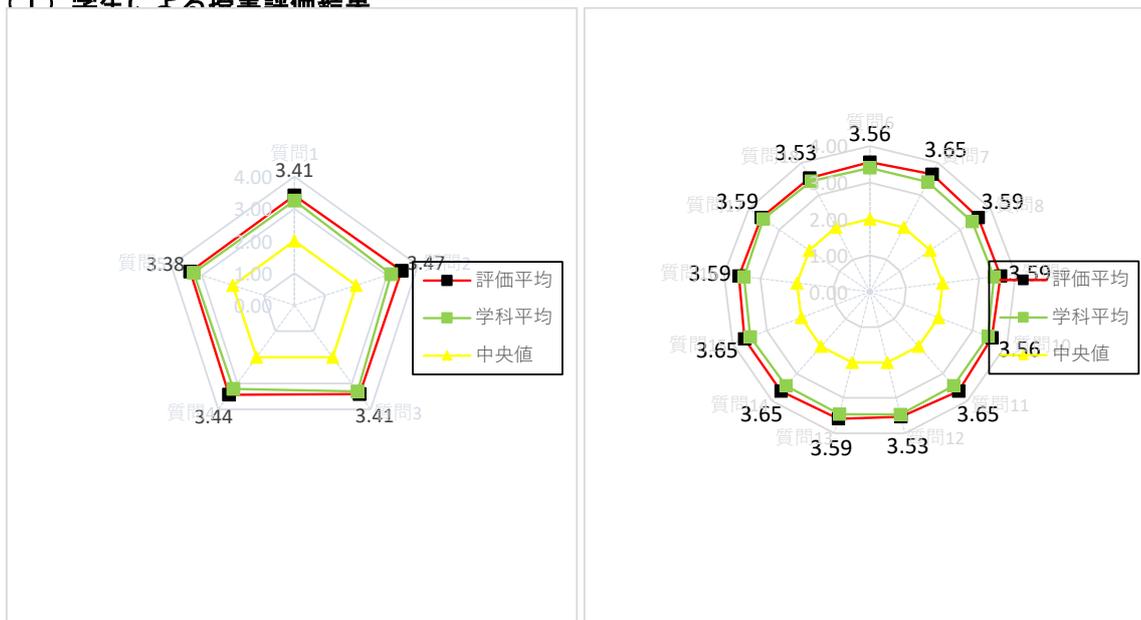
給食管理実習Ⅱは学外で行う実習で特定給食施設における給食管理の実際を体得すると共に特定給食における栄養管理のあり方を習得する科目である。学生自身の総合評価は3.71でQ1「授業は何回欠席しましたか」が3.58と他の項目より低かった。教員側の総合評価は3.67であった。低かった項目はQ8「興味関心をもてる工夫」は3.58、Q13「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか」は3.63であった。他の項目は3.67～3.75の値でこの授業の総合評価は3.67であった。総合評価を学科平均と比較すると0.18高かった。学生のコメントは特になかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であった。引く続き、学外の実習施設に出向き実践的な実習内容でこれまでに習得した専門的知識と技術をもって、実習先での課題発見や問題解決へ発展させる力を身につけさせる。また、栄養士業務のスキルアップにつなげる。また、実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせるなど人間形成の場としていきたい。実習後は学生同士の学びとしてパワーポイントを活用して発表することで情報共有も行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイティブ基礎理論	44名

(1) 学生による授業評価結果

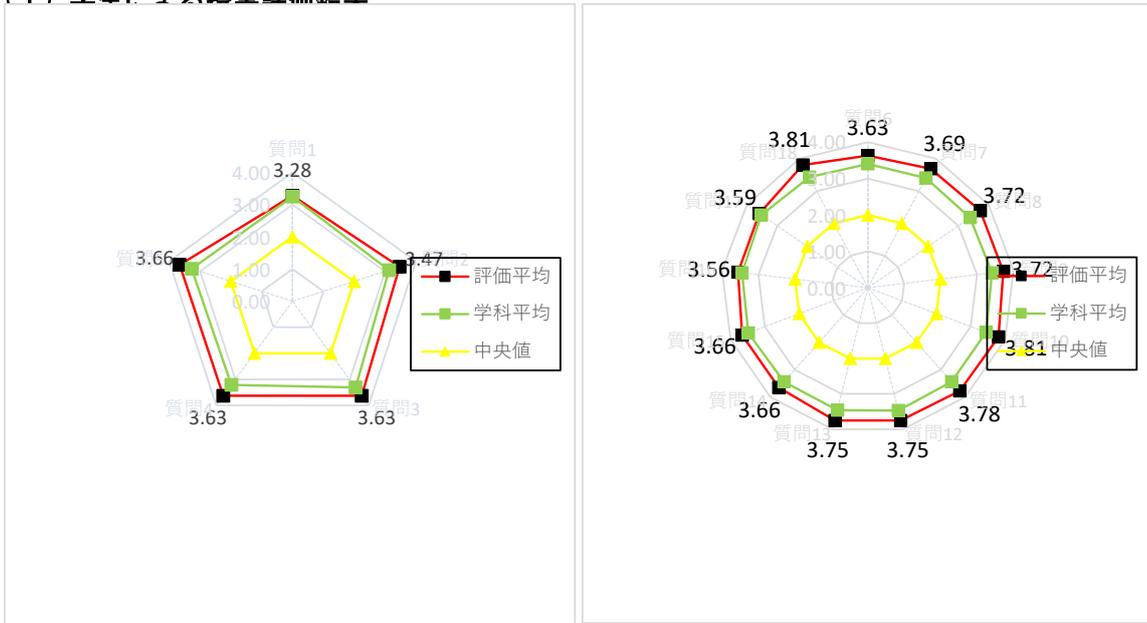


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイト基礎 実習	32名

(1) 学生による授業評価結果

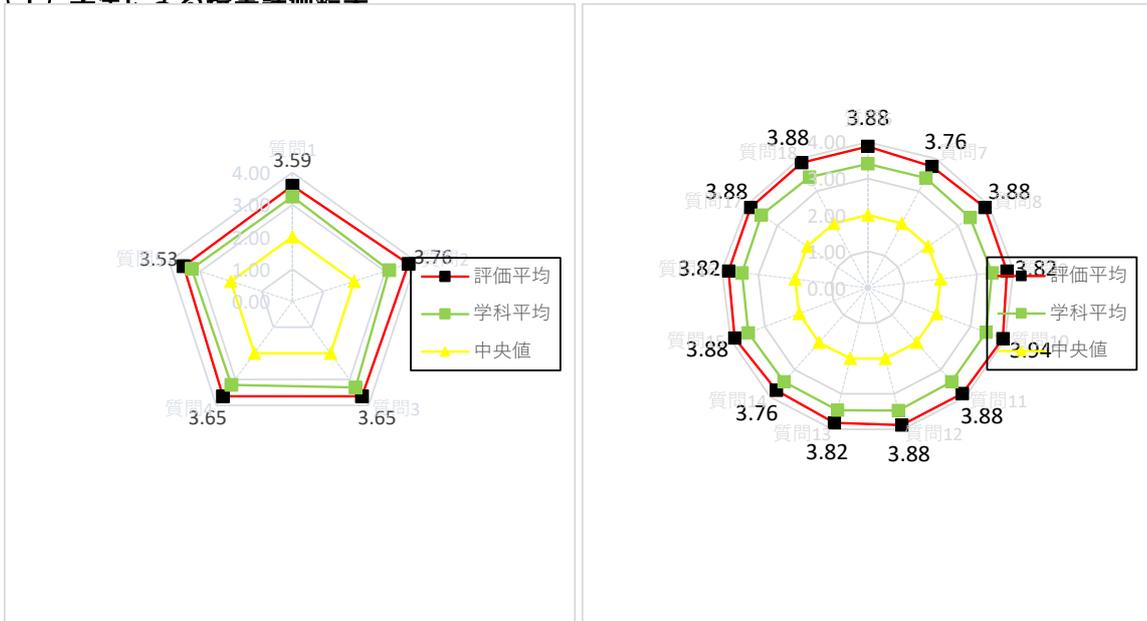


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイト応用 実習	17名

(1) 学生による授業評価結果

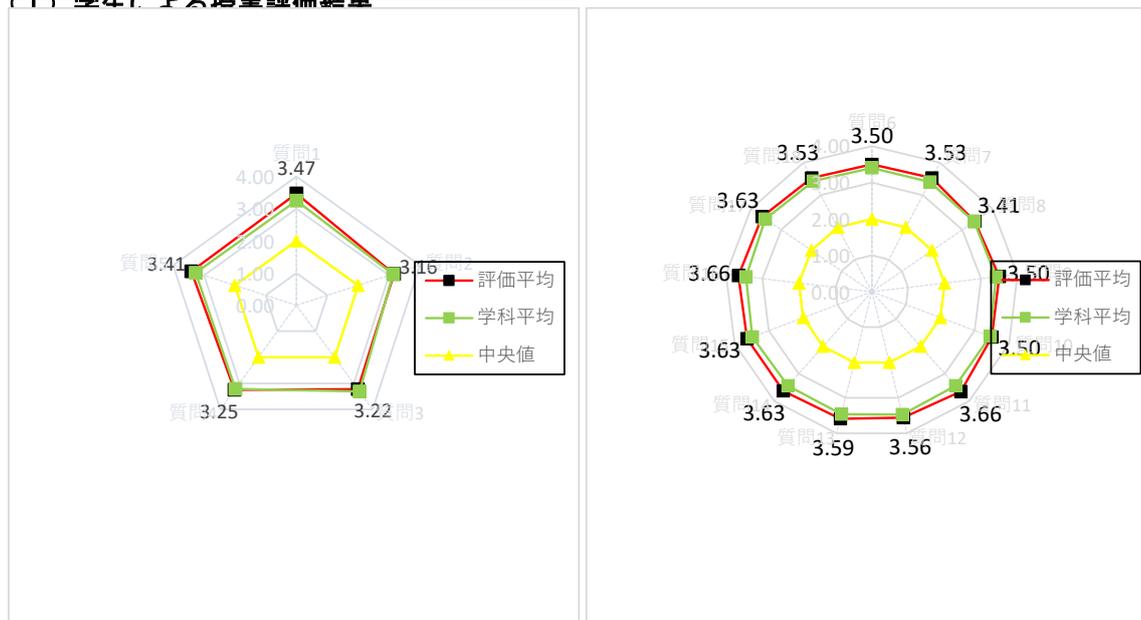


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会の理解 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

32/41 (78%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均と同程度であった。

本科目は、日本の法律や制度を学ぶものであり、留学生にとっては難解に感じる内容だと思われる。留学生も主体的に取り組む授業となるように、グループワークも実施しながら工夫を図った。

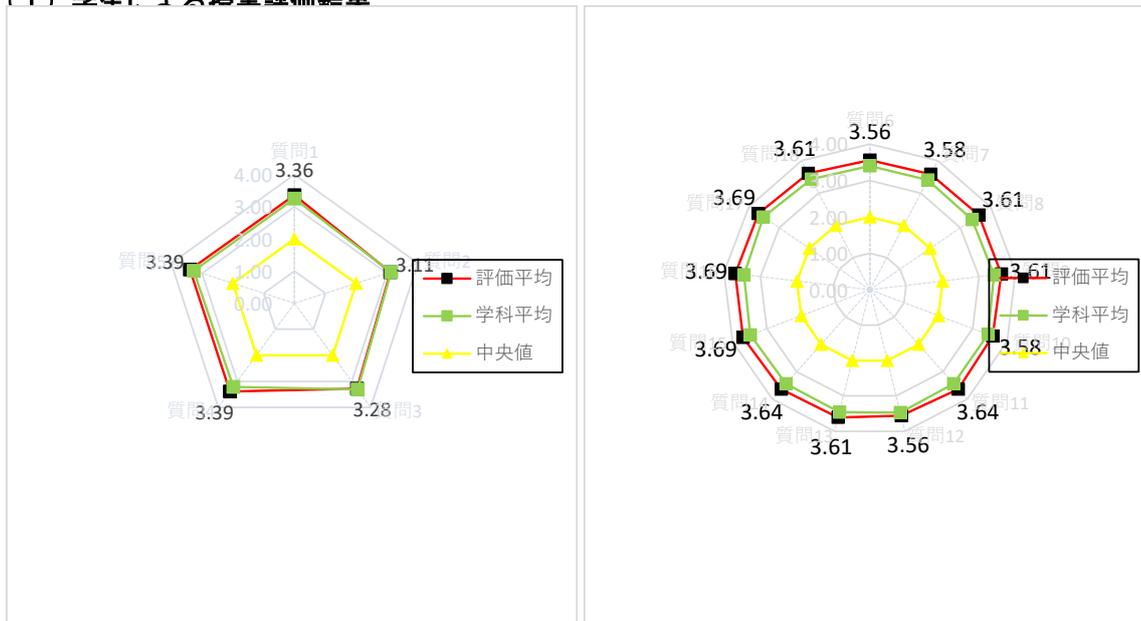
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、引き続き留学生も理解しやすいような授業となるように、グループワークや事例検討も行っていきたい。

自由記述からは「難しいが興味をもてた」などのコメントもあり、留学生も主体的に取り組めるように工夫を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会の理解Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

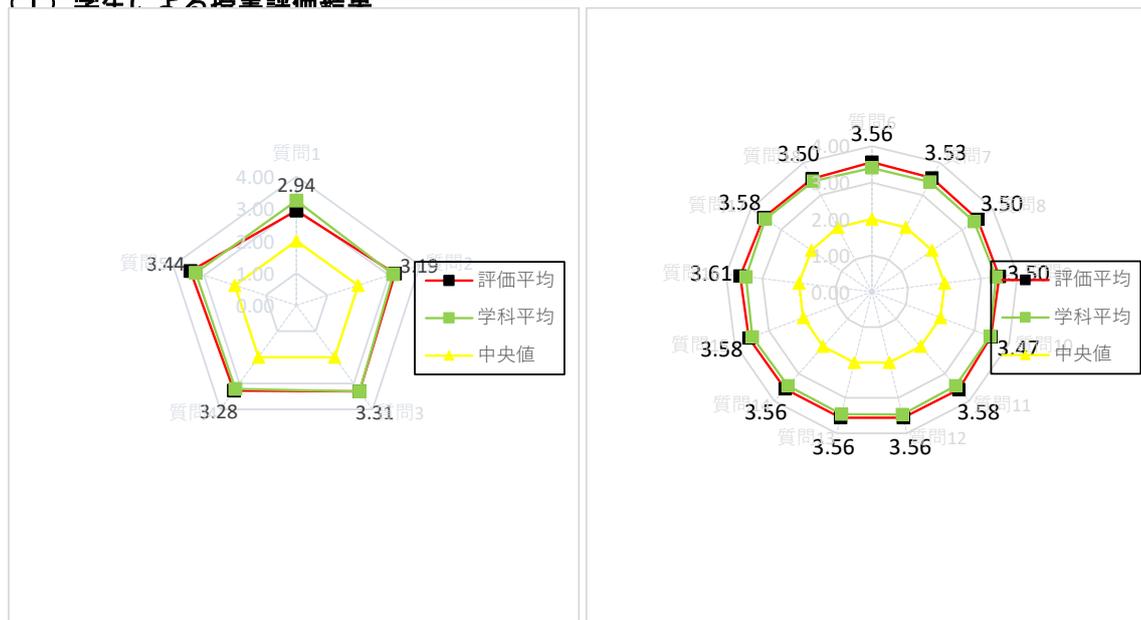
36/39 (92%) の回答であった。
 授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均と同程度であった。
 本科目は、日本の法律や制度をアツかうものであり、留学生にとっては難解に感じる内容だと思われる。
 留学生も主体的に取り組む授業となるように、グループワークも実施しながら工夫を図った。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、引き続き留学生が理解しやすいように、グループワークや事例検討を含めて授業の工夫を図っていきたい。
 また、国家試験受験に対応できるように基礎的理解が進むように授業を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合講座	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

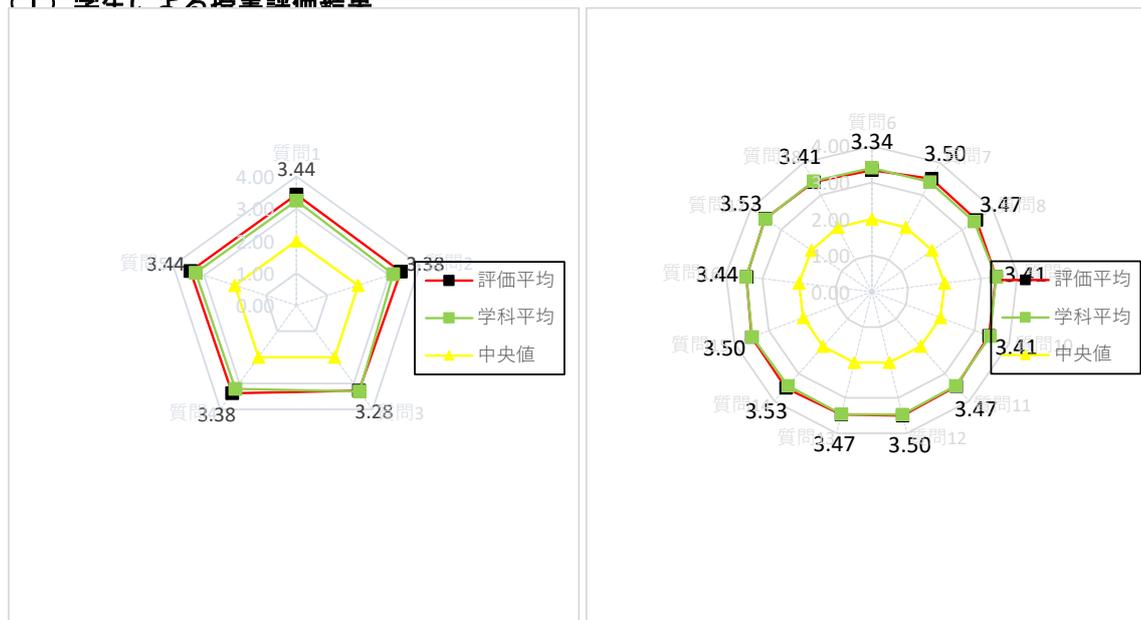
4名の専任教員のオムニバスの授業である。欠席をした学生も多かった。その中の4名が国試に不合格であった。出席させるための取り組みが必要である。評価は39名中36名が評価をした。自由記述には何も記述がなかった。シラバス、視聴覚教材、板書、声の大きさ、明瞭さ、話す速さ、質問への誠実な対応、熱心さに対し1~2名が2の評価をしていた。興味関心を持てる工夫については1名が1の評価をしていた。このことが不合格の1名分につながったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

欠席がないように、また、興味関心がわくような工夫を行う。欠席しない自覚を持たせる。授業評価の説明を行い評価の時間を確保する。評価を行ったかの確認を行う。欠席した学生のフォローについての工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合講座	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

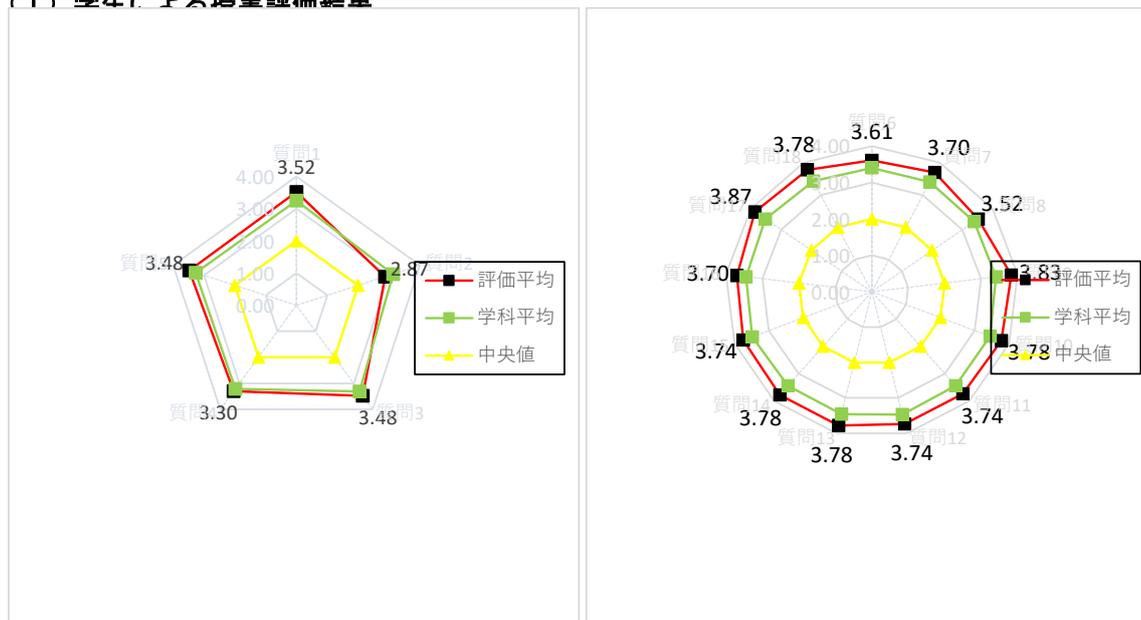
この科目は4名のコース教員が、それぞれの専門分野をオムニバスで担当し介護福祉士国家試験の受験対策として行ったものである。特に、前期は、専門教科を学び始めたばかりで、学生はやや戸惑いながらの受講だったことが想像できる。同時に、国家試験対策ということで、国家試験合格という明確な目標を意識する科目だったとも言えるだろう。今回授業評価をしたのは全員ではなかったが、質問1～5は、ほぼ学科学科平均値と同等であることや授業の様子から、学生が国家試験を意識して積極的に受講したことが想像できる。ただ、質問6～18は、学科学科平均値よりもやや低い評価値であり、国家試験対策の授業をいかにして学生に興味関心を持たせ、能動的に受講させるか、再考する必要性を感じる結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価値が低かった「シラバスの説明」、「視聴覚機器や板書の用い方」、「教科書・配布資料等の活用」、「授業の進む速さ」、「公平な学生対応」、「双方向的なやり取り」については、特に改善する必要があると考える。オムニバス形式での授業であるため、教員間での事前打ち合わせを十分に行い、授業方法については、今回の評価を基にある一定の基準を設けたうえで、教員各々の個性を活かして授業を展開していくよう検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本 I A	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

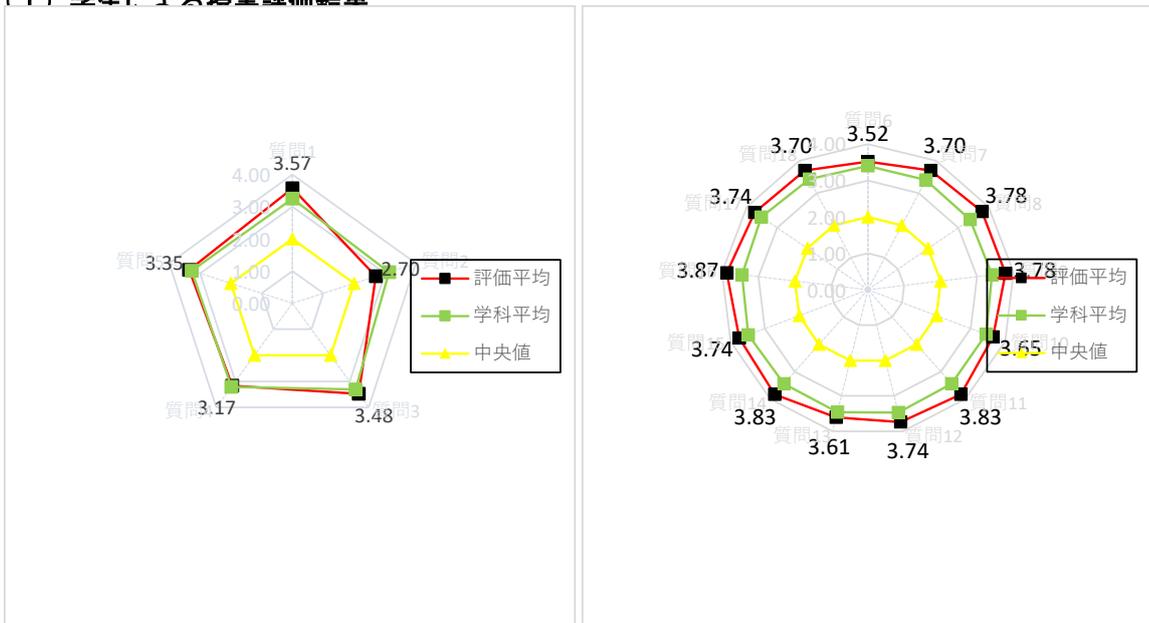
学生の授業参加度・総合自己評価は、1項目を除いて、おおむね学科平均と同様の結果となった。なかでも特に目立って低かったのは「シラバスの活用」であった。授業内容・方法および対応においては、おおむね学科平均と同様の結果であったが、唯一学科平均を下回ったのが「興味・関心が持てる工夫」であった。評価平均が最も高かった項目は「熱心に取り組んでいたか」であった。質問19～25の質問がない項目においても23名中15名が回答していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、学生の自己評価に関する項目の向上を目指す必要がある。まずは、初回の授業において、シラバスの重要性を強調し、授業計画に沿った学習の見通しを学生が持てるよう支援していく。「介護の基本 I A」は、介護の成り立ちや介護福祉の基本となる理念を学ぶ専門職としての能力を養うために大切な授業である。留学生も多く難しい内容が含まれるが、興味・関心が持てるようにわかりやすい説明を心がけたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本 I B	41名

(1) 学生による授業評価結果

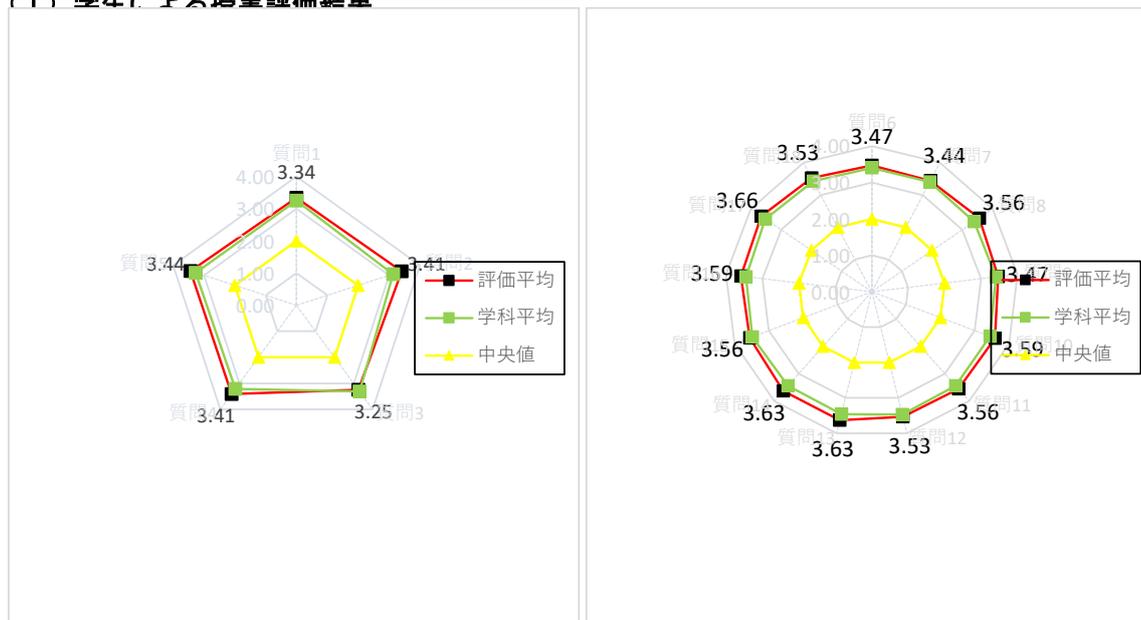


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡA	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

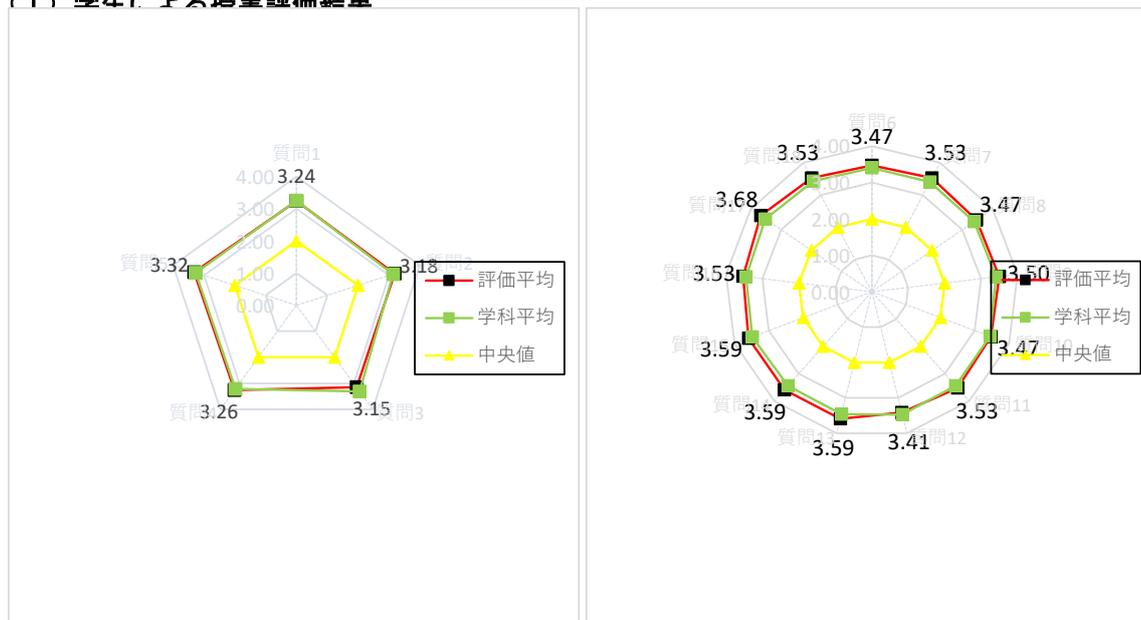
本授業は、評価項目全体を通じて高評価を得ており、特に「教員は双方方向的なやり取りをしながら、授業を行っていたか」（問17）では平均3.66と最も高い評価となった。また、「学生の理解に特に配慮していたか」「話す速さ・明瞭さ」等も平均3.5以上を維持しており、授業運営や配慮が学生に伝わっていることがうかがえる。自由記述では「知識が深まった」「公平に対応していた」「教え方が分かりやすい」といった意見が見られ、学習効果と授業満足度の双方において好意的な印象が強い。一方で、自己評価（問1?5）のスコアがやや控えめであり、特に「授業中に私語をせず真剣に取り組めたか」（問3）が3.25と最も低く、学習姿勢への自己評価には課題が見られる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、学生の主体的な学習態度をさらに促す仕掛けを強化する。具体的には、授業冒頭にその日の学習目標を明示し、終末には振り返りやミニワークを取り入れることで、集中力の維持と学習への自覚的な関与を促したい。また、グループ活動の導入やペアディスカッションの回数を増やすことで、互いの理解を深めながら積極的に学べる環境づくりを行う。加えて、自由記述で評価された「わかりやすさ」や「公平性」といった教員の対応については継続して重視し、安心して学べる授業を維持する。学生の自己評価力向上を目指し、ルーブリック評価や自己チェックシートの導入も検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡB	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

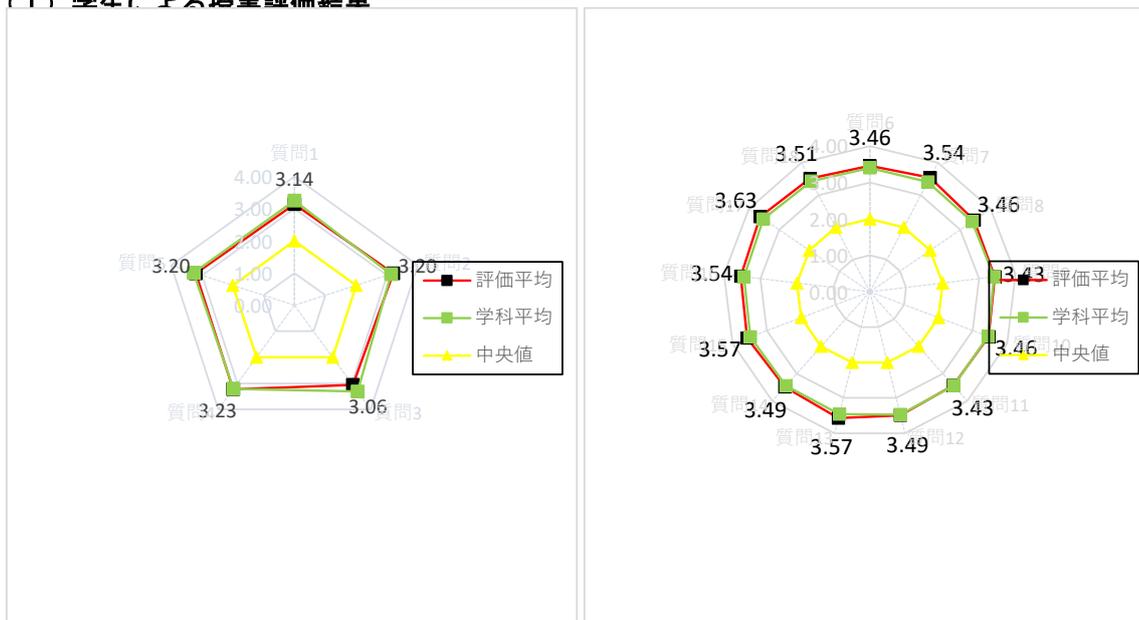
本科目は、介護現場でのリスクマネジメントを中心に学ぶ科目である。質問1～5は、学科平均値より低い値で、特に質問3の「授業中の居眠り・私語をせず真剣に取り組んだか」については、0.19ポイント低い評価である。教員に私語や居眠りが多かった印象はなく、むしろグループワークでは色々な意見を出し合い積極的に取り組んでいた印象であるが、グループワーク中に私語があったことが推測される。また、質問2の「シラバスの活用」についても、教員が授業途中でシラバスの確認をすることはほとんどなかったこともこの評価につながっているのではないだろうか。シラバスの活用方法を検討しなければならないと反省するところである。質問6以降の評価は、学科平均とほぼ同等か若干低い程度である。自由記述には、「学生の質問等に誠実に対応した。先生が私たち外国人のため色々な工夫をした。」や「先生はいつも積極的に笑顔で教えてくれたのでストレスなく学んだ。」など好意的な評価もあった。留学生への配慮が、日本人学生にとっては授業の進む速さが遅く感じたり不公平さを感じさせたのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業では、グループワークを多く取り入れているが、その際、ディスカッションと私語の違いを事前に説明する必要があると考えている。また、留学生には、授業中のグループワークの際は、留学生同士でも日本語でディスカッションすることを徹底したい。また、多数の留学生と少数の日本人の合同授業のため、どうしても授業のスピードを留学生に合わせてしまうが、その点についても、留学生、日本人学生の意見を聞きながら、改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢA	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

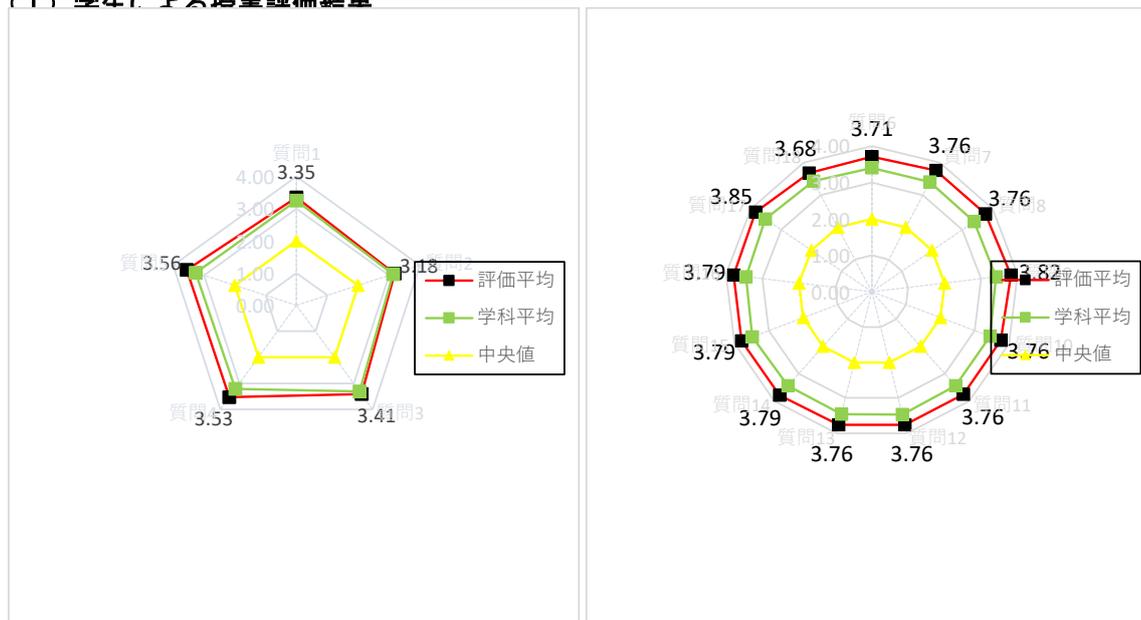
質問1～5、質問6～18ともに学科平均値より低い値となった。授業は、講義のほか、個人ワークやグループワークを取り入れながら、できるだけ双方向で進めるよう配慮した。居眠りする学生はほとんど見受けなかったが、質問3「授業中に居眠り・私語等をせずに真剣に取り組んだか」の評価値は低かった。留学生が多いクラスでの授業だが、グループワークの際、留学生同士で話す時は母国語が多く、教員には会話の内容が理解できないことがほとんどだが、グループワークのテーマに関係のない話をしていたと推測される。ただ、自由記述には、「正直的な授業だった」、「授業はとても楽しい。疲れていても先生が笑わせてストレスもやわらげた。」、「授業は面白かった。つまらない感情がないくらい笑った。「色々な知識も把握できた。」などとあり、この授業を肯定的に捉える学生もいたことがわかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

難しい内容をいかにわかりやすく伝え、いかに学生自身に考えさせるか、そのことを考えながら授業を行った。学生の学力にはかなりの幅があり、理解後は大きく異なると考えられるが、グループワークを多く取り入れることで、他者の考え方を知り、色々なことに気づきながら学生自身の考えを深めることが期待できる。実際、これまでの授業の中で、学生自身の変化を感じることは珍しくない。今後も、学生の様子を確認して理解後を把握しながら、双方向の授業を実施していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢB	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

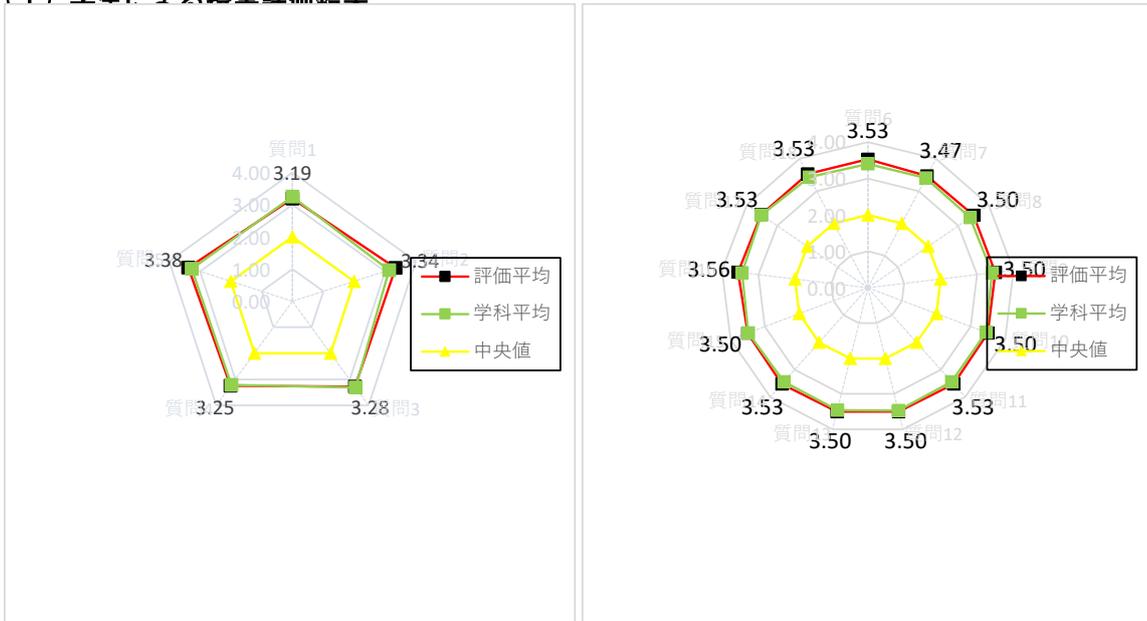
学生による授業評価の結果から、全体的に高い満足度が確認された。特に授業のわかりやすさ（質問9：3.82）や教員の双方向的な関わり（質問16：3.79）、熱意（質問8：3.76）などが高評価を得ており、教員の授業運営と学生との関係性において肯定的な印象がうかがえる。自由記述にも「素晴らしくてプロな先生」との記載があり、信頼感と尊敬の気持ちが表れている。一方で、学生自身の主体的な学び（質問2：シラバス活用 3.18、質問3：私語等をせず真剣に 3.41）については他の項目に比べてやや低く、学習姿勢に個人差が見られる点が課題といえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、学生の主体的な学びをより引き出す工夫を強化する。具体的には、毎回の授業冒頭でシラバスの該当項目を明示し、授業の目的やねらいを共有することにより、学習の見通しを持たせる。また、ペアワークや小グループディスカッションを定期的に取り入れ、私語を防ぎつつ学び合いを促進する。加えて、振り返りシートや簡易的な自己評価を導入し、学生自身が学習のプロセスを自覚しやすい仕掛けを整える。高評価であった教員側の取り組みは継続しつつ、学習者の能動性を育む双方向的な授業構成を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		コミュニケーション技術 A	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		コミュニケーション技術 B	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の総合自己評価は、全体的に学科の平均評価を下回っていた。なかでも低かったのは、「シラバスの活用」であった。

授業内容・方法および対応においては、おおむね学科平均と同様の結果となった。学科平均を上回った項目は「公平な対応」であり、下回った項目には、「シラバスの説明」と「興味・関心が持てる工夫」であった。

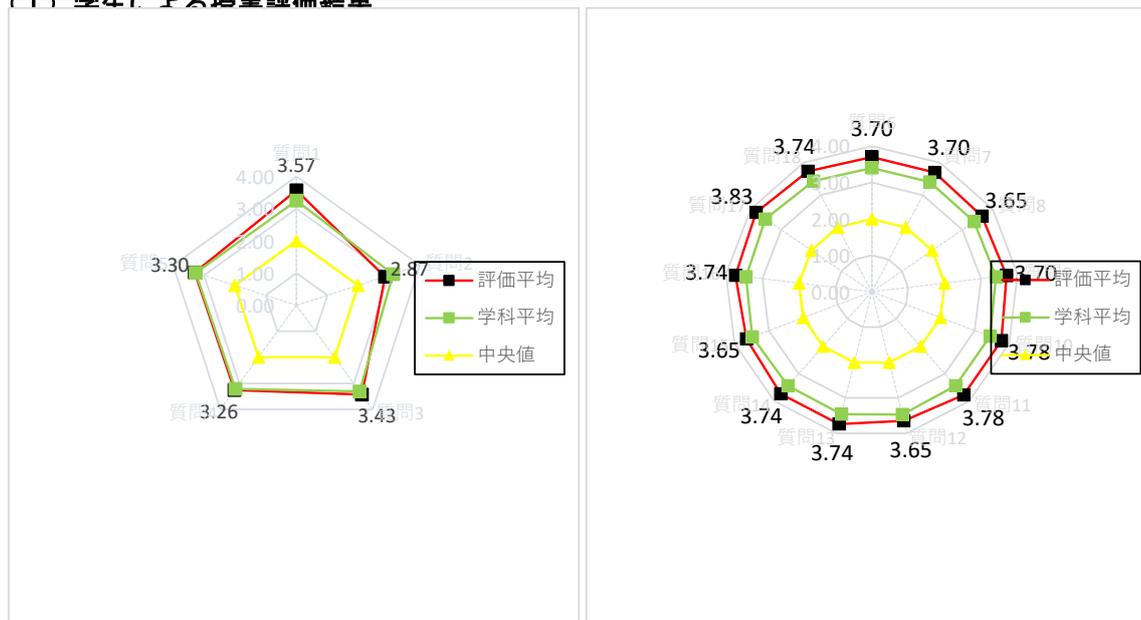
問19～25の質問がない項目においても36名中26名が回答していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、学生の自己評価に関する項目の向上を目指す必要がある。まずは、初回の授業において、シラバスの重要性を強調し、授業計画に沿った学習の見通しを学生が持てるよう支援していく。オムニバス授業であり、半分は手話の授業であることから、興味・関心度は高いと思われたが、思っていた結果にはならなかった。介護福祉職としてさまざまな人と関わるためのコミュニケーション技術を習得し、介護実践に活かすための科目であるため、実践的内容を多く取り入れ、興味関心を高められるようにしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術A	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

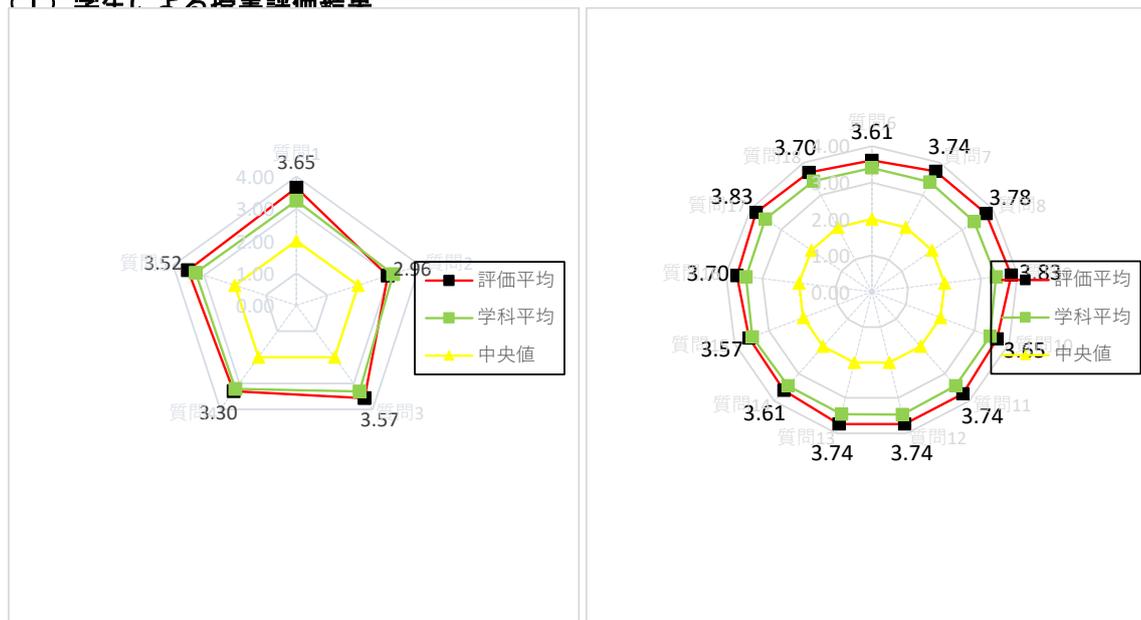
学生の授業参加度・総合自己評価は、1項目を除いて、おおむね学科平均と同様の結果となった。特に目立って低かったのは「シラバスの活用」であった。授業の出席状況は高い結果となっている。授業内容・方法および対応においては、全項目において学科平均よりも高い結果であった。評価平均が最も高かった項目は「熱心に取り組んでいたか」であった。質問19～25の質問がない項目においても23名中15名が回答していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

「生活支援技術A」の授業は、「生活支援技術B」と連携し、介護の実技を行う前のそれぞれの介護技術の理論的な説明と手順を説明する授業となっている。出席率が高かった理由は、介護技術の前準備として必要な授業だと受け止めているのだと考える。次年度に向けては、学生の自己評価に関する項目の向上を目指す必要がある。まずは、初回の授業において、シラバスの重要性を強調し、授業計画に沿った学習の見通しを学生が持てるよう支援していく。授業内容・方法および対応においては、おおむね高い評価であったが、全項目の中でやや評価が低かった「興味や関心が持てる工夫」においては、実際の動きが理解できるよう留学生にもわかりやすい説明の仕方を工夫したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術B	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

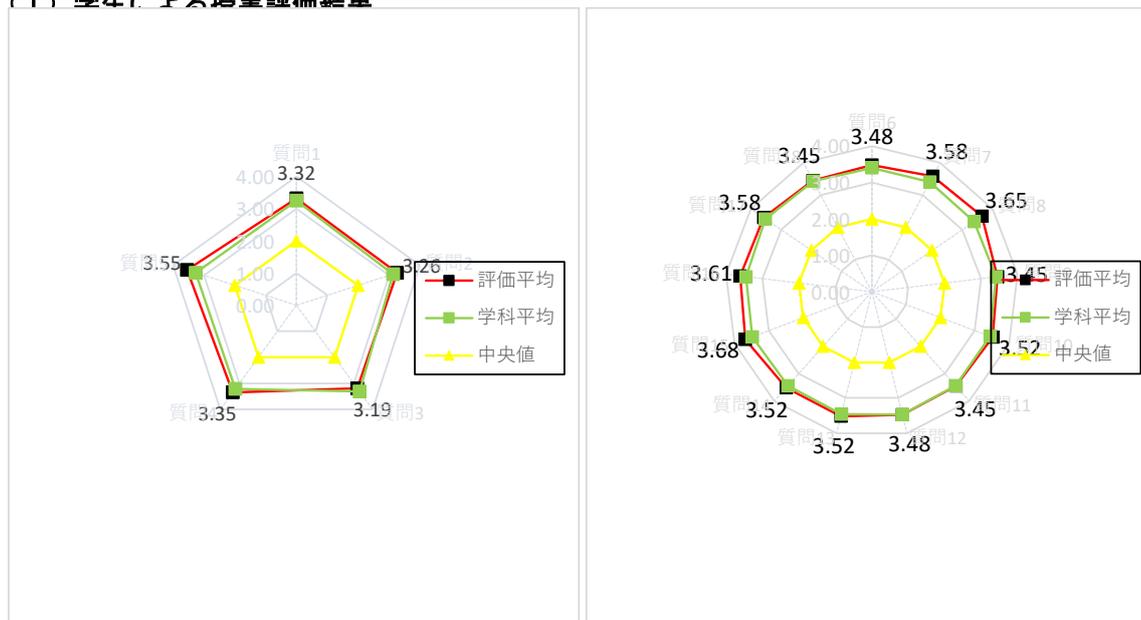
授業は、演習で介護技術の実技を学ぶ内容で、多くの学生が積極的に取り組んでいた。シラバスの確認をすることは少なかったようだが、授業スケジュールを確認する様子はよく見受けた。質問6～18は、質問6～18は、概ね肯定的な評価だった。特に、質問8、「授業は興味・関心が持てる工夫がされていか」や質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていたか」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切だったか」、は、高い評価だった。教員は、学生の自主性を重んじ、学生自身が自ら動くことを重要視して授業を勧めたが、結果的には、そのことが授業評価値につながったのだと考えている。自由記述には、「お互い協力して頑張った。」、「わかりやすかった。外国人の私がとても聞きやすい授業だった。」、「質問への返事はとても丁寧で良いと思う。」、「利用者に必要な方法や工夫を詳しく説明し、優しい日本語でわかるように説明していた。」など肯定的だった。教員の対応だけでなく、学生同士の学び合いも多かったことが今期の評価につながったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には、これまで同様教員は介護技術の基本を示し、後はできるだけ学生同士での演習時間を多く確保し、何度も演習を繰り返して介護技術を習得するスタイルで授業を行いたい。教員は、あくまでわからない時にいつでも答える姿勢で対応しようと考えている。学生が、技術を習得することで自信を持ち、さらに技術を高めようと向上心を持てるような助言・指導をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術C	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

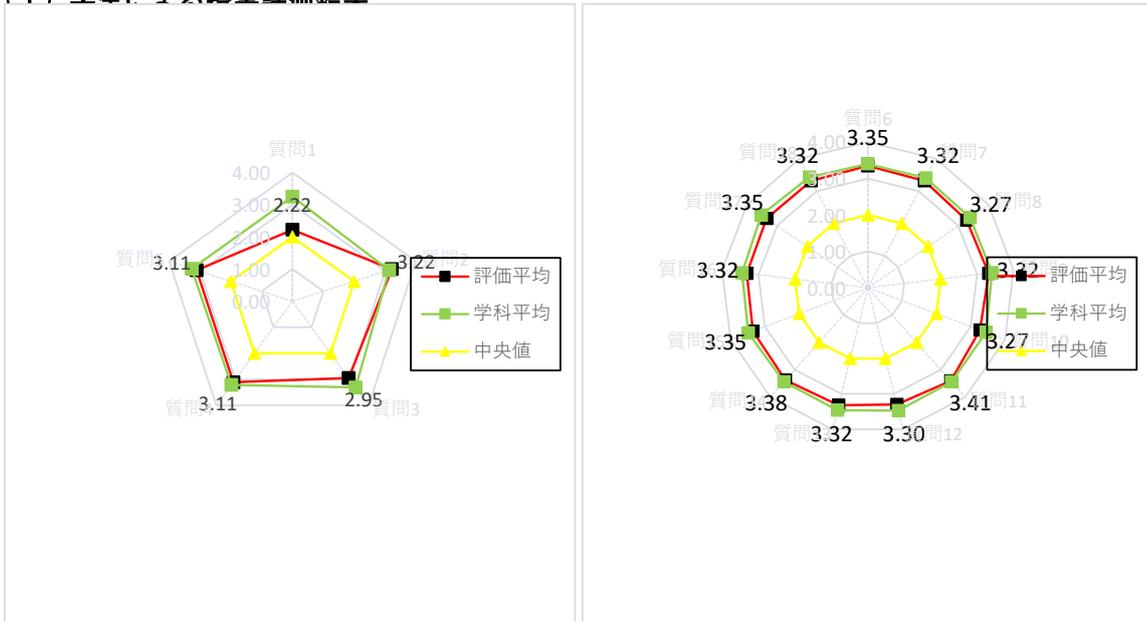
本授業は受講者41名を対象とし、全体的に評価平均が3.5前後と良好であった。特に、質問6～18の教員の説明の明確さ、授業の分かりやすさ、視覚教材の活用、学生への対応など、多くの項目で学科平均および中央値を上回っており、授業運営に対する学生の満足度が高いことが読み取れる。自由記述では「先生の教え方は分かりやすい」というコメントが寄せられ、内容の伝わりやすさと教員の工夫が評価されたと推察される。一方、質問2～4（シラバスの活用、私語をせず取り組んだか、自主的学習の工夫）においてはやや評価が低く、学生側の主体性に課題が見られる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の結果から、授業内容や教員の説明・対応には一定の評価が得られており、基礎技術の習得を目指した授業設計は概ね適切であったと考える。次年度に向けては、学生の主体的学習を促す取り組みを強化する必要がある。具体的には、授業内に確認問題やペアワークを取り入れ、学生同士の対話やアウトプットの機会を増やすことで、より積極的な学習態度を引き出す。また、シラバスを学習の羅針盤として活用できるよう、各回の導入時に学習目標とのつながりを明示するなど、学生自身が学びを意識できる仕組みを取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術D	38名

(1) 学生による授業評価結果

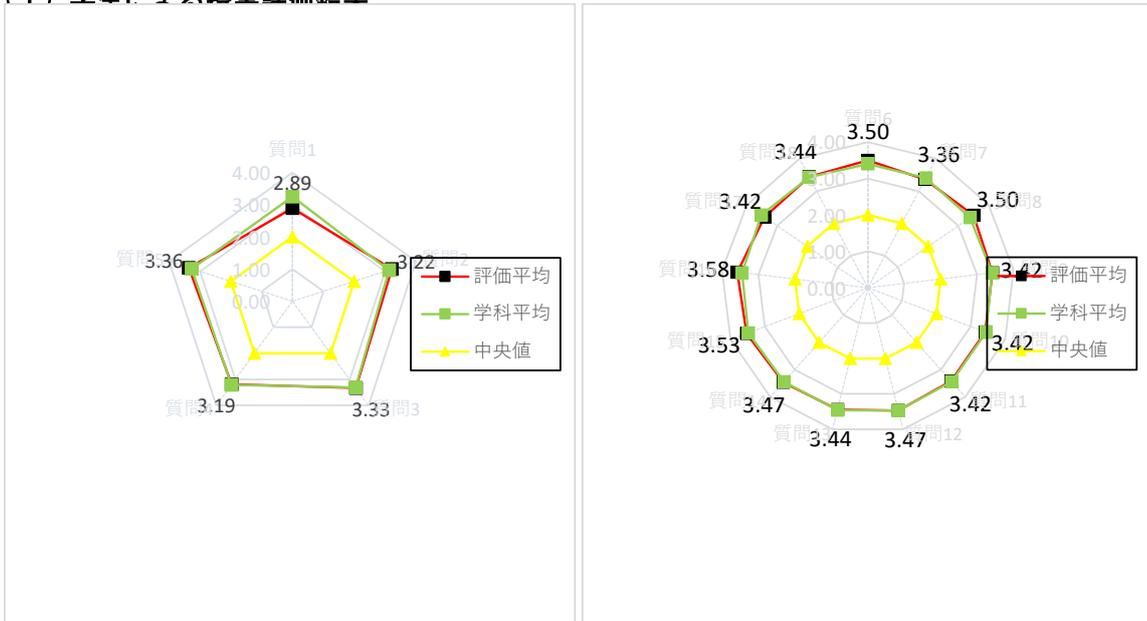


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術E	37名

(1) 学生による授業評価結果

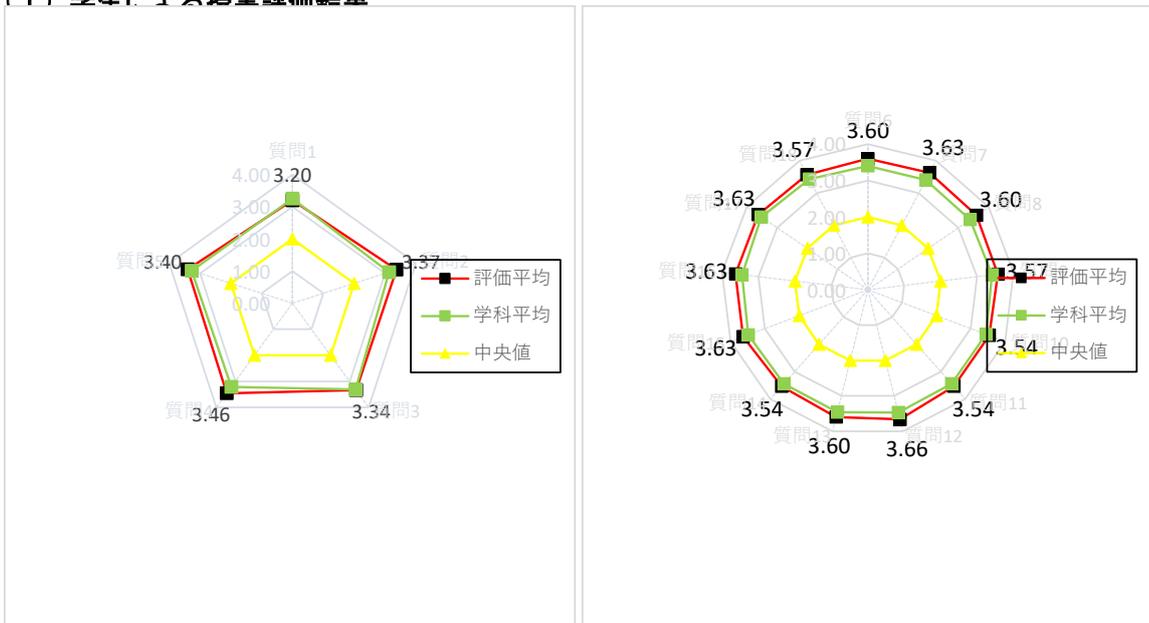


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術F	38名

(1) 学生による授業評価結果

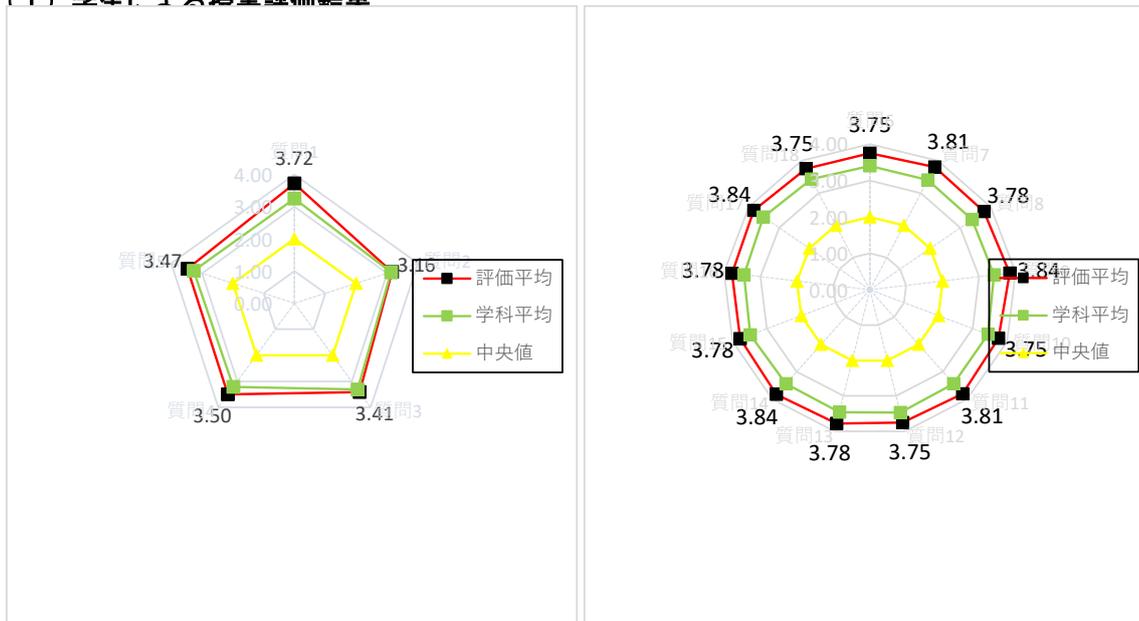


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術G	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

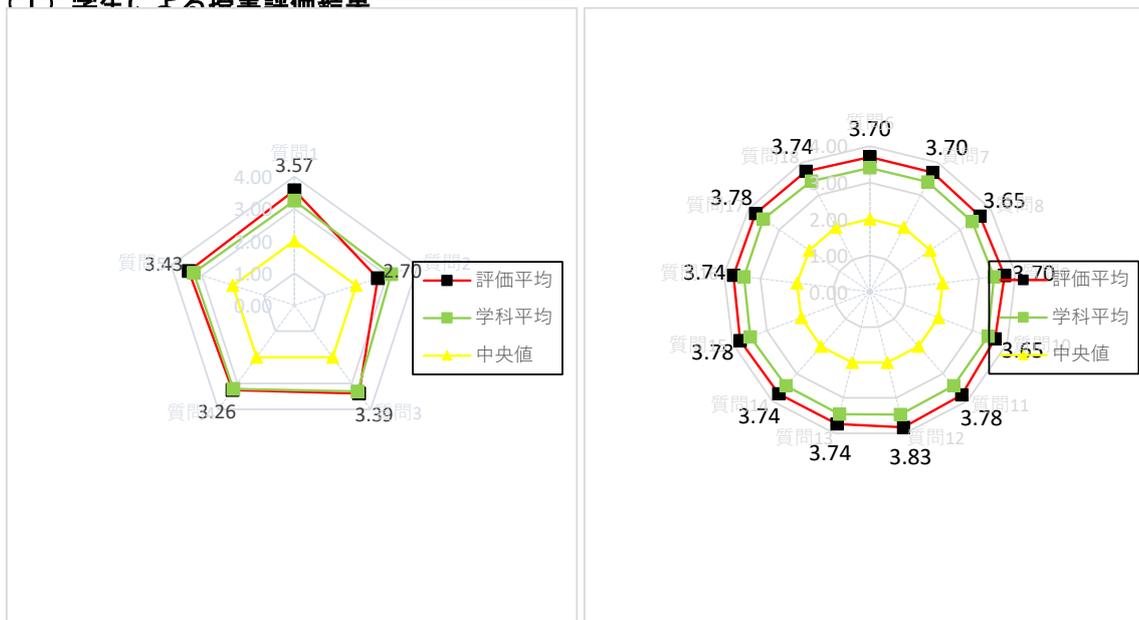
38名中32名が評価。14名が質問がないところにもこたえていた。実技が中心だったためか学科平均より良かった。自由記述には素晴らしくプロな先生に教わったとあった。シラバス、視聴覚機材、板書、声の大きさ、明瞭さ、話す速さの項目に1名2につけていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価についての説明、評価時間を確保し、評価を行ったか確認を行う。シラバスの確認、声の大きさ、明瞭な発音、はやす速さに気を付けながら授業を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

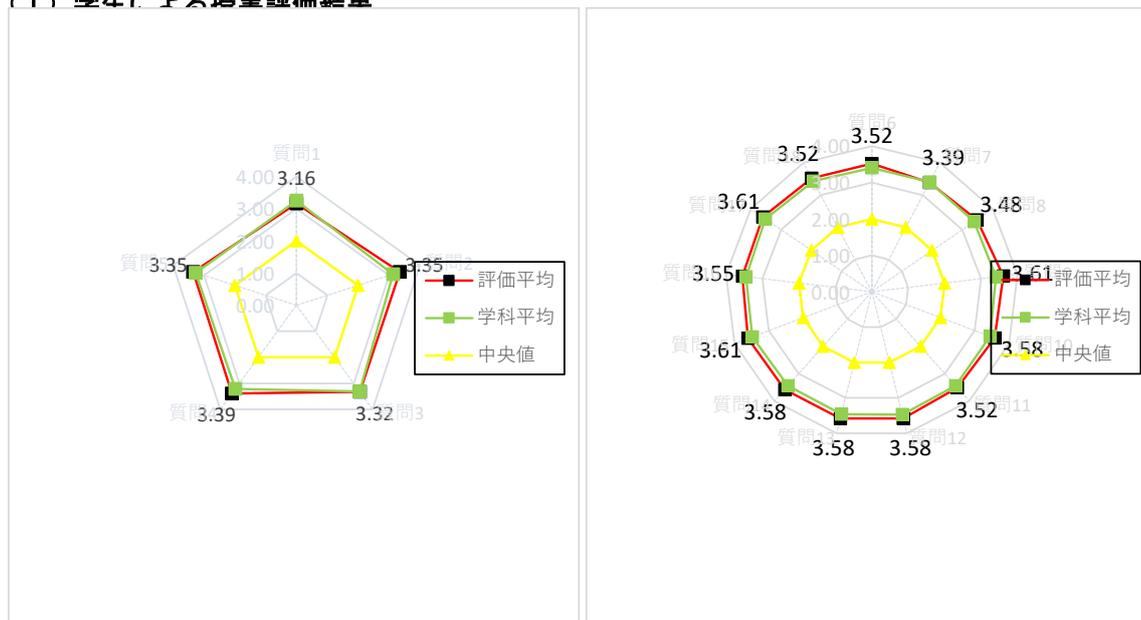
質問2「シラバスの活用」は、学科平均よりかなり低い評価値となっている。初回授業でシラバスの説明を行い、その際シラバスの活用についても話はしたが、その後教員から特にシラバスの活用を促すコメントはしなかった。そのこともこの評価の値につながっていると考えられる。質問6～18は、概ね学科平均より高い評価値になっている。自由記述には、「利用者の身体的、心理的、社会的な状態を評価し、介護のニーズを明らかにすることとアセスメントの結果に基づき、利用者のニーズに応じた具体的な介護計画を立てることも知った。」「アセスメント、介護経学の立案、介護の実施、評価の理解、目標を立てる理由がわかった。」「介護福祉の知識や技術を覚えるだけでは不十分なので介護過程が必要なことに気づいた。」など、介護過程の意義に関するコメントがあり、学生が介護福祉士にとっていかにこの科目の学びが必要なのかを理解しているかということがわかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、介護福祉士の専門性に大きくかかわる内容であり、そのことに学生が自ら気づくことが重要だと考えているが、今回の評価からは、学生がこの科目を前向きに学ぼうとする意欲を持っていることが推測される。今後は、その意欲を持続させる取り組みが必要だと感じている。そのためには、他科目との関係性を丁寧に説明し、どの科目の学びも、この介護過程という科目につながることを認識させることが重要である。他科目の授業でも、介護過程との関連性を意識するような授業を展開したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

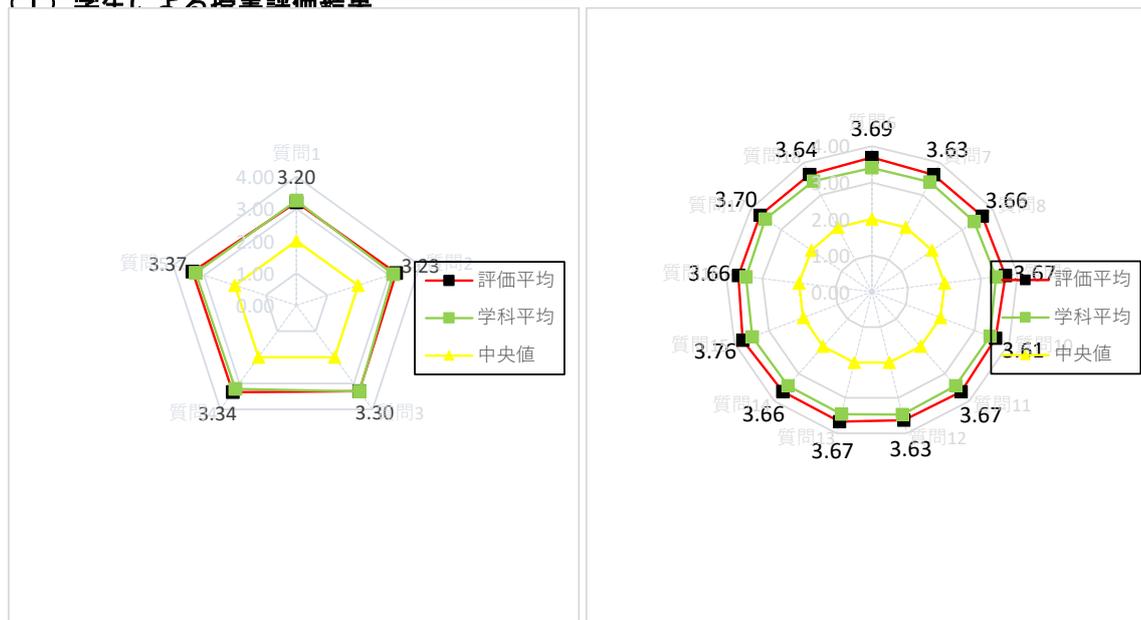
質問1の授業欠席回数と質問7の教員の授業目標の明確化の項目が学科平均よりやや低い。1回目の授業では、シラバスの説明行い、到達目標を全員で声に出して読むことで互いに到達目標を確認しているが、授業の度に目標を明確にすることはしなかった。授業ごとに目標を明確にすることが、授業への参加度や意欲の向上につながることは容易に想像できるがそれを実施しなかった。そのことが、授業への興味・関心、欠席回数の減少にもつながったのではないかと推測できる。この科目は、要介護者の情報から課題を分析し介護計画の立案を行う内容だが、学生からは難しいという声が多い。今回の評価から、教員の授業の工夫がもっと必要だということが明らかになったといえるだろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、到達目標を明確にした授業の進め方を検討する。目標を明確にすることによって、授業への関心の持ち方も違ってくることが予測できる。また、この科目は、必要なことを覚えるというより自分で考えることが多く、個人演習も多い。その場合学生一人一人演習にかかる時間が異なるため、授業の進め方に難しさを感じることも多いが、学生への助言が質問に答える機会をさらに多く作り、できるだけ演習に係る時間をそろえ、また、双方向的な授業を意識した授業としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅲ	75名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

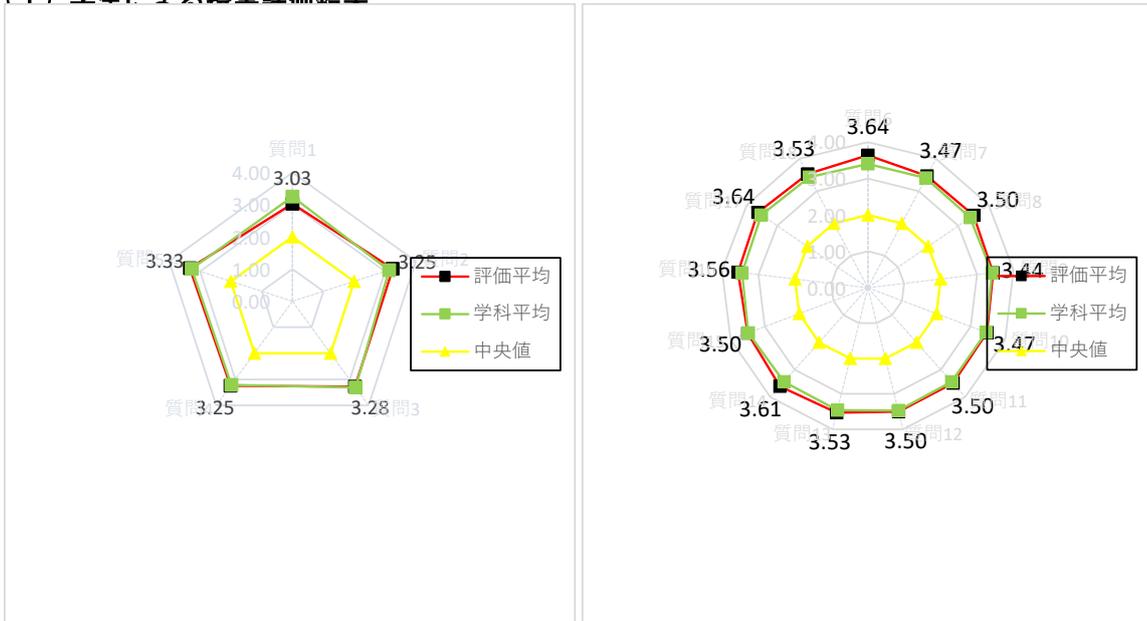
学生の授業参加度・総合自己評価は、おおむね学科平均と同様の結果となった。なかでも評価平均が一番高かった項目は「居眠り・私語なく真剣な取り組み」であった。授業内容・方法および対応においては、全体的に学科の平均評価を上回っていた。特に学科平均を上回っていた項目は「シラバスの説明」と「公平な対応」であった。質問19～25の質問がない項目においても36名中17名が回答していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、学生の自己評価に関する項目の向上を目指す必要がある。居眠りや私語が少なかった理由として、「介護過程Ⅲ」の授業は、通年科目であり特に後期はさまざまな種別の介護施設の現役講師による授業であるため、間もなく働くであろう介護の現場に関する介護過程をととても身近に感じ、真剣に授業を受けることができたと考える。他の科目と同じようにシラバスの説明を行っているが、外部講師に失礼にならないよう細やかにアナウンスしていたことが、学生の印象を強めた可能性がある。次年度もすべての科目において、学生の印象に残る説明を心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅳ	37名

(1) 学生による授業評価結果

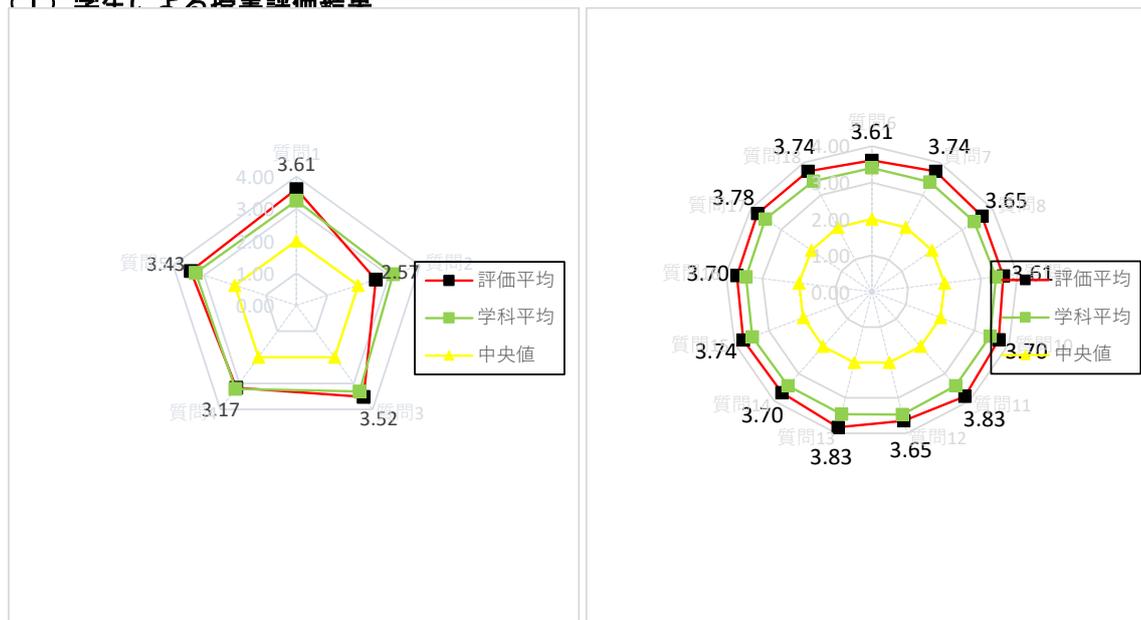


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

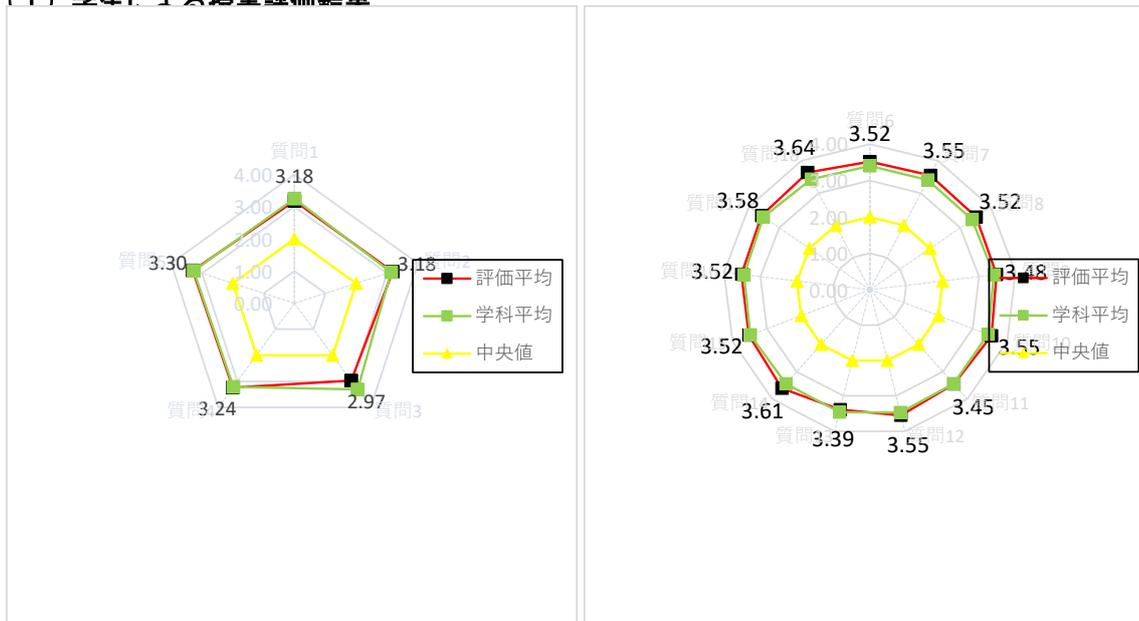
学科平均値と比較すると、質問2のシラバスの活用についての評価が極端に低い。初回の授業でシラバスの説明を行うが、その後の活用についての指導やアドバイスを行わなかったこともその要因だと考える。一方、質問6から質問18の評価は、学科平均値よりも高い評価であった。また、自由記述には、「友達たちとグループディスカッションを行い、異なる視点や意見を共有しました。それから利用者との効果的なコミュニケーション方法を実践しました。」とあった。この科目は、介護実習の前準備としての要素が強く、他科目との関連を含めた介護福祉の総合的学習となっている。今回の結果からは、初めての介護実習に対して積極的に取り組もうとする学生の意欲がうかがえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

教員が授業の中でシラバスを活用することで、学生もおのずとシラバスを活用するようにしたい。また、これまで行っていたように介護実習施設の調べ学習や学生同士のディスカッションを多く取り入れながら、学生が主体的に学び介護実習への不安を少しでも軽減し、よい介護実習につながる学習時間をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

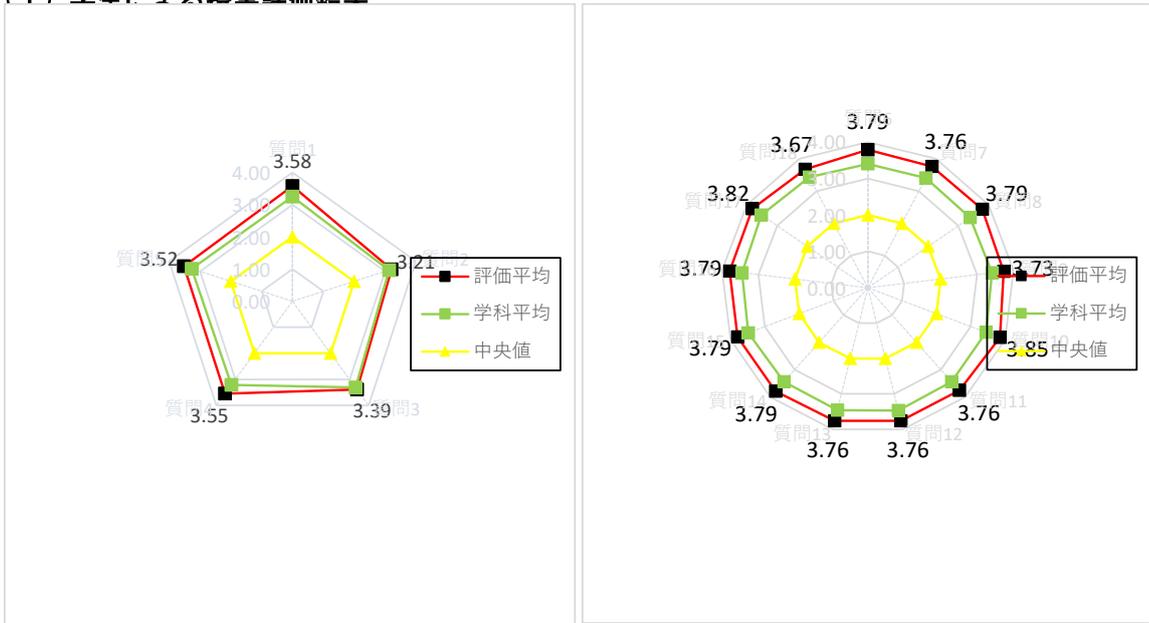
本科目は、1年次後期の開講で、夏休みに実施した介護実習の振り返りを行い、今後の実習課題を明確化することを中心とした授業である。評価は、全体的に学科平均値よりも低い結果であった。特に質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」は学科平均よりもかなり低い数値である。授業では、介護実習の振り返りをグループディスカッションという形で行うことが多かったが、実際実習に関係のない私語が多く、教員が注することも多かった。また、留学生同士は、母国語で話すことも多く、その会話がグループワークに関係のあることなのかどうかは、教員には判断できないことも事実である。質問6から質問18については質問18以外の項目で学科平均値より低い評価であった。授業の内容、進め方全体を見直す必要があると考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

まず、授業方法を全体的に見直したい。本科目は、夏休みに実施した介護実習Ⅰの振り返りが中心となる授業である。介護実習は、基本的に一人当たり6カ所で行うため、個人の振り返りには多くの時間を要し、さらにその後、グループワークを行い、最終的には全体で振り返りを共有することになっている。しかし、その過程で私語が多くなったり、教員の直接的な指導が少なくなることも事実である。今後は、個人、グループでの振り返りの時間を短縮し、振り返りから把握した課題の解決に向けた学習を多く取り入れるなどして、教員との双方向的な学習にしたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅲ	37名

(1) 学生による授業評価結果

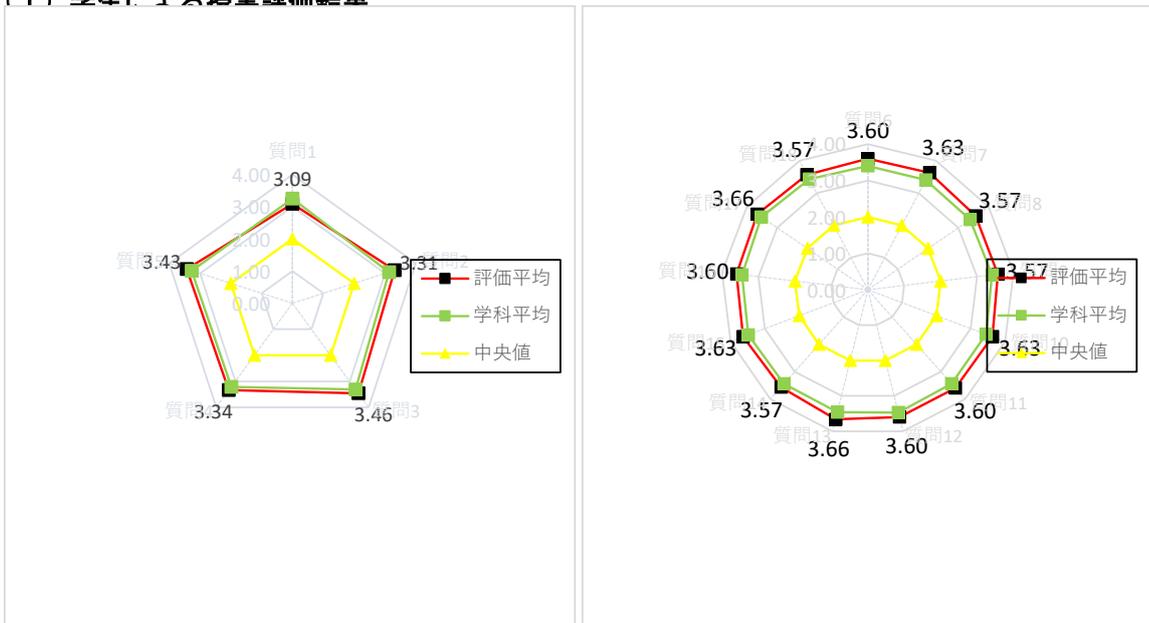


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅳ	37名

(1) 学生による授業評価結果

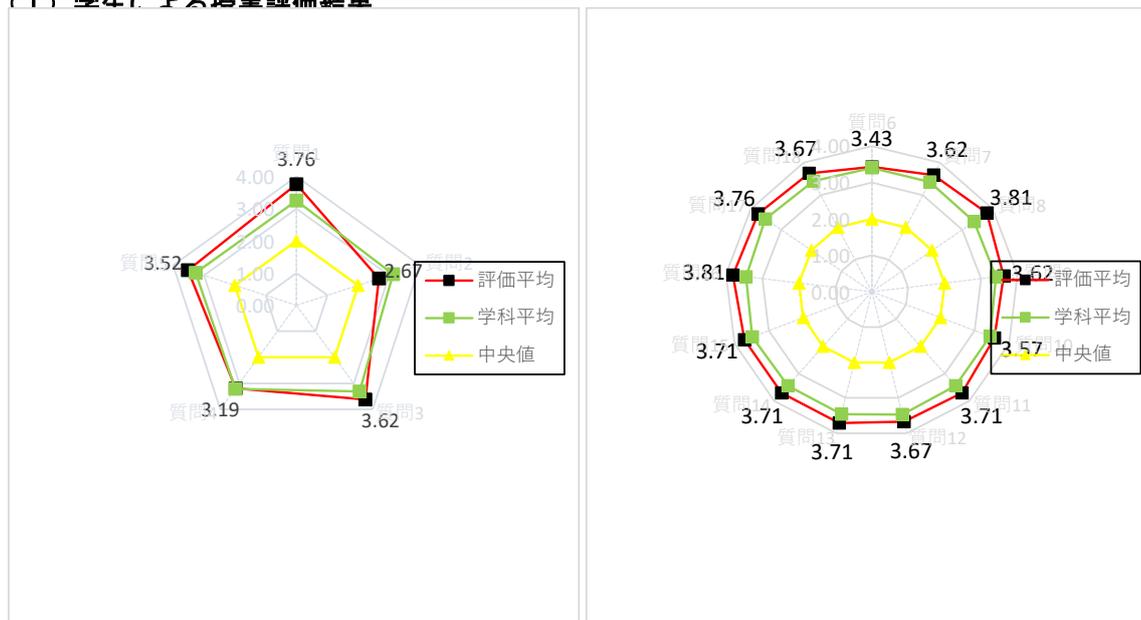


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

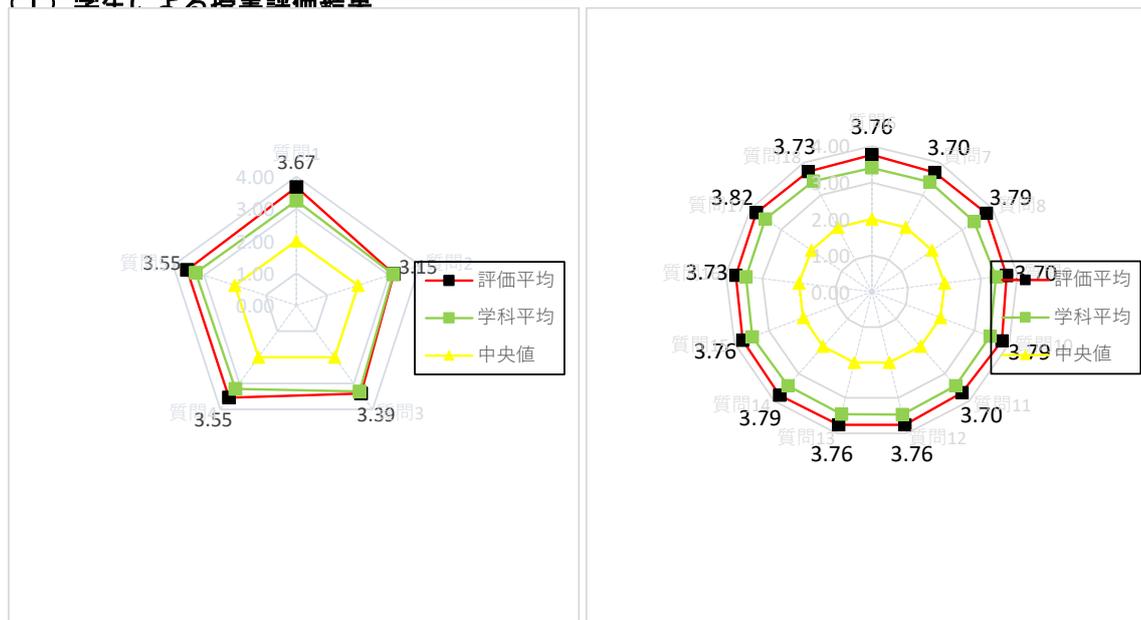
まず、41名中21名しか授業評価を実施しておらず、授業評価アンケートへの協力依頼を徹底できていなかったことを反省している。本科目(介護実習 I)は、本来夏休みに実施するが、施設の都合(感染症対策・対応)で春休みまで実習が長引いた学生も多数であった。実習ということもあり、出席率は非常に良いが、質問2のシラバスの活用はかなり低い値である。ただ、実習の際は、現実的にはシラバスよりも介護実習の目標等を活用しているため、この評価値についてはある意味妥当ともいえるのではないだろうか。質問6から質問18は、学科平均よりもやや高い評価値であった。1週間に1度は、コース教員が実習巡回に行き学生の実習状況を確認するが、その際の学生への指導が十分できていたことがうかがえる。実際、自由記述には、「先生の話はわかりやすくいつも笑顔で教えてもらった。実習をするときとても役に立った。」「利用者に対する必要な方法や工夫などを詳しく説明し、わからないことがあったら優しい日本語でわかるように説明してもらった」などがあつた。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習が長期休業中に行われることもあり、実習巡回時に学生への授業評価依頼の声かけを徹底することが必要である。学生への指導は、これまで通り1週間に1度の実習巡回で学生の実習状況を把握し、実習に対する不安やストレスに寄り添いながら、それぞれの実習状況に合わせて丁寧な指導とフォローを行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習Ⅱ	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

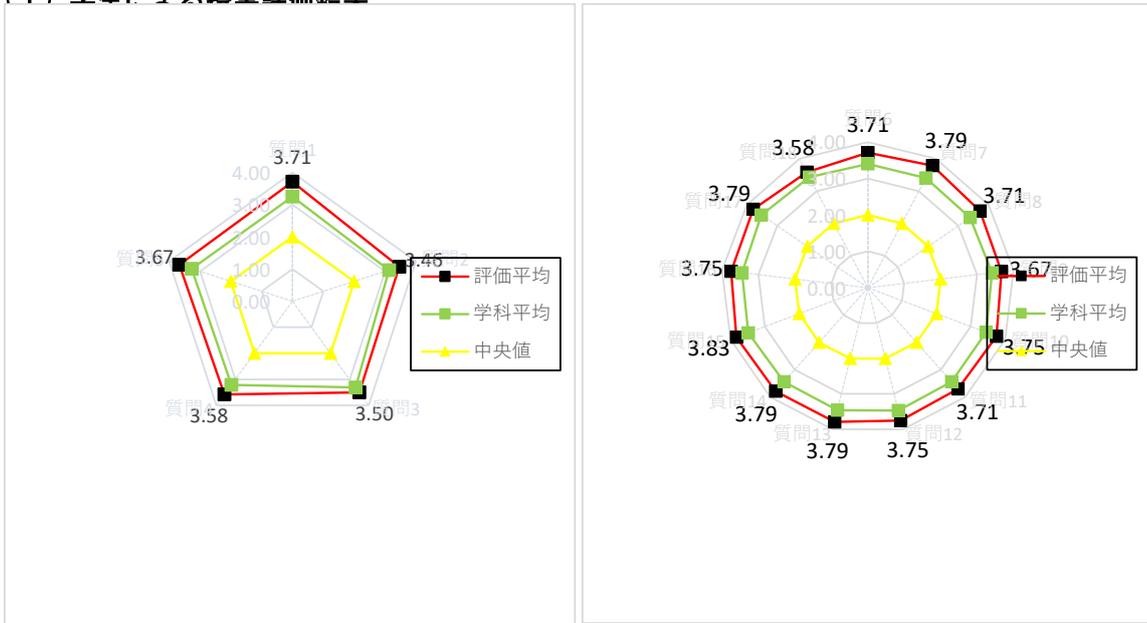
学生の授業参加度・総合自己評価は、全体的におおむね学科平均と同様の結果となったが、施設実習であることから出席率はとても高い。質問2の「シラバスの活用」は、やや低い結果となった。また授業内容・方法および対応においても、全体的に学科の平均評価を上回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

施設実習ということもあり、出席率は非常に良いが、質問2の「シラバスの活用」は、やや低い結果であった。学生が実習を行う際は、介護実習の目標に添って実施しているため、シラバスの内容と結びつかなかったこの可能性が高い。授業内容・方法および対応において、全体的に高い評価を得られたのは、1週間に1度は、コース教員が実習巡回に行き学生の実習状況を確認しているためだと考える。その際の学生への指導やサポートが十分できていたことがうかがえる。学生への指導は、これまで通り1週に1度の実習巡回で学生の実習状況を把握し、実習に対する不安やストレスに寄り添いながら、それぞれの実習状況に合わせて丁寧な指導とフォローを行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		ライフステージ別栄養学	24名

(1) 学生による授業評価結果

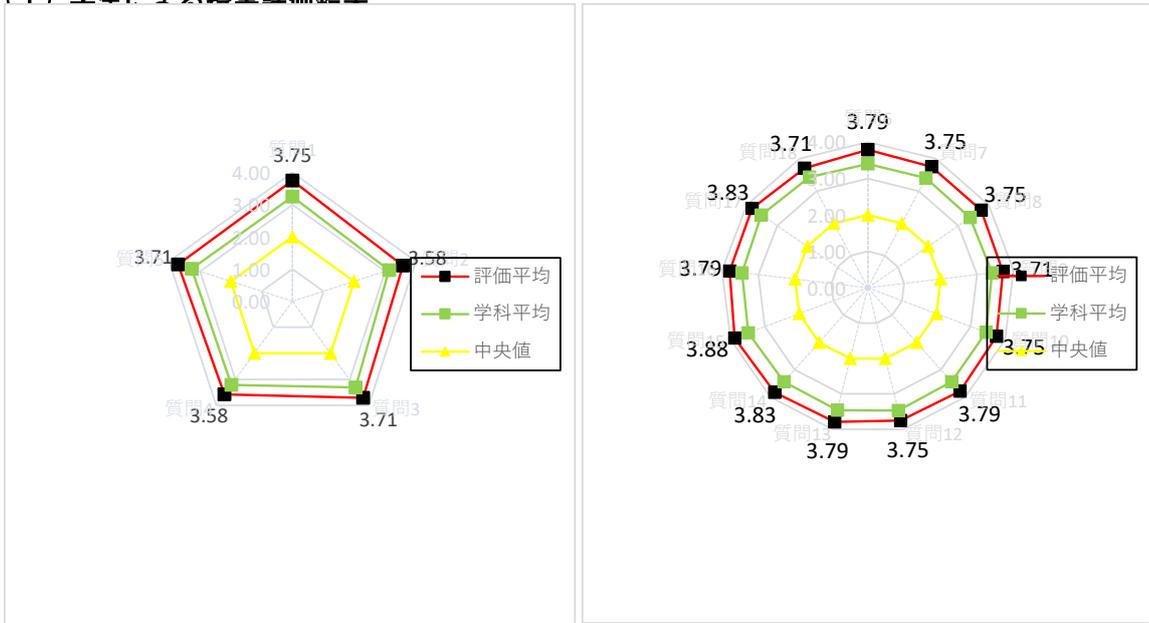


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		ライフステージ別栄養学 実習	24名

(1) 学生による授業評価結果

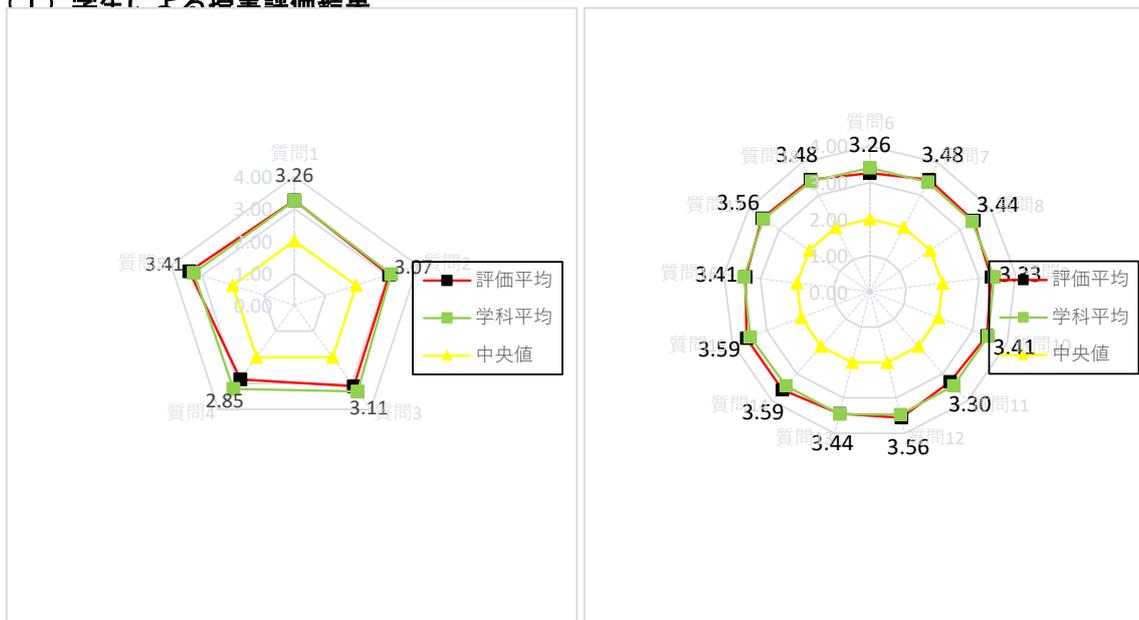


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		リラクゼーション（演習を含む）	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

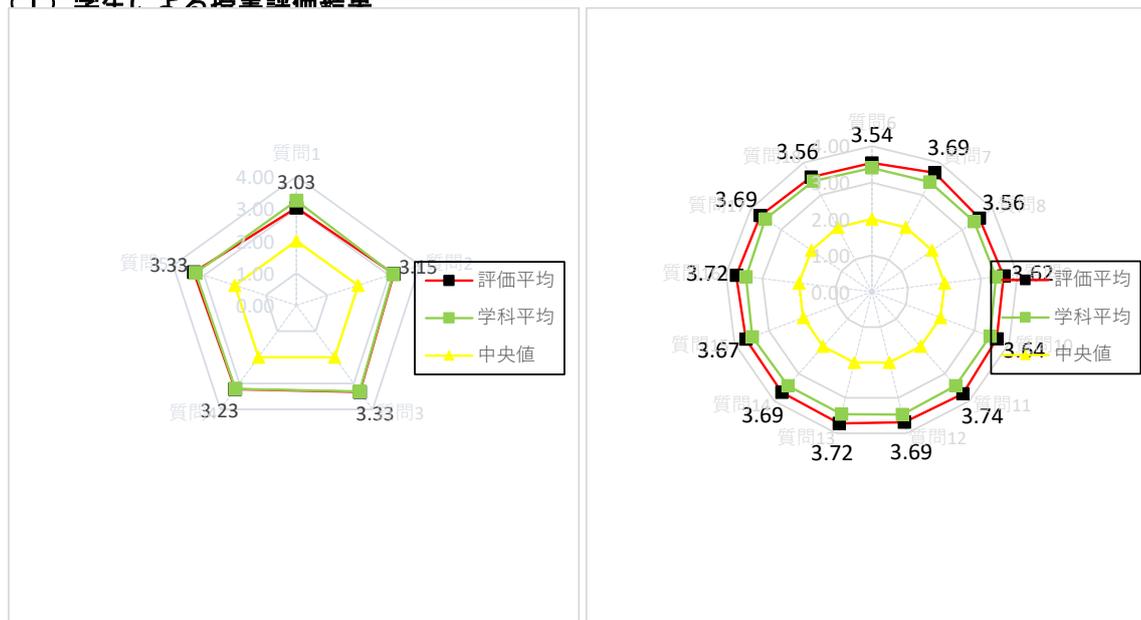
本科目は選択科目であり、介護福祉コースと多文化コースの学生(大半は多文化コースの学生)が受講し、授業評価を行ったのは、履修した45名中27名。質問1から質問5の評価は学科平均より低い結果であった。特に質問4の学生自身の工夫についての評価は低かった。授業では、一定数の学生は積極的に、自分自身で内容を理解する工夫をしていたように見受けていたが、その他の学生は自分で工夫するより教員から言われた通りに行動することが多く、その結果がこの評価につながったと考えられる。また、質問6から質問18もほとんどの項目で学科平均よりやや低い評価値となっている。教科書を遣わずに授業を行ったが、そのことも興味関心の持ちにくさやわかりにくさにつながったのではないかと推測する。また、双方向的な学習を心がけたつもりではあったが、評価値は高くなく、もっと学生主体の授業を行うべきだったと考えている。ただ、自由記述には、「色々な面白いことを学んだ。」「hand message を自分で行った。もっと勉強したい。」「授業がとても楽しかった。」など肯定的な意見もあり、学生による評価の差が大きいのではないかと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回、授業評価の実施について何度か学生に評価を促したものの、学生への促しが足りなかったと反省している。次年度は、授業評価を早めに促して実施状況を確認し、未実施者には直接声をかけて評価を促し、授業終了までに履修者全員の授業評価実施が終わるよう努めたいと考えている。また、次回の授業内容や到達目標を前の授業で告知し、学生が授業に興味・関心を持つようにしたい。本科目は、教員がリードして授業を進め、学生同士の関りを多く持つようにしているが、教員との双方向的なやり取りも増やすよう、授業内容を見直したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間の尊厳と自立	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

39/41 (95%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均よりやや上回っていた。

その理由として、留学生に理解しやすいように、事例をつうじてグループワークを実施したからだと思われる。

自由記述からは「難しい内容だが、理解が深まった」「興味をもてた」という感想もあった。

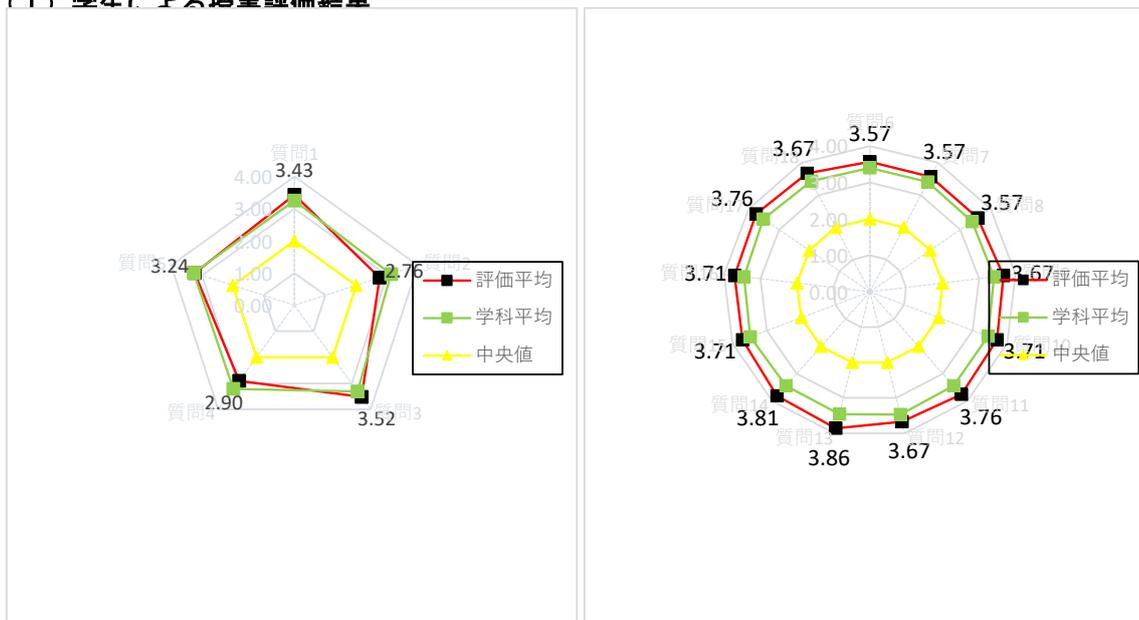
(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、倫理や価値を含み、日本の文化を含んだ生活理解が必要になってくる。留学生にとっては、理解が難しい側面もあると思われる。

該当年度は、留学生も含め一定の評価を得られた。次年度においても、日本人学生と留学生とのグループディスカッションをとおして、学生がより主体的に参加できる授業にしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーション I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

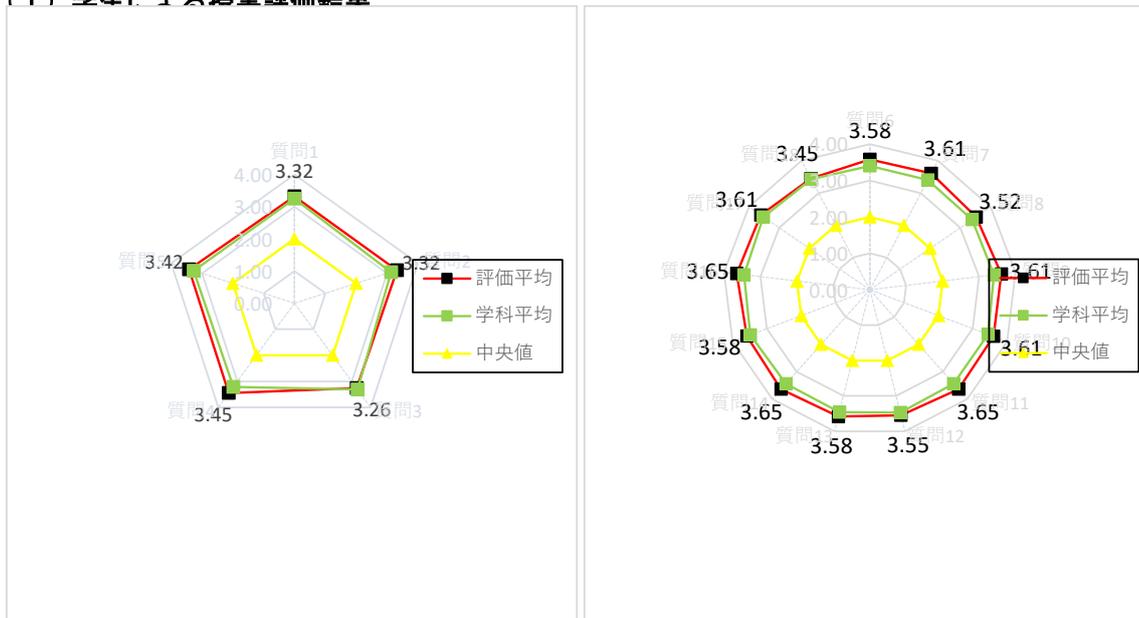
本授業は、全体的に高い評価を得ており、特に「授業の進め方」「教員の熱意」「視聴覚教材や資料の適切さ」など、教員側の工夫に関する項目で好評を得た。一方で、初期の設問である「シラバスの活用」や「自己工夫」「自己評価」など、学生自身の能動的な学習に関する項目で評価がやや低く、受動的な学習態度が一部に見られたことが課題として浮かび上がった。自由記述からは、「自分自身の理解が深まった」「相手の気持ちを考えることの大切さが分かった」といった学びの実感が得られており、学習内容が対人援助職としての成長に寄与していることがうかがえる。総合評価も3.61と良好であり、授業設計と実践の方向性には一定の成果が認められた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、学生の学習参加をより促すために、毎回の授業冒頭にシラバスの学習目標を再確認し、目的意識を持たせる工夫を取り入れる。また、自己理解と他者理解の深化を図るため、短時間のふり返しワークやペアワークを導入し、学生の主体的な思考と対話を促す。さらに、評価の低かった「自己工夫」や「自己評価」に関しては、ルーブリックを用いた自己点検活動を取り入れ、自らの学習姿勢を可視化する支援を行う。視聴覚教材や資料の質は現状維持しつつ、より多様な具体例やケーススタディを通じて、異文化理解や価値観の多様性に対応する力を育む授業構成を目指す。学生が実際の介護現場で活かせるような、実践的かつ内省的な学びの場づくりに努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーションⅡ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

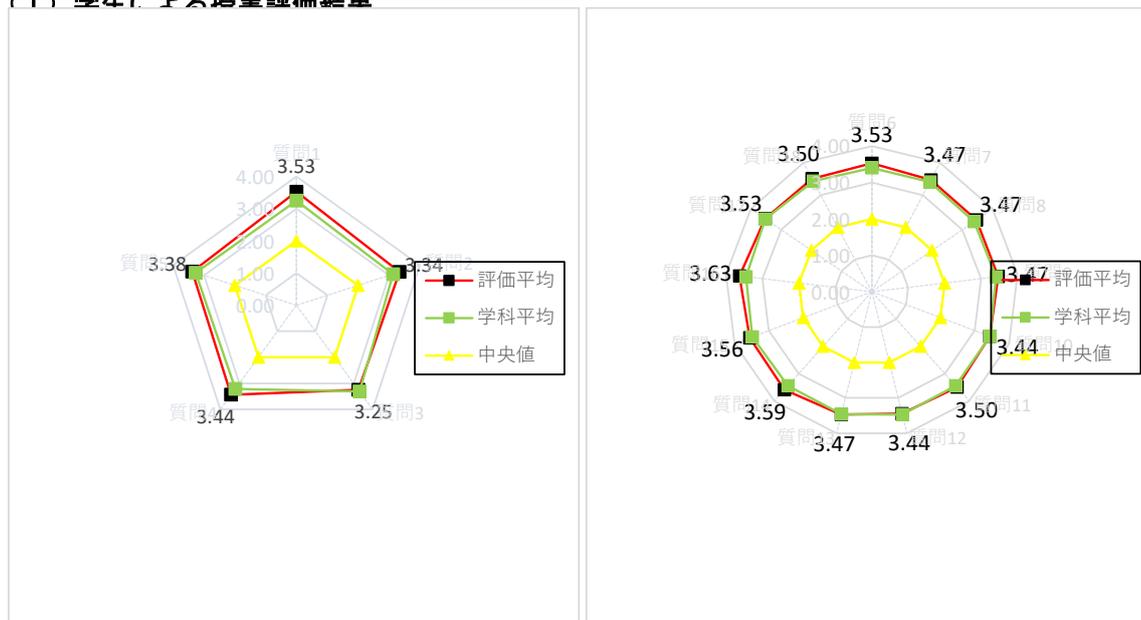
本授業は、総合評価3.54と全体的に高評価を得ており、特に「教員の熱心な授業態度」「視覚教材や板書の活用」「教員の分かりやすい説明」「質問への丁寧な対応」などが高く評価された。自由記述からも、「分かりやすく面白い」「自分のコミュニケーション能力が向上した」「福祉の現場で役立つ内容だった」との声が見られ、学生の学びや実践への意欲が強く表れている。一方で、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか」や、質問2「シラバスを活用したか」への評価が他項目と比べてやや低く、学生側の学習姿勢や授業内容との接続についてさらなる工夫が必要と考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度は、シラバスの活用を意識づけるため、初回授業だけでなく各回の冒頭でも内容と学習目標を共有し、学生が主体的に目的を意識できる仕掛けを取り入れる。また、講義中心ではなく、ペアワークやロールプレイなど体験型の活動をさらに充実させ、集中力の維持と積極的な参加を促進する。学生同士の振り返りや相互評価を取り入れ、自己評価力と他者理解の促進も図る。加えて、福祉現場に直結するコミュニケーションの課題やケーススタディを通じ、職業的意識の向上に繋がる授業展開を意識する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		レクリエーション活動援助法Ⅰ	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

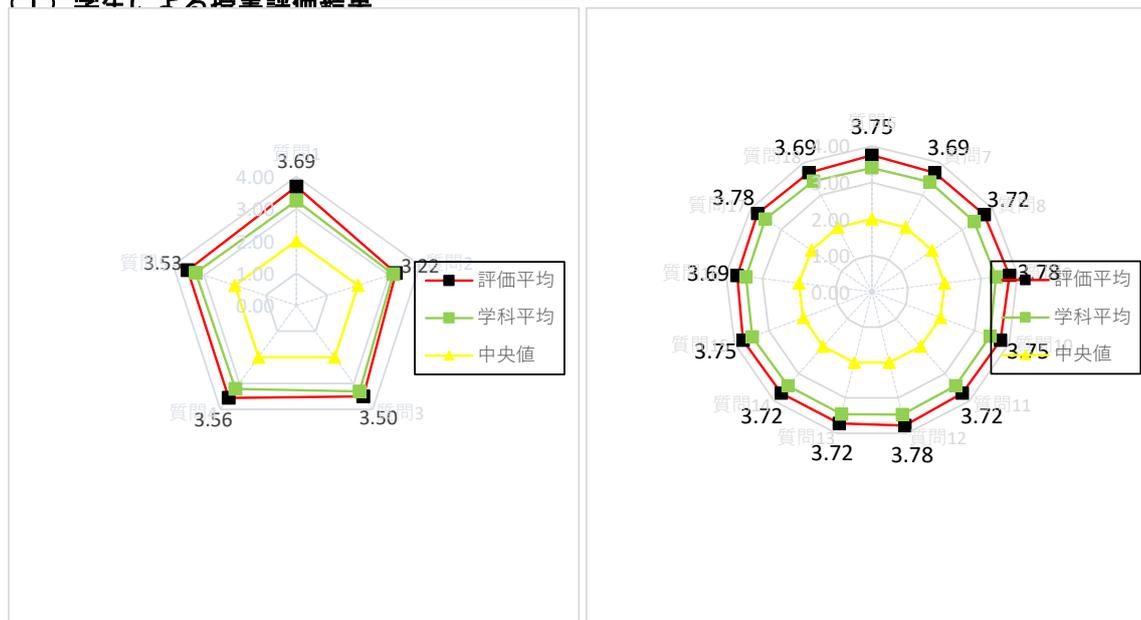
授業評価の平均点はおおむね学科平均を上回っており、全体として高評価であった。特に、教員の説明の明確さや意欲的な授業展開、配布資料の有用性、学生の理解度に関する項目で高得点を得ており、授業運営が学生にしっかり伝わっていることがうかがえる。自由記述では「チームと協力できる方法が学べた」「安心安全に配慮できる力がついた」など、実践を通じた学びの有効性が確認された。レクリエーションを単なる楽しい活動としてではなく、福祉専門職に求められる計画性や安全配慮の視点と結びつけて理解している様子が読み取れる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、グループごとのレクリエーション企画・実施に加え、他者の活動を評価・観察する仕組みを取り入れ、協働性だけでなく客観的な視点を育てる。事前のリスクアセスメントやフィードバックをより丁寧に行い、安全配慮のスキル定着を促す。また、実施後には「学びの共有会」などを設け、自他の活動から得られた学びを深める工夫を加える。福祉現場で実践可能な力へとつなげるため、学外との連携や実践現場の映像活用も視野に入れる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		レクリエーション活動援助法Ⅱ	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

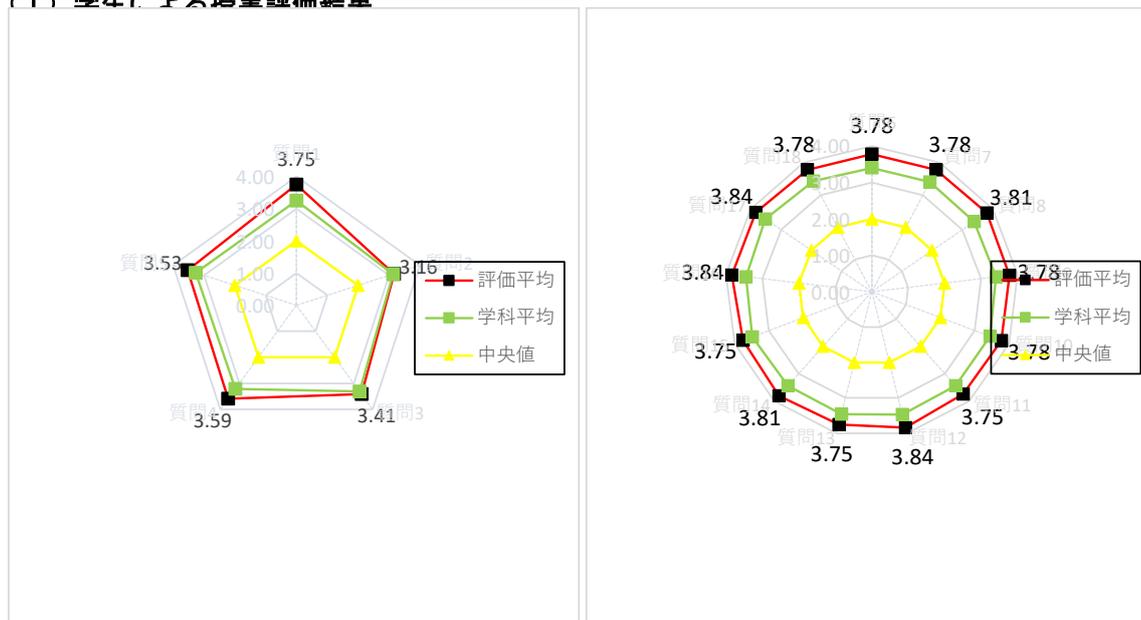
本科目における学生からの総合評価は「3.70」と高く、特に「授業は興味・関心が持てるよう工夫されていたか (Q9 : 3.78)」「教員は双方方向性や説明をしながら授業を行っていたか (Q17 : 3.78)」など、教員の授業運営に関する項目で好評価が見られた。自由記述にも「素晴らしくてプロな先生に教えてもらった」との記載があり、学生の信頼感がうかがえる。一方で「シラバスを活用したか (Q2 : 3.22)」や「授業理解のための自己工夫 (Q4 : 3.56)」など、学生側の主体的学習への取り組みについては、やや低めの結果となっており、学習姿勢に関する支援が今後の課題であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、シラバスの活用や自己学習の促進を目的に、初回授業でシラバスの読み解きと授業計画の確認を丁寧に行い、学生自身が目標と学びの流れを意識できるよう支援する。また、学生が自己の理解度を客観的に捉えられるよう、各回の終わりに簡単な振り返りシートを導入し、学習の定着と自己調整力の向上を図る。実技中心の内容においては、チームワークと実践力を伸ばすため、役割分担とフィードバックの機会をより意識的に設ける。こうした取り組みにより、より実践的で主体的な学びへとつなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護予防支援学	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目の授業評価は、全体として良好な結果が得られた。特に授業内容の分かりやすさ（質問9）、教員の授業運営（質問6?10）、学習環境の整備（質問11?13）に関する評価はいずれも3.75~3.84と高水準で推移しており、授業の構成や進行、資料の活用などが適切に行われていることが示唆される。一方で、学生の自己評価に関する項目（質問1?5）については、ややばらつきが見られ、とくに「シラバスの活用」

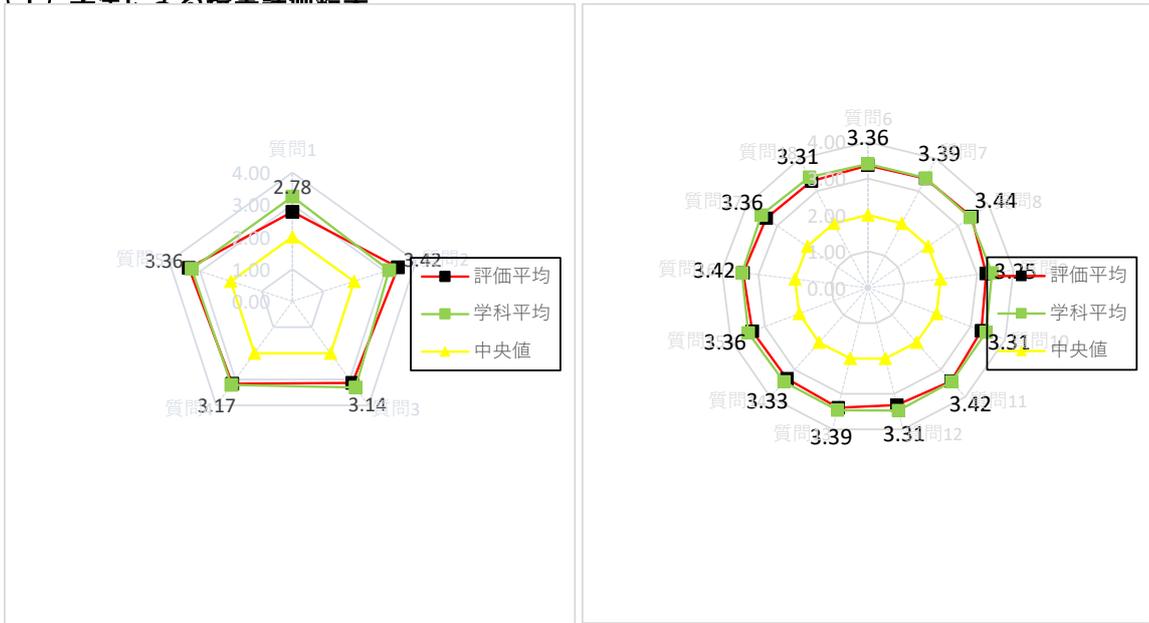
（3.16）や「授業中に居眠り・私語をせず真剣に取り組めたか」（3.41）といった自己管理に関連する項目では他の項目と比較してやや低評価となっている。これは、複数教員による授業構成であることや、介護予防という抽象度の高いテーマが学生にとって実感しにくい面が影響している可能性がある。自由記述は「素晴らしくてプロな先生に教えてもらった」との肯定的な意見があった。今後も学生との信頼関係を築きつつ、主体的な学びを促す工夫が求められる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、学生の自己評価に関する項目の向上を目指す必要がある。まず、初回授業においてシラバスの重要性を強調し、授業計画に沿った学習の見通しを学生が持てるよう支援する。また、介護予防支援という抽象的な概念を具体化するため、事例（地域活動や施設での取り組み）を交えた演習やディスカッションを多く取り入れ、学生の主体的参加を促す。さらに、複数教員で構成される本科目の特性を活かし、教員間で授業のねらいや進行の一貫性を共有し、学生の混乱や学習モチベーションの低下を防ぐ工夫も重要である。加えて、学期中に中間振り返りを導入し、学生の学びや課題を教員と共有することで、途中段階から学習支援やフォローが可能となる体制を整える。全体として、教員の熱意や授業設計の質の高さを維持しつつ、学生自身の学習態度や授業理解の促進に焦点を当てた取り組みを展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		佐賀を知る（佐賀学）	42名

(1) 学生による授業評価結果

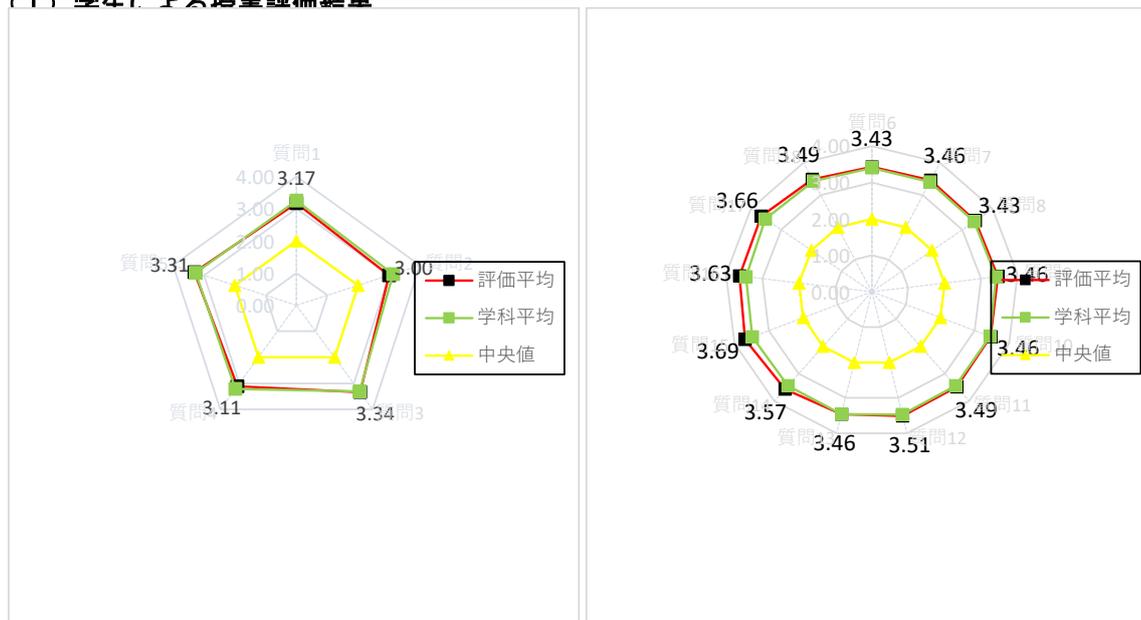


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本文化事情（演習含む）	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

受講生のほとんどが介護福祉コースと多文化コースの留学生である。授業評価の結果は、全体的に高評価であった。そのことを踏まえ結果を分析する。(1) 内容の理解しやすさについては、①日本文化の概念（礼儀作法・宗教観・伝統行事・歴史など）について、実際の事例や映像、資料等を示しながら授業を行った。資料には可能な限りルビをふり、日本語能力の低い学生にも理解しやすい工夫を行った。

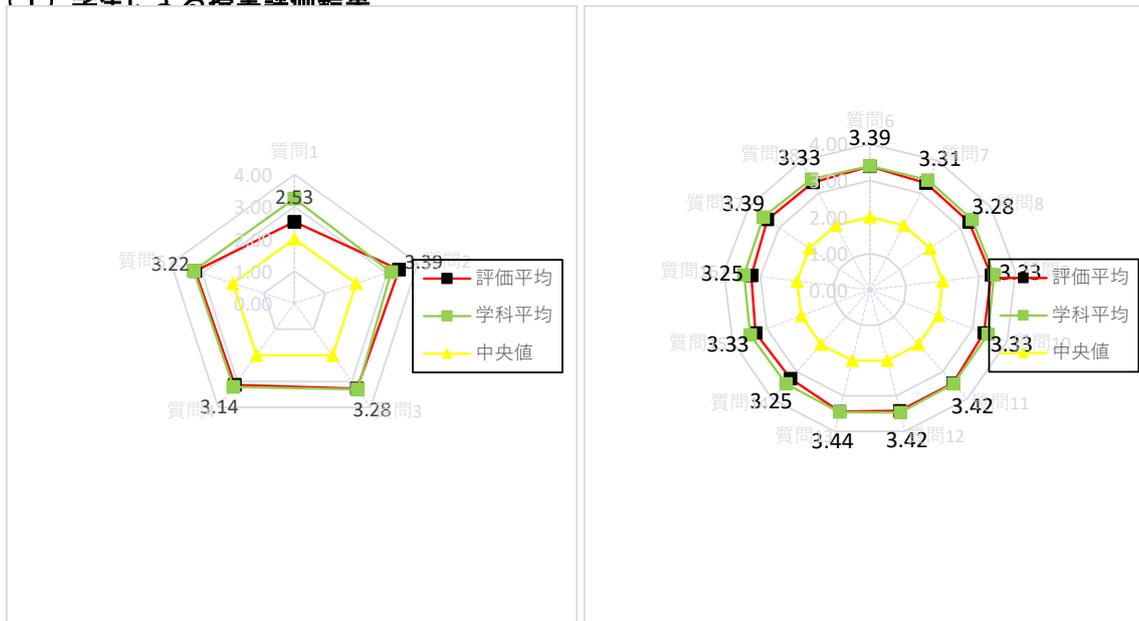
(2) 教材や資料の質については、パワーポイントや配布資料、映像資料などが適切で興味を引くものになるように努めた。最新の文化事情も反映しながら講義した。(3) 授業の進め方については①話すスピードに気を配った。一方的な講義だけでなく、アクティブラーニング（主体的・対話的授業）になるようにディスカッションやグループワークなど参加型の工夫を行った。(4) 教師の態度については、異文化理解の視点に立ち、ダイバーシティー的な対応を心がけ、全ての学生に対して親身に接し、質問や意見を受け止めた。(5) 国際的視点の導入については、日本文化を他国文化と比較するなど、広い視野を養う工夫を行いながら授業を展開した。次年度も継続したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、以下のような取り組みを行いたい。(1) 授業内容の理解を促す手立てについては、①日本文化の概念について、実際の事例や映像、資料等を示しながらより具体的に理解を促す。資料には次年度も可能な限りルビをふり、日本語能力の低い学生にも理解しやすい工夫を行う。(2) 教材や資料の質については①パワーポイントや配布資料、映像資料などが適切で興味を引くものになるようにする。資料には最新の文化事情も反映させる(3) 授業の進め方については①授業者として話すスピードやテンポ、間に気を配る。アクティブラーニング（主体的・対話的授業）になるように、授業の中では可能な限りディスカッションやグループワークなど、学生参加型の工夫を行うようにする。(4) 教師の態度については、①異文化理解の視点に立ち、ダイバーシティー的な対応を心がける。全ての学生に対してきめ細かに対応し質問や意見を受け止める。(5) 国際的視点の導入については、①留学生の母国と日本文化とを比較して考えを述べさせるなど、グローバルな視野を養う工夫を行いながら授業を展開したい。また、事前学習のためのワークシートも工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化理解 I	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

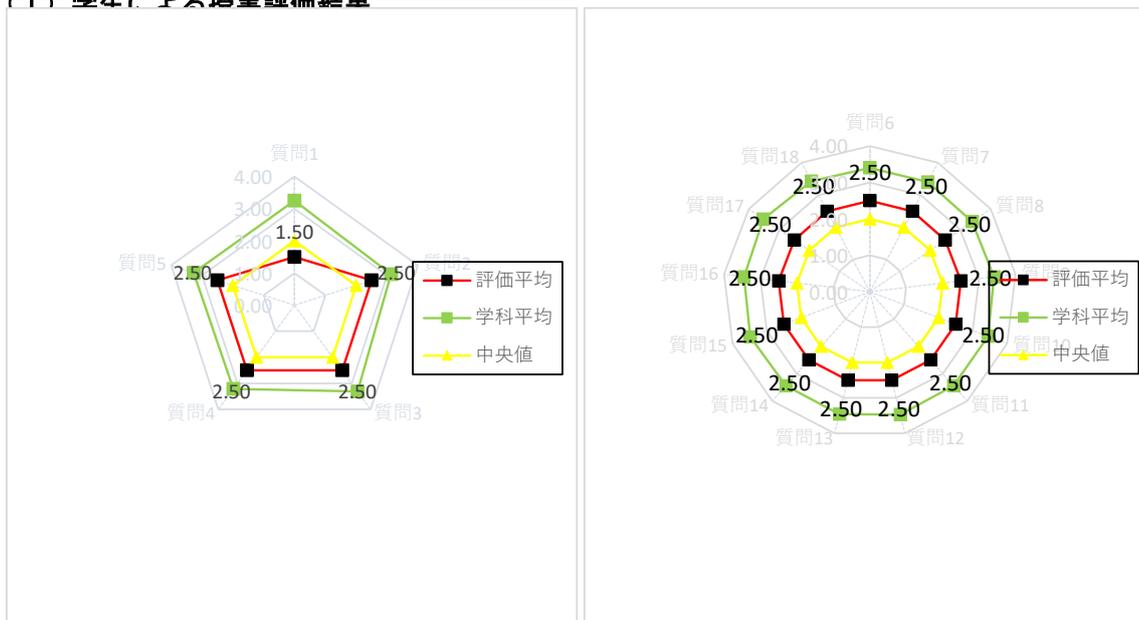
本授業は実務家教員（外部講師）と本学教員によるオムニバス授業で海外や国内の政治・経済ニュース、文化事情を取り上げ、グローバル社会の中で国際人に必要なメディアリテラシーの習得を目指している。実務家教員の一人は官公庁で国際交流の実務を担当し、国際交流事業や外国人の支援にあたっており、長年の経験を基に、地域での国際交流活動の実際、異文化理解について講義している。もう一人は英語教育等、日本での長年の経験を活かし、国内外の文化比較と多文化社会について講義している。本学教員は学生の特性を活かし日本の歴史文化に触れ、双方の文化の違いを体感させながら学生同士の相互理解を深めるように講義している。講義と演習を組みあわせグループディスカッションなど交え、学びの報告・発表を行っている。自己評価は学科平均より低く、実際、留学生は欠席がみられ妥当な結果である。授業の評価も学科平均と比べ低く、一昨年の数値（自己評価3.67、総合評価は3.5）、昨年の数値（自己評価3.89、総合評価4）今年の数値（自己評価3.22、総合評価3.33）と今年は低い。今年度の留学生急増、クラス人数の激増が影響すると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価が例年に比べ低かったことから、人数に合わせた双方向授業について検討する。しかし、次年度は今年度よりクラス人数は減るので今年のような結果とはまた異なると思う。いずれにせよ、その時のクラスの人数、留学生の国籍と日本語力、日本人学生と留学生の割合などを考慮し、多文化クラスの授業展開について3教員が連携、情報を共有して各担当回の内容の一層の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		国際コミュニケーション I (留学)	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

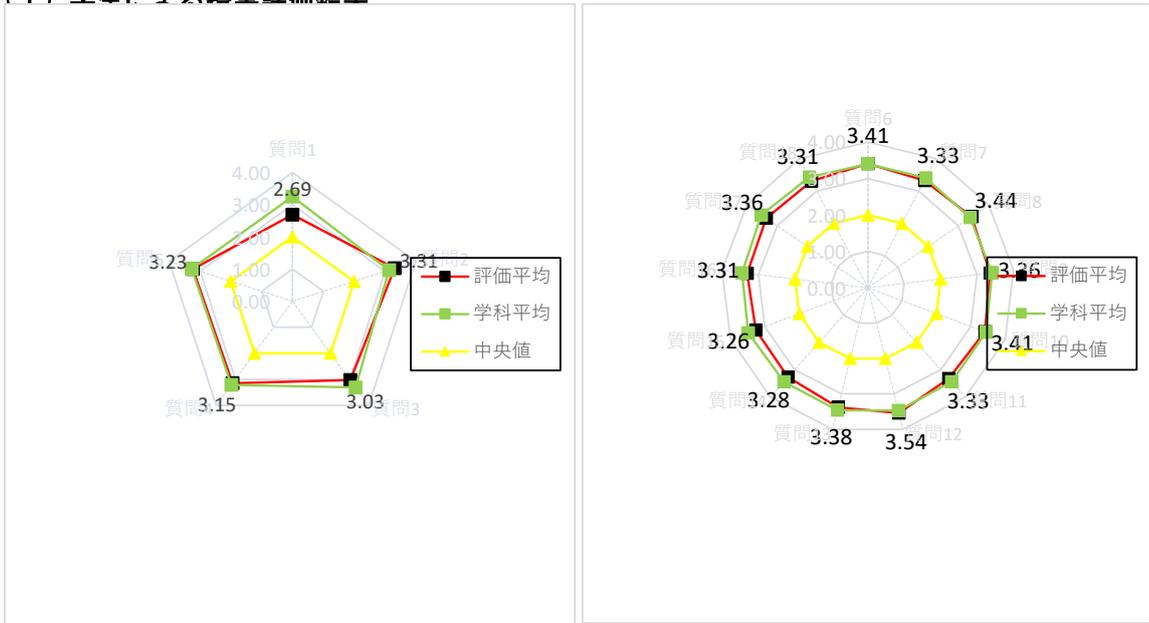
本授業は海外留学をした学生の単位認定の科目となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は本授業を担当しない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		ビジネスマナー（演習含む）	43名

(1) 学生による授業評価結果

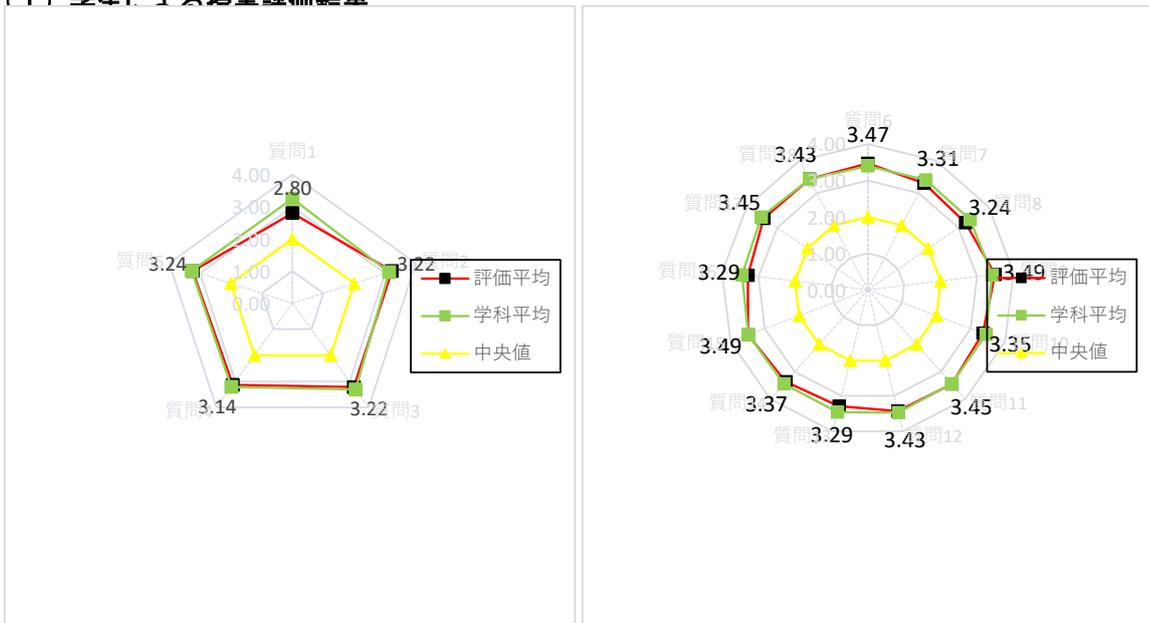


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		ホスピタリティ概論	56名

(1) 学生による授業評価結果

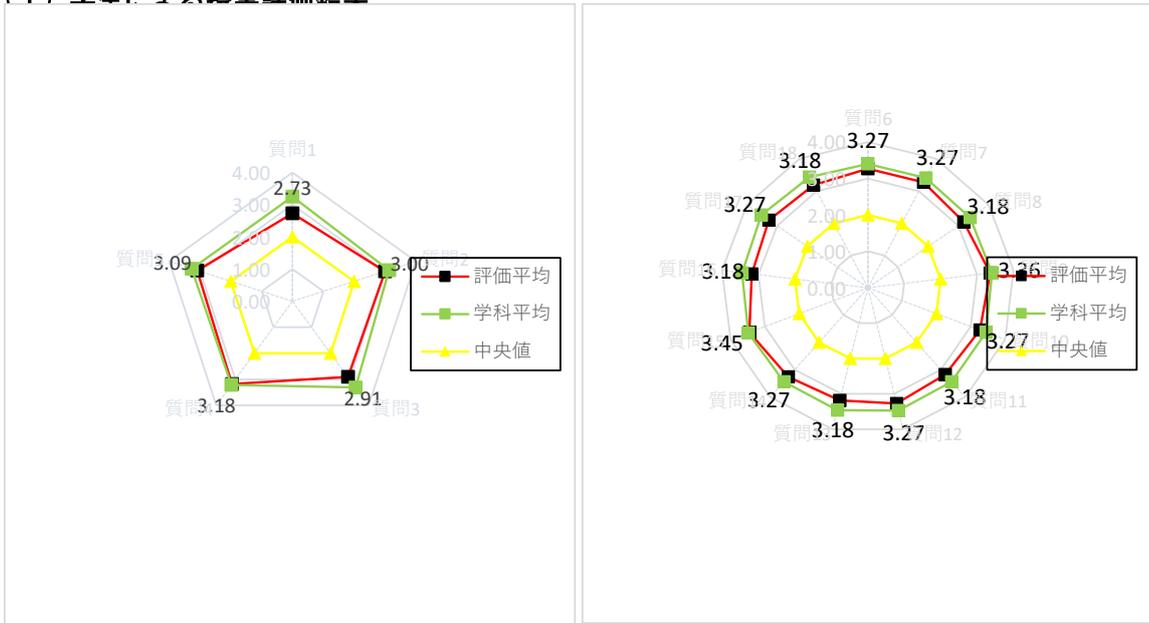


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		おもてなし演習	56名

(1) 学生による授業評価結果

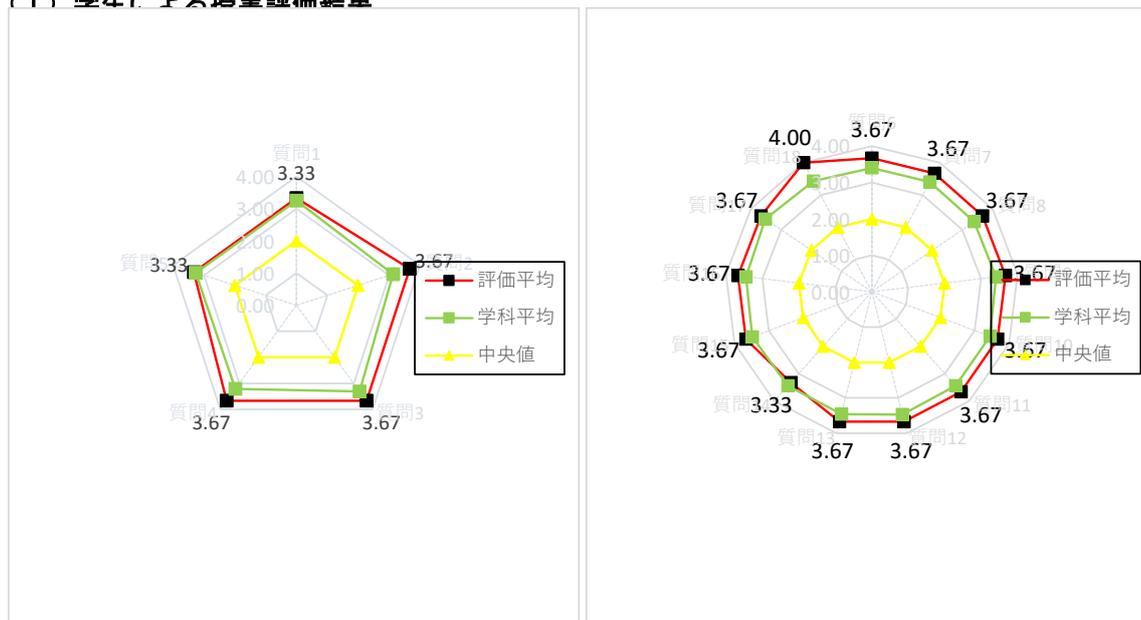


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		ホスピタリティ心理学	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

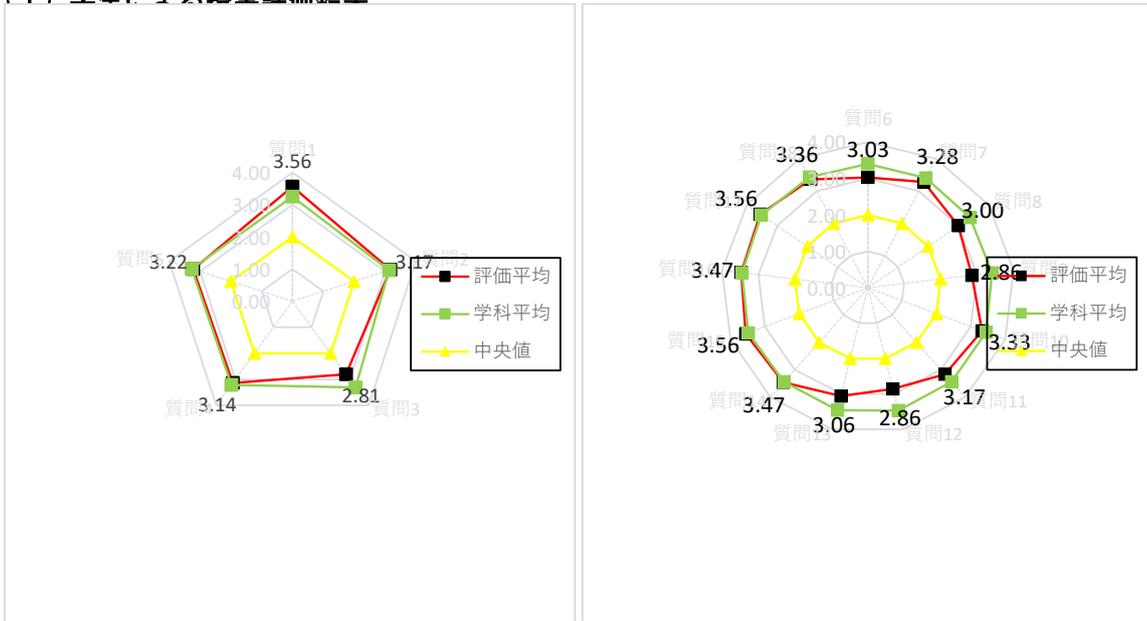
この科目の授業者は6名であり、それも影響して高い評価となった可能性がある。質問14についてはスコアが低くなっているものの、グループディスカッション等を行う時に十分に時間を取ったが質問はなかった。評価が低くなっている理由が不明。

(3) 次年度に向けての取り組み

次回より留学生の受講が増える可能性がある。その為、配布資料や説明などについて多様な対応ができるような準備を心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		観光概論	42名

(1) 学生による授業評価結果

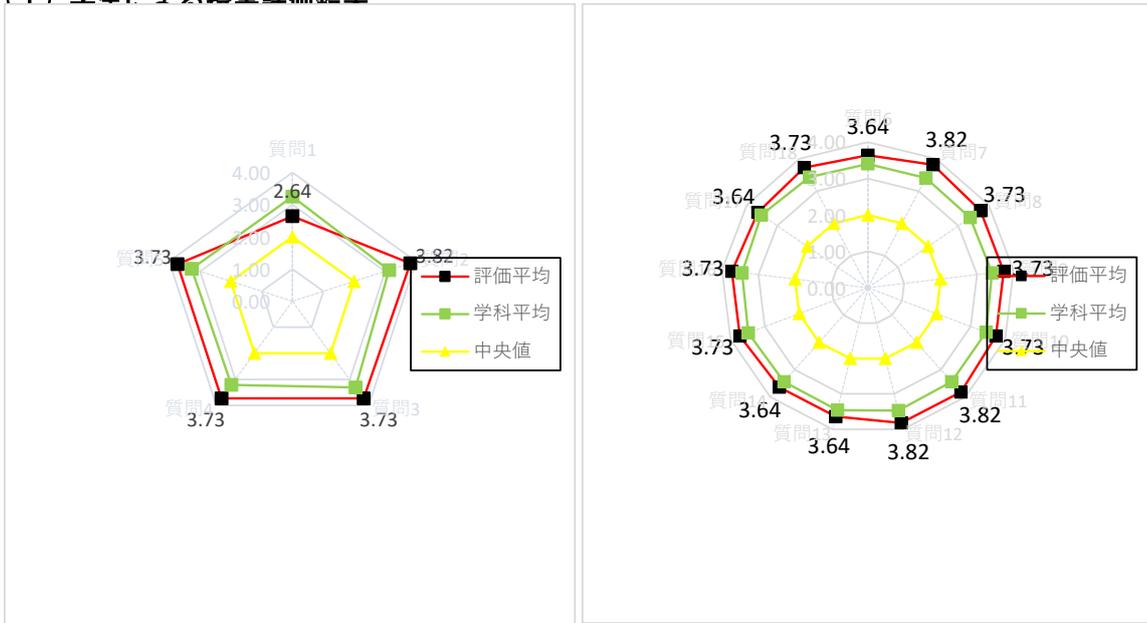


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		旅行業務	14名

(1) 学生による授業評価結果

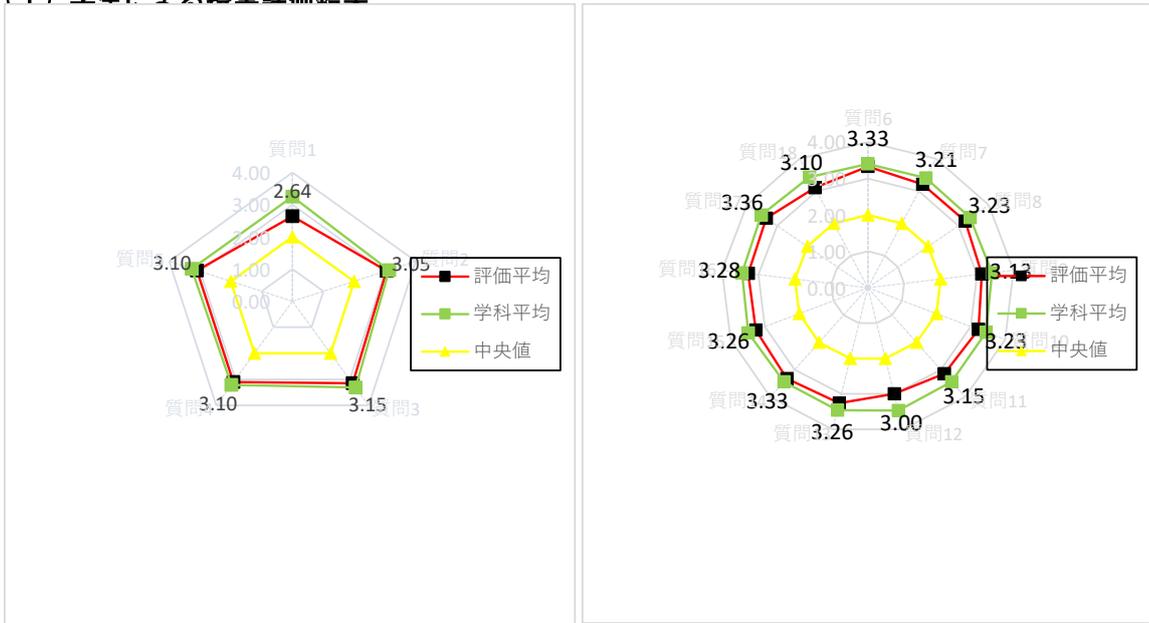


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		観光ビジネス論	43名

(1) 学生による授業評価結果

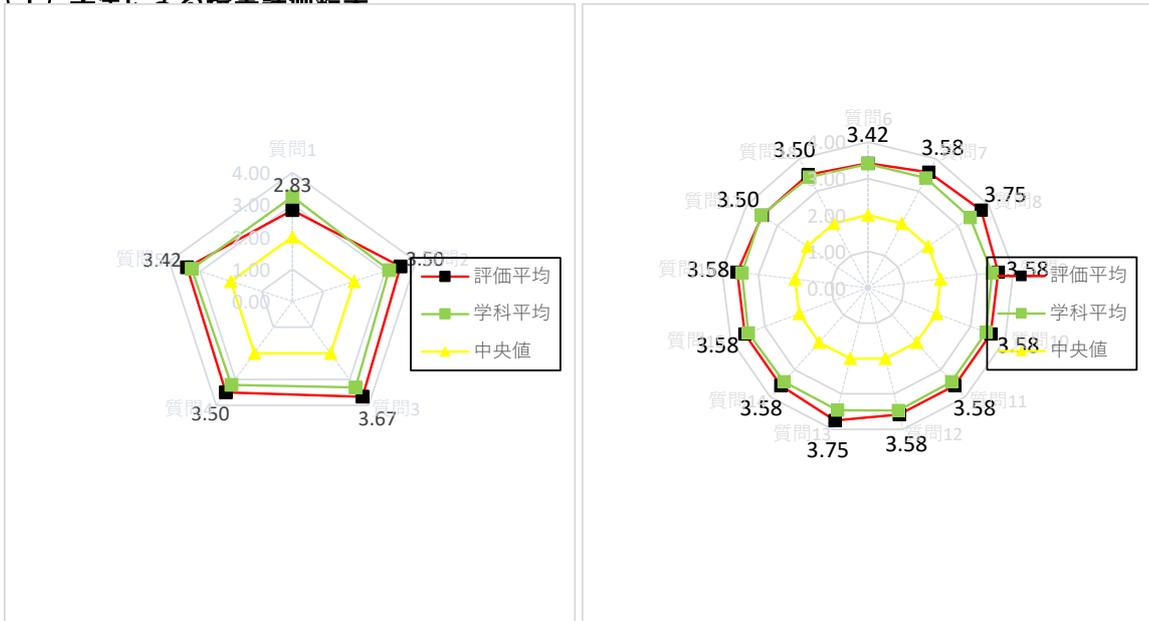


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会とデータサイエンス	14名

(1) 学生による授業評価結果

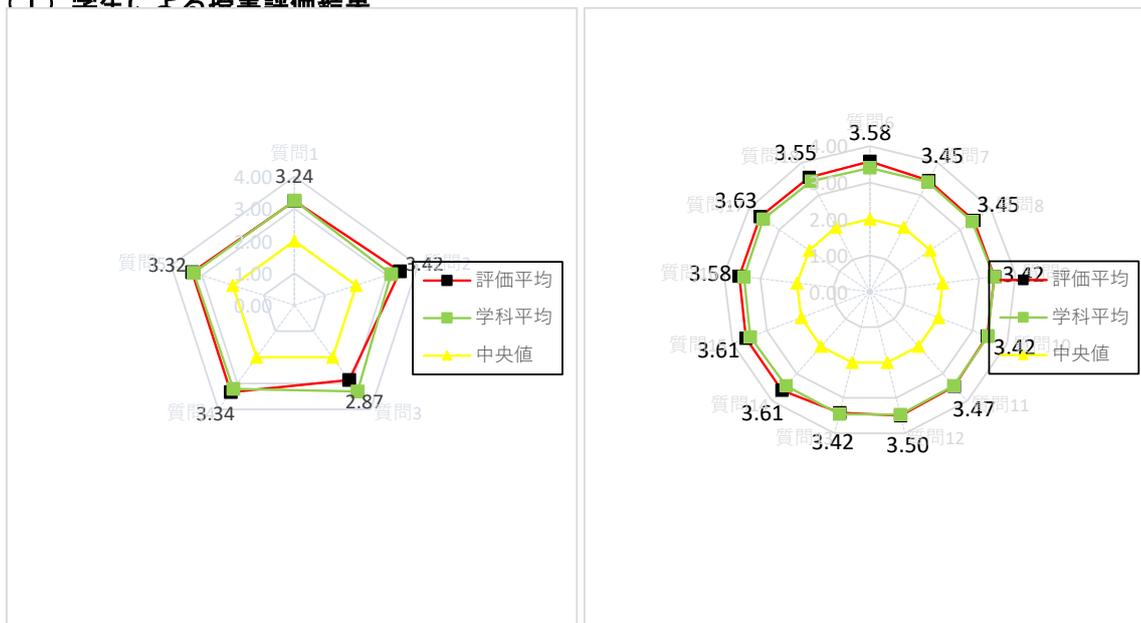


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション概論	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

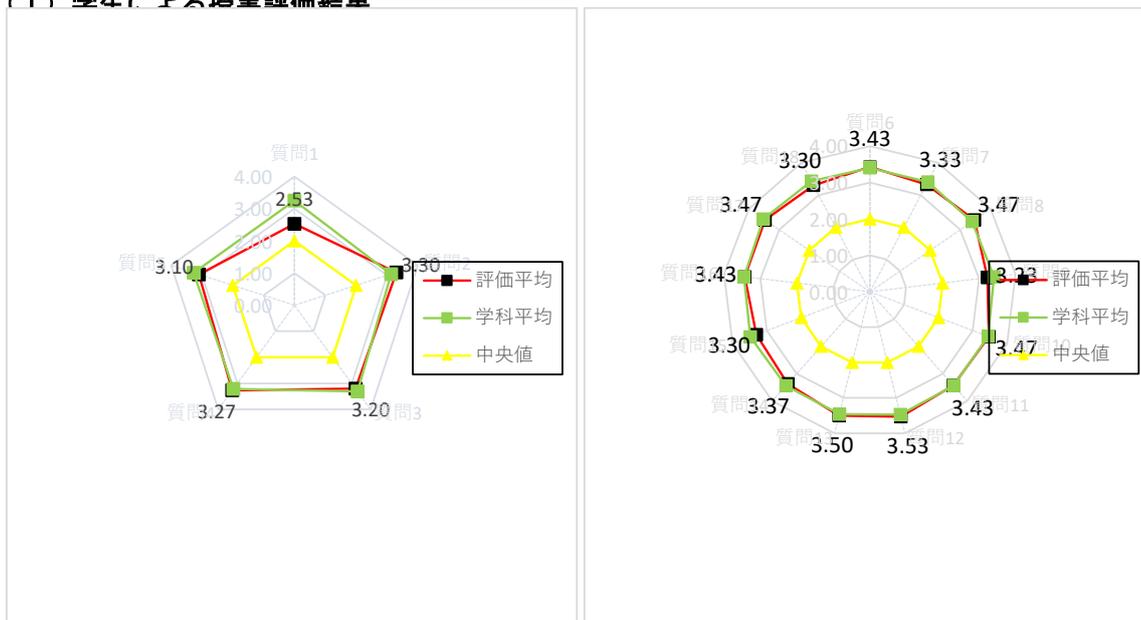
総じて平均的な自己評価と授業評価と判断している。強いていえば、自己評価の質問3が若干低くなっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

テキストに沿って学習を進めているが、展開では独自の配付資料をもとに行っている。テキストの重要な箇所を読ませるなどして活用を改善し、より学習効果を高める工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション演習	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

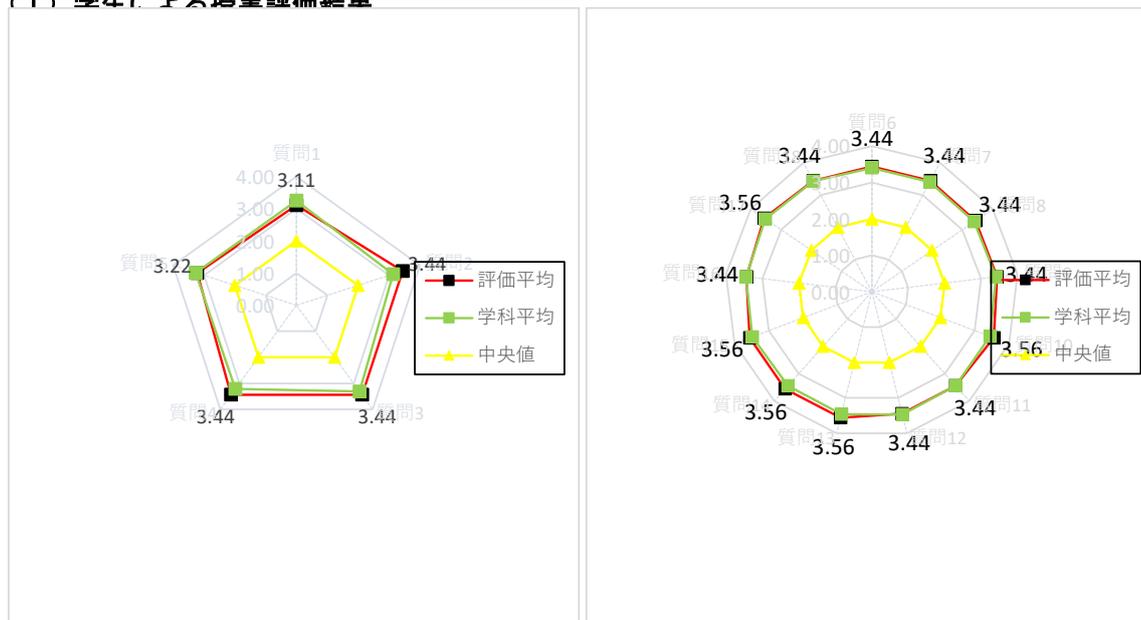
総じて平均的な自己評価と授業評価と判断している。強いていえば、全体的に平均よりも低い傾向がある。授業出席の意欲は低い傾向が高い。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業は、テキストに沿って演習を進めているが、単調になりがちなので、学生の自主性を育むように、自らのテーマを設けてプレゼンを考えるなどの演習を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		応用プレゼンテーション演習	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

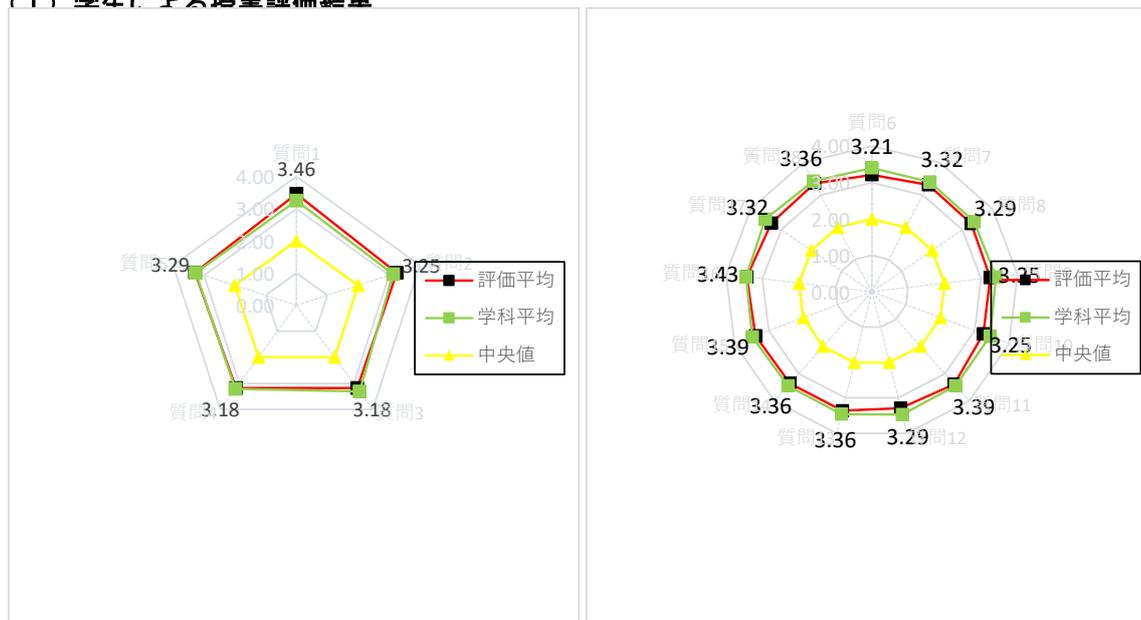
本授業は、プレゼンテーション概論と同演習で修得した知識と技術を基に、実践的なプレゼンテーション力を身に付けることを目的に学内外のイベント、観光プランなど具体的な企画を各自が行うことで実践力を養っている。プレゼンテーション実務士の資格取得のための必須科目となっている。前半の内容は、佐賀県の観光資源と地域観光についてのグループワーク、観光地視察と観光プランの作成とプレゼンテーションであり、地域観光の魅力を学生自身が視察により確認して学びを深める。本授業の受講者は一昨年は2名、昨年は5名、今年は11名と増えて受講状況に改善が見られたといえる。学生の自己評価、質問6以降の授業評価ともおおむね学科平均と同等の値を示した。自己評価、授業評価を過去の結果と比べると、一昨年度が4.0、3.0、昨年度が3.8、3.6、今年が3.22、3.44となり、自己評価（1人のデータ）は低下、授業評価は変動している。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、身近な地域での学外の観光プランや地域観光の活性化について学生自身が関心を持って取り組めるテーマでグループワークやプレゼンテーションの実践を積めるよう検討し、授業の充実を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナール I	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

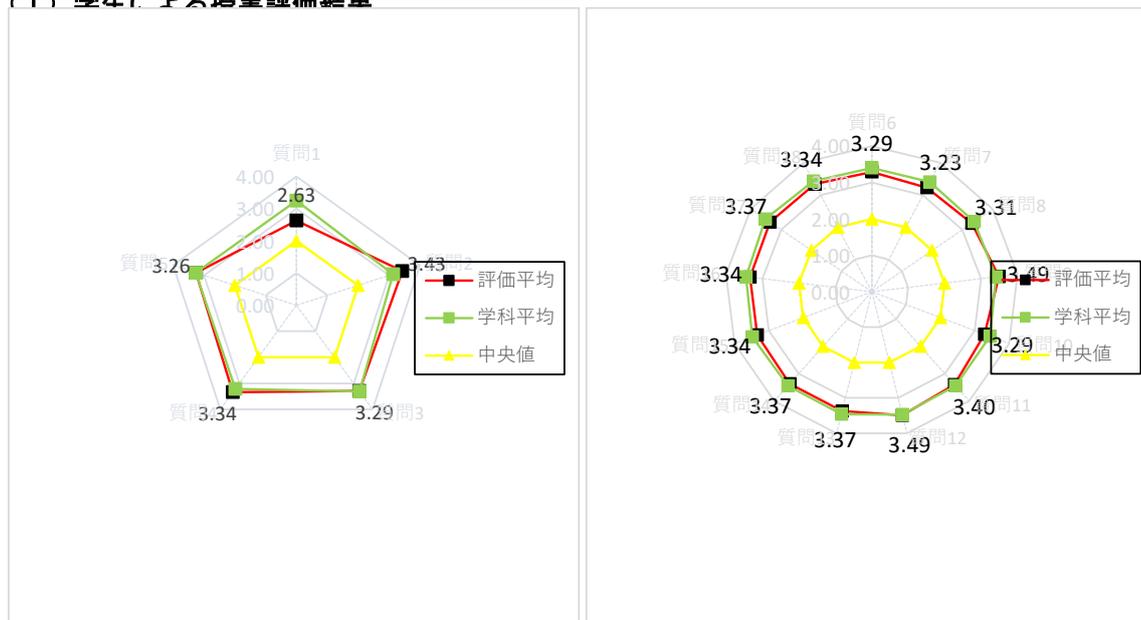
授業評価の結果より、ほぼすべての項目で学科平均より低い結果となっている。この科目は、3人の教員がそれぞれの分野で講義を行っている。そのため、評価が低くなった要因について、分析することが難しい。ゼミの運用方法、評価方法等について検討が必要であると考え。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、ゼミの運用方法の改善を行う（この改善は、学生からの意見ではなく、教員からの意見があったため、運用の変更を行う）、運用方法の変更に伴い評価方法も変更を行うこととしている。学生からのゼミ運営の要望等も聞きながら、学生のニーズにこたえることができるゼミとしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅡ	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

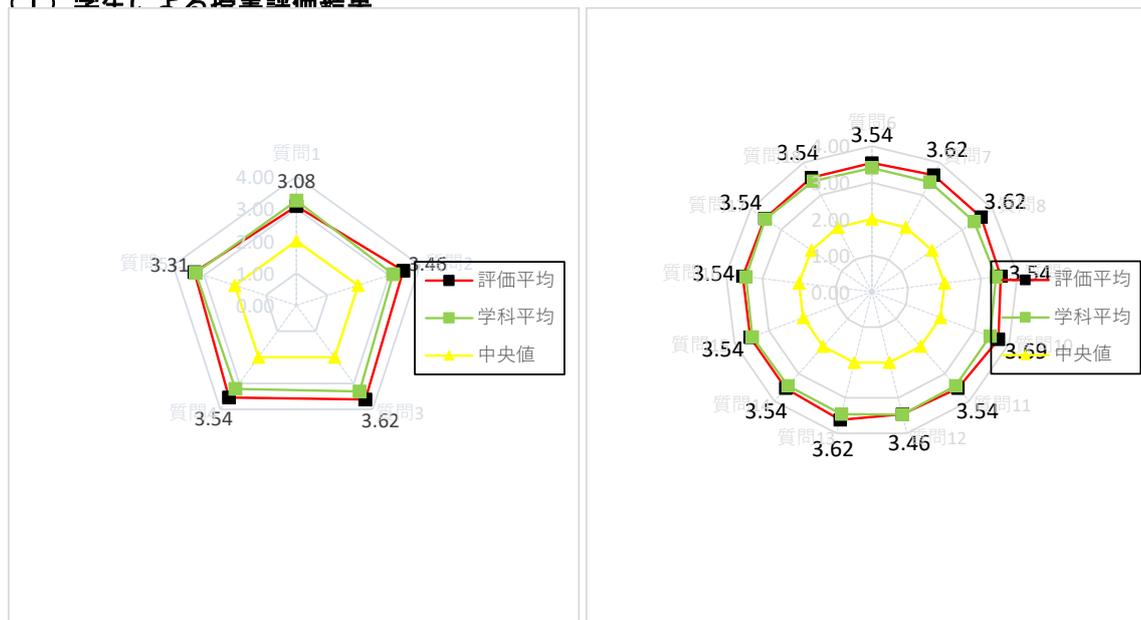
授業評価の結果より、ほぼすべての項目で学科平均より低い結果となっている。この科目は、3人の教員がそれぞれの分野で講義を行っている。そのため、評価が低くなった要因について、分析することが難しい。ゼミの運用方法、評価方法等について検討が必要であるとする。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、ゼミの運用方法の改善を行う（この改善は、学生からの意見ではなく、教員からの意見があったため、運用の変更を行う）、運用方法の変更に伴い評価方法も変更を行うこととしている。学生からのゼミ運営の要望等も聞きながら、学生のニーズにこたえることができるゼミとしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅢ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

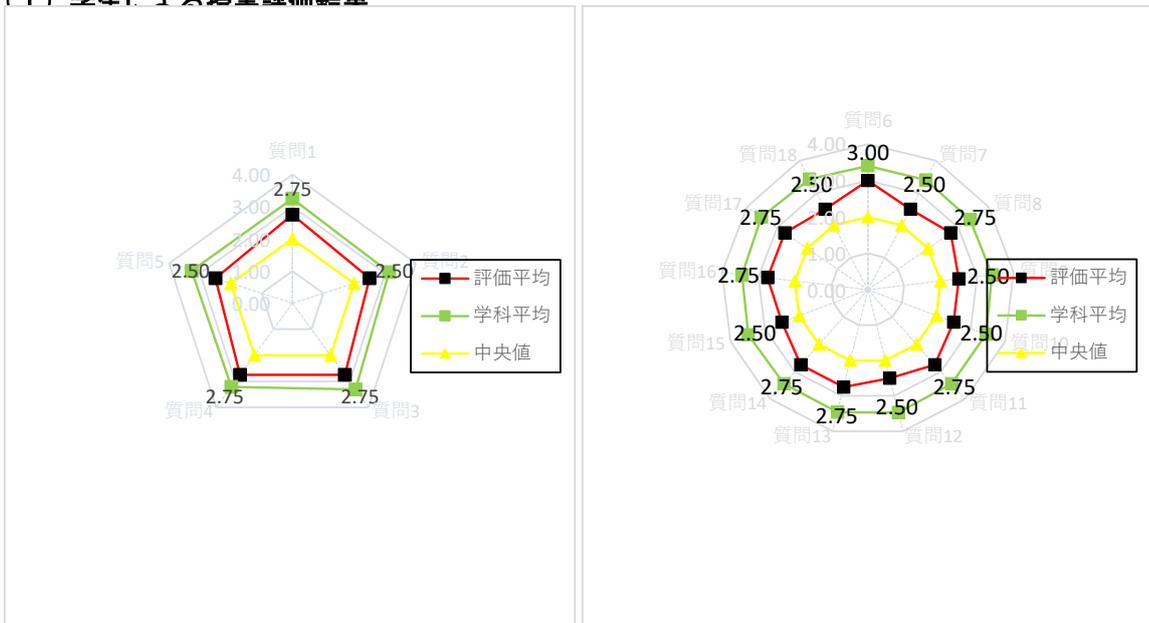
授業評価の結果より、ほぼすべての項目で学科平均より低い結果となっている。この科目は、3人の教員がそれぞれの分野で講義を行っている。そのため、評価が低くなった要因について、分析することが難しい。ゼミの運用方法、評価方法等について検討が必要であると考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、ゼミの運用方法の改善を行う（この改善は、学生からの意見ではなく、教員からの意見があったため、運用の変更を行う）、運用方法の変更に伴い評価方法も変更を行うこととしている。学生からのゼミ運営の要望等も聞きながら、学生のニーズにこたえることができるゼミとしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		インターンシップ I	12名

(1) 学生による授業評価結果

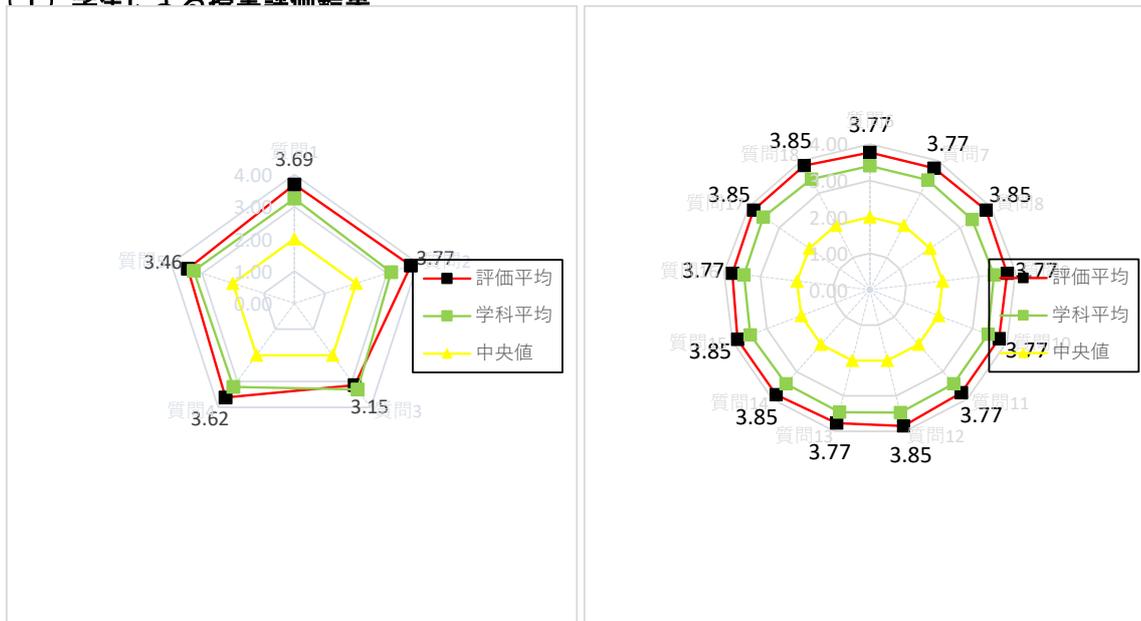


(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語応用（栄養学）I	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

総じて比較的高い評価を得ている。この授業は、初めてコースに留学生を受入れるに当って開設された科目であり、将来の栄養士・食に関わる仕事や他の科目で取扱われる専門用語に日本語の理解、習熟を深めるものである。

(3) 次年度に向けての取り組み

留学生にとっては、将来の仕事につながるよう学修を進める必要があり、栄養士の専門はもとより、特定技能やその他の厨房業務ほか食事の提供に求められる知識として、幅広く学習を進めていきたい。